

豫算ノ範圍内ニ於テ各般ノ工事ヲ竣成スルコトシ他應ノ應援隊ハ十六日ヲ期シ全部樹杞林ニテ解隊スルノ可否ヲ議ル 理蕃課長乃チ後藤庶務課長ト磋商シ 大津本署長ノ認諾ヲ得、其ノ請ニ從フ是ニ於テ 家永隊長ハ再ヒ山ニ入り宇野副長ト俱ニ隊員ヲ督勵シ工事ノ進捗ニ最メ大半成功スルヲ得タリ

十六日 桃園廳ヨリ來援セル巡查六十四名 巡查補二名 隘勇六十五名 並本廳警務課勤務警部一名 警部補二名 (警部武田駒吉、警部補氏平廣雄、山岡銀三) ヲ下山セシメ樹杞林街ニ解隊式ヲ舉ク

是ヨリ先家永前進隊長ハ連逃ノ匪徒ノ四名マリコワソ蕃地ニ竄匿セルヲ謀知シ人ヲ遣ハシテ之ヲ誘出シ司令部ニ留メ監視ヲ嚴密ニシテ專ラ雜役ニ供シ時々蕃情ヲ偵探セシム皆前非ヲ悔ヒ服事惟謹ミ役畢ルノ後ハ原籍地ニ回リ農業ニ力メムコトヲ請フ而モ既往ノ犯行輕微ニシテ深ク追窮スルニ足ラス家永隊長則チ十九日ヲ以テ 大津蕃務本署長ニ電照シテ其ノ同意ヲ得、之ヲ桃園廳ニ引渡セリ該廳ハ其レヲシテ改過選善ヲ誓ハシメテ請書ヲ徴シ且廳參事及地元保正甲長並親族ヲシテ保證ノ責ヲ負ハシム

(附記)蕃地ニ潜匿セシ匪徒ノ罪ヲ宥ルシ其ノ改過選善ヲ監視シ良民タラシメタル例ハ一ニシテ足ラス明治四十年大嶽嶽蕃匪騷擾事件ノ勃發スルニ當リ隘勇李光協、李阿然ノ兩名ハ兇蕃ニ黨與シ爾來馬武督蕃マリバン社ニ竄匿セシカ翌年九月其ノ蕃地ヲ脱出シ來リタル際廳參事地元保正甲長及親族等ヲシテ將來ヲ保證セシメ其ノ前罪ヲ追窮セサリシカ如キ便チ是ナリ

二十日 家永前進隊長、大津蕃務本署長ニ電照スルニ、ウライ社ニ移住セル馬武督社蕃人タイホ、ナウイ及其ノ弟タイモ、ナウイ、ノ歸順ヲ聽ルスノ可否ヲ以テス此ノ二人ハ明治四十二年八月六畜山方面ニ隘勇線ヲ前進スルニ當リ、ウライ社ニ逃走シ嗣後該地ニ移住シタリシカ各砲臺ヨリスル砲撃ノ猛劇ナルニ惶怖シ十二日田中部隊本部ニ、レミトシ式銃器一挺ヲ提出シテ歸順ヲ哀願シ且其ノ許可セラレタル後ハ馬武督社ニ歸ラムコトヲ請ヘリ家永隊長則チ之ヲシテ、ウライ社ヲ招降セシメムトシタルモ社衆肯セス乃チ該兄弟ノミノ歸誠ヲ容ルサムトスルナリ 本署長兩三回照復ノ後、具サニ其ノ事情ヲ

知リ謂ラク少數者ノ降ヲ受クルノ例ヲ立ツレハ之ニ倣フ者前後相繼クニ至リ、マリコワソ蕃全般ノ投降ヲ速カナラシムル所以ニアラスト則チ之ニ同意セス

(附記)蕃務本署長ト新竹廳長トノ間ニ往復シタル最終ノ電報ハ左ノ如シ

十月二十一日

新竹廳長宛

大津蕃務本署長

ウライ社ニ居住スル元馬武督蕃人歸順ノ件ハ一部宛歸順ヲ許ストキハ、マリコワソ蕃全體ノ歸順ヲ長引カシムル患アルヲ以テ此ノ機ヲ利用シ彼等ヲシテ、マリコワソ蕃ノ歸順ヲ勸誘スルコトニ勉メシメ成ルヘク全部纏リタル上ニテ歸順ヲ許可スル方得策ニアラスヤ一應貴見承知シタシ

十月二十三日

大津蕃務本署長宛

家永新竹廳長

ウライ社ニ移住スル元馬武督社蕃人タイホ、ナライ以下一家族ノ歸順ヲ許可セラルルモ之カ爲マリコワソ蕃全部ノ歸順ヲ長引カシムルヤノ患ナキヤニ思料ス元來同蕃丁ハ移住シタルモノ故マリコワソ蕃人ニ歸順勸誘方盡力セシメタルモ彼等ハ同蕃丁ノ言動ニハ重キヲ置カス從テ之ニ應スル者ナシ同蕃丁ニ歸順ヲ許可スルトキハ、マリコワソ蕃全部ノ歸順ヲ長引カシムルカ如キ慮アリトセハ今歸順ヲ許可セラレサルモ支障ナシト雖マリコワソ蕃人ト向背ヲ共ニスルヲ厭ヒ歸順許可ノ後ハ舊居住地タル馬武督社ニ歸ラムト欲シ銃器ヲ提供シテ歸順ヲ哀願シタルヲ以テ之ヲ許可シ此ノ二人ニ就テ目下ニ於ケル、マリコワソ蕃ノ動靜ヲ聽取ルトキハ聊參考トナルコトアラムカト思料シ歸順許可ニ付御指揮ヲ仰キタル次第ナルニ由リ許否ノ點ニ付テハ然ルヘク御詮議ノ上何分ノ御指揮ヲ乞フ

十月二十五日

家永新竹廳長宛

大津蕃務本署長

十月二十日電報照會ウライ社蕃人歸順ノ件ハ一部宛許可スルハ不利ナリト認メラル由テ當分之ヲ見合セ成ルヘク全部纏リタル上歸順セシムルコトニ取計ハレタシ

二十四日 家永新竹廳長電報ヲ以テ李嶼山方面隘勇線行動期間ヲ三十一日マテ延期セムコトヲ稟申ス翌日總督亦電報ヲ以テ之ヲ認可ス蓋シ蕃情不穩ノ爲人夫ノ逃走相踵クノミナラス暴風雨頻至シテ線外ノ清掃意ノ如クナラス之ヲ完成セムニハ尙五日間ヲ要スルニ由レハナリ

(附記) 理蕃課ニ於テ此ノ延期認可案ニ附シタル理由書ハ左ノ如シ

李嶼山方面隘勇線前進行動期間延期稟申認可ニ關スル件

右ハ六月三十日付本理警第一二八一號ノ一ヲ以テ八月一日ヨリ九月十九日マテ五十日間ノ豫定ヲ以テ認可セラレ行動ヲ開始シタルニ蕃人ノ抵抗劇烈ヲ極メ爲ニ豫定ノ連絡容易ニ成ラス加之線外三百米突間ノ地面清掃伐採暴風雨襲來等ニ由リ工事進捗セズ由テ更ニ八月四日付本理警第一八一七號ノ一ヲ以テ巡查二百二十名隘勇二百名人夫五百名増員ノ認可ヲ得八月十四日連絡成リタルモ其ノ後二回ノ暴風雨ニ作業ヲ妨害サレ輸送路ノ復舊工事ノ如キハ意外ノ日子ヲ要シ到底豫定ノ日數内ニ於テ之ヲ完了スル能ハサルヲ以テ更ニ又十月十九日付本理警第一二一八號ノ一ヲ以テ十五日ノ延期ヲ認可セラレ工事續行中尖石山ヨリ上野山ニ至ル隘勇線ハ地形不利且暴風雨ノ被害ニ乘シ、キナジー、マリコワン兩蕃ノ來襲頻々相踵テ後方輸送ヲ妨ケラルル爲、ヤバカン溪上流方面ニ新線ヲ設クルノ已ムヲ得サルニ至リ十月十九日付本理警第二九七五號ノ一ヲ以テ二十日間ノ新行動ヲ認可セル其ノ日數ハ前後通シテ八十五日(二箇月二十五日)トナリ十月二十五日マテニ作業完成ノ筈ナリシカ蕃情依然險惡ニシテ人夫ノ逃走相繼キ爲ニ線外伐採作業ニ大ナル障礙ヲ蒙リタルヲ以テ更ニ本月三十一日マテ六日間行動延期方稟申有之尤延期ニ伴フ經費ハ配賦豫算ノ範圍内ニ於テ處理セムト云フニ在リテ事態止ムヲ得サルモノト認ム

延期僅ニ六日ナリト雖暴風雨被害ノ復舊工事已ニ成リ鐵條網ハ完固ヲ加ヘ饒令兇蕃ノ出テテ一逞ヲ謀ルアルモ乘スヘキノ隙ナキヲ以テ線外ノ清掃、速ニ其ノ工ヲ畢リ三十一日樹杞林支廳構内ニ於テ解除式ヲ舉ク乃チ内田民政長官ハ之ヲ東京ノ佐久間總督ニ報告セリ

○前進ノ效果 本行動中ニ於ケル我カ隊ノ損害ハ警部以下戰死七十九名負傷六十五名合計一百四十四名ニ達セリト雖李嶼山最高地ヲ我カ手中ニ收メテ後年西部蕃地ヲ平定スルノ地ヲ成シタルノミナラス之ニ由リテ新タニ線ヲ延長シタルモノ五里二十六町、包容地域内ノ舊線ヲ撤收シタルモノ六里二十二町ニ及フ其ノ功亦鮮カラサルナリ

バイバラ方面隘勇線前進

(一) 南投廳方面

イ 第一次行動狀況

南投廳下埔里社支廳管内ノ、バイバラ蕃ハ霧社方面ノ各社ヲ膺懲スルニ際リ我カ砲撃ヲ避ケテ、オビシ溪原頭ニ竄踞シ招撫ニ應セス數、出テテ警備線ヲ侵シ爲ニ巡查隘勇ノ害ニ遭フ者相踵ク總督府則チ之ヲ彈壓シテ銃器彈藥ヲ押收セムト欲シ該廳長久保通猷ヲシテ隘勇線前進稟申書ヲ提出セシメ明治四十四年六月二十八日之ヲ認可シ蕃務總長ノ指揮ヲ受ケ事ニ從フヘク命シタリシモ故アリテ姑ク之ヲ中止シタルカ、該蕃ノ跳梁益甚シキニ由リ九月十三日之ヲ實行スルノ議ヲ定メ久保廳長ヲシテ更ニ前進隊編成竝方略變更ニ關スル覺書ヲ提出セシム

(附記) 覺書ノ全文ハ左ノ如シ

一、本部ハ眉肉納監督所ニ置ク

二、部隊ノ編成ハ二箇部隊、四箇分隊トス

- 三、第一部隊ハ松樹嶺分遣所第四號隘寮附近ニ集合シ其ノ稜線ヲ北進シ更ニ右折シテ蕃路ニ傍ヒ、マタオロー社(其ノ西北森林ヲ含ム)ヲ占領ス
- 五、第二部隊第二分隊ハ川中島分遣所ニ集合シテ、マタオロー社ノ分社ヲ占領シテ第一分隊ニ連絡ス
- 六、第一部隊第一分隊ハ北港溪右岸ヲ遡リ、バイトワン社ヲ經、同舊社ノ稜線ヲ占領シテ第二部隊ノ第一分隊ニ連絡ス
- 七、第一部隊第二分隊ハ第一分隊ニ續行シ其ノ東方稜線ヲ下リ北港溪マテヲ占領ス
- 八、行動ハ九月二十三日開始ス(其ノ時間ハ夜半十二時前後トシ順序ハ第一部隊ノ出發後二時間ニシテ第二部隊ヲ出發セシム)
- 九、戰鬥員ニハ小十字鍬、方匙及鉈ノ類ヲ携帯セシム
- 十、人夫ハ行動上特ニ必要ナル人員ノ外ハ目的地占領後始メテ之ヲ使用セシム(十一、十二ハ重要ナラサルニ付省略ス)
- 十三、九珊臼砲一門六珊山砲一門ヲ舊バイトワン社西方高地適當ノ場處ニ配備ス
- 十五、隊長以下ノ氏名及人員ハ左ノ如シ

本部

前進隊長	應長	久保通猷
同 副長	警部	長倉用貞
本部 附	警部	武下袈裟一
同	警部補	庄司安太郎

外ニ巡查十二名、巡查補六名、隘勇三十五名、工手一名、工夫二名、人夫百二十名

部 隊

第一部隊長	警部	伊藤泰作
第一分隊長	警部補	梶原正一
第二分隊長	同	竹中清太

外ニ巡查三十名、巡查補七名、隘勇百八十五名、人夫八十名

第二部隊長	警部	依田盛勇
第一分隊長	警部補	長崎重次郎
第二分隊長	同	松本九一

外ニ巡查四十八名、巡查補七名、隘勇二百四十名、人夫一百名

外ニ警員二名、看護人三名

而シテ初、定ムル所ノ計畫中變更セサルハ行動期間ヲ九月二十三日ヨリ十五日間トスルコト及線ノ延長ヲ二里トスルコトニシテ高塚警視、山本囑託ヲ、バィバラ監督所ニ派シ長倉副長ト謀リ其ノ衝ニ當ラシム二十二日各般ノ準備已ニ成リシヲ以テ前進隊長ハ本部ニ來リ直ニ行動命令ヲ發セリ乃チ左ノ如シ

- 一、明治四十四年九月二十三日午前一時バィバラ方面ニ隘勇線ヲ前進シ反抗蕃社ヲ膺懲セムトス
- 二、第一部隊ハ第一分隊ヲ先頭トシ午前一時バィバラ監督所ヲ發シ田口ヶ原分遣所北方北港溪ヲ渡涉シ、バィトワン社ノ開墾地ヲ經、上方稜線及マタオロー社ノ稜線ヲ占領シ第二部隊ニ連絡シ其ノ第二分隊ハ第一分隊ノ占領シタル、バィトワン社上方ノ守備ニ任スヘシ
- 三、第二部隊ハ第一分隊ヲ先頭トシ午前一時松樹嶺分遣所ヲ發シ東北方稜線ヲ進ミ、マカルグヤフ、ノ西北方高地ヲ占領シ第二分隊ハ第一分隊ニ續行シ松樹嶺及第二高地ヲ占領スヘシ

(二)及三項ハ之ヲ省略ス)

四、各部隊ハ目的地點ヲ占領スルト同時ニ防禦工事ヲ施シテ蕃人ノ襲來ニ備ヘ各部隊間ニ隘路ヲ開鑿シ向第一部隊第一分隊ハ田口ヶ原ニ至ル交通路、第二部隊第二分隊ハ松樹嶺ニ至ル交通路ヲ開鑿ニ從事スヘシ(以下省略)

二十三日 伊藤部隊長ハ第一分隊ヲ率キ、バイトワソ社舊社ノ稜線ヲ其ノ第二分隊ハ東下シテ北港溪ニ至ル稜線ヲ占領シ依田部隊長ハ第一分隊ヲ率キ、マタオロー社西方高地ヲ其ノ第二分隊ハ同社頭上ノ高地ヲ占領シ嚴ニ防備ヲ修ム午後九時炬火ノ、マタオロー社開鑿地附近ニ去來スルヲ見ル蓋シ兎蕃出テテ壘ヲ築クナリ

二十四日 午前九時兎蕃六十許、松樹嶺東方高地ヲ襲フ撃テ之ヲ攘フ之ト同時ニ、マタオロー社線又襲ハル伊藤部隊對撃スルコト數時ニシテ兎蕃二名ヲ殲ス我レ亦隘勇二名ヲ亡フ是日久保應長電稟シテ曰ク「前進線ノ延長豫想外ニシテ殆ト四里ニ及ヒ現在ノ部隊員ニテハ警備困難ナルノミナラス白狗方面モ亦不穩ニシテ同方面ノ警備員ヲ割キ難キ状態ナリ由テ此ノ際巡查五十名隘勇百名ヲ増員セラレタシ」ト即チ非常召集令ヲ臺中廳ニ發シ警部補一名巡查五十名ヲ應援セシメ隘勇百名ハ直ニ之ヲ採用スルコトヲ認可ス

二十五日 兎蕃伊藤部隊前面ノ喬林ニ據リ且闕シ且射ル之ニ轟カスニ臼砲ヲ以テスルモ密樹及マタオロー社ノ蕃屋ニ遮ラレ奏功多カラズ輒チ火ヲ該社ニ放テ之ヲ燒ク而シテ兎蕃ノ依田部隊ニ逼ル者漸クニシテ多キヲ加ヘ險ニ壁シテ我レニ對ス部隊長則チ梶原分隊長ニ巡查九名、巡查補一名、隘勇十一名ヲ附シテ左翼ヨリ松本分隊長ニ巡查十名、巡查補一名、隘勇十五名ヲ附シテ右翼ヨリセシメ躬ヲ巡查三名、巡查補一名、隘勇十五名ヲ以テ其ノ中間ヨリ前ミ之ヲ猛撃ス兎蕃善ク捍ク我カ隊挺進シテ之ヲ蹙メ盡ク其ノ掩堡ヲ拔ク是ノ接戰タル頗ル猛烈ヲ極メ第一分隊巡查宮原福太郎ノ踴躍シテ進ムヤ身ニ銃創

ヲ受ケシモ刀ヲ揮ヒ二兎蕃ヲ斫リテ仆ル巡查向井某、一隘勇ト繼テ前ミ其ノ屍ニ據リテ敵ヲ射リ長清某、上野某又敵壘ニ突入シテ數人ヲ傷ツク而モ我レ亦巡查二名ニ死シ隘勇二名傷ヲ被ル午後五時ヨリ六時ノ間タマロー線及北港溪線屢襲ハル毎ニ撃テ之ヲ走ラス

二十六日 兎蕃二十許、依田部隊ノ第一分隊ニ逼リ狙射シテ輒マス長崎分隊長衆ヲ督シ反撃シテ之ヲ卻ク是日臺中廳警部補坂入莊四郎巡查五十名ヲ率キ、バィバラ本部ニ抵ル前進隊長即チ之ニ加フルニ隘勇二十五名ヲ以テシ依田部隊ニ編入ス坂入第三分隊是ナリ兎蕃第二高地ニ破レテヨリ氣勢漸ク挫ケ四、五名乃至六、七名伍ヲ結ヒ間ヲ窺ヒテ狙撃スルニ過キス則チ一面清地築寮ノ工ヲ進メ一面其ノ竄蹏スル溪谷及開墾地ヲ砲撃ス

三十日 午後六時暴風雨起リ翌日ニ至ルモ歇マス隊員大ニ困ム

十月二日 兎蕃八十許、依田部隊ノ前面ヨリ肉薄ス迎撃シテ之ヲ破リタルモ却テ林間ニ壘シ我レニ相對持ス此ノ接戰中巡查工藤右内陣歿シ同一丸平吉及隘勇二名重創ヲ受ク

(ロ) 第二次行動狀況

是ヨリ先長倉副長、久保隊長ニ提出スルニ第二次前進意見書ヲ以テス隊長之ヲ是トシ狀ヲ具シテ電稟ス大津總長以爲ラク、バィバラ蕃ヲ根柢ヨリ解決セムニハ依田部隊ノ占領地方面ト臺中廳下白冷監督所方面ノ線トヲ連絡セシムルニ如カスト則チ命令ヲ兩廳長ニ發ス其ノ久保廳長ニ對スルモノハ左ノ如シ

第二次行動ニ關シ稟申書ヲ提出サレタルモ將來計畫上ノ必要アルニ由リ臺中廳長ヲシテ白冷監督所ヨリ大甲溪左岸ニ傍ヒ舊クラスワタン部落附近ノ稜線ヲ傳ヒ依田部隊ノ占領地方面ニ連絡スル隘勇線ヲ新設セムトス貴官ハ臺中部隊ト同時ニ行動ヲ起シ六、〇六二最高地ヨリ東北方ニ下リタル稜線(距離十八町)ノ三又點ヲ確實ニ占領シ臺中部隊ト連絡スヘシ

右ノ行動ニ必要ナル部隊ハ現在前進隊員中ヨリ編成スヘシ川中島ヨリ六、〇六二高地ニ至ル線ハ白冷間ノ連絡成ルト同時ニ撤退スヘキヲ以テ作業ハ單ニ防禦設備ノミニ止メ出來得ル限リ人夫ヲ解隊スヘシ行動開始ハ十月五日トス其ノ時間及實行順序ハ臺中前進隊長ト協議スヘシ

(附記)第二次行動認可サレタル後久保隊長ノ編成シタル人員ハ共計百二十名ニシテ依田部隊本部警部一名、巡查補十名、隘勇三十名、人夫二十名(巡查ノ内一名ハ音響信號ニ從事セシム)梶原、松本、竹中ノ三分隊ハ各警部補一名、巡查二十名、巡查補三名、隘勇五十名、人夫三十名外ニ電話隊巡查、巡查補各一名、隘勇五名、電話工夫一名、人夫十名ナリ

四日 久保隊長ノ命ヲ受ルヤ直ニ行動命令ヲ發ス越テ六日午後三時依田部隊長ハ梶原分隊ヲ先頭トシ松本、竹中兩分隊ヲシテ之ニ繼カシメ眉原山高地下ノ東方稜線ヲ進ミ前面ノ高地ヲ略スル爲先ツ竹中分隊長ニ命シ左翼ニ展開セシムルヤ兎蕃壘ニ據リテ瞰射ス則チ梶原分隊ヲ其ノ正面ニ松本分隊ヲ其ノ右側ニ進メ之ヲ仰攻セシムルモ頑抗時ヲ移シテ屈セス是ニ於テ竹中分隊ハ彈雨ヲ冒シテ突撃シ六、〇六二尺高地ヲ奪ヘリ兎蕃壘ヲ深宵ニ入り出沒狙射スルモ撃テ之ヲ走ラシ午後七時臺中隊ノ本郷部隊ト連絡セリ此ノ一舉ニ因リ臺中隊ノ略取シタル地域十八町ハ後之ヲ南投隊ニ引繼キタルヲ以テ久保廳長ハ此ノ間ニ於ケル伐採築寮等ノ工ヲ畢ル爲前進行動ノ期日ヲ十九日マテ延期セムコトヲ稟申セリ

(附記)第二次行動延期ノ稟申書ハ左ノ如シ
眉原方面隘勇線前進行動期日延期並豫算増加ノ件曩ニ電報稟申中ノ處タマオロー、ヨリ臺中廳トノ連絡地點(前進ニ由リテ臺中隊ノ占領シタル地域十八町ハ當廳ニ引繼ヲ受ケタリ)ニ至ル一帶ハ喬木密生シ射界ノ伐採甚タ困難ナルノミナラス此ノ地域内ニ築造スル建物ノ屋根ニ苔クヘキ茅草ハ此ノ附近ノ地ニ絶無ナルニ因リ遠ク之ヲ田口ヶ原方面ニ採ラサルヘカラサル状態ニシテ到底電報稟申ノ期日内ニ完成シ得ル望ミナシ且今後ニ於ケル蕃情ノ變化モ亦測ルヘカラサルモノアリ從テ此ノ間ニ

配置スヘキ砲臺、分遣所及隘寮等ノ増設ヲ要スルヲ以テ十月十四日ヨリ同十九日マテ六日間延期ノ議及豫算増額方御認可相成度此段及稟申候

十三日 謀者本部ニ密告シテ曰ク「バイバラ蕃ハ全社オピン溪ノ上流ヨリ岐ルル、ウバガイ溪ノ源頭ニ通竄シ糧餉ノ闕乏ニ窘ミ往々飢餓ニ瀕セムトスル者アルニ由リ頭目ロウセハオジヨ外二名ハ銃器ヲ提供シテ投降セムト欲シ議已ニ定リタルモ頭目ワリスハ一ナリ及血氣ノ蕃丁等之ヲ肯セス然レトモ其外ヲ硬ニスト雖其内ハ或ハ軟ナルナカラムヤ曩日該社ノ竄踞地ニ首祭ヲ舉ケ讎飲ヲ馨スニ當リ巨彈飛來シテ其席ニ爆發シ頭目ワリスハ一ナリ、ノ養子及蕃丁十名即死シ、頭目ワリスハ一ナリ及シユンデヒク、外蕃丁十名傷ヲ被レリ爲ニ閩社震驚シテ老幼婦女ハ叫喚逃散セリト則チ白狗蕃マシトバオン社頭目ノ長子ニ勢力者一名蕃丁一名ヲ附シ往テ之ヲ招降セシム越テ二十一日午後三時マタオロー、ハイトワン、オピン、ムカガオン四社ノ頭目ハ蕃丁五十七名ヲ隨ヘ眉原監督所ニ來リ銃器三十二挺(村田銃九挺、管打銃十六挺、レミントン銃二挺、モーゼル銃二挺、火繩銃三挺)彈藥百二十四發及鹹首シタル獨體八箇ヲ提出シ降ヲ乞フ往キニ查スル所ノ數ニ符セス即チ之ヲ斥ク頭目等假スニ二日ヲ以テセムコトヲ請フ之ヲ聽シテ遣歸シタルニ二十八日ニ至リ更ニ八挺ヲ納ム初ヨリ押收スル所百二挺ニシテ復殘餘ナキニ至レリ是ヨリ先大津總長ハ臺中隊ノ本部ニ至リ駐マリテ兩隊ヲ指揮シツツアリシカ兎蕃出降ルノ報ヲ聞キ是日午後五時バイバラ前進隊本部ニ來リ高塚警視、久保隊長等ニ諮リ依田埔里社支廳長ヲシテ假歸順ヲ聽許セシムルノ議ヲ定メ翌二十九日各社ノ頭目以下百三十五名ヲ召集シ懇ロニ之ヲ規誡ス衆蕃唯々命ヲ聽キ慚慚ノ色面ニ見ハレ兎行ヲ再ヒセサラムコトヲ矢フ、バイバラ蕃是ニ於テカ平ク

(二) 臺中方面行動狀況(命ケテ大甲溪方面隘勇線前進ト謂フ)
大津蕃務總長ノ久保前進隊長ニ對シ、バイバラ方面第二次行動ノ方略ヲ指示スルヤ佐久間總督ハ枝臺中廳長ニ命スルニ大甲溪方面ニ隘勇線ヲ前進シ南投隊ニ連絡セムコトヲ以テ該廳長輒チ十月二日ヲ

以テ前進隊ヲ編成シ急ニ準備ヲ整フ
(附記)幹部員及隊員數ハ左ノ如シ

本部

前進隊長	應長	枝	德
同 副長	警視	市	來
本部 附	警部	鮫	島
		豹	一

外ニ巡查十名、隘勇二十三名、人夫九十名

部 隊

第一部隊長	警部	本	郷	宇	一	郎	
第一分隊長	警部補	坂	入	莊	四	郎	
第二分隊長	同	井	上	國	太	郎	
第二部隊長	警部	内	田	教	四	郎	
第一分隊長	警部補	竹	内	猛			
第二分隊長	同	酒	井	喜	代	助	
外ニ巡查六十一名、巡查補一名、隘勇七十九名、人夫九十名		警部	高	田	福	三	郎
		警部補	森	山	鐵	太	郎
		同	祐	成	善	市	
外ニ巡查六十一名、隘勇七十八名、人夫九十名							

外ニ巡查二名

搜索犬隊長 警部 飯島幹太郎

電話隊 巡查三名、隘勇三名、工手一名、工夫二名、人夫二十名

中繼所 巡查一名、隘勇五名、人夫五十名

部署已ニ成リシヲ以テ諸隊ヲ白冷監督所ニ集合セシメ前進命令ヲ發シテ曰ク
南投廳前進隊ハ幾多ノ困難ヲ排シ、パイバラ蕃ヲ壓迫シ既ニ眉原高地ヲ占領セリ我カ臺中前進隊ハ
白冷監督所ヨリ大甲溪左岸ヲ遡リ舊クラスワタン部落ヲ占領シ同處ヨリ南方稜線ヲ傳ヒ南投廳前進
隊ト連絡セムトス諸隊ハ左記ノ如ク行動スヘシ

- 一、第一部隊ハ十月五日午前五時白冷監督所ヲ出發シ前進隊ノ先頭ト爲リ南投廳ノ先頭部隊ト連絡スヘシ
- 二、第二部隊ハ第一部隊ニ續行シ舊クラスワタン部落ヨリ南方稜線ヲ上リ第三部隊ニ連絡シテ該處ニ若干ノ掩堡ヲ築造シ守備ニ任スヘシ
- 三、第三部隊ハ第二部隊ニ續行シ二箇班ヲ裡冷溪ニ二箇班ヲ同溪ノ左岸ニ四箇班ヲ其ノ中間二箇所ニ駐メテ守備ニ任セシメ一箇分隊ハ、クラスワタン部落ヨリ南方稜線ヲ上リ掩堡八箇處ヲ築造シ守備ニ任スヘシ
- 四、第一部隊ニ搜索犬隊(警部一名、巡查二名、蕃人二名、搜索犬三頭)及音響信號員タル巡查二名ヲ隸セシム

五、電話隊ハ第一部隊ニ續行シ被覆線ヲ架設スヘシ
前進諸隊ハ午前八時三十分クラスワタン部落ヲ横キリ午後五時眉原山ノ中腹ニ露營シ翌六日本郷、内田ノ兩部隊ハ更ニ檜山ヲ踰エ一高地ニ上ル是處ハ白姑大山ノ支脈ニシテ每拔七千九百九十八尺アリ由

テ命ケテ八仙山ト謂フ内田部隊ハ此ニ駐リテ防備線ヲ布キ本郷部隊ハ路ヲ高地南方ノ稜線ニ取リテ前
ム飯島警部先頭ニ立チ巡查二名ト俱ニ犬三頭ヲ前路ニ縱チ索進セシム時ニ日將サニ暮ムトシ瞑煙、密
樹ヲ鎖シ十歩ノ外猶辨スヘカラス既ニシテ犬ノ連リニ吠ユルヲ聞キ之ヲ蹤シテ林間ノ坳處ニ至レハ十
有餘ノ艸藜軒ヲ接スルヲ見、入リテ其ノ内ヲ檢スレハ糧餉家具(粃十八石、白米五斗、糯一石餘、芋二百
斤、蕃薯五百斤、芋麻十五貫、蕃布十六反、煙草三貫目、蕃酒三升、火藥二貫、甕二十六箇、籃三箇、眞鍮鍋
三十枚、蕃刀四口、鎌八挺、斧三挺、珠裙二枚、其ノ他雜品)ヲ委棄シ狼狽遁竄ノ狀歴然タリ蓋シ、バイバ
ラ蕃ノ一部ハ巢ヲ此處ニ結ヒ出テテ南投隊ニ抗シ專ラ其ノ前ヲ防クニ際リ我カ隊ノ爲ニ其ノ後ヲ衝カ
レタルナリ

本郷部隊ハ已ニ敵ノ根據ヲ奪ヒシモ南投隊ノ何レノ處ニ進來セルカヲ知ル能ハス則チ音響信號器ヲ吹
カシムレハ(音響信號器ハ扇海丸砲術長タリシ囑託鈴木由藏ノ創意ニ係ル)和答ノ聲、前面ノ林中ニ起
リ兩隊始メテ相連絡スルヲ得タリ時ニ午後七時ナリ而シテ兇蕃ハ腹背ニ敵ヲ受ケタルカ爲此ノ附近一
帯ノ守リヲ舍テテ走り復敢テ來リ抗セス是ニ於テ我カ隊ハ占領地中南投應ニ屬スル十八町ノ間ハ之ヲ
依田部隊ニ引繼ケリ

(附記)臺中隊ノ南投隊ニ連絡シタル狀況竝其ノ經過シタル所ノ地形等ハ臺中廳理蕃誌ニ詳ナルヲ以
テ左ニ之ヲ抄録ス

本郷部隊ハ豫定ノ如ク白冷監督所ヲ發シ大甲溪左岸ヲ遡リ約一時間ニシテ裡冷溪ニ達ス而ルニ此ノ
裡冷溪ヨリ前方ハ道路崩壞シ崖壁多ク落チ行進殊ニ難カリシモ辛ウシテ之ヲ通過シ、クラスワタン
部落ニ達シタルハ午前八時三十五分ナリ是ヨリ稜線ノ蕃路ヲ上ルニ此ノ附近一帶ハ蕃人ノ外、未タ
曾テ人迹ノ到ラサル處ニシテ峩々タル全山ハ千古ノ樹林ヲ以テ掩ハレ鬱葱トシテ晝猶暗ク其ノ進路
ノ如キ實ニ險惡ヲ極メ隊員ノ困苦言ハシナシ幸ニ蕃人ノ抵抗ニ遭ハス同日午後五時中腹ニ達シ得

テ此ニ露營ヲ張レリ今其ノ行程ヲ計ルニ白冷監督所ヨリ、クラスワタン、ニ至ル約二里、クラスワ
タン、ヨリ露營地マテ約一里、此ノ短行程ヲ進ムニ總テ十時間ヲ要シ、クラスワタン、ヨリハ一里
餘ヲ進ムニ約七時間ヲ費セリ

第二第三ノ各部隊亦豫定ノ如ク第一部隊ニ續行シ要處ニハ掩堡ヲ築キテ警備員ヲ配置シ以テ第一日
ノ行動ヲ了レリ

翌六日第一第二兩部隊ハ午前六時露營地ヲ發シ同十時五十五分檜山ニ達ス檜山トハ此ノ前進ノ際命
ル所ニシテ標高六千餘尺、而シテ是ヨリ針葉樹帶ニ入り洪荒以來斧斤入ラサル爲檜樹全山ヲ掩盡セ
リ進路ノ傍ニ在ル一大檜樹ハ彼ノ阿里山ノ神木ニ類シ盤根數畝ニ蟠リ矗トシテ天ヲ衝キ一大壯觀タ
リ檜山ノ名由テ起ル所以ナリ午後零時三十分白姑大山ノ支峰稜線高地(標高七、九九八尺)ニ達ス此
ノ高地亦其ノ標高ニ由テ八仙山ト命ス此ニ第二部隊ヲシテ守備ニ當ラシメ第一部隊ハ南投應ノ前進
隊ニ連絡セムト欲シ高地ヨリ南方稜線ニ傍フテ前進ス然レトモ此ノ高地ヨリ該隊ノ占領セル最北端
ノ眉原高地トハ其ノ距離遠ク加フルニ進路亦峻絶ニシテ隊員ノ困苦名狀スヘカラサリシモ午後七時
辛ウシテ連絡スルヲ得タリ此ノ前進延長ハ總テ四里十四町五十三間ニ及フ八仙山高地ヨリ眉原高地
ニ至ル稜線ニハ至ル處ニ蕃人ノ築ケル掩堡アリ又假住小屋アリ第一部隊カ之ニ向テ進行スルヤ搜索
犬ノ吠ユルヲ聞ケル彼等ハ前面ナル南投隊ニ飽クマテ抵抗シツツアリシカ突如トシテ我カ其ノ背後
ニ逼レルヲ知リ驟驚狼狽遂ニ一丸ヲ放ツノ暇ナク家具食物ノ如キモ之ヲ携帶セシテ逃走セリ我カ
隊ト各處ノ掩堡又ハ假住小屋ニ突入シテ種々ノ物品ヲ押收シ小屋ハ盡ク之ヲ燒却セリ押收物品ノ重
ナルモノハ左ノ如シ(物品名ハ本文ニ記スル所ノ如シ)

更ニ我カ占領高地ヨリ展望スルニ眉原蕃ノ各部落ハ右往左往遁走ノ準備ニ忙ハシキ狀アリ其ノ窮態
ヤ極マレリト謂フヘシ

是ヨリ臺中隊ハ占領地域内ニ於ケル伐採築壘等ノ作業ニ從事シ何等ノ障礙ニ値ハス其ノ工ヲ竣リタルヲ以テ十月三十一日ヲ以テ前進隊ヲ解ケリ

○前進ノ效果 此ノ一舉ニ由リ南投應ハ、バイバラ蕃ヲ蕩平シテ二方里餘ノ土地(開墾見込地六十三町歩、林地四百四十四町歩、製腦見込額約五萬斤)ヲ包容シ新タニ二十二分遣所(境高地、石楠花、フユガン、ムカガオン、全勝山、眉原山、中峰、中坂、マタオロー、見晴、松林、ハイトワン)ヲ設ケテ一面ハ以テ不慮ニ備ヘ一面ハ以テ開發ニ資セリ而シテ舊線ノ裁撤ニ因リ一監督所、九分遣所(監督所ハ阿冷山、分遣所ハ中川山、長崙山、田邊岡、阿冷溪、小平山、眉冷山、川中島、眉原溪、松樹峯)ヲ廢止スルヲ得タリ臺中廳亦爲ニ隘勇線ヲ擴張シテ、イチハブガイ部落ヲ包容シ由テ以テ南北勢蕃ノ中間ヲ截リテ南勢蕃ヲ孤立セシメ北勢蕃解決ノ地ヲ爲セリ而モ南投隊ハ三十三名ノ損害(戰死十四名、内巡查六名、巡查補一名、隘勇七名、負傷十九名、内巡查五名、隘勇十名、人夫四名)ヲ出シタルモ臺中隊ニ在テハ病歿十二名ヲ出シタルノミ

アーラン社方面銃器押收

○押收ノ所由竝行動狀況 臺中廳下東勢角支廳管内アーラン、稍來ノ兩社ハ隘勇線ノ内外ニ居住シ控馭ニ就クコト已ニ久シト雖其ノ有スル所ノ銃器ハ三百餘挺ヲ算スルニ由リ之ヲ繳收セムコトヲ籌畫セリ是時ニ當リ南投應下霧社方面ノ膺懲ハ日ヲ逐テ功ヲ收ムルモ、バイバラ蕃ハ頑抗屈セズ之ヲ攻略セムトスレハ、アーラン社方面ニ竄去シ之ト力ヲ戮ハセ我レニ抗スルノ虞アリ蓋シ兩社ハ相婚嫁シテ親姻甚多キヲ以テナリ是ヲ以テ總督府ハ臺中廳長ニ命スルニ一面バイバラ蕃ト連衡スルヲ防キ一面線外アーラン社四部落及線内蕃ノ所有銃器ヲ押收スヘキヲ以テ臺中廳長ノ命ヲ受ルヤ二月十三日警視一名警部三名巡查八十名巡查補三名隘勇百五十名ヲ以テ搜索隊ヲ編成シ第一第二第三部隊及豫

備隊ニ分チ即日行動命令ヲ發セリ乃チ左ノ如シ

本隊ハ明治四十四年二月十四日行動ヲ開始ス其ノ目的ハ廳下内外アーラン社白毛社線内稍來社蕃ノ所有銃器彈藥ヲ押收シ一面目下討伐中ニ係ル南投應下バイバラ社蕃人ノ遁路ヲ防クニ在リ

諸隊ノ任務

- 一、本部ハ白冷監督所ニ置ク
- 二、本隊ハ二月十三日白冷監督所ニ集合シ十四日午前五時行動ヲ開始シ第一部隊第一分隊ノ第一班ハ、シユーンヤンタイモ部落ニ其ノ第二班ハ、アーラン、シユゴヘン部落ニ第二分隊ハ、クラスワタン部隊ニ侵入シテ迅速ニ銃器ヲ押收シ了リ第一分隊ノ第二班ハ十門溪口ニ下リ警備ニ任スヘシ
- 三、第一部隊ノ主力ハ二月十三日白冷線一氣山分遣所ニ集合シ十四日午前五時行動ヲ開始シ、イチハブガイ部落ニ侵入シ迅速ニ銃器押收ヲ了リ一氣山分遣所ニ歸著シ命ヲ待ツヘシ
- 四、第二部隊ハ二月十三日白毛蕃務官吏駐在所ニ集合シ警戒ノ任ニ當ルヘシ
- 五、第三部隊ハ二月十三日稍來監督所ニ集合シ警戒ノ任ニ當ルヘシ
- 六、豫備隊ハ二月十三日本部ニ集合シ命ヲ待ツヘシ
- 七、炊事ハ各部隊ニ附屬セシム

(附記)搜索隊幹部員竝部隊ノ編成ハ左ノ如シ

本部	搜索隊長	廳長	枝德二
本部	隊長	警視	市來半次郎
本部	附	警部	原猪治
同	警部補	警部補	坂入莊四郎

部隊

第一部隊長 警部補 森山鐵太郎
 第二部隊長 警部 本郷宇一郎
 第三部隊長 警部補 石川周藏

部 隊 別	官職別		警 視	警 部	警 部 補	巡 査	巡 査 補	囑 託	監 勇	人 夫	計
	本 部	第 一 部									
本 部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第 一 部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第 二 部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
第 三 部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
豫 備 隊	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

各部隊ハ十四日午前五時命令ノ定ムル所ニ從ヒ四部落ニ就キ銃器ヲ押收スル所以ヲ宣言シ其ノ提供ヲ趣カス衆蕃唯々命ニ從ヒ之ヲ納ムルモノ相踵キ一人ノ異言アルナシ蓋シ是ヨリ先十二日技臺中廳長ハ該部落ノ蕃人百五十名ヲ臺中ニ來ラシメ翌日ヨリ嘉義、臺南、打狗等ノ地ヲ觀光セシメ頭目勢力者等社ニ在ル者多カラサリシ爲目的ヲ遂行スルコト容易ナリシナリ

(附記)是時ノ狀況ハ臺中廳理蕃史之ヲ記スルコト詳密ナルニ由リ左ニ之ヲ抄録ス

先是臺中廳ニテハ行動開始ニ先タチ上記各部落蕃人百五十名ヲ誘ヒ中南部ヲ觀光セシメ其留主中ニ於テ事ヲ運ヒタルヲ以テ些ノ故障ヲ見ルナクシテ豫定ノ目的ヲ達シ得タリ觀光蕃人等ハ同月十二日ヲ以テ臺中ニ著シ翌十三日南部ニ向ヒ爾後至ル處ニ款待ヲ受ケ十六日臺中ニ歸著スルヤ枝搜

索隊長ハ彼等ヲ舊知事官邸前ニ集メ左ノ訓示ヲ爲セリ

各廳下ノ蕃族ハ今ヤ皆銃器ヲ提供シテ誠意ヲ表シ其ノ反抗スル者ハ皆討伐セラル南投應白狗、マレツバ及バイバラ社ハ官命ニ服セサルヲ以テ目下討伐中ニ屬ス聞ク所ニ據レハ汝等ノ中ニハ、バイバラ社ト親族關係ヲ有シ同社ト共同シテ反抗セムトスル者モアリト若シ果シテ然ラハ是レ大ナル不了簡ナリ我ハ深ク汝等ヲ愛スルヲ以テ縱令汝等カスル不了簡アラハトテ直ニ討伐シ又ハ抑留スルニ忍ヒス此ノ際ニ於テ汝等ニ對シ其ノ所有銃器彈藥ヲ提出セヨト言ハハ汝等ハ必ス反抗スヘク反抗セハ討伐セサルヘカラス故ニ我レハ汝等ヲ優遇シテ觀光セシメ其ノ間ニ於テ銃器ノ提出ヲ命シタリ汝等ノ社ニ殘レル者ハ一人タリトモ殺傷セラレタル者ナケレハ安心スヘシ我レハ將來飽クマテ汝等ヲ保護スヘケレハ銃器ニ代フルニ鍛ヲ以テシ農業ニ勵ムヘシ

此ノ訓示ヲ聞ケル彼等ハ茲ニ始メテ自社ニ事アリタルヲ知リ非常ニ驚愕シ已ニ銃器ヲ引揚ケラルル上ハ何時又生命ヲ奪ハルルモ知ルヘカラス家族等ハ或ハ既ニ殘殺サレシナラムナト益危懼ノ狀アリ路ヲ急キテ自社ニ歸リ家族ノ皆無事ナルヲ見テ始メテ安堵シ互ニ手ヲ取りテ喜ヒ合ヘリ云々初、調査シタル各社ノ銃器總數ハ百三十八挺(イチハブガイ部落十四挺、クラスワタン部落六挺、シユーヤンタイモ部落二十三挺、アランシユゴヘン部落七挺、線内阿冷社三十三挺、線内白毛社二十九挺、線内稍來社十四挺、線内右桂林十二挺)ナリシニ十五日マテニ押收シタル所、百十四挺ニ達シ餘ス所多カラサルニ至レリ十七日四部落ノ頭目等臺中ヨリ歸ルヤ訛言傳播シ物情洶々、線内ヲ脱出スル者相踵ク本郷部隊長等之ヲ諭セトモ肯カス

十八日 枝搜索隊長ハ蕃情靖カラサルヲ以テ部隊ノ編成ヲ更革シ警戒區域ヲ定メ警部原猪治ニ第一部隊長ヲ本郷警部ニ第二部隊長ヲ命シ殘存銃器ノ押收ニ勉メシメ越テ二十日マテニ共計百四十六挺ヲ獲タリ

(附記)原警部戦死ニ關スル臺中廳長ノ報告書ハ左ノ如シ

原警部死去ノ件

臺中廳警部 原

猪 治

右ハ南投應霧社方面討伐行動ノ開始サルルニ當リ同方面ノ蕃人等アーラン社方面ニ遁來ルノ虞アリ延テ東勢角支應管内隘勇線内外ニ影響シ蕃情動搖スルノ兆アリテ之ヲ防止シ且銃器押收ヲ實行スル必要アルニ由リ搜索隊ヲ編成シテ目的ノ遂行ニ從事セリ而シテ同警部ハ二月十八日第一部隊長ヲ命セラレ久撫居ニ駐屯中線外アーラン社シユータイモ、クラスワタン及其ノ所屬部落蕃人等カ銃器完納以來即チ二月十七日以降山中ニ逃走潜伏シタルカ屢々之カ出來ヲ懲懲セシ結果同月二十五日ヲ期シ出來ヲ約シタルニモ拘ラス時日ヲ遷延シ更ニ出來ノ狀ナキニ由リ同警部ハ彼等カ約ニ違ヒ官ヲ輕視スルノ無禮ナルヲ憤リ自ラ往テ之ヲ誘出セムト欲シ同日部下巡查補詹坤及線内蕃ヤボ外數名ヲ率キ該蕃ノ所在ニ向フ途中午後零時駐屯所ヲ距ル約五十間ノ處ニ至ルヤ突然百餘名ノ北勢蕃左右ノ山間四方ノ森林中ヨリ突出シ銃口ヲ揃エテ發射シツツ來襲シ其ノ周邊ヲ包圍シ喊聲ヲ揚ケ肉薄スルニ遇ヒ奮戰苦闘部下ヲ督勵シ之ニ當ルト雖兇蕃毫モ屈セス彈丸雨下シ衆寡敵セス魯巡查補及蕃丁ヤボ、ハ敵彈ニ中リテ殞レ同警部亦胸部ニ貫通銃創ヲ負ヒ後送セララルルニ至リ三月二日午後三時死

亡セリ

是時天津蕃務本署長ハ南投應方面討伐隊ノ事ヲ監シ駐マリテ霧社ニ在リ急電ノ至ルニ接シ桃園廳應援隊小林警部補以下巡查五十名ヲシテ來援セシム

二十六日 市來本隊長ハ坂入第二分隊長ニ命シ巡查隘勇各十名ヲ率キ明治溫泉附近ニ至リ詹巡查補等ノ屍ヲ斂メシメ森山分隊長ニ命シ其ノ所部ヲ率キ本郷部隊ニ合セシム

二十七日 宜蘭廳警部補賀來湖紫朗巡查柴田太源治以下四十九名及新竹廳警部補藤崎新吉巡查堤作一

以下十九名ヲ、アーラン社方面ニ應援セシム是日天津本署長、中田理蕃課長ニ電命シテ曰ク「臺中廳搜索隊目下ノ警戒地ハ防禦ニ適セスト認ムルニ由リ一時之ヲ撤退シ舊隘勇線ニ據リテ守備ヲ修メシムルヲ得策ナリト信シ枝廳長ト照復中云々」ト越テ三月二日大甲溪新警戒線ヲ裁撤シ最初ノ應援隊五十名ハ之ヲ所屬應ニ歸還(歸還後直ニ臺東廳下ニ派遣シテ銃器押收ノ事ニ從ハシムル爲)セシメ新タニ臨時隘勇九十名ヲ募リ之ヲ補フノ議定マル是ニ於テ枝隊長ハ殘留セル應援隊ヲ部署シ白冷線ニ四十五名、稍來線ニ二十六名、牛欄坑線ニ二十九名ヲ配置シ臨時隘勇ハ白冷線ニ三十五名、稍來線ニ二十五名、牛欄坑線ニ五十名ヲ配置セリ三月十日午前三時ノ頃牛欄坑線第四分遣所襲ハレ巡查武藤新吉傷ヲ被ル所員奮擊之ヲ卻ク越テ二十日午前八時三十分該線第六分遣所第二十號隘警勤務巡查中尾萬作警邏ノ途ニ襲殺サル所員之ヲ追躡シタルモ獲ス爾來益守備ヲ嚴ニシタルニ蕃人寢、屏跡シ各般ノ工事成ルヲ告ケタルヲ以テ二十五日搜索隊ヲ解ケリ

是ノ行動ハ中途ニシテ南北勢蕃ノ力ヲ戮ハセテ抗敵スルニ値ヒ新タニ大甲溪河岸ニ布キタル隘勇線ヲ保守スル能ハサルニ至リタルモ初ヨリ押收シタル銃器ノ總數ハ三百五十挺ニ及ヒ且バイバラ蕃ヲシテ此ノ方面ニ遁竄スルヲ得サラシメ所期ノ目的ハ之ヲ達スルヲ得タルナリ

ローブゴー方面隘勇線前進

○隘勇線前進ノ所由竝行動開始前ノ措置 ローブゴー方面ニ隘勇線ヲ前進スルハ北勢八社ヲ平定セムトスルナリ初明治四十四年臺中廳ノ南勢蕃ノ銃器ヲ押收スルニ當リ之ヲ援テ反抗シタル

ヨリ以來屢新竹廳下ノ隘勇線ニ出擾スルヲ以テ該廳ハ大安溪右岸ノ要害ヲ經略シテ之ヲ左岸ニ壓迫シ用心、松永兩山ノ砲臺ヨリ連リニ之ヲ轟擊シタルニ出テテ降ヲ乞ハス却テ射程外ニ竄踞シ隙ヲ窺ヒテ四出殺掠スルニ至レリ是ニ於テ總督府ハ之ヲ削平セムト欲シ四十四年十二月新竹廳長家永泰吉郎蕃務

課長宇野英種、臺中廳長枝徳二、蕃務課長市來半次郎ニ出府ヲ命シ諮詢スル所アリ竟ニ、ローブゴ一山並其ノ他附近ノ要衝ヲ取り、ブヨン、ローブゴ一兩社ノ盤踞地ヲ砲撃シテ之ヲ雪山坑方面ニ驅逐シ遂ニ屈從スルノ已ムヲ得サルニ至ラシムルヲ以テ策ノ得タル者ト爲シ兩廳連合シテ隘勇線前進隊ヲ編成シ新竹隊ハ用心山直下ヨリ進ミ大安溪ヲ横キリ雪山坑左岸ノ稜線ヲ攀チ久保山ヲ經テ、ローブゴ一山ノ北高地ヲ取り臺中隊ハ牛欄坑第一號隘寮ノ直下ヨリ進ミ該溪ノ左岸ヨリ烏石坑溪ヲ遡リ其ノ一支隊ハ觀音山ヲ略シ其ノ主力ハ該山西方ノ山脈ニ循ヒ南方高地ヲ占領シ此ニ兩隊相連絡スルノ議ヲ定メ兩廳長ヲシテ稟申書ヲ提出セシメ之ヲ認可セリ是ノ兩高地ヲ命ツケテ眼鏡形高地ト曰フ蓋シ地圖上ノ形狀ニ取ルナリ

(附記)臺中廳理蕃史ノ蕃界ノ地勢及北勢蕃及ローブゴ一、ノ地勢ノ記事ハ詳密ヲ極ムルニ由リ左ニ之ヲ抄録ス

一、蕃界ノ地勢

臺中廳ニ屬スル蕃族ノ栖息地ハ大安、大甲二大溪ノ上流々域ニシテ其ノ種族ハ北蕃即チ、タイヤル族ニ屬シ小別シテ北勢蕃、南勢蕃ノ二部族ト爲ス北勢蕃ハ大安溪上流ニ南勢蕃ハ大甲溪上流ニ占居ス大安溪ハ廳ノ北偏ナル新竹廳界ヲ流レ源ヲ、シルビヤ高峰ノ北麓ニ發シ深ク山地ヲ縫フテ廳下棟東上堡東勢角附近ニ來リ苗栗三堡大甲平野ヲ過キテ海ニ注ク流程約二十里アリ大甲溪亦源ヲ中央山脈ニ發シ高峰峻嶺ノ間ヲ迂餘曲折シテ棟東上堡ニ入り大安溪ト併流シテ苗栗三堡ニ入り海ニ朝ス流程約二十四里アリ兩溪トモニ本島ニ於ケル屈指ノ大川ニシテ古來激流ヲ以テ名有リ夏時降雨數日ナレハ忽チニシテ水勢奔騰、流域一帶ニ汎濫シテ交通杜絶スルヲ常トス二溪ノ上流即チ河口ヨリ約十里内外ニシテ蕃界ニ屬ス此處ニ至レハ山漸ク急峻ニ溪幅從テ蹙マリ愈入り愈深キニ從ヒ群蠻重嶽並峙シテ雲ニ登エ其ノ尤高キハ一萬尺以上ニ達スルモノアリ其ノ著名ナルハ雪山(一一、八〇〇尺)大

尖山(七、二三五)ローブゴ一山(四、二〇〇)東卯山(五、五七一)白毛山(六、二〇〇)八仙山(七、九九四)白姑大山(九、四八〇)等ニシテ是等ノ諸山ヨリ發スル支峰分脈ハ連互錯雜シテ殆ト平地ヲ見ス蕃族ハ此ノ間ノ險要ニ據守シテ一定ノ領域ヲ劃シ山腹又ハ巒間ニ集團部落ヲ成セリ(以下省略)

二、北勢蕃

北勢蕃ハ蕃語ルリオン、バイノフ、ト稱ス即チ河邊ノ義ニシテ古來大安溪上游ニ占居スルニ由リテ自ラ命ツケタルナリ其ノ疆域タル北ハ新竹廳汝水蕃及大湖蕃ニ接シ東方一帶ハ中央山脈ヲ負ヒ西ハ大安溪ニ至ル一部族ヲ八社ニ分チ、ローブゴ一山、雪山坑、マビルハ溪チンムイ大山等ノ諸方面ニ散點ス八社ノ内尤大ナルハ即チ、ブヨン、ローブゴ一、ノ二社ニシテ他ハ皆其ノ成ヲ仰ケリ(以下省略)

ローブゴ一山ノ地勢

北勢蕃ノ割據區域ハ既ニ説ク所ノ如シ而シテ八社中ノ主力ト目スヘキ、ブヨン、ローブゴ一兩社ノ蟠踞スル、ローブゴ一山一帶ノ地ハ即チ今回我カ臺中及新竹兩隊員ノ馳驅奮闘シタル所ニシテ此ノ、ローブゴ一山ヲ占領スレハ獨リ該兩社ヲ屈伏セシメ得ヘキノミナラス北勢全社ノ死命ヲ制スル所以ナリ、ローブゴ一山ハ中央山脈ヨリ分派スル雪山ノ支脈ニシテ標高四千二百尺、大安溪ノ左岸ニ峙チ溪ヲ隔テテ大克山及用心山ト相對シ南北二高地アリ圖面上宛モ眼鏡ノ形狀ヲ爲セルヲ以テ之ヲ眼鏡形高地ト命名ス其ノ最北端ハ明治三十五年軍隊ノ討伐當時命名シタル久保山ニシテ南高地ヨリ此ニ至ルマテ約一里、而シテ南北兩高地ノ中間稜線ハ稍平坦ニシテ此處ニ、ローブゴ一社ノ部落アリ高地ノ東北方即チ雪山坑上流左岸ニ、ブヨン社有リ二社ノ戶數合セテ百三十五、人口約七百ヲ有ス、スル一社其ノ他ノ各社ハ大安溪上流ニ散在シ皆二社ノ附屬タリ今我カ前進隊ノ行動地ノ形勢ヲ記サムニ先ツ集地タル牛欄坑口下、鐵水坑口ヨリ大安溪左岸ヲ遡レハ埋伏坪ノ險有リ埋伏坪トハ漢人

ノ命スル所ニシテ溪ノ兩岸相逼マリ自然ニ關門ヲ成セルニ取ルナリ此ノ附近ノ地形ハ尤險絶ニシテ大安ノ激流遠ク中央山脈ヨリ來リ右岸、用心、大克等ノ諸山ニ撞觸シ數百丈ノ斷崖絶壁ヲ爲シ其ノ左岸ハ、ロープゴ一山脚ヲ洗ヒ更ニ觀音山ノ崎脚ヲ衝クヤ溪水崖壁ニ觸レテ急湍ヲ激成ス往昔劉銘傳ノ大軍此ニ擊破サレ我カ軍隊又此ニ大損害ヲ受ク彼レ北勢蕃カ頼テ以テ鎖鑰ト爲スモノ洵ニ由ナキニアラス之ヲ過キテ大安溪積ヲ迦ルコト半里許ニシテ烏石坑ノ合流點ニ至ル是ノ溪ハ觀音、ロープゴ一兩山ノ間ヲ流レ其ノ上流沿岸ニハ處々ニ北勢蕃ノ開墾地アリ是レヨリ始テ彼等ノ巢窟ニ入ルナリ烏石坑ヲ迦レハ右岸ロープゴ一、ノ高地ヨリ岐ルル數稜線有リ其ノ左端稜線ノ突角ハ今回命名サレタル三角山ニシテ遙ニ北方小圓山ト相對ス三角山ヨリ神谷山ニ至リ茅原ヲ登レハ即チ南高地ナリ我カ臺中隊ハ實ニ此ノ路ヲ取レリ新竹隊ノ前進路ハ大安溪ノ右岸司令積ヨリ溪ヲ濟リテ小圓山ヲ衝キ久保山ヲ奪取スルモノニシテ乃チ兩前進隊ハ、ロープゴ一山ノ南北兩方面ヨリ敵ヲ挾撃スルノ策ヲ取リシナリ

新竹廳長ノ、ロープゴ一山方面隘勇線前進ノ稟申書ヲ提出シタルハ四十四年十二月二十九日ニシテ總督ノ之ヲ認可シタルハ翌年一月十日ナリ其ノ稟申書ノ全文ハ左ノ如シ(枝臺南廳長ノ稟申書ハ大同小異ナルヲ以テ之ヲ省略ス)

ロープゴ一山隘勇線前進ノ件稟申

北勢蕃ニ對シテハ本年四月ヨリ六月ニ亘リテ隘勇線ヲ前進シ之ヲ大安溪左岸ニ壓迫シ用心山、松永山、千倆山、二本松ノ各要處ニ砲臺ヲ設ケ猛烈ニ砲撃ヲ續行スルモ未タ歸順ノ意ヲ表セス益兇惡ノ態度ニ出テ屢隘勇線ニ薄リ時々線内ニ潛入シテ兇害ヲ逞ウスル等其ノ亡狀寬假スヘカラサルモノアリ由テ此ノ際用心山直下ヨリ大安溪ヲ橫斷シ雪山坑左岸ノ稜線ヲ登リ、ロープゴ一山ヲ包容シ烏石溪ノ右岸ニ下リ臺中廳下ヨリ進出スル隘勇線ト接續スル新線ヲ設ケ該山ノ要處ヨリ砲撃ヲ加ヘ全社ヲ

膺懲致度候條御認可相成度此段及稟申候也

追テ別紙編成表中左記人員ハ當廳管内ニ於テ繰合セ付カサルニ由リ御差遣相成度申添候

警部	部長タルヘキ者	二名
同	砲隊長タルヘキ者	二名
警部補	分隊長タルヘキ者	七名
同	砲隊ノ監視者タルヘキ者	一名
巡查	砲手タルヘキ者	八十名
同		二百七十名
以上		

前進計畫書

一、前進ノ理由

北勢蕃中スルー、マナバン、ノ兩社ハ雪山溪ノ上流ニ避難シ、ロープゴ一、ブヨン、ノ兩社ハ、ロープゴ一山ノ後方ニ移リ烏石溪ノ上流ニ開墾地ヲ設ケ居ルヲ以テ現在ノ砲臺ヨリハ距離遠クシテ砲ノ威力及ヒ難キモノアルニ由リ用心山直下ヨリ大安溪ヲ橫斷シ雪山溪左岸ノ稜線ヲ登リ、ロープゴ一山ヲ包容シ烏石溪右岸ニ出ル隘勇線ヲ前進シ各社ノ壓迫上砲陣地トシテ適當ナル地點ヲ占領スルノ必要アリ

二、隘勇線ノ延長、監督所以下ノ定數配置ヲ要スル見込人員

隘勇線ノ延長

區別	前進線	定線	撤收線	延長チ増スモノ
ロープゴ-山線	四、〇〇〇	一、二五二		二、一〇三八

監督所以下ノ數

區別	前進線	撤收線	監督所以下チ増スヘキモノ
區別	五二	四一	二一
分遣所	五二	四一	二一
監督所			
計	七五	五五	五五

配置人員ノ見込數

官職別	前進線	撤收線	警部以下ノ人員チ増スヘキモノ
官職別	八一	八一	四一
警部			
警補			
計	八一	八一	四一

備考

- 一、隘勇監督所ノ内一箇所ハ警部一、巡查一〇、巡查補一、隘勇二〇トシ一箇所ハ警部補一、巡查一〇、巡查補一、隘勇二〇、分遣所各巡查二、隘勇六、隘勇ニハ隘勇二宛ヲ配置スルモノトス
- 三、前進ノ難易
- 前進豫定線ハ、ロープゴ-山ノ頂上ヲ包容シ北勢蕃中尤勢力アル、ブヨン、ロープゴ-兩社ノ避

難地ニシテ北勢蕃各社ノ死命ヲ制スル要衝ノ地ナルニ由リ各社擧テ極力反抗スヘキハ從來ノ事述ニ徴シ明白ナル所ナレハ今回ノ前進行動ハ特ニ困難ナリト認ムルヲ以テ第二次ニ於テ前進起點ヨリ小圓山マテヲ包容シ、ロープゴ-社ノ開墾地ヲ經、大安溪ニ下ル線ヲ占領シ各蕃社ニ對シ猛烈ナル威嚇砲撃ヲ加ヘ繼テ小圓山及鳥石坑ノ兩方面ヨリ前進スレハ豫定ノ全線ヲ占領スルコト難カラサルヘク思料ス

四、蕃人トノ關係

反抗スヘシト認メラル蕃社及其ノ戸口

蕃社名	戸數	男	女	計	壯丁數	銃器數
スロ	三〇	四二	四四	八六	三三	未詳
アロ	六	一五	一五	三〇	一七	同
マバ	三	八	八	一六	一七	同
マナ	三	八	八	一六	一七	同
マビ	三	八	八	一六	一七	同
テナ	三	八	八	一六	一七	同
チク	三	八	八	一六	一七	同
コナ	三	八	八	一六	一七	同
計	三三	一七三	一七三	三四六	六九	同

反抗ニ加擔スヘシト認メラル蕃社及其ノ戸口

蕃社名	タビカラス	戸數	三三三	男	三三三	女	三三三	口計	三三三	壯丁數	三三三	銃器數	三三三
サマヘトア	マツカオ		三三三		三三三		三三三		三三三		三三三		三三三
計	ン		三三三		三三三		三三三		三三三		三三三		三三三

七八八

五、包容スヘキ土地ノ面積

前進地ノ包容面積ハ約二方里ニシテ包容地域ニハ、ロープゴ社ノ開墾地多キニ由リ畑ノ見込地約五百甲ナルモ其ノ他ハ林地ナリ

六、經費豫算

九萬二千八十三圓四十錢
(明細書ハ之ヲ略ス)

部隊編成表

區別	廳長	警視	警部	警部補	巡查	巡查補	隘勇	人夫	職工	計
本部	一	一	一	三	二	二	四	五〇〇	三	六三三
第一部隊	一	一	一	三	二	二	四	五〇〇	三	六三三
第二部隊	一	一	一	三	二	二	四	五〇〇	三	六三三
第三部隊	一	一	一	三	二	二	四	五〇〇	三	六三三
計	四	四	四	十二	八	八	十六	一五〇〇	九	二〇〇〇

第四部隊	一	一	一	三	二	二	四	五〇〇	三	六三三
第五部隊	一	一	一	三	二	二	四	五〇〇	三	六三三
砲隊	一	一	一	三	二	二	四	五〇〇	三	六三三
電隊	一	一	一	三	二	二	四	五〇〇	三	六三三
救護班	一	一	一	三	二	二	四	五〇〇	三	六三三
計	四	四	四	十二	八	八	十六	一五〇〇	九	二〇〇〇

備考

一、本部ハ用心山監督所ニ置ク
 二、電話隊ニ本表ノ外工手二名工夫八名ヲ加フ
 總督府ハ兩廳ノ行動ヲ開始スルニ先タチ蕃務本署長專屬警視高塚彊ニ總指揮官ヲ命シ北蕃監視區長警視永田綱明ヲ總司令部附トシテ臺中隊ニ參加セシメ蕃務本署警視松山隆治ヲ架橋其ノ他各般ノ監督ニ同囑託山本新太郎ヲ各砲陣地ノ指揮ニ當ラシムルコトトシ砲隊長トシテ猪俣、山形、鈴木、井上ノ四囑託ヲ發遣シ總司令部ヲ大克山頭ニ置ケリ而シテ兩廳トモニ廳長躬ヲ前進隊長ト爲リ蕃務課長ニ副長ヲ命シ新竹隊ハ本部ヲ用心山ニ臺中隊ハ本部ヲ司令積ニ置キ部隊長以下ノ任命ヲ畢リ前進隊ヲ編成セリ
 (附記)兩隊ノ幹部員及各隊ノ編成人員ハ左ノ如シ

新竹前進隊

- 本部 前進隊長 家永泰吉郎
- 同 副隊長 宇野英種
- 本部 附警部 中島彦四郎

七八九

外ニ巡查八名、隘勇六名、人夫十四名、計三十二名

宮元部隊、部隊長	警部	宮元九左衛門
大岡分隊、分隊長	警部補	大岡義韶
小林分隊、分隊長	同	小林留藏
濱野分隊、分隊長	同	濱野泰次郎

外ニ巡查八十三名、隘勇百八十七名、人夫二百八十一名、計五百五十五名

田中部隊、部隊長	警部	田中松五郎
祐成分隊、分隊長	警部補	祐成善市
入江分隊、分隊長	同	入江末彦
青田分隊、分隊長	同	青田豐

外ニ巡查八十三名、隘勇百八十七名、人夫二百八十一名、計五百五十五名

水野部隊、部隊長	警部	水野義一
酒井分隊、分隊長	警部補	酒井梅吉
早川分隊、分隊長	同	早川齊山
佐藤分隊、分隊長	同	佐藤辰之進

外ニ巡查八十三名、隘勇百八十七名、人夫二百八十一名、計五百五十五名

猪俣砲隊、隊長	囑託	猪俣宗次
沼田川砲隊、隊長	警部補	沼田川久吉

外ニ巡查二十一名、人夫三十四名、計五十六名

井上砲隊、隊長	囑託	井上永次
森砲隊、隊長	警部	森與三

外ニ巡查二十一名、人夫三十四名、計五十六名

救護班、班長	囑託	富永保
--------	----	-----

外ニ巡查十七名、人夫五十五名、其他醫員工手等六十二名、計百三十四名

合計二千五十五名

臺中前進隊 本部

前進隊長 枝德二

同副長 警視 市來半次郎

本部附 警部 横山利助

同 警部 熊井才吉

同 警部 都甲鎮雄

外ニ巡查七名、隘勇五名、人夫十名、計二十七名

本郷部隊、部隊長 警部 本郷宇一郎

坂入分隊、分隊長 警部補 坂入莊四郎

竹内分隊、分隊長 同 竹内猛

森山分隊、分隊長 同 森山鐵太郎

外ニ巡查七十四名、巡查補一名、隘勇百五十名、人夫百五十名、計三百七十九名

伊藤部隊、部隊長 警部 伊藤泰作
 梶原分隊、分隊長 警部補 梶原正一
 長崎分隊、分隊長 同 長崎重次郎
 石川分隊、分隊長 同 石川周藏
 外ニ巡查七十四名、巡查補一名、隘勇百五十名、計三百七十九名
 内田部隊、部隊長 警部 内田教四郎
 内田分隊、分隊長 同 同
 屋嘉比分隊、分隊長 警部補 屋嘉比柴清人
 外ニ巡查四十一名、隘勇九十一名、人夫九十名、計二百二十四名
 永井部隊、部隊長 警部 永井國次郎
 佐藤分隊、分隊長 警部補 佐藤東吾
 石田分隊、分隊長 同 石田貞助
 神谷分隊、分隊長 同 神谷伊三郎
 外ニ巡查七十四名、巡查補一名、隘勇百五十名、計三百七十九名
 岡本部隊、部隊長 警部 岡本亮太郎
 賀來分隊、分隊長 警部補 賀來湖紫郎
 明瀬分隊、分隊長 同 明瀬英吉
 諫山分隊、分隊長 同 諫山幸太郎
 外ニ巡查七十四名、巡查補一名、隘勇百五十名、計三百七十九名
 福屋部隊、部隊長 警部 福屋陽熊

福屋分隊、分隊長 同 毛利八百八人
 毛利分隊、分隊長 警部補 毛利八百八人
 外ニ巡查五十名、隘勇五十名、人夫七十五名、計百七十七名
 竹内部隊、部隊長 警部補 竹内清太郎
 竹内分隊、分隊長 同 同
 多久分隊、分隊長 同 多久午八人
 外ニ巡查四十五名、隘勇五十名、人夫七十五名、計百七十二名
 山縣砲隊、隊長 警部 山形四郎
 外ニ巡查二十一、隘勇十名、人夫三十四名、計六十六名
 輸送部隊、隊長 警部補 山口孫一郎
 外ニ警部補二名、巡查五十名、人夫四名、計五十七名
 炊事班、班長 警部補 川上敏雄
 外ニ巡查十名、巡查補一名、隘勇十名、人夫五十名、計七十二名
 警察救護班、班長 囑託 重松英太
 外ニ警員二名、巡查十七名、看護人三名、人夫五十五名、計七十八名
 赤十字救護班、班長 囑託 家弓鄭三
 外ニ警員三名、巡查二名、看護人二名、人夫二名、計十名
 電話班、班長 警部補 富永藤平
 外ニ巡查十二名、巡查補一名、隘勇十四名、職工二名、人夫三十五名、計六十五名
 合計二千四百六十四名(内人夫千二百八十名、二十日新竹隊ヨリ轉入シタル二箇部隊及電話班モ便

是ヨリ先六日家永新竹隊長ハ總督ニ稟申スルニ訓練擔任者ヲ附シ搜索犬ヲ派遣セムコトヲ以テ是時既ニ之ヲ出發セシムルノ準備已ニ成レルニ由リ巡查二名ヲシテ之ヲ率キ該隊ニ參加セシム而シテ兩隊ノ行動開始ハ初、十七日ヲ以テ期ト爲シタルニ大雨屢至リ大安溪ノ水量大ニ増シ輸送意ノ如クナラス且新竹隊ニ屬スル隘勇百五十名逃走スルアリテ期ニ及フモ發スル能ハス

十八日 昧爽兇蕃白布縫砲臺ノ前面開墾地ニ出沒シ我カ爲ス所ヲ窺フ井上砲隊之ヲ發見シタルモ未タ砲ヲ開カス越テ二十日大安溪ノ山潦尙漲リ新竹隊ヲ進ムル能ハス則チ總督府ハ家永隊長ニ命シ其ノ配下ノ二個部隊(福屋部隊及竹中部隊)竝電話班ヲ割キ臺中隊ニ屬セシム是日總督ノ派遣シタル隱明寺副官、新竹隊ノ本部ニ抵リ松山警視、山本大尉、宇野副長等ト俱ニ、マナバン砲陣地ヲ視察シ用心山ニ向

二十二日 部隊編成ノ變更ニ因ル兩隊ノ引繼已ニ畢リ露式海軍砲(三吋五十口徑)亦大克山頭ニ搬到(人夫百五十名ヲ要セリ)シ左ノ行動ヲ開始ス

○行動開始後ノ狀況

(一) 新竹方面

二十二日 家永隊長前進命令ヲ發シテ曰ク

- 一、我カ前進隊ハ一月二十二日午後八時行動ヲ開始シ連絡分遣所附近ヨリ大安溪ヲ濟リ圓山西南ノ稜線ヲ進ミ久保山ヲ經、ロープゴ一山左方高地ヲ占領シ其ノ右方高地トノ中間ニ於テ臺中前進隊ト連絡シ隘勇線ヲ新設セムトス
- 二、田中、水野ノ兩部隊ハ敵ニ覺知セラレサル如ク駐屯地ヲ出發シ午後六時三十分マテニ連絡分遣所後方輸送路ニ集合シ午後八時大安溪架橋豫定地點ヲ渡河シ行動ヲ開始スヘシ

- 三、水野部隊ハ連絡分遣所對岸突角稜線ヨリ久保山方面ニ向テ前進スヘシ
- 四、田中部隊ハ突角ヨリ約七百米突ノ右方ニ在ル稜線久保山方面ニ向テ前進スヘシ
- 五、宮本部隊ハ午後八時マテニ連絡分遣所附近ニ集合シ其ノ二個分隊ハ水野部隊ノ後方ヨリ續行前進シ圓山ヨリ雪山坑ニ走ル稜線ノ側面防禦ニ任スヘシ同時ニ其ノ一箇分隊ハ田中部隊ノ後方ヨリ續行前進シ田中部隊ノ前進起點ヨリ圓山、ニ又點間ノ防禦ニ任スヘシ
- 六、水野部隊ハ先頭ト爲リ久保山ヲ占領シ田中部隊ハ宮本部隊ト相策應シテ水野部隊ノ前進ヲ援護シ兼テ久保山高地附近ノ防禦ヲ確實ニスヘシ
- 七、水野部隊ハ久保山ヨリ更ニ進出シテ、ロープゴ一山北方高地ヲ占領シ臺中隊ト連絡スヘシ
- 八、田中、水野兩部隊ハ各十二擲白砲一門砲彈三十發ヲ携行スヘシ
- 九、各砲隊ハ一月二十二日午後八時マテニ砲擊準備ヲ了ルヘシ
- 十、猪俣砲隊ハ水野部隊カ久保山ヲ確實ニ占領シタル時ハ砲隊ノ一部ヲ以テ山砲二門追擊砲一門ヲ同山ニ進メ、ロープゴ一山最高地ノ占領ヲ容易ナラシムヘク援護砲擊ヲ爲スヘシ
- 十一、架橋隊ハ松山警視ノ指揮ヲ受ケ前進隊ノ行動ヲ容易ナラシムル爲一月二十二日午後八時マテニ連絡分遣所附近ニ二箇所ノ架橋ヲ爲スヘシ
- 十二、電話隊ハ二班ニ分チ其ノ第一班ハ水野部隊ニ第二班ハ田中部隊ニ跟隨シ第一班ハ電話機五臺被覆線五千米突ヲ携行シ通信ヲ便ナラシムヘシ
- 十三、搜索犬隊ハ水野部隊ニ隸屬シ専ラ前進地ノ敵情偵察ニ努ムヘシ
- (十四、十五、十六ハ之ヲ省略ス)
- 十七、赤十字救護班ハ連絡分遣所ニ本班ヲ設置シ患者ノ救護ニ從事スヘシ

ト各隊夜ニ乘シ肅々トシテ前進シ水野部隊ハ翌午前二時圓山ヲ取り更ニ久保山ヲ略セムト欲シ平明雪

山坑ニ走ル稜線ノ三又點ニ至ルヤ兎蕃三十許、出テテ先鋒ノ早川分隊ヲ扞ク撃テ之ヲ卻ケ再ヒ進ムコト五百米突、小圓山ト久保山トノ最低鞍部ニ抵ル兎蕃山腹ノ壘ニ嬰リテ瞰射シ彈雨亂下ス對戰ノ間巡查二名、隘勇四名之ニ死シ巡查二名傷ヲ被ル我カ隊力圓壘ヲ抜カムトス既ニシテ兎蕃衆ヲ加ヘ別ニ一隊ヲ縱チ雪山坑ニ通スル溪谷ニ迂回シ我カ側背ニ出テムスルノ狀有リ即チ銃ヲ攢メテ之ヲ箝制シ急ニ掩堡ヲ築キテ相對持ス是時田中部隊ハ大安溪上流ノ稜線ニ邀撃サレ巡查一名、隘勇二名之ニ死シ隘勇一名傷ヲ負ヒタルモ血戰シテ之ヲ破リ水野部隊ニ連絡ス宮本部隊ノ二箇分隊ハ水野部隊ニ一箇部隊ハ田中部隊ニ繼テ前ミ兩隊ノ左翼(圓山ヨリ雪山坑ニ走ル稜線ノ側面)ニ在テ敵ニ備フ午後二時ノ比、兎蕃百五十許、突チ背後ヨリ來襲フ奮勇反撃、其ノ數名ヲ斃シタルモ我レ亦巡查二名、隘勇四名、人夫一名之ニ死シ巡查二名創ヲ被ル輒チ陣ヲ張テ對抗、夜ニ入ル此ノ交戰中、圓山(追撃砲)用心山(輕野砲)兩砲臺ヨリ連リニ其ノ據守スル所ノ地ヲ轟撃シタルモ樹木叢雜之ヲ驅ルコト能ハス

二十五日 午後二時兎蕃銳ヲ萃メ圓山砲臺ト田中部隊トノ中間ニ散點スル掩堡ヲ攻ム砲銃迭發シテ之ヲ破ル既ニシテ最先頭ノ各掩堡又敵襲ヲ受ク早川分隊長呼號戰ヲ督ス倏チ一彈アリ其ノ胸ヲ洞キ又隘勇一名踵テ殞ル我カ隊慶戰之ヲ走ラス

二十六日 兎蕃隊ヲ分チ水野、田中ノ兩部隊ヲ襲フ之ヲ撃テハ即チ卻キ少焉ニシテ又至リ來去殆ト測ルヘカラス午後一時ノ頃、用心山砲臺員會、兎蕃十數名水野部隊ノ右翼茅叢裡ニ出沒スルヲ認メ三時速射砲及克式輕野砲ヲ發シ五、六名ヲ擊斃ス午後三時兎蕃又該部隊ノ左側溪谷ニ集合スルヲ望ミ、マナパン砲臺ヨリ山砲二門ヲ連發ス即チ倉皇深宵ノ中ニ竄ル午後四時田中部隊員清地ノ事ニ從フ兎蕃數十名來襲フ猛撃シテ之ヲ攘フ此ノ接戰中分隊長入江末彦左手ニ銃創ヲ受ク斯クノ如ク兎蕃ノ來去スルハ多ク路ヲ圓山砲臺附近ヨリ東方雪山坑ニ連ル稜線ノ樹林中ニ取ルノ狀アリ家永隊長則チ田中部隊長ニ命シ二十七日昧爽敵ノ未タ備ヘサルニ乘シ進ミテ之ヲ略シ防禦工事ヲ施シ宮本部隊長ニ命スルニ雪山

坑方面鞍部ノ守備ヲ修メムコトヲ以テシ宇野副長ト俱ニ占領地ヲ巡察シ且勵マシ且犒フ是日佐久間總督酒ヲ兩隊長ニ送リテ之ヲ分タシム

二十八日 午後二時三十分、用心山ノ砲臺ヲ守ル者、南方高地ニ銃聲大ニ起ルヲ聞キ臺中隊ノ敵ト衝突シタルヲ知リ三時速射砲ヲ發シテ之ヲ援護ス是ヨリ先家永隊長ハ用心山ニ各部隊長並分隊長ヲ會シ久保山ノ前面ニ敵ノ壘ヲ築ケルモノ凡十六處アルヲ知リ是日早曉各砲臺ヲシテ之ヲ轟撃セシメタル後、隊ヲ進メ速ニ該隊ニ連絡セムト欲シ既ニ令ヲ下シタルモ濃霧山ヲ籠メ翌日ニ至ルモ霧レズ爲二期スル所ヲ果ス能ハス以爲ラク明日モ亦此クノ如クナラム若カス此ノ四顧黯黒ナルニ乘シ進ミテ要害ヲ取ラムニハト則チ水野部隊長ニ命シ三十日午前七時行動ヲ開始シ久保山ノ中腹ヲ略セシム午後四時該隊ノ突進スルヤ五處ノ壘ニ據レル兎蕃戰ハスシテ潰走ス是ニ於テ田中部隊ノ一個分隊ヲ派シ其ノ占領地ニ配置シ力ヲ併セテ防備ヲ嚴ニセシメ更ニ久保山中腹ノ西北方高地ヲ攻略セムト欲シ田中、水野、宮本ノ三部隊ニ前進ヲ命シ圓山及用心山ノ兩砲臺ヲシテ砲火ヲ前面ノ林叢ニ注カシム時ニ煙霧大ニ起ルニ會ヒテ之ヲ中止ス宮本部隊長以爲ラク轟撃未タ足ラサルモ猶豫スヘカラスト即チ大岡分隊ヲシテ前ミテ獨立樹附近ノ要害ヲ取り壘ヲ築カシム是時水野部隊長ハ濱野分隊長ニ命シ大岡分隊ノ前面ニ在ル高處左側ノ突角ニ挺進セシム其ノ將ニ達セムトスルニ方リ伏、三面ニ起リ吶喊肉薄シテ丸注キ石飛ブ而モ敵ノ一隊ハ林間ヲ繞リ我カ背後ヲ絶タムトス濱野分隊長、左右翼ヲ激勵シ對戰尤力ム忽チニシテ兩彈飛來シ一ハ右腕ニ中リ一ハ下腹ニ中ル巡查長谷川順平、加藤藤太郎其ノ側ニ在リ之ヲ扶ケムトシ共ニ銃創ヲ受ケ人夫一名即死シ二名傷ヲ被ル兎蕃勢ニ乘シ跳躍來逼ル隘勇杜阿塗之ニ馳セ分隊長ヲ負ヒテ退カムトス追者太タ急ナリ隊員反撃之ヲ卻ケ走リテ大岡分隊ニ投ス報、本部ニ至ル家永隊長則チ此ノ地ニ命ケテ濱野山ト曰ヒ以テ其ノ功ヲ彰ハシ警部補長谷川虎之助ヲシテ其ノ後ヲ襲カシム

二月一日 宇野副長ハ各隊ヲ部署シ青田分隊ヲ先頭トシ長谷川分隊ヲシテ之ニ次カシメ佐藤、坂入兩

分隊ヲ豫備隊ト爲シ其ノ後ニ從ハシメ午前七時三十分行動ヲ起サシム青田分隊ハ午前九時圓山ノ要地ヲ占領シ長谷川分隊繼テ進ミ迭ニ相呼應シテ峻坂ノ下ニ至リ先ツ搜索犬ヲ前路ニ縱ツ犬、索進スルコト數十歩連吠シテ前マス既ニシテ一犬敵彈ニ斃ル先頭ニ在ル宇野副長敵ノ壘ニ據レル有ルヲ察知シ警ヲ後方ニ傳ヘシム倏忽ノ間、飛丸高處ヨリ注キ青田分隊長傷ヲ頭部ニ負ヒ長谷川分隊長又重傷ヲ被ル巡查員原善次郎、青田分隊長ヲ扶ケムトシテ其ノ右手ヲ射ラレ隘勇三名相踵テ死傷ス宇野副長、佐藤、坂入兩分隊及臼砲隊ヲシテ來援ケシム兎蕃ノ別隊之ヲ路ニ要シ彈丸雨飛ス砲手土田吉藏及隘勇三名傷ヲ負ヒタルモ擊テ之ヲ破リ前ミテ青田、長谷川ノ兩分隊ニ聲援シ力ヲ併セテ奮擊ス兎蕃較阻ム則チ隊員ヲ占領地一帶ニ配置シ守リテ固クセシム是時ニ當リ蕃衆漸ク多ク隙ニ乘シ攻勢ニ出テムトス而モ其ノ據レル所ノ掩堡ハ石ヲ用テ蓋ト爲シ尤堅牢ヲ極ム宇野副長輒チ各部隊長ニ命シ壘ニ盛ルニ土ヲ以テシ積テ壘壁ト爲シ漸ク進ミテ敵ニ近クコト僅カニ七、八間又命ヲ最先頭ニ在ル田中部隊ニ下シ坑道ノ掘鑿ニ著手セシメ敵ノ石造掩堡ノ左翼ニ爆發作業ヲ行ハシメントス

二日 午後一時兎蕃高キニ據リ酒井分隊ヲ瞰射ス我カ隊猛擊之ヲ破リタルモ清田、平塚ノ兩巡查ハ爲ニ重創ヲ被レリ午後二時兎蕃、濱野山東方左翼ノ灌莽裡ヨリ田中部隊ノ坑道作業員ニ近ツキ射テ隘勇吳島毛ヲ傷ツケ呼噪シテ肉薄ス擊テ之ヲ走ラス宇野副長自ラ防禦工事及敵襲ノ際ニ於ケル反擊ノ法ヲ指授シ吳島毛ヲ慰藉シ且ツ一般ノ士氣ヲ振作ス

三日 兎蕃屢長谷川、酒井ノ兩分隊及田中、宮本兩部隊ノ本部附近ニ出沒シ狙擊シテ輟マヌ時ニ聞シテ來逼ル毎ニ擊テ之ヲ卻ク田中部隊ノ隘勇李頭鬼、羅成興、長谷川分隊ノ隘勇許詳貴之ニ死シ曾土和ハ重傷ヲ被ル而シテ我カ隊ハ斷ニス先頭ニ配置セル十二掛臼砲ヲ發シテ敵壘ヲ轟擊シ用心山、圓山ノ兩砲臺亦連リニ之ヲ擊テトモ兎蕃嬰守シテ屈セス是日午後三時宇野副長本部ヨリ最先頭ニ來リ隊員ヲ指揮シ徹霄ス蓋シ副長ハ家永隊長ト議リ火攻ヲ用テ敵ヲ窘メムト欲シ石油及輕便唧筒ヲ齎ラシタルナリ

四日 午前四時宇野副長ハ田中部隊最先頭ノ掩堡ニ至リ隊員ヲシテ輕便唧筒十臺ヲ各處ニ安排シ石油ヲ敵壘前面ノ樹草ニ撒布シ火ヲ放タシム時恰モ西風強ク火勢猛烈ナルニ乘シ巡查安廣小吉石油罐ヲ提ケ敵壘ニ接近シ火ヲ點ス飛彈身邊ヲ掠ムルコト數回ナルモ自若トシテ反ル衆其ノ膽勇ヲ賞ス既ニシテ烈敵方ニ熾ナリ輒チ二門ノ臼砲ヲ連發セシメ機ノ已ニ熟スルヲ察シ宇野副長ハ酒井分隊長及巡查十名ヲ率キテ進ミ又田中、宮本ノ兩部隊ヲ激勵シテ其ノ手下ヲ八十歩ノ間ニ配置シ半月形ノ陣ヲ布キ敵壘ヲ猛擊セシム兎蕃死守飛丸亂至リ田中部隊長重創ヲ受ク宇野副長即チ水野部隊長ヲシテ之ニ代ハラシム且ツ自ラ先鋒ヲ指揮ヲ取り土囊ヲ壘ニ代ヘ相對持ス少焉ニシテ兎蕃ノ一部ハ壘ヲ出テ我カ右翼ヲ衝カムトスルノ狀アリ副長之ヲ逆襲セムト欲シ濱野山ニ至リテ殘留部隊ヲ指揮シ其ノ進路ヲ扼シ且之ヲ砲擊(濱野山砲臺及先頭ノ臼砲隊)セシム會、敵彈我カ臼砲ノ火藥匣ニ中リテ多量ノ砲彈火藥轟然爆發ス副長其ノ右側ニ在リ爲ニ頭部面部及兩手其他火傷ヲ負フ時ニ正午十二時三十分ナリ重傷ニテ一時人事不省トナリシモ巡查門駒吉馳至リ之ヲ扶ケテ救護班ニ送ル是時ニ當リ各方面戰正ニ酣ニシテ巡查安廣小吉、野家九十郎、鐵野直太郎、綿引卯太郎、加藤泰助及隘勇徐阿運、張阿石等傷ヲ被リタルモ遂ニ克ク兎蕃ヲ驅逐シ午後一時敵ノ死守シタル險壘久保山西北方高地ヲ確實ニ占領ス兎蕃屢左右兩側ヨリ接近シ狙射輟マス小林分隊長其ノ衆ヲ督シ對戰中又重傷ヲ負ヒシモ隊員奮闘之ヲ走ラス宇野副長負傷ノ報、府ニ至ルヤ内田民政長官ハ理蕃課勤務警部江口良三郎ヲ發遣シ其ノ後任タラシム是夜宮本、水野兩部隊長ハ配下ヲ督勵シテ壘ヲ新占領地ニ築キ各壘ノ間ニハ坑道ヲ開鑿シ天未タ明ケサルニ其ノ工ヲ畢ル

五日 警部補氏平廣雄、小林分隊長ノ後ヲ承ケ配下ト俱ニ伐採ニ從事中兎蕃ニ襲ハレ銃創ヲ受ケ隘勇塗金生即死ス是日我カ左右翼頻々狙擊サレ澤井分隊ノ隘勇二名小野部隊及氏平分隊ノ隘勇各一名長谷川分隊ノ人夫一名傷ヲ負フ

六日 兎蕃出沒、狙擊殆ト歇時ナシ大克山及用心山ノ砲臺並先頭臼砲隊、斷ニス之ヲ擊テトモ功ヲ奏ス

ルコト多カラス蓋シ是地一帶喬林鬱茂シテ彈道ヲ遮蔽シ巖巖處々ニ横ハリ兇蕃據テ以テ壁スルニ由ル
我カ隊之ヲ命ケテ巖石掩堡ト謂フ是日副長江口警部及田中部隊長ノ後任警部和田庄三郎、青田分隊長
ノ後任警部補菅野市之助、氏平分隊長ノ後任警部補山岡銀次郎相踵テ本部ニ至ル
(附記)二月七日家永隊長ノ幹部補充員任命ノ報告書ハ左ノ如シ

和田部	和田	警部
分隊長	祐成	警部補
同	岡崎	警部補
同	菅野	警部補
同	菅野	警部補
同	水野	警部補
分隊長	酒井	警部補
同	佐藤	警部補
同	山岡	警部補
同	宮元	警部補
分隊長	大岡	警部補
同	長谷川	警部補
同	澤井	警部補
宮本部		
分隊長	宮元	警部補
同	山岡	警部補
同	佐藤	警部補
同	酒井	警部補
同	水野	警部補
同	菅野	警部補
同	菅野	警部補
同	水野	警部補
同	酒井	警部補
同	佐藤	警部補
同	山岡	警部補
同	宮元	警部補
同	大岡	警部補
同	長谷川	警部補
同	澤井	警部補

七日 佐久間總督訓令ヲ新竹、臺中兩前進隊長ニ發シ防楯ヲ送ラシム

(附記)總督ノ訓令ハ左ノ如シ

其ノ前進隊長ニ於テ死傷續出スルヲ痛ミ防楯ヲ送附セシム此ノ防楯ハ日露戰役ノ際旅順攻撃軍ニ於
テ之ヲ最先頭ニ使用シ著シク效果ヲ收メタル實例アリ其ノ隊ニ於テモ之ヲ最先頭ニ利用シ成ルヘ

ク損害ヲ豫防スヘク努ムヘシ

右訓令ス

後藤警視ヨリ高塚警視ニ宛テタル訓令送達書及家永隊長ノ總督ニ提出シタル謝辭ハ左ノ如シ
新竹前進隊長ニ對シ別紙ノ通訓令ヲ發セラル防楯ノ利用ニ就テハ各隊長ニ對シ相當ノ注意ヲ與ヘ
其ノ效果ハ時々報告セラレタシ命ニ依ル

後藤 警視

高塚 警視 宛

當前進隊ニ於テ多數ノ損害ヲ出シタルヲ痛マセラレ特ニ防彈具使用ノ御訓電ニ接シ感佩措ク所ヲ
知ラス御懇篤ナル御思召ハ之ヲ隊員一同ニ傳ヘ一層ノ注意ヲ加ヘムコトヲ期ス

家永 前進隊長

佐久間 總督 宛

之ト同時ニ當隊長ニ命スルニ前進地ニ鐵條網ヲ架設スヘキヲ以テス蓋シ四日敵ノ堅壘ヲ攻略シタル爲
メ敵勢著シク減退シタルモ先頭ニ兵力ヲ集注シテ速ニ蕩平ノ實ヲ擧ケ兼テ警備員ヲ節約セムカ爲ナリ
其ノ新竹廳ニ屬スル延長ハ一里十八町、送電線ハ凡二里ノ豫定ナリ
八日 家永隊長ハ澤井、祐成、山岡ノ三分隊ヲ以テ一部隊ヲ混成シ和田警部ヲ隊長ト爲シ命スルニ久保
山最高地ヲ略取セムコトヲ以テス和田部隊長ハ澤井分隊ヲ右翼、祐成分隊ヲ左翼トシ山岡分隊ヲシテ
之ニ繼カシメ午前四時行動ヲ開始シ路ニ一掩堡ヲ拔キ午前七時進ミテ最高地ノ前面百米突ノ處ニ至ル
ヤ優勢ナル兇蕃ノ邀撃ニ値ヒ接戰中巡查二名之ニ死シ巡查隘勇人夫各一名傷ヲ被リ一彈澤井分隊長ノ
腹ニ中リタルモ防楯ヲ著ケタルニ因リ負傷ヲ免ルルヲ得、叱咤戰ヲ督ス又一彈有リ其ノ右手ニ中リ拇
指ト中指トヲ斷タレテ地ニ墮ツ之ヲ頃クシテ兇蕃ノ一群ハ繞リテ該分隊ノ右翼ニ出テ一群ハ長谷川分

隊及宮本部隊本部ノ前面ニ薄リテ呼喚ス各隊呼應シテ奮躍之ヲ撃テ用心、圓山ノ兩砲臺亦砲ヲ其ノ背後ニ轟カシテ之ヲ驅リ所謂巖石掩堡十數處及望樓ヲ奪取セリ而モ兇蕃ハ尙最高地ニ據リ四出狙撃シ隊員ノ傷ツケラルル者相踵ク（九日猪俣砲隊巡查森田藤二澤井分隊隘勇一名、大岡分隊隘勇一名、十日和田部隊人夫一名、水野部隊人夫一名）家永隊長則チ江口副長ト議リ夜ニ乘シテ久保山最高地ヲ取ルノ方略ヲ定メ和田、宮本兩部隊長ニ行動命令ヲ下シ副長ヲシテ往テ戰ヲ督セシム

十一日 午後十一時四十分和田部隊ハ岡崎分隊ヲ先鋒、菅野分隊ヲ後勁トシテ左側面ヨリシ宮本部隊ハ大岡分隊ヲ先鋒、山岡分隊ヲ後勁トシテ右側面ヨリシ肅々トシテ前進シ翌零時五十分兩隊ノ先鋒ハ最高地ヲ距ル五十歩ノ處ニ抵リ前面ヲ偵察シタルニ南方斜面ノ林中ニ兇蕃ノ潛匿セル狀アリ即チ急ニ挺前シテ隊員ヲ要處ニ配置シ其ノ未タ畢ラサルニ六十許ノ兇蕃左右ニ展開シ且射リテ十歩ノ前ニ肉薄ス我レ亦闕シテ進ミ菅野、山岡兩分隊長ハ同時ニ突貫ノ命ヲ下シ逕チニ其ノ中堅ヲ衝テ之ヲ潰ス最高地始メテ我カ有ニ歸ス而モ兇蕃ハ屢三面ヨリ逆襲シタルモ毎ニ撃テ之ヲ破リ東方未タ白カラサルニ防禦工事、大半工ヲ畢レリ

十三日 臺中隊前ミテ北方眼鏡形高地ヲ攻陥ス是日家永隊長兇蕃ノ久保山最高地ニ施セル防禦工事ノ狀況ヲ報告ス其ノ要ニ曰ク「大岡分隊ノ巡查本田哲太郎久保山南面ノ下方三十米突ノ傾斜地ニ有蓋掩堡アルヲ發見シタルヲ以テ宮本部隊長ハ大岡分隊長ト俱ニ往テ之ヲ檢スルニ掩堡ノ總延長ハ一町半ニ亘リ同山南側ヨリ蜿蜒左方ニ連リ各掩堡ノ間ニハ深サ人長ニ等シキ坑道ヲ掘鑿シアリ掩堡ノ總數十有三、内ニハ無蓋ナレトモ他ハ悉ク有蓋ナリ就中岡崎分隊ノ位置ニ接近セル無蓋掩堡ハ坑道ノ先端ヲ丁字形ニ築造セリ各有蓋掩堡ハ長一間幅四、五尺ニシテ四、五人ヲ容ルルニ足ル其ノ構造ハ徑五寸許ノ丸太ヲ骨子トシ其ノ上ニ茅ヲ葺キ土ヲ蓋フコト甚厚キニ由リ砲彈落下スルモ直ニ之ヲ破壞スル能ハサルハク思料ス掩堡及坑道ノ中ニ血液ノ地ニ滴レルモノ六箇處アリテ其ノ血液ヲ蹤スレハ皆雪山坑方面ノ

溪底ニ下レリ以テ死傷者ハ盡ク之ヲ同方面ニ運ヒ去レルヲ知ル而シテ其ノ血液ノ多量ナルヨリ推セハ兇蕃死傷ノ勢カラサルヲ知ルヘシト

十四日 宮本部隊長ハ大岡分隊長ヲシテ巡查十四名、隘勇二十六名ヲ率キ久保山最高地南方百五十米突ノ稜線ヲ取ラシメ宮本部隊長ハ山岡分隊長ヲシテ巡查二十名、隘勇三十名ヲシテ第二高地（第一高地ヨリ約百五十米突）ヲ取ラシム其ノ下方五十米突ノ處ニ兇蕃築ク所ノ有蓋掩堡一、無蓋掩堡三アルヲ發見シ中ヲ檢スルニ食物及器具ヲ委棄セルモノ甚多シ

十五日 家永廳長ノ稟申ニ係ル隘勇線行動期間ヲ十六日ヨリ二十二日マテ延期スルヲ認可ス

十六日 宮本部隊ノ山岡分隊ハ久保山第二高地ヨリ雪山坑ニ向ヒ分岐スル稜線ノ突角ヲ占領ス兇蕃屏跡シテ出テス是地亦八處ニ堅牢ナル掩堡ヲ築ケリ（突角ニ築ケル有蓋掩堡ニハ共ニ長一間幅一間、他ノ無蓋掩堡ハ長八間幅一間高三尺）時ニ午前九時三十分是日家永隊長、江口副長ト俱ニ比ニ來リ雪山坑ヲ俯瞰シ之ヲ砲撃スヘキヲ命シ且臺中隊トノ連絡ニ關シ指授スル所アリタリ

十七日 午前二時和田部隊ハ第二高地ヲ發シ進ムコト凡八百米突、午前十時二十分ロープゴ一山北方突角ノ地ヲ取リ翌午前五時三十分北方眼鏡形高地ニ於テ臺中隊ノ岡本部隊ト連絡セリ時ニ曉霧未タ霽レス四顧黯澹タリ兇蕃之ニ乘シ路ヲ分テ東北兩面ヨリ來リ隊員ノ掩堡外ニ在ルヲ窺ヒ之ヲ狙射ス大岡分隊ノ巡查山本政楠及隘勇陳呂丁重傷ヲ被リ人夫三名即死ス我カ隊毎ニ之ヲ追躡スレトモ踪ヲ深宵ニ没シ獲ルコト能ハス是日總督兩隊長ニ犒電ヲ發シテ曰ク「新竹、臺中兩前進隊ハ克ク艱難ニ耐ヘ頑強ナル敵蕃ヲ擊攘シ遂ニ兩隊連絡ノ目的ヲ達シタリトノ報ニ接シ満足ニ禁ヘス茲ニ其ノ成功ヲ祝シ且隊員ノ勞苦ヲ多トス」ト

十九日 兇蕃三十許、宮本部隊ヲ襲フ撃テ之ヲ走ラス巡查猿渡利貞尾撃シテ胸ニ銃創ヲ受ク
二十日以來兇蕃宮本部隊ノ前面ニ接近シ出沒狙撃ス即チ迫撃砲及臼砲ヲ放テ之ヲ轟撃スレトモ退カス

蓋シ巨巖ノ歴ヲ成セル處ニ伏匿セルナリ宮本部隊長之ヲ知リ翌日午後一時ノ比、巡查前田西吉ニ命シ
 小剛筒ヲ携エテ挺身前往シ石油ヲ巖側ノ榛蕪ニ濯キ火ヲ放タシム兎蕃倉皇トシテ竄ル
 二十二日 新竹隊長ノ稟申ニ係ル前進行動期日ヲ八日間延期スルコトヲ認可ス(三月二日マテ)
 二十三日 佐久間總督兩前進隊ノ傷病者ヲ臺北醫院ニ慰問シ菓子料ヲ與ヘ越テ二十五日宮本參謀長及
 副官、秘書官等ヲ隨ヘテ臺北ヲ發シ大克山眼鏡形高地、久保山其他前進地域中ノ要衝ヲ巡按シ家永隊
 長、江口副長ヨリ戰況蕃情ヲ聽取シ隊員ヲ犒勞ス是日午後七時新竹、臺中兩隊ノ鐵條網相連絡ス是ヨリ
 兎蕃漸ク我カ警戒線ヲ窺ハス唯時々線外ヨリ狙射スルノミ而シテ各隊ハ日夜防禦施設及清野築壘等ノ
 作業ニ從事シ一監督所十二分遣所二砲臺ノ工亦略成リシヲ以テ三月二日大湖支廳ニ解隊式ヲ舉ク
 (附記)隘勇監督所ハ之ヲ久保山ニ置キ分遣所ハ之ヲ、ローブゴ一山、祐成、岡崎、菅野、突稜、鞍部、濱
 野山、雷坂、水野、三叉、雪山坑、大安溪ニ置ク砲臺ハ即チ、ローブゴ一山及久保山ノ二箇處ナリ

(二) 臺中方面

臺中前進隊モ亦新竹方面ニ同シク一月十五日部隊長以下ヲ任命シテ其ノ編成ヲ了リ本部ヲ東勢角支廳
 管内牛欄坑第一分遣所ニ置キ各部隊ハ之ヲ鐵水坑口ニ集合セシメ技前進隊長及市來副長ハ部隊長及各
 分隊長ニ對シ訓諭スル所アリタル後、行動命令ヲ發ス其ノ大意ニ曰フ「我カ臺中隊ハ北勢蕃ヲ討伐スル
 目的ヲ以テ新竹隊ト連合シ隘勇線ヲ前進セムトス其ノ任務ハ觀音山ヲ占領シ此ニ砲陣地ヲ作ルニ在
 リト

(附記)臺中隊幹部員ノ官職氏名ハ左ノ如シ

- | | | | | | |
|----|------|----|----|---|----|
| 本部 | 前進隊長 | 應長 | 技 | 德 | 二 |
| 同 | 副長 | 警視 | 市來 | 半 | 次郎 |

- | | | | | |
|------------------------|---|----|----|----|
| 本部 | 同 | 警部 | 橫山 | 利助 |
| 同 | 同 | 同 | 熊井 | 才吉 |
| 外ニ巡查七名、隘勇五名、人夫十名、計二十七名 | 同 | 同 | 都甲 | 鎮雄 |

- | | | |
|--------------------------------------|-----|-----|
| 本部 | 本郷 | 宇一郎 |
| 坂入分隊、分隊長 | 警部補 | 坂入 |
| 竹内分隊、同 | 同 | 竹内 |
| 森山分隊、同 | 同 | 森山 |
| 外ニ巡查七十四名、巡查補一名、隘勇百五十名、人夫百五十名、計三百七十九名 | 同 | 森山 |
| 伊藤部隊、部隊長 | 警部 | 伊藤 |
| 梶原分隊、分隊長 | 警部補 | 梶原 |
| 長崎分隊、同 | 同 | 長崎 |
| 石川分隊、同 | 同 | 石川 |

- | | | | |
|--------------------------------------|-----|-----|-----|
| 外ニ巡查七十四名、巡查補一名、隘勇百五十名、人夫百五十名、計三百七十九名 | 同 | 石川 | 周藏 |
| 内田部隊、部隊長 | 警部 | 内田 | 教四郎 |
| 内田分隊、分隊長 | 同 | 同 | 同 |
| 屋嘉比分隊、同 | 警部補 | 屋嘉比 | 柴清 |
| 外ニ巡查四十一名、隘勇九十一名、人夫九十名、計二百二十四名 | 同 | 屋嘉比 | 柴清 |

- | | | | | |
|-------------------------------|----------|----|----|-----|
| 外ニ巡查四十一名、隘勇九十一名、人夫九十名、計二百二十四名 | 永井部隊、部隊長 | 警部 | 永井 | 國次郎 |
|-------------------------------|----------|----|----|-----|

佐藤分隊、分隊長 警部補 佐藤 東吾
 石田分隊、同 同 石田 貞助
 神谷分隊、同 同 神谷 伊三郎
 外ニ巡查七十四名、巡查補一名、隘勇百五十名、人夫百五十名、計三百七十九名
 岡本部隊、部隊長 警部 岡本 亮太郎
 賀來分隊、分隊長 警部補 加來 湖紫郎
 明瀬分隊、同 同 明瀬 英吉
 諫山分隊、同 同 諫山 幸太郎
 外ニ巡查七十四名、巡查補一名、隘勇百五十名、人夫百五十名、計三百七十九名
 福屋部隊、部隊長 警部 福屋 陽熊
 福屋分隊、分隊長 同 同 人
 毛利分隊、同 警部補 毛利 八百八
 外ニ巡查五十名、隘勇五十名、人夫七十五名、計百七十七名
 竹内部隊、部隊長 警部補 竹内 清太郎
 竹内分隊、分隊長 同 同 人
 多久分隊、同 同 多久 午八
 外ニ巡查四十五名、隘勇五十名、人夫七十五名、計百七十二名
 山縣砲隊、隊長 警部 山形 四郎
 外ニ巡查二十一名、隘勇十名、人夫三十四名、計六十六名
 輸送部隊、隊長 警部補 山口 孫一郎

外ニ警部補二名、巡查五十名、人夫四名、計五十七名
 炊事班、班長 警部補 川上 敏雄
 外ニ巡查十名、巡查補一名、隘勇十名、人夫五十名、計七十二名
 警察救護班、班長 囑託 重松 英太
 外ニ醫員二名、巡查十七名、看護人三名、人夫五十五名、計七十八名
 赤十字救護班、班長 囑託 家弓 鄭三
 外ニ醫員三名、巡查二名、看護人二名、人夫二名、計十名
 電話班、班長 警部補 富永 藤平
 外ニ巡查十二名、巡查補一名、隘勇十四名、職工二名、人夫三十五名、計六十五名
 合計二千四百六十四名（内人夫千二百八十名、總督ノ命令ニ由リ二十日新竹隊ヨリ轉入シタル福屋、竹内兩部隊及電話班モ便宜此ノ最初ノ編成中ニ記入セリ）
 命令已ニ出テ部署亦成リタルモ降雨連日十七日ニ至リテ雨量益多ク諸溪氾濫シテ橋梁殆ト蕩盡ニ歸シ新竹隊ハ大安溪ヲ濟ルニ由ナシ是ニ於テ佐久間總督ハ枝前進隊長ニ命令シテ曰ク「貴官ハ烏石坑右岸ヨリ行動ヲ起シ、ロープゴ一山（眼鏡形高地）ニ向テ前進シ其ノ中央部ニ於テ新竹隊ト連絡スヘシ」ト之ト同時ニ家永新竹前進隊長ヲシテ其ノ配下ニ在リシ福屋、竹内兩部隊及電話班ヲ割キ之ヲ臺中隊ニ隸セシム蓋シ初、該隊ヲシテ觀音山ヲ占領シテ、ブヨン、ロープゴ一、ノ二社ヲ砲撃セシメ新竹隊ヲシテ、眼鏡形高地ヲ略取セシムヘキ計畫ナリシヲ是ニ至テ之ヲ變更シタルナリ
 十九日 朝來雨霽レ天清ク諸溪水減シ新竹隊モ溪ヲ濟ルヲ得ルニ至リシヲ以テ高塚總指揮官ハ二十二日ヲ以テ行動命令ヲ兩隊長ニ發ス枝隊長亦即日令ヲ諸隊ニ下セリ乃チ左ノ如シ
 臺中前進隊ノ目的ハ、ロープゴ一山ヲ占領シ其ノ中央鞍部ニ於テ新竹隊ト連絡スルニ在リ各部隊ハ

一月二十二日午後八時埋伏坪ヲ出發スヘシ其ノ序列左ノ如シ

- 一、一、本郷部隊二、佐藤部隊三、永井部隊四、岡本部隊五、内田部隊
- 二、本郷部隊ハ右翼隊ノ先頭ト爲リ烏石坑溪右岸ニテ、ロープゴ一山高地西南方烏石坑ニ走レル稜線ヲ進ミ、ロープゴ一山高地ヲ占領シ永井部隊ト相策應シテ新竹隊ト連絡スヘシ
- 三、伊藤部隊ハ本郷部隊ニ續行シ占領地ノ守備ヲ確實ニスヘシ
- 四、永井部隊ハ左翼隊ノ先頭ト爲リ、ロープゴ一山高地ヨリ西方ニ走レル稜線ヲ進ミ、ロープゴ一山高地ヲ占領シ本郷部隊ト相策應シテ新竹隊ト連絡スヘシ
- 五、岡本部隊ハ永井部隊ニ續行シ占領地ノ守備ヲ確實ニスヘシ
- 六、内田部隊ハ烏石坑ニテ本郷部隊ノ進出シタル地點ヨリ右折シ(烏石坑溪左岸)觀音山ヨリ東方ニ走レル稜線ノ高地ヲ占領シ敵蕃ノ迂回シ來ルヲ防禦スヘシ
- 七、福屋、竹内兩部隊並山縣砲隊ハ埋伏坪ニ停止シ後命ヲ待ツヘシ

是ヨリ先枝前進隊長ハ本郷部隊ヲシテ路ヲ埋伏坪ノ懸崖峭壁ノ間ニ開カシメ隊ノ進行ヲシテ容易ナラシメタリ

(附記)臺中廳理蕃史ニ埋伏坪開路ノ狀況ヲ記述スルコト頗ル詳ナルニ由リ左ニ之ヲ抄出ス

埋伏坪ノ進出行動ニシテ一タヒ蹉跌スルコトアラムカ將來ノ行動ニ影響スル所尠カラサルヲ以テ枝前進隊長ハ本郷部隊ノ坂入分隊長ニ命スルニ道路開鑿ノ事ヲ以テス同分隊長ハ十九日ノ夜隘勇九名ヲ率キ暗ニ乘シ前進路ノ探檢ニ著手シ牛欄坑溪ヲ渡リ埋伏坪崖下ニ傍ヒ行クコト凡數丁、忽チ徑盡テ進ムヘカラス蓋シ奔湍崖壁ヲ撞キテ前ニ横ハレルカ爲ナリ是ニ於テ一行ハ皆裸體ト爲リ其ノ深淺ヲ測ルニ深サハ僅々胸ニ至スルニ過キス水勢亦太急ナラサルヲ知リ之ヲ本部ニ報告ス翌二十日ノ夜本郷部隊長及竹内分隊長ハ此ノ崖下ニ前進路ヲ作ルヘク巡查隘勇八名並人夫十四名ヲ督シ作業ニ

從事シ隊員ニ命シ燈火ヲ用キシメス談話ヲ爲サシメス其ノ工ヲ竣ハリ本郷部隊長及竹内分隊長ハ巡查人夫等ヲ此ニ留メ更ニ前ミテ前進路線ヲ探檢セムトスルヤ忽チ對岸ナル新竹隘勇線要塞坂方面ヨリ急射撃ヲ加ヘラレ危キコト言フヘカラス是レ本郷部隊長等カ暗中ヲ進ムニ當リ懷中電燈ヲ照ラシタルカ爲新竹線ハ兇蕃ノ潛行セルモノト認メタルナリ由テ同夜ハ一應探檢ヲ中止シ翌二十一日ノ夜再ヒ前進路ヲ覓ルニ彼ノ徒涉點ヨリ僅ニ數十間ノ處ニ一大巨巖ノ水中ニ突出シテ進路ヲ遮ルアリ乃チ隊員ハ匍匐シテ之ヲ攀チ其ノ上部ヲ迂回シ樹木ヲ伐リ葛藟ヲ芟リ斷崖ニハ梯子ヲ架スル等ノ開路作業ヲ畢ル此ノ間實ニ百五十米突ナリ

午後六時諸隊ノ鐵水坑口ヲ發スルヤ夜色暗澹咫尺ヲ辯シ難シ則チ火ヲ線香ニ點シテ前ミ翌日午前一時馬石坑溪底ノ斷崖下(此ノ間僅ニ百五十米突而モ之ヲ過クルニ七時間ヲ要セリ)以テ此ノ開鑿路ノ險ナルヲ知ルヲ得ヘシ)ニ至ルヲ得タリ本郷部隊長ハ此ニ部伍ヲ整ヘ坂入分隊長ヲ先頭ト爲シ竹内、森山二分隊ヲシテ之ニ繼カシメ將サニ坂ヲ攀チムトス新募ノ隘勇及人夫等之ヲ難タムシ隊列亂レムトス則チ之ヲ此ニ留メ巡查以上ヲ率キ前ミテ一鞍部ニ達ス是時曙光漸ク白ク始メテ進路ヲ誤リシヲ知リ是レ是處ニ稜線有リ宜シク其ノ左ニ登ルヘキヲ右ニ上レルナリ願望ノ間一群ノ兇蕃前面ヨリ來襲フ猛撃シテ之ヲ攘ヒ會、永井部隊ノ三角山ヨリ來ルニ遇ヒ俱ニ前ミテ神谷山下ニ至リ陣ヲ布ク初、永井、岡本兩部隊ハ烏石坑溪底右翼稜線ノ崎脚ニ達シ岡本部隊ハ駐マリテ附近一帶ヲ警戒シ永井部隊ハ進ミテ三角山ヲ取リ更ニ又進マムトス忽チ三十許ノ兇蕃途ヲ截リテ抵禦ス我カ隊馳突シテ之ヲ破リ此ニ本郷部隊ニ會セルナリ是ヨリ先午前三時伊藤部隊ノ烏石坑斷崖ヲ攀登セムトスルヤ本郷部隊ニ驅逐サレタル兇蕃ノ一隊、高キニ據リテ俯撃シ飛彈雨下ス我カ隊仰攻之ニ當ルモ從フ所ノ人夫潰亂シ相踵テ崖ヨリ顛落シ隘勇モ亦卻カムトスル者アリテ輒ク進ムヘカラス則チ已ムヲ得ス之ヲ勒シテ崖壁ノ下ニ屯シ後方ヲ守備ス

本郷、永井ノ兩部隊長ハカヲ戮セテ、ローブゴー山中腹ノ險要ヲ略セムト欲シ各分隊ヨリ二十名ヲ簡拔シテ一部隊ヲ編シ神谷、竹内、坂入ノ三分隊長ヲシテ之ヲ率キテ挺前セシム兎蕃險ヲ負テ邀撃シ矢石交下ス我カ隊之ヲ冒シテ躍進シ神谷分隊先ツ取ラムト欲スル所ノ地ニ至ル兎蕃林中ヨリ來薄リ狙射輾マス分隊長一大樹ヲ背ニシ衆ヲ督シテ之ニ當ラシム倏チ一彈有リ其ノ下腹ヲ洞ク配下ノ士氣益奮ヒ縱橫接戰ス坂入、竹内兩分隊馳援シテ之ヲ卻ク本隊繼テ至リ傍近一帶ヲ占領シ命ケテ神谷山ト曰フ是日鳥石坑ヨリ此ニ至ルマテノ激戰ニ巡查石山一德、小山慶之助、立石安太郎、千田三藏、隘勇何榮福、陳漢、吳文山、鄧見、鄧登立、白見等陣亡シ巡查二名、隘勇四名傷ヲ負フ而シテ内田部隊ハ午前十一時三十分觀音山ヲ占領シ清地築寮ノ事ニ從ヒ野砲二門ヲ其ノ高地ニ配置セリ兎蕃敢テ來抗セス蓋シ是時新竹隊ハ已ニ久保山ヲ取リ小圓山ヲ略シ更ニ雪山坑ノ溪谷ヲ繞リテ其ノ側背ニ出テ且千倆、用心ノ兩砲臺ヨリ轟撃セラレタル爲應戰ニ遑アラサリシナリ

二十四日 永井、本郷兩部隊ハ神谷山ニ岡本部隊及山縣砲隊ハ三角山ニ福屋、竹内、伊藤ノ三部隊ハ鳥石坑溪底ニ内田部隊ハ觀音山ニ屯シ嚴ニ守備ヲ修ム兎蕃所在ニ出沒シ狙撃頻仍ナリ毎ニ撃テ之ヲ攘フ二十七日 枝前進隊長ハ市來副長ト夜ニ乘シテ眼鏡形高地ヲ奪取スルノ法ヲ籌定シ可否ヲ高塚總指揮官ニ問フ未タ幾クナラスシテ答電至ル曰ク「貴隊ハ士氣正ニ揚レルヲ利用シ其ノ主力ヲ以テ今夜眼鏡形高地ヲ占領セムトスルノ舉アリト本官ハ貴官ノ決心ヲ壯トシ其ノ成功ヲ冀フ」ト即チ午後二時行動命令ヲ下ス乃チ左ノ如シ

- 一、我カ前進隊ハ一月二十七日午後十一時占領地ヲ發シ眼鏡形高地ヲ占領セムトス
- 二、前進隊ハ二縱隊ト爲リ適當ノ間隔ヲ保チ左ノ序列ニ依リ行動スヘシ
- イ、本郷部隊ハ右縱隊ノ先頭ト爲リ伊藤部隊之ニ續行スヘシ
- ロ、永井部隊ハ左縱隊ノ先頭ト爲リ岡本部隊之ニ續行スヘシ

三、目的地點占領ノ上ハ本郷、永井兩部隊ニテ之ヲ守備シ伊藤、岡本ノ兩部隊ハ之ト連絡ヲ確實ニス

(シ以下省略)

各隊ハ掩護砲撃ノ畢ルヲ遲チ林ヲ縫ヒ簣ヲ穿チ兩路駢進ミ本郷部隊ノ先鋒坂入、竹内、森山ノ三分隊相繼テ前ミ一鞍部ヲ踰エ茅茨密生ノ地ニ達シタル比ハ東方既ニ白キモ曉霧未タ散セス四面糶糊タリ突チニシテ飛丸兩側ヨリ注キ喊聲繼テ起ルモ勇ヲ鼓シテ突進シ開墾地ニ出ツレハ巡查勝元喜八郎、今野儀太郎、吉原勝太郎、隘勇郭砲、王川、蕭鄙、李進來等相踵テ殪レ坂入分隊長亦傷ツキシモ創ヲ裹ミテ前ムコト凡一町、喬林ノ中ニ入ル既ニシテ兎蕃益其ノ勢ヲ加ヘ四面敵ナラサルハナシ是ニ於テ三分隊長ハ始メテ重圍ニ陥リ本隊トノ連絡全ク斷エタルヲ知り老樟ノ空洞又ハ倒木ニ據リテ壁ニ代ヘ相持シテ捕ニニ至ル森山分隊長以爲ラク此ノ危殆ニ瀕ス本隊トノ連絡ヲ復セサルヘカラスト即チ配下ヲ率キ血路ヲ一方ニ開キ馳セテ本隊ニ反ル坂入、竹内ノ二分隊ハ兩ヲ冒シテ壘ヲ築キ銃ヲ手ニシテ夜ヲ徹セリ枝隊長ハ森山分隊長ノ報ヲ聞キ市來副長、永田警視等ト之ヲ救出セムコトヲ計リ森山分隊ヲシテ之ト連絡セシムルノ議ヲ定メ二十八日ノ夜、霧霏大ニ起ルニ乘シテ突進セシメタルニ途梗リテ果サス三角山ノ砲臺ヲシテ山砲二門ヲ先頭ニ進メ砲撃セシメタルニ密樹茂蒼、輒ク功ヲ收メ難シ則チ永井部隊長ニ命スルニ壘壕ヲ掘鑿シ該兩分隊ノ所在ニ達セシメムト欲シ二十九日朝來作業ニ著手セシメタルモ土壤甚堅ク五十間ニシテ其ノ工ヲ中止スルニ至レリ是ニ於テ永井、岡本、伊藤ノ各部隊及福屋部隊ノ毛利分隊ヨリ各巡查十五名ヲ出シ六十名ヲ以テ決死隊ヲ編成シテ事ニ當ラシムルノ議ヲ決シ警部補石田貞助、明瀬英吉ニ命シテ之ヲ指揮シ三十日午前四時三十分先頭ノ壘壕ヨリ挺進シ各砲臺ヲシテ期ヲ計リ前面ヲ轟撃シ之ヲ援護セシム兩警部補以下六十名已ニ一死ヲ分トス故ニ數、反撃ニ値フモ縱橫突破、未タ二時間ナラサルニ連絡ノ續ヲ奏スルヲ得、南眼鏡形高地ノ一角ハ我カ手中ニ落ツ(此ノ占領ハ決死隊ノ功ナリト雖先ツ之ヲ占領シタルハ坂入、竹内兩分隊ノ功ニシテ三日間ニ涉ル包圍中ノ苦戰ハ名狀

スヘカラサルモノアリ此ノ行動タル我カ隊ノ損傷ハ戰死巡查九名、隘勇十五名、人夫三名、負傷警部補一名、巡查十一名、隘勇二十三名、人夫一名、ニシテ共計六十三名ノ多キニ達セリ)

(附記)臺中廳理蕃史ニ坂入、竹内兩分隊ノ包圍サレタル狀況ヲ詳叙セリ乃チ之ヲ左ニ抄録ス

三分隊カ本隊ニ離レ勢ニ乘シテ濃霧中ヲ突進シ茅原高地上方ザル開墾地ニ出ルヤ敵彈注下倍激シキヲ加ヘ味方ノ死傷相次ケリ即チ勝本巡查以下之ニ斃レ坂入分隊長亦負傷ス更ニ奮進スルコト丁餘ニシテ大森林ニ入ル各分隊ハ是ヨリ一團トナリ直ニ目的地ニ突貫セムトスルモ如何セン此ノ森林中ハ藤蘿雜木ヲ以テ塞カレ殆ト進マンニ由ナシ而シテ敵彈ハ四方ヨリ飛來シテ身邊ヲ掠メ其ノ音木魂ニ響キテ凄シサ限リナシ角田、高松ノ二巡查又負傷ス然レトモ今ハ已ムヘキニアラス突喊又突喊シテ南眼鏡形高地ノ一角タル老樟樹ノ下ニ達セリ此ノ森林中ハ盡ク敵ノ潜伏スル所ニシテ一木ノ蔭、一岩石ノ傍皆敵ナラサルハナク而シテ我レヲ認ムルヤ八方ヨリ狙撃シ寸隙モ油斷スヘカラス今ハ隊員ノ疲勞漸ク至リ而モ前途尙遠遠ナリ而シテ敵情亦已ニ斯ノ如ケレハ止ムヲ得ス傍ナル老樟樹ノ洞中又ハ倒木等ニ身ヲ倚セ僅ニ危急ニ備フルノミ而シテ此ノ時我レハ本隊トノ連絡ヲ失ヒ長驅遂ニ孤立ニ陥レルヲ覺知シタリ事既ニ茲ニ至リテハ只斃レテ已ムアルノミ孤立隊ハ益其ノ決心ヲ堅クセリ其ノ日モ早暮ルルニ近ク斯クノ如クシテ敵ト對峙セムハ最危險ト謂ハサルヘカラス茲ニ於テ森山分隊長進ンテ一方ノ血路ヲ開キ以テ本隊ニ連絡ヲ取ラムトセリ先頭孤立地點ヨリ本隊ニ至ルノ間ハ總テ是レ敵ヲ以テ充タサレタリ小數ノ隊員ヲ以テ此ノ眞只中ヲ突貫セムハ實ニ危險極マル企テナリ然ルト雖今ノ時之ヲ避ケテ他ニ良策ナシ乃チ森山分隊長ハ決然トシテ起チ眞一文字ニ敵中ヲ驅下リ斯クテ無事本隊ニ歸著スルヲ得タリ然レトモ其ノ所期セル連絡計畫ハ無效ニ終リ包圍中ニ殘レル二分隊ハ遂ニ其ノ夜ヲ空洞又ハ倒木ノ陰ニ過ササルヘカラサルナリ加之當日午後ヨリ降雨ト爲リ固ヨリ身

ヲ覆フヘキ雨具ノ用意アルニアラサレハ隊員ハ皆其ノ侵スニ委セサルヲ得ス然カハアレ隊員ノ勇氣ハ決シテ之ニ挫ケサルノミナラス遂ニ其ノ潜伏地ヲ其儘掩堡ト爲スヘク之カ掘鑿ニ著手セリ而シテ固ヨリ作業ニ必要ナル器具ナキヲ以テ木片ニヨリ又ハ攜帶セル食器(椀)ヲ以テ方匙ニ代用セリ斯レハ其ノ勞苦ノ大ナルニ比シ進程ノ遅々タルハ已ムヲ得サルナリ併シ乍ラ凡非常ナル場合ハ又非常ナル勢力ノ發現スルモノナリ著手以來一心不亂ニ之ニ從ヒタル結果ハ却テ驚クヘキ進行ヲ見、同半夜比ニハ已ニ身ヲ容ルルニ足ル迄ニ運ヒテ隊員ハ茲ニ其ノ身ヲ敵前ノ露白ヨリ免レ得タリ然レトモ降續ケル雨ハ此ノ時ヨリ彌激シクナリ全身之ニ浴セラレテ戎衣絞ルカ如シ昨夜來ノ奮闘ニ加ヘテ掩堡掘鑿ノ勞ヲ經來リ疲憊甚シキモノアルニ其ノ攜帶セル糧食ハ全ク盡キ食ハムニ一物無ク然レハトテ固ヨリ一睡タモ取ルヘカラサルナリ早午前二時モ過キタラムト思フ頃俄然掩堡外ニ蕃人密集シテ我レヲ窺フモノノ如ク一時頗ル喧囂ナリシカ暫クシテ其ノ聲モ絶エ獨リ雨ノ音ノミ高シ明ケナハ援軍來ルヘシ今少時ヲ忍ハサルヘカラス此ノ頼メル一夜ハ明ケテ二十八日ノ朝ニ至レトモ杳トシテ更ニ何者モ來ラス隊員ハ其ノ疲勞セル身ヨリ勇氣ヲ喚起シ復掩堡ノ補修ニ從ヘリ當日モ亦暮レ行キ掩堡内ハ再ヒ暗愁ノ氣ニ閉サレタリ雨ハ愈強烈トナリ雨水掩堡内ヲ滿タシテ其ノ膝ヲ沒スル程ニ至レリ隊員ハ銃ヲ手ニセル儘更ニ一夜ヲ明カセリ

二十九日 今日コソ應援來ラムカト一發ノ銃聲ニモ其ノ耳ヲ傾ケシカ終ニ正午トナリ夜トナリ彈藥ハ缺乏ヲ告ケ寒氣空腹共ニ堪ヘ難カラムトセリ而シテ敵ノ我レヲ窺フ者漸ク多キヲ加ヘ寸時モ油斷スヘカラス若シ少シニテモ頭ヲ擧ケンカ忽チニシテ敵彈之ニ集注ス戯レニ竹笠ヲ銃頭ニ楊ル者アレハ敵ハ隙サス諸方ヨリ彈丸ヲ發射ス斯クスルコト幾回ニシテ彼等モ復此ノ手ニモ乘ラス掩堡内ニ向ケ頻リニ小石ヲ擲チ或ハ惡罵ヲ放ツノミトナレリ此ノ惡罵ニ對シ蕃通ヲ以テ知ラルル坂入分隊長ハ塹壕内ヨリ之ニ酬ヒ二、三ノ問答ヲ交換セリ此ノ蕃人ハ自ラ、アライナ、ホーイ、ナル旨ヲ名乗レリ

左ニ坂入對敵蕃ノ問答ヲ掲ケムニ

敵蕃 汝ハ誰ソ

坂入 我ハ、アーラン社ニ居ル坂入ナリ

敵蕃、今ニ見ヨ二、三日過キサル内ニ汝ノ首ヲ取ルヘシ

坂入 汝ニ手アレハ我ニモ手アリ銃アリ首カ欲シケレハ今直チニ來リ取レ汝ノ如キ蕃丁ハ我カ對
手トスルニ足ラス頭目又ハ副頭目ヲ伴ヒ來レ

敵ハ遂ニ黙シテ去レリ夜ハ彌更渡リ隊員ノ窮狀倍極マレリ唇ヲ雨水ニ潤シ一時ノ飢ヲ凌ク者アリ戰
友ノ屍體ニ匍付キテ其ノ負囊ニ殘糧ヲ探ル者アリ斯クシテ空シク死ヲ待タムヨリ運ヲ天ニ任カセテ
退却スヘシト私語スル者アルニ至ル竹内分隊長等ハ之ヲ叱シテ只管其ノ元氣ノ鼓舞ニ努メ且隊長等
ノ決シテ我レ等ヲ窮地ニ委シテ顧ミサルカ如キコトナキヲ告ケ飽迄忍耐ノ必要ヲ説ケリ

忽チニシテ塹壕ノ中何レヨリカ浪華節義士打入ノ場ヲ演スル者アリ其ノ聲朗々殘レル蕃山ノ闇ヲ破
リテ激越ノ調ヲ成ス更ニ巧ミナル義太夫ヲ語リ軍歌ヲ高唱スル者アリ其ノ狀頗ル開日月アルカ如キ
モ是レ實ニ絶望ノ極此ニ至レルナリ然リ眞ニ孤立隊ハ今ヤ將サニ絶望ニ瀕セムトセリ今カ今カト待
詫ビタル援軍ハ遂ニ來ルヘキ模樣ナク絶食ハ既ニ三日ニ及ヘリ彈丸ハ全ク竭キ全身ハ銷衰セリ此ノ
際敵ノ強襲スルアラムカ我カ二分隊ハ全滅ノ厄ニ遭ハサルヲ得ス縱令敵ノ肉薄シ來ルナキモ斯クノ
如クニシテ尙數日ヲ經過セハ終ニハ餓死ヲ免レズ嗟亦危イ哉

三十日 午前六時ヲ過クル比、潜伏地ノ下方ニ當リテ只ナラヌ銃聲頻リニ起リ孤立隊ハ皆耳ヲ敬テ
タリ敵カ將タ味方カ嗚呼此ノ銃聲コソ後續各隊ヨリ募レル六十名ノ決死隊カ我レ等ヲ救出スヘク今
シモ敵蕃中ヲ突貫シテ來レルナリ孤立隊ハ茲ニ始メテ復活セリ忽チニシテ連絡成リ相互ニ其ノ無事
ヲ祝シ萬歳ノ聲山谷ニ震ヘリ已ニ連絡成リテ後我カ潜伏シタル各處ノ掩堡内ヲ檢スレハ味方ノ死屍

諸處ニ横ハリ鮮血水ニ混シテ酸鼻ニ堪ヘス

是ヨリ先坂入、竹内二分隊カ敵ニ背後ヲ扼セラレ本隊トノ連絡斷ユルヤ枝隊長ヲ始メ市來副長、永田
警視等ハ之カ救出ニ就テ種々凝議ヲ重ヌル所アリ(中略)今ハ唯最後ノ手段ヲ斷行セサルヘカラス即
チ永井、岡本、伊藤各部隊並福屋部隊所屬毛利分隊ヨリ各十五名ヲ募リ之ヲ以テ決死隊ヲ組織シ敵ノ
包圍ヲ突破シテ味方ヲ救出スルニ決ス言フマテモナク此ノ行動ハ至難中ノ至難事ニシテ實ニ其ノ名
ノ如ク死ヲ以テ當ラサルヘカラス此ノ決死隊ハ三十日午前四時三十分ヲ以テ(中略)救出ノ目的ヲ達
スルヲ爲タリ

連絡成ルノ報、府ニ至ルヤ佐久間總督、枝隊長ニ電報シテ曰ク「突貫隊坂入、竹内兩分隊ノ進行地ニ在リ
テ敵ニ包圍セララルヤ、心痛ニ堪ヘサリシカ本日午前六時確實ニ其ノ連絡ヲ通シタリトノ報告ニ接シ
大ニ安心セリ」ト是ヨリ枝隊長ハ市來、永田兩警視ヲシテ手ヲ分テ占領地ヲ巡リ守備ヲ完固ニセシメ道
路ノ補修、糧餉ノ貯積等準備略整フ則チ眼鏡形最高地ヲ略取セムト欲シ二月二日更ニ行動命令ヲ下シ
翌日午前十一時、石川分隊(伊藤部隊所屬)ヲ先頭、伊藤部隊ノ主力ヲ左翼、本郷部隊ヲ右翼ト爲シ相呼
應シテ猛進セシム觀音、用心兩砲臺ノ砲聲已ニ歇ミ石川分隊ノ將ニ一開墾地ニ達セムトスルヤ路ヲ截
リテ邀撃サレタルモ擊テ之ヲ破リ勢ニ乘シテ十餘ノ掩堡ヲ拔ク是ニ於テ旭章旗高ク南眼鏡形高地ニ翻
リ歡聲相答ヘ山谷爲ニ震フ而モ我カ隊ハ巡查一名隘勇二名之ニ死シタルノミ兇蕃要地ヲ奪ハレ憤々ノ
情ニ堪ヘサルカ如ク斷エス來襲フ伊藤部隊或ハ白砲ヲ發シ或ハ擲彈ヲ投シ之ヲ攘ヘトモ遠ク退却セス
濃霧起ル毎ニ我カ壘ニ接近シ狙擊輟マズ伊藤部隊長則チ土囊ヲ最北ノ突出地ニ積ミ展望臺ト爲サムト
欲シ五日ノ夜ヨリ工ヲ起サシメ三日ニシテ成ル(幅二間高八間)

六日 午前七時三十分兇蕃六十許、吶喊シテ石川分隊ヲ襲ヒ彈丸雨注ス我カ隊嬰守之ヲ走ラス
(附記)臺中廳理蕃史、石川分隊ノ襲ハレタル狀況ヲ記スルコト左ノ如シ

六日敵ノ濃霧ニ乘シテ先頭石川分隊ニ來襲フヤ大ニ喊聲ヲ揚ケ屢一齊射撃ヲ爲ス我亦應戰數時ニシテ之ヲ沉默セシム此ノ際ニ於ケル敵ノ猛烈ナル態度ハ從來其ノ比ヲ見サル所ニシテ絶テ彈丸ヲ惜ムノ狀ナクシテ發射ヲ續ケ爲ニ同分隊掩堡ノ天幕ノ如キ十數箇處ニ彈痕ヲ留メ掩堡内ニ落下シタル彈丸亦頗多ク附近ノ樹木ハ皆蜂窩ノ如ク之ヲ見ルモ尙激戰ノ狀ヲ想像スルニ足ル

十一日 岡本部隊ノ人夫數名木ヲ其ノ守備地ノ背面ニ伐ル兎蕃障ヲ闢ヒテ其ノ二名ヲ殺ス巡查補葉阿亮挺前シテ一兎蕃ヲ殪セリ是日占領地一帶ノ電話架設、工ヲ畢リ(牛欄坑本部ヨリ南眼鏡形高地伊藤部隊マテ)鐵條網亦大半竣成ス其ノ作業班ハ巡查十名、工手一名、工夫十名、人夫二百名ヨリ成リ毛利警部補ヲ班長ト爲シ五日ヨリ起工セル所ナリ

十二日 枝隊長北眼鏡形高地占領ノ命令ヲ發ス初新竹隊ハ連日惡戰苦闘スルモ兎蕃殊死シテ其ノ前路ヲ堵截シ未タ進ミテ北高地ニ至ル能ハス則チ市來、永田兩警視ヲシテ相伴フテ大克山總司令部ニ詣リテ其ノ方略ヲ高塚警視ニ面議シ更ニ本郷、永井、岡本三部隊ヲ隨ヘ白布縫砲臺附近ニ抵リテ形勢ヲ審察セシメ其ノ複命ヲ聽キ更ニ意見ヲ徵シ始メテ事ニ此ニ從ハムトスルナリ其ノ命令ハ左ノ如シ

- 一、我カ前進隊ハ目的地タル南眼鏡形高地ヲ占領セリト雖敵蕃ハ北眼鏡形高地ヲ死守シ極力防禦工事ヲ施シ我レニ抵抗セムトスルモノノ如シ由テ我レハ敵ノ主力ヲ南高地及其ノ右側ニ牽制シ以テ北眼鏡形高地ヲ占領セントス
- 二、伊藤部隊ハ其ノ正面及右側ニ敵ノ主力ヲ集注セシムル目的ヲ以テ二月十二日午後二時ヨリ種々ナル方法ヲ用テ敵ヲ牽制スヘシ
- 三、岡本部隊ハ二月十二日午後六時三十分守備地ヲ出發シテ最先頭ト爲リ茅原砲臺右側ノ稜線ヲ下リ開墾地ノ間ヲ縫ヒ鞍部ヨリ流ルル密林中ノ溪谷ヲ渡リ北眼鏡形高地ヨリ南西方ニ走レル稜線ヲ進ミ北高地ヲ占領スヘシ

- 四、永井部隊ハ岡本部隊ニ本郷部隊ハ永井部隊ニ續行シ連絡ヲ確實ニスヘシ
- 五、山縣砲隊ハ伊藤部隊ノ牽制行動ト相應シ敵ノ右側ニ砲火ヲ注クヘシ尙岡本部隊ノ目的地占領後ハ全力ヲ擧ケ之カ掩護砲撃ヲ爲スヘシ

十二日 午後二時伊藤部隊長ハ長崎、梶原兩分隊ヲシテ塹壕ニ據リテ銃砲迭發セシム兎蕃抵禦其ノ勢甚熾ナリ我カ隊之ニ應シ時ニ喊聲ヲ揚ケ將ニ進出セムトスルノ狀ヲ示セハ前路ヲ欄截シ屢、來リテ肉薄ス午後六時ニ至リ兎蕃稍衰フ則チ兩分隊長ハ巡查數名ニ防彈具ヲ著ケ正面及右側ニ出テ白砲ヲ連發シ繼テ擲彈ヲ投セシム八、九十ノ兎蕃笛ヲ吹テ號ト爲シ開聲之ニ和シテ來逼ル巡查即チ壘中ニ入ル此クノ如クスルコト數回午後十時展望臺ノ土囊ヲ取リ掩堡ヲ最高地ノ盡クル處ニ築キ白砲ヲ排列シテ之ヲ林叢ニ轟カシ牽制旦ニ徹ス岡本、永井ノ兩部隊ハ伊藤部隊ノ敵ヲ其ノ前ニ誘フニ乘シ茅原砲臺ヲ發(午後六時三十分)シ其ノ右側ノ稜線ヲ下リ密林中ヲ過ク夜黒クシテ咫尺辨シ難シ豫メ各人背ニ白布ヲ縫ヘルニ由リ之ヲ目標ト爲シ羅ヲ捫シ葛ヲ援キ崎嶇ノ間ヲ進ミ午前八時北眼鏡形高地ニ達スレハ絶テ之ヲ守ル者ナク一彈ヲ發セスシテ、此ノ險要ヲ奪フヲ得タリ即チ總督、長官、大津總長、野島司令官等枝隊長ニ祝電ヲ寄スル者尠カラス

十三日 午前七時伊藤部隊又襲ハレ對擊スルコト半刻許、兎蕃、俄然トシテ引去ル部隊長即チ梶原分隊ニ命シテ突進シ有蓋掩堡十七ヲ略セシム分隊長入リテ其ノ中ヲ檢スレハ刀槍釜鑊ノ類散亂狼藉セリ此クノ如ク兎蕃ノ遁竄シタルハ北眼鏡形高地ノ陥リタルヲ知り腹背ヨリ夾攻サレムコトヲ畏レタルナリ是時ニ當リ新竹隊已ニ久保山ヲ取リ將ニ機ヲ相テ進來ラムトス而モ兎蕃ハ南北高地ノ中間ニ出沒シ狙撃ヲ以テ勝ヲ制セムト期スルノ狀アリテ岡本、永井、本郷ノ三部隊ト伊藤部隊トノ連絡ハ未タ成ラサルナリ枝隊長則チ令ヲ岡本部隊長ニ傳ヘ隊員ヲ配置シテ最低鞍部ニ至リ繼テ本郷、永井兩部隊長ヲシテ突進セシム途ニ兎蕃ニ要撃サルルコト兩回ナリシモ直ニ之ヲ驅逐シ本郷部隊ノ竹内、坂入兩分隊ハ伊

藤部隊ノ先頭石川分隊ト連絡ス、ロープゴ社ハ是ノ兩高地間ニ在リテ四十有餘ノ蘆舎鱗次櫛比シ而モ皆空屋ナリ蓋シ我カ隊ノ北高地ヲ據有シタル時悉ク溪谷ニ竄レタルナリ越テ十八日午前一時岡本、永井ノ兩部隊長ハ隊長ノ命ヲ受ケ混成部隊（永井部隊ノ石田分隊、本郷部隊ノ竹内、森山二分隊及岡本部隊中ノ若干名ヲ以テ混成シタルモノニ係ル）ヲ率キ北高地ヨリ北進スルコト凡八町ニシテ新竹隊ノ和田部隊ト連絡ス時ニ午前五時三十分、爾來諸隊ハ力ヲ各般ノ工事ニ致シ二月二十八日其ノ功全ク竣ル輒チ三月二日臺中公園招魂碑前ニ解隊ノ式ヲ舉ク是ノ前進ニ於テ新設シタル隘勇線ノ延長ハ二里二十五町（牛欄坑ニ起リ埋伏坪ヲ經、大安溪ノ左岸ヲ遡リ烏石坑及茅原斷崖下ヲ過キ分岐シテ二線ト爲シ一ハ觀音山背面高地ニ至リテ止ミ一ハ稜線ヲ上リ三角山、神谷山、茅原砲臺ヲ經テ南高地ニ達シ更ニ、ロープゴ社址ヲ包容シテ北高地ニ進ミ新竹廳ノ隘勇線ニ接續ス）ニシテ此ノ間ニ三監督所、十七分遣所、六十四隘寮、四砲臺ヲ設ケ警部一名、警部補二名、巡查七十六名、巡查補二名、隘勇二百八十五名ヲ配置シ以テ彼ヲシテ乘スルノ間ナカラシメタリ

○前進ノ效果 新竹、臺中兩廳ノ北勢蕃ニ對スル隘勇線前進行動ハ日ヲ閱スルコト四十日、損傷ヲ出スモノ二百六十名（警部死三、警部補死二、傷七、巡查死二四、傷三九、巡查補傷一、隘勇死七五、傷六三、其他死二三、傷二三）ナルモ、ブヨン、ロープゴ二社ノ頼ミテ天險ト爲セル、ロープゴ山ヲ經略シテ之ヲ雪山坑ノ陰ニ驅リ自餘ノ六社ヲシテ風ヲ望ミテ潛服セシメ二社モ亦衰弊ノ餘、盡ク所有銃器ヲ納メ降ヲ乞フニ至レリ設使之ヲシテ直ニ屈從セシメサルモ是ノ脅威ノ餘威之ヲ然ラシムルヤ識者ヲ埃テ後知ラサルナリ

白狗マレツバ蕃方面隘勇線前進

○隘勇線前進ノ所由竝行動開始前ノ措置 南投廳下埔里社支廳管内白狗蕃ハ、マカナジ

一、テピルン、マシトバオン、ノ三社ヨリ成リ戸一百餘、口凡四百五十、マレツバ蕃ハ、マカジーヘン、ムカブーブル、ムカタータ、ムカバーブ、マカムジヤウ、ベルモアン、ノ六社ヨリ成リ戸百四十五、口七百五十餘ニシテ常ニ犄角ノ勢ヲ爲シ、シカヤウ、サラマオ兩蕃ト共ニ兇虐ヲ逞ウスルヲ以テ明治四十四年中、霧社方面ノ各社ヲ討伐スルニ當リ一タヒ膺懲ヲ加ヘ銃器ヲ提出セシメタルニ、白狗蕃中マシトバオン、テピルン兩社ハ我カ控隊ニ就キタルモ自餘ノ各社ハ頑然悛メス、シカヤウ、サラマオ又ハ宜蘭廳下溪頭後山蕃等ヨリ銃器ヲ購取シ之ト黨同シテ屢、隘勇線ヲ闢ヒ警備員ヲ殺傷ス而シテ此ノ方面一帶、素ト鐵條網ヲ架セス之ヲ防クコト殊ニ艱シ由テ總督府ハ之ヲ彈壓スルノ議ヲ定メ南投廳長石橋亨ニ命シテ既設隘勇線躑躅岡ヲ起點トシ、マカナジ一社高地ヲ經、其ノ西北ノ稜線ヲ繞リ、サラマオ鞍部ニ至ル囊狀隘勇線ノ新設ヲ稟申セシメ明治四十五年四月十八日之ヲ認可シ該廳長ニ前進隊長ヲ蕃務課長警部部長倉用貞ニ副長ヲ命シ蕃務本署ヨリ高塚警視及猪俣警部、渡邊囑託等ヲ派遣シ警部四名、警部補十三名、巡查三百五十名、巡查補三十名、隘勇五百九十名、醫員二名、囑託二名、看護人五名、雇員一名、電話工手二名、工夫二名、人夫八百九十名ヲ以テ前進隊ヲ編成シ分テ六個部隊及砲隊、輸送隊、電話班、救護班ト爲シ四月二十六日ヨリ行動ヲ開始セシム蓋シ此ノ隘勇線ニシテ成レハ、白狗、マレツバ兩蕃ト、シカヤウ、サラマオ兩蕃トノ中間ヲ劃斷シテ之ヲ控制シ易ケレハナリ其ノ前進隊ノ幹部員ハ左ノ如シ

- | | | |
|-------|-----|-----|
| 前進隊長 | 石橋 | 廳長 |
| 同 副長 | 倉 | 警部 |
| 第一部隊長 | 依田 | 警部 |
| 分隊長 | 梶原 | 警部 |
| 同 | 倉原 | 警部補 |
| | 八一九 | 警部補 |

午前五時白狗監督所附近ニ位置シ前進部隊ニ續行シ得ル如ク準備ヲ整ヘ命ヲ俟ツヘシ

十一、蕃社ニシテ我カ國旗ヲ掲ケタルモノハ歸順蕃ト見做スヘシ

是ヨリ先石橋部隊ハ人ヲ遣ハシ、マシトバオン、テビルン、ベルモアン、ムカムジャウ、ムカタータ各社ノ頭目勢力者等ヲ召喚シタルニ二十四日ヨリ相繼テ白狗監督所ニ來ル者マシトバオン社頭目外二十五名ナリ石橋隊長輒チ各部隊ノ發スルニ先タチ之ニ告ケテ曰ク「此クノ如ク大部隊ヲ召集シタルハ前年開キシ所ノ、サラマオ道路ヲ補修セムカ爲ナリ宜シク之ヲ社衆ニ傳ヘ擾亂スルコトナカラシムヘシ今次ノ工事中ハ、巡查一名、隘勇一名、通事蕃婦一名ヲ、マシトバオン社ニ發遣シ物品交換ノ事ニ從ハシム又警察官、人夫等ノ入山スルニ際リテハ須ラク之ヲ嚮導スヘシ」ト而シテ向キニ招致シタル、バイバラ蕃十八名及アーラン社蕃五名ニ面セシム、バイバラ蕃説テ共ニ引路セムコトヲ勸ム白狗、マレツバ兩蕃始メテ之ヲ諾ス

行動開始後ノ狀況

二十六日 午前八時近藤部隊ハ、マカナジ一社南側ノ高地ヲ略シ午後一時ムカタータ社北方高地ヲ取ル而シテ依田部隊長ハ配下ヲ率キテ、ムカタータ社下方ノ溪底ニ下リ梶原分隊ヲ、サラマオ鞍部ニ藏原分隊ヲ其ノ東面ノ高地ニ向ハシム午後五時ノ比、兩分隊ノ將サニ鞍部ニ達セムトスルヤ兇蕃之ヲ稜線ニ要撃シ飛彈亂注ク我カ隊奮躍之ニ當リ蕃人隘勇ウロツカン外一名戰死シ巡查仲原文藏(梶原分隊)淺野庄之助(倉原分隊)及隘勇一名傷ヲ被ル既ニシテ兇蕃ノ一隊ハ繞リテ林中ヨリ出テ糧食輸送隊ヲ襲ヒ前後ノ連絡將サニ斷エムトス 兩分隊長、衆ヲ勵マシテ對戰シ且十二緋白砲ヲ發シテ之ヲ撃タシム兇蕃始メテ卻ク

二十七日 味爽大岡分隊ヲシテ依田部隊ニ赴援セシム其ノ、マカナジ一社下方ノ溪畔ニ至ルヤ伏、草叢ニ起リ巡查高橋幾助、丸ニ中リテ仆ル一兇蕃躍出シテ之ヲ截ラムトス我カ隊射テ之ヲ殛シ槍一本

ヲ奪ヒ餘衆ヲ驅逐シテ午後六時該部隊ノ根據地ニ達セリ是ヨリ先午前十時依田部隊長ハ巡查五名、巡查補一名、隘勇六名ニ命シ往テ水ヲ汲マシム(水源地ハ根據地ナリ)バイバラ蕃二名之カ引路タリ往テ水源地ニ至ラムトスルニ及ヒ伏ノ起ルニ遇ヒ隘勇二名之ニ死ス巡查、隘勇奮撃シテ一兇蕃ヲ射殺ス赤裸ノ兇蕃出テ其ノ屍ヲ斂メムトス又射テ之ヲ斃シ水、數桶ヲ汲ミテ復ル唯一日ヲ支フヘキノミ依田部隊ノ危地ニ在ルコト此クノ如ク而モ白狗、サラマオ間ノ橋梁多クハ破壊サレ物資ノ輸送頗ル困難ヲ極ム石橋隊長輒チ總督府ニ請フニ應援隊ヲ派セムコトヲ以テス蕃務本署長即日非常召集令ヲ宜蘭廳ニ發シ警部一名、警部補二名、巡查一百名ヲ赴援セシメ更ニ隘勇一百名ヲ徵募セシム是日午前七時二十分、伊藤部隊ハ標高八千四百八十五尺高地ヲ占領ス是地亦水ニ乏シク隊員頗ル窘ム

(附記)伊藤部隊ノ狀況報告ハ左ノ如シ

昨二十六日出發以來ムカタータ社ノ下方溪底ヨリ進路ノ險惡殆ト名狀シ難ク隊員一般ニ疲憊シ黄昏ヨリ行步殊ニ困難ヲ極ム爲ニ高地(海拔八、四八五)下方ノ森林中ニ露營シ翌二十七日午前六時四十分、無事ニ目的地點ヲ占領シタルモ仲本部隊トノ距離甚遠ク且地形嶮阻ニシテ連絡十分ナル能ハス殊ニ近距離ノ地ニ飲料水ナキヲ以テ仲本部隊ヨリ炊出ノ送付ヲ受ル筈

二十八日 石橋隊長ハ内田部隊長ニ命シ石川分隊ヲ根據地ニ駐メ其ノ主力ヲ率キテ進ミ仲本、近藤兩部隊ノ中間高地ヲ取り壘ヲ列ネシメ近藤部隊ノ竹中分隊ヲシテ依田部隊占領地下方ノ合流點ニ進出セシム午前十一時三十分依田部隊ノ巡查三名ハ負傷隘勇二名ノ護送ト糧食受領トヲ命セラレ巡查補二名、隘勇十名、人夫二十二名ヲ率キ仲本部隊ノ占領地合流點附近ヲ過ク伏、榛莽ニ起リテ之ヲ圍ム其ノ數凡六十、彈丸雨注ス護衛員血戰兇蕃六、七人ヲ殛シタルモ衆寡當ラス巡查二名(菅野數馬、岩永常次郎)巡查補二名(高某、賴某)隘勇五名之ニ死ス人夫等駭愕措ヲ失シ四方ニ潰亂シ殺サル者十二名、銃聲、叫喚ノ聲ト相答フ仲本部隊ノ掩堡ヲ守ル者事ノ方サニ急ナルヲ知り銃砲迭發シテ之ヲ撃ツ巡查大

沼寬、開ヲ得、餘衆ヲ勒シ馳セテ仲本部隊ノ本部ニ投ス

(附記)南投前進隊長ノ四月三十日行動日報中ニ左ノ一項アリ

ムカムジャウ社頭目外蕃丁十五名、蕃婦三名カ二十九日午前九時近藤部隊ニ來リ告クル所ニ據レハ「負傷者後送隊ヲ要撃シタルハ、シカヤウ社頭目タイモブユン及其ノ配下ニシテ蕃丁ユウミンタウエー、カヤオタイモ、ノ二人ハ現場ニ即死シ他ノ一名ハ森林内ニ殞レ他ニ五名ノ行衛不明者アリ料ルニ戰死セシナラムカ」ト

二十九日ノ行動日報中ニモ左ノ一節アリ

合流點被害地ヨリ仲本部隊本部ニ退却シタル巡查大沼寬以下隘勇四名、人夫九名ノ言フ處ニ據レハ「被害ノ地點ヲ距ル約一百米突ノ山上ニ蕃刀ヲ帶ヘル蕃人二十餘名集合シ居リシカ一行ノ近ツクヲ見ルヤ下方ノ溪谷ヲ指點シ、シカヤウ、サラマオ云々ト連呼シタルモ蕃語ヲ解スル者一人モナキカ爲、白狗、マレツバ等ノ蕃人カ、シカヤウ、サラマオ蕃人カ潜伏セリト告クナラムト思惟シ警戒シツツ合流點ニ下リタルニ伏ノ起ルニ遇ヘリ而シテ此ノ二十餘名ノ蕃人モ亦其ノ衆中ニ加ハリ居リシカ如シ」ト

一兩日來兇蕃ハ益其ノ衆ヲ加ヘ四出襲撃シ後方ノ連絡動モスレハ絶タレムトシ且電話線ノ切斷サルルモノ頻々タリ是ニ於テ石橋隊長ハ高塚警視及長倉副長ト議リ急ニ、サラマオ大鞍部ヲ略取シ兇蕃ヲ瞰制セムト欲シ行動命令ヲ發シ依田部隊ヲ前進セシム

二十九日 夜半依田部隊長ハ十二拇臼砲三門ヲ連放シテ兇蕃ノ據守スル所ノ地ヲ撃タシメ午前二時、倉原分隊七千三百八十四尺ノ高地ニ梶原分隊ヲ、サラマオ大鞍部ニ向ハシム萩原警部補ハ渡邊囑託ト俱ニ南アラン社及バイバラ社ノ壯丁ヨリ混成シタル蕃人隊ヲ指揮シ倉原分隊ノ左翼ニ出テ三面駢進ム倉原分隊ノ前面兇蕃尤衆ク壘ヲ列ネテ之ニ嬰リ銃火ヲ我レニ攢ム分隊長劔ヲ揮テ衆ヲ督シ巡查須田

三平ト與ニ進ミテ敵前ニ薄リ飛彈ニ腹ヲ洞カレテ僵ル隊員其ノ勵マス所ト爲リ先ヲ爭テ突撃シ遂ニ十餘壘ヲ拔ク而シテ兇蕃ノ一隊ハ銳ヲ梶原分隊ノ前面ニ萃メテ之ヲ扞ク隘勇一名丸ニ中リテ斃レ一名傷ヲ被ル分隊長呼號衆ニ先ムシ亦數壘ヲ奪フ兇蕃支フルコト能ハス卻テ北面ノ樹林ニ據リ且闕シ且射ル我カ隊連リニ臼砲ヲ發シ繼クニ小銃ノ齊射ヲ以テシ分隊ノ兩翼ヲ展開シテ之ヲ攘ヒ旭旗ヲ大鞍部ノ最高處ニ樹ツ本部ニ在ル者之ヲ望ミテ懽呼ス時ニ午前五時三十分

(附記)前進隊長ノ、サラマオ大鞍部ヲ占領シタルヲ望見スルヤ左ノ如ク總督ニ電報セリ

依田部隊ハ目的地タル、サラマオ大鞍部ヲ略取シタルモノノ如ク天幕樹間ニ隱現シ其ノ側ニ國旗ノ翻ルヲ目撃ス

石橋隊長、倉原警部補ノ戰死ヲ聞クヤ萩原警部補ヲシテ代テ分隊長タラシム是日高塚警視ハ長倉副長ト與ニ仲本部隊ノ根據地ニ至ル

三十日 依田部隊長ハ巡查四名、隘勇十三名ヲシテ壘ヲ大鞍部ヨリ、シカヤウ社ニ通スル蕃路ニ築カシム午後二時兇蕃來襲ヒ巡查今井甚三郎丸ニ中リテ死ス我カ隊猛撃之ヲ走ラス午後五時兇蕃、梶原、萩原兩分隊ノ中間ヲ斷タムト欲シ呼噪シテ來薄ル撃テ之ヲ卻ク巡查竹中義一奮闘シテ之ニ死ス是夜萩原分隊ハ雨ヲ冒シテ七十米突ヲ進ミ三掩堡ヲ占領ス二十八日ヨリ取ル所ノ掩堡共ニ二十五座、大半有蓋ニシテ構造尤堅牢ヲ極ム

五月一日 小松宜爾廳長ノ電報前進隊本部ニ至ル曰ク「吠哩沙支廳長ノ報告ニ據レハ溪頭蕃マナウヤン社蕃丁六十名ハ四月二十六日サラマオ蕃ニ赴援セリト是レ、ビヤナン社蕃丁イバンマライ、ノ密告スル所ニシテ事實ナルカ如シ」ト石橋隊長曰ク「反抗各社ノ戸口ニ視、兇蕃ノ數、多キニ過クルハ之カ爲ナリ」ト

是ヨリ先石橋隊長ノ依田部隊ヲシテ大鞍部ヲ略セシムルヤ命ヲ伊藤部隊ニ傳ヘ同時ニ行動ヲ起シ之ト

相連絡セシム該部隊長乃チ三十日午後五時行動ヲ起シ八千四百八十五尺高地ヨリ、サラマオ鞍部ニ下ル要害十有餘處ニ河野、佐々木、屋嘉比ノ三分隊ヲ配置シタルモ蒙霧四塞、咫尺辨シ難ク之ニ加フルニ黄昏ヨリ風雨大ニ起リ輒ク進ムコト能ハス竟ニ途ニ夜ヲ徹ス翌旦雨尙歇マスシテ依田部隊ノ所在ヲ瞰フヲ得ス午後二時天晴レ始メテ帳舎ヲ脚底樹林ノ間ニ認ム則チ屋嘉比分隊ヲシテ進マシメ是日午後四時三十分梶原分隊ト連絡セリ

二日 ムカタータ社下方及合流點ニ仲繼所ヲ設ケ警務所屬警部補二名(ムカタータ高地ハ渡邊喜一郎、合流點ハ大澤成五郎)ヲシテ事務ヲ取ラシメ更ニ大岡部隊ノ吉田分隊ヲ合流點ニ配置シ專ラ輸送計畫ニ當ラシム蓋シ白狗本部ヨリ最前線ニ至ルマテ距離頗ル遠ク接濟意ノ如クナラサルヲ以テナリ

三日 平明長倉副長ハ仲本部隊長ト俱ニ護衛巡查及前線ヨリ本部ニ歸ラムトスル隘勇、人夫等五十六名(巡查、巡查補、隘勇ヲ合セ二十五名、電話工夫一名、人夫三十名)ヲ隨ヘ、サラマオ南方大鞍部ヲ發シ、ムカタータ高地ノ仲本部隊本部ニ向フ蓋シ初、依田部隊ト伊藤部隊トノ連絡未タ成ラサルヤ副長ハ高塚警視ト議リ之ヲ督責セムカ爲、大鞍部ニ抵リタルニ會、兩隊ノ連絡成レリ是ニ於テ依田部隊ノ占領地ヲ巡視シテ地形ヲ審察シ先ツ之ヲ高塚警視(ムカタータ高地ノ仲本部隊本部ニ在リ)ニ報シ而ル後石橋隊長ニ復命セムトスルナリ午前九時ノ比、北港溪合流點メ吉田分隊駐屯地ヲ過キ溪底ヲ下ルヤ伏アリ右岸ノ叢間ニ起リ彈雨亂注ク巡查二名、隘勇五名、人夫六名斃シテ仲本部隊長ト與ニ刀ヲ揮ヒ叱咤戰ヲ督ス兇蕃八十許、刀鎗駢進ミ我カ部伍ヲ衝ク副長其ノ二名ヲ斫リタルモ部隊長ト相前後シテ丸ニ殪ル大岡部隊ノ吉田分隊長、内田部隊ノ石川分隊長、輸送隊ノ渡邊警部補等相繼テ配下ヲ引率シテ之ニ馳ス而シテ瀬戸警部ハ仲本部隊ノ陣地ヨリ隊員ヲ指揮シテ之ヲ俯撃セシム兇蕃支ヘス屍八、銃四挺、槍十六本ヲ棄テテ走ル而シテ我カ戰死ハ巡查三名(阪井仙八、森川眞一)巡查補二名(吳火旺、張接池)隘勇十四名ニシテ人夫十四名亦難ニ殉シ隘勇、工夫各一名傷ヲ負ヘリ初、午前八時ムカムジ

ヤウ社頭目ムカタータ高地ノ仲本部隊本部ニ來リ告ケテ曰ク溪頭蕃マナウヤン社蕃人五、六十名ト、シカヤウ蕃多數ト合シテ一團ト爲リ北港溪積ニ向ヘリト高塚警視之ヲ副長ニ報セムトスレトモ電話線切斷サレテ果サス乃チ仲本部隊本部ニ在ル瀬戸警部(蕃務本署員)ニ命シ該部隊ノ巡查隘勇十餘名ヲシテ東方突角ヨリ之ヲ瞰射セシメタルナリ

(附記)長倉副長一行奮戰ノ狀況ヲ徵スルニ足ルヘキ報告數條ヲ左ニ收録ス

高塚理蕃課長報告(五月三日)

- 一、昨日伊藤部隊ノ消息ヲ確ムル爲當地(ムカタータ高地仲本部隊本部)ヲ出發シタル長倉副長、仲本部隊長ノ一行カ、サラマオ鞍部ニ達シタル時ハ伊藤、依田兩部隊ノ連絡已ニ成レルヲ以テ副長一行ハ依田部隊ニ一泊、本日早朝サラマオ道路ヲ經テ當地ニ向ヒ歸途ニ就ケリ
- 二、午前八時過ムカムジヤウ社頭目等密告スル所ニ據レハ溪頭蕃マナウヤン社蕃人五、六十名ニ多數ノ、シカヤウ蕃相合シ當地東側溪底方面ニ出動セリトノコトナリシモ恰モ當地ヨリ依田部隊間ノ電話線切斷セラレ副長ニ急ヲ報スルニ由ナカリシ由テ部隊本部ニ殘留セル十數名ノ巡查、隘勇ヲシテ一行ヲ掩護セシメムカ爲當地東北方ノ突出部ニ至リ將サニ配置セムトスル一刹那溪底右岸ニ潜伏セル數十名ノ兇蕃ハ副長一行ニ對シ少時急射撃ヲ加ヘタル後直ニ拔刀、隊列ニ亂入シ兇行ヲ逞ウシ倉皇右岸ノ密林ヲ以テ蔽ハレタル小溪ヘ向ケ遁竄セリ我カ掩護隊ハ下方ニ絕壁アリテ、行動自由ナラス敵蕃ニ若干ノ損害ヲ與ヘタル如クナルモ效果不十分ナル遠距離射撃ヲ爲シタルニ過キス横直ナル副長、豪膽ナル部隊長並勇敢ナル數多ノ警察官ヲ亡ヒタルハ實ニ遺憾トスル所ナリ
- 三、以上ノ狀況ナルヲ以テ副長ノ代理ハ戰況ヲ詳カニセル依田警部ヲ以テ之ニ充ツルヲ以テ最適當ナリト思料ス依田警部ノ後任ハ青山集々支廳長ヲ以テシ仲本警部ノ補充トシテ警部一名至急御派遣ヲ乞フ

右ハ前進隊長ト協議済、尙小官ハ隊長ト議リ同行瀬戸警部ヲシテ暫時仲本部隊ノ指揮ヲ探ラシメ小官ハ臨機ノ處置トシテ當分ムカタータ社以東ノ諸隊ヲ直接指揮セムトス（ムカタータ高地ニ於テ午後三十分）

八二八

石橋前進隊長報告（五月三日）

依田部隊長ノ報告ニ據レハ宿泊中ノ長倉副長及仲本隊長ハ護衛巡查高瀬省三、坂井仙八、巡查補張接池、劉阿木、蘇春發、外ニ隘勇四名ト他ニ電話線踏査ノ爲派遣シタル巡查補一名、隘勇十名及澁江工夫ノ一行ト伴ヒ三日午前七時五十分同部隊本據地出發、合流點吉田分隊ノ駐屯地ヲ通過シタルハ九時三十分ナリシカ暫クシテ合流點ノ下方ニ當リ銃聲起ルヲ以テ吉田分隊ニ問合セタルモ判明セサルニ由リ直ニ該分隊ノ出動ヲ促シタルニ同十分巡查補劉阿木ハ左腕ニ貫通銃創同蘇春發ハ左手前膊ニ負傷シ人夫一名ト俱ニ難ヲ追レ吉田分隊ニ引返シ來レリトノ情報ニ接セリ由テ大岡分隊ノ赴援ヲ促カシ一面負傷セル巡查補ノ陳述ヲ聽クニ被害地點ハ去月二十八日輸送隊ノ要撃サレタルト同一場處ナルカ如ク一行ノ消息未タ判明セスト雖長倉副長及仲本部隊長ハ戰死者ノ中ナルカ如ク尙調査中（於白狗監督所三日午後四時）

報告（五月四日）

長倉副長一行奮戰狀況ニ關シ一行ノ先頭ニ在リタル藤間巡查及當時應援シタル大岡部隊ノ吉田分隊長竝内田部隊ノ石川分隊長ノ報告ヲ綜合スルニ同一行ハ五月三日午前十時五分吉田分隊駐屯地ヲ經過シタルヲ以テ吉田分隊長ハ巡查六名ヲ隨ヘ約二十米突ノ地點マテ護衛シタルニ長倉副長ハ是ヨリ前方ハ護衛ノ必要ナシ歸隊セヨト命セラレタルニ由リ別レテ告テ歸路ニ就キ引返スコト約一町ニシテ俄然下流ノ方位ニ當リ猛烈ナル一齊射撃ノ銃聲起ルト同時ニ喊聲ノ揚ルヲ聞キ顧ミレハ數十名ノ敵蕃ハ槍又ハ蕃刀等ノ獲物ヲ揮ヒ長倉副長ノ一行ニ對シ突撃シツアルヲ以テ直ニ率ウル所ノ六名

ノ巡查ヲ指揮シ地物ニ據ラシメ急射撃ヲ加ヘタルニ携帶彈藥竭キムトシ地形亦不利ナルニ由リ約三町背進シタリ此ノ時幸ヒニモ合流點駐屯ノ輸送隊附渡邊警部補ハ巡查十五名、隘勇二十名ヲ率キ來援スルニ會シタルハ合シテ一隊ト爲リ再ヒ溪ニ向テ馳セ恰モ下流ヨリ進ミ來リシ石川分隊長（引卒巡查二十四名）ト相呼應シテ之ヲ夾撃ス一面ニハ瀬戸警部ノ仲本部隊員ヲ指揮シ同部隊根據地東方突角部ニ出テ側面ヨリ援護射撃ヲ爲スアリシ爲彼ハ腹背ニ敵ヲ受ケ森林中ニ逃走セリ此ノ時午前十時四十分ナリ

長倉副長及仲本部隊長ハ拔刀シテ部下ヲ指揮シツツ勇敢ニ奮闘シタルモ衆寡敵セス巡查三名、巡查補二名、隘勇十四名、人夫十四名ト俱ニ職ニ殉セリ而シテ巡查補蘇春發ハ左手ニ同劉青連ハ左腿ニ何レモ貫通銃創ヲ電話工夫澁江要九郎ハ右肩及左手ニ銃創ヲ隘勇一名ハ腹部其ノ他二箇處ニ貫通銃創ヲ負ヒ一行中無事ナルヲ得タルハ藤間巡查外人夫十六名ナリ此ノ白兵戰ニ因リ敵蕃ニモ多數ノ死傷者ヲ出シタルカ如ク屍體八、銃四挺、槍十八本ヲ遺棄セリ

同抄錄（五月五日）

一昨三日長倉副長ノ衝突シタル際ニ於ケル死傷ニ關シ溪頭蕃マナウヤン社蕃丁三名カ、マカジーヘン社ニ立寄り語リタル所ナリトテ、ムカタータ社頭目ノ渡邊囑託ニ告ケシ所ニ據レハ、マナウヤン社頭目ヤボムツブー外五名戰死蕃丁三名負傷セリト

同抄錄（五月五日）

昨日石川、吉田兩分隊ハ北港溪積ニ蕃人ノ死體四ヲ處理シタルカ又マカジーヘン社北方七百米突ノ小溪ニ傍ヘル處ニ敵蕃ノ死體四ト銃器四挺トヲ發見ス此ノ位置ハ瀬戸部隊ヨリ長倉副長一行ニ對スル援護射撃ヲ集中シタル地點ニ相當ス

同抄錄（五月八日）

昨七日小官ムカタータ高地ニ到着後、同社頭目バーランハユン、カ渡邊囑託ニ申告スル所ニ據レハ「去三日長倉副長一行ノ兇蕃ト衝突シタル際、溪頭蕃マナウヤン社蕃丁ユーミン、マルン、ナル者ハ兩脚脛部ヲ斬拂ハレ破ニ仆レタルヲ他ノ蕃丁之ヲ扶ケタルモ竟ニ死亡セリト當時長倉副長ハ日本刀ヲ揮ヒ部下ヲ指揮シツツアリシコトハ先頭ニ在リシ爲道ルルヲ得タル藤間巡查ノ目撃セシ所ナルヲ以テ同副長ノ殞シタルモノト思量ス、サラマオ蕃カイヤイ社蕃丁タツクンバーゲン、ナル者溪頭蕃マナウヤン社蕃丁ヤボウガス、ノ現場ニ強レ居レルヲ日本人ト見誤リテ之ヲ誡首シ歸途檢メ見テ其ノ味方ナルヲ知り驚テ之ヲ棄タル事實アリト曰フ由テ渡邊囑託ハ現場ヲ檢シタルニ果シテ首級ナキ蕃人ノ屍體アリタリ又囑託ノ調査スル所ニ據レハ溪頭蕃マナウヤン社ノ戦死者ハ勢力者ヤボベエヘク外四名負傷者ハ同社頭目ヤボムツブ外三名ナリ

七日午後二時收容蕃婦ヤユツタイスス、ノ近藤部隊根據地ニ出頭申告スル所ニ據レハ長倉副長一行ヲ襲ヒタルハ、サラマオ、シカヤウ兩蕃及溪頭蕃マナウヤン、ビヤナン兩社ノ蕃人ニシテ其ノ戦死者中既ニ判明セルハ、シカヤウ蕃三名、サラマウ蕃六名ニシテ負傷者ハ頗ル多ク其ノ數ハ未詳ナリト

同抄錄(五月十一日)

本日マテノ調査ニ據レハ敵蕃ノ戦死者ハ依田部隊ノ先頭ニ於テ三名、輸送隊及長倉副長トノ衝突ニ於テ二十名ニシテ尙多クノ負傷者ヲ出シ、シカヤウ、サラマオ兩社ノ老幼婦女ハ悲歎ニ沈ミツツアルモ今尙歸順ノ意ナク他ニ應援ヲ要ムルモ溪頭蕃ニモ多數ノ死者ヲ出シ且長倉副長ト衝突ノ際同士討ヲ爲シタルヲ不吉トシ來援スル者ナシト云フ

同抄錄(五月二十一日)

ムカブール社蕃丁ハ、サラマオ蕃ヲ訪ヒ去十七日歸社セリ其ノ報告スル所ニ據レハ行動開始以來シ

カヤウ、サラマオ及溪頭蕃マナウヤン社ヲ合セ我カ隊ノ爲ニ殞サレタル者三十五名ニ達シ負傷者ハ殊ニ多數ナリ又マナウヤン社頭目ヤボムツブト、カ五月三日サラマオ蕃等ト共ニ長倉副長一行ヲ要撃シタル際斬ラレテ重創ヲ負ヒ歸社ノ途中死亡シタルコトハ事實ナリ

三日 北港溪ニ事有リシ以來各部隊ノ前面絶テ兇蕃ノ影ナク清野築寮等ノ工漸ク進ムト雖人夫ノ遁走相踵キ之ヲ補充スルコト意ノ如クナラス爲ニ物資ノ輸送頗ル困難ヲ極ム石橋隊長乃チ命令ヲ發シ北港溪上方石川分隊駐屯地以東ニ在ル部隊ハ各、隊員ヲ發遣シテ聯合輸送隊ヲ編成シ仲繼所ニ來リ諸物資ヲ受領セシムルコトトセリ

(附記)五月六日石橋隊長ノ物資輸送ノ困難ナル狀況ヲ報告シタル大意ハ左ノ如シ

今次ノ前進行動ニ際シ尤困難ヲ感シタルハ糧食彈藥及諸物資ノ輸送ナルコトハ既ニ數回報告シタル所ノ如シ其ノ主タル原因ハ人夫補充意ノ如クナラス且前線トノ距離甚タ遠ク而モ險難異常ナルニ在リ今茲ニ人夫補充困難ノ狀況ヲ陳ヘムニ行動開始ノ初、廳直轄及草鞋墩、集々兩支廳ヨリ募集シタル三百人ノ中、白狗ニ到達シタルハ百三十七名、第二回ノ補充百八十三名ノ中、到著シタルハ百十八名、第三回廳直轄及林圪埔、集々、草鞋墩ノ各支廳管内ヨリ補充シタル三百六十名ノ中、白狗ニ到著シタルハ二百六十五名ニ過キス此クノ如ク募集總數ノ四割ハ途中ヨリ逃走セルナリ其ノ原因ハ四月二十七日白狗ヨリ仲本部隊ニ向ヒタル敵蕃ト衝突シ其ノ翌二十八日患者輸送隊カ合流點ノ下方ニ於テ襲撃ヲ受ケ巡查隘勇ノ外人夫十一名ノ死傷ヲ出シ尋テ去三日長倉副長一行ノ衝突シタル際ハ人夫十四名ノ死者ヲ出シタル爲ニ一般ニ恐怖心ヲ懷キ募集地ヨリ白狗ニ到著スルマテ嚴重ナル監視ヲ附シ途中宿泊スル場處ニハ見張ヲ附シテ其ノ逃走ヲ防キ且一面ニハ保甲規約中ニ出役任務ヲ果ササル者ハ過怠處分ニ付ストノ項目ヲ追加セシメ又物資輸送ノ途中荷物ヲ投棄シ若ハ擔ヒタル儘遁走シタル者ニ對シテハ所轄支廳長ニ命シ相當ノ處置ヲ爲サシムル等苦心名狀シ難キモノアリ又輸送區間ハ從來

ト異リ距離甚々遠ク埔里社ヨリ、ハボン、ニ至ル七里餘ハ稍平坦ナルモ、ハボン、ヨリ白狗ニ至ル三里ノ間ハ舊ハボン、ノ峻坂ヲ踰エサルヘカラス白狗ヨリ戰線ニ至ル間ハ先年開鑿シタル、サラマオ道路ノ崩壊セル處少カラス木橋ハ腐朽又ハ蕃人ノ爲ニ毀壞サレ鐵線橋亦大部分ハ破損シテ大修繕ヲ施ササレハ交通ノ安全ヲ保シ難キ状態ニ在リ而モ數日來降雨歇マス物資ノ輸送一般ノ困難ヲ加フル如上ノ狀況ナルヲ以テ明六日以降輸送方法ニ變更ヲ加ヘ後方ヨリノ輸送ハ之ヲ合流點石川分隊ノ駐屯地ニ在ル仲繼所マテト爲シ其レヨリ前線ハ最寄ニ在ル數部隊ニテ聯合輸送隊ヲ組織セシメ同仲繼所マテ受領員ヲ派遣スルコトトセリ

七日 警部依田盛男ニ前進隊副長ヲ命シ警部青山繁太郎ヲ其ノ後任タラシメ之ヲ青山部隊ト稱シ近藤部隊ノ竹中分隊長ニ同部隊ノ分隊長ヲ命シ萩原警部補ヲ近藤部隊ノ分隊長ト爲シ竹中警部補ノ後ヲ襲カシム是日警部森山鐵太郎ノ率ウル臺中廳應援隊巡查二十名、隘勇五十名到着ス乃チ森山部隊ト命ケ近藤部隊ト交代セシム

十一日 石橋前進隊長隘勇線行動時日ノ延期ヲ稟申ス蓋シ兇蕃ノ反抗猛劇ニシテ月ノ十五日マテニハ所期ノ目的ヲ達シ難ケレハナリ

(附記)稟申書ノ全文ハ左ノ如シ

四月十八日付蕃理警第九八號ヲ以テ認可セラレタル白狗方面隘勇線前進ハ日夜工事ヲ督責シ其ノ進捗ヲ圖リツツアレトモ宜蘭廳下ノ溪頭蕃、來リテ、シカヤウ、サラマオ兩蕃ヲ援助シ蕃情一變シ彼等ハ益反抗ノ氣勢ヲ昂メタルカ如シ抑今次行動ノ唯一ノ輸送路タル、サラマオ道路ハ北港溪ニ傍ヒ開鑿セルニ由リ警戒上ノ不利尠カラス之カ爲ニ一時我カ隊ハ幾ト危殆ニ瀕セリ加之該道路ハ去四十二年開鑿シタル以來蕃情常ニ不穩ナルカ爲自然放棄ノ姿ト爲リ久シク之ヲ補修セス殊ニ客年ニ於ケル水害ト蕃人ノ破壞トニ因リ破損ノ箇處多ク交通困難ヲ極メ大砲彈藥其ノ他物資ノ輸

送意ノ如クナラサルニ際シ輸送路ニ前後二回ノ大蕃害アリ竟ニ強テ部隊附ノ人夫ヲ割キ輸送ニ當ラシムルノ已ムヲ得サルニ至リ伐採開路等ノ工事ニ影響スル所鮮少ナラス是等種々ノ干繋ニ由リ人夫ノ不足ヲ生セシノミナラス連日降雨ノ爲溪水暴漲シ豫定以外ノ地點四箇處ニ鐵線橋ヲ架設スルノ已ムヲ得サルニ至レリ尙又地形ト蕃情トノ關係アリテ監督所一箇所ヲ増設スヘキ必要生シ既定ノ日限内ニハ到底解決ノ見込立タサルニ付現在部隊人員及人夫ノ外伐採作業人夫一日四百人ヲ増加シ袋線ヲ完成セシメ度候條日限後即チ五月十六日ヨリ更ニ二十四日間ノ延期及人夫増加並鐵線橋四箇所架設ノ御認可ト共ニ之ニ要スル經費豫算額二萬八千五百七十四圓御配附相成度

右稟申ス

因ニ曰フ此ノ稟申書中、監督所一箇所増設云々トアルハ、マカナジ一高地ヲ指ス蓋シ最初ノ計畫

ニ依ル監督所ハ、ムカタ一北方高地及サラマオ大戰部ノ二箇所トシ曩ニ認可ヲ受ケタリシナリ

是日桃園廳警部山田久次郎ヲ仲本部隊長ノ後任タラシメ山田部隊ト稱ス

十七日 午前三時伊藤部隊屋嘉比分隊ノ掩堡ヲ守ル者、聲音寂々トシテ近ツキ來ルヲ聞キ之ニ對シテ銃ヲ放チタルニ應射五六發ノ後、闕トシテ聲ナシ天明往テ檢スレハ林中五、六人ノ足迹ヲ印セリ

昨夜來風雨益強烈ヲ加ヘ北港溪ノ水量凡二丈ニ上リ橋梁大半破損シ石川、渡邊、浮邊等分隊ノ掩堡相繼テ流失シ、ムカタ一北方高地ノ砲廠亦壞レ殊ニ八千尺内外ノ高地ニ陣セル青山、伊藤、山田各部隊ノ幄舎害ヲ被ルコト尠カラス火砲ノ搬移尤困ミ、サラマオ大鞍部ニ輸送セムトスル三吋速射砲ハ、ムカタ一タ高地ヨリ進ムコト能ハス然レトモ自餘ノ各砲臺ハ風雨ヲ冒シテ粗、整頓ヲ告ケ火砲ノ排置亦畢ル乃チ左ノ如シ

躑躅ヶ岡

七珊野砲一門

マシトバオン突出點

四斤山砲一門、迫撃砲一門

マカナジ一高地

七珊山門二門

圓山

九珊山砲一門、六珊山砲一門

ムカタ一タ高地

山野兼用砲二門

標高八、四八五高地

七珊山砲一門

サラマオ大鞍部

山野兼用砲一門七珊山砲一門(三吋速射砲ハ不日据付ノ豫定)

是日佐久間總督、石橋前進隊長ニ稿電シテ曰ク「前進隊ハ不良ノ天候ヲ冒シ不測ノ危地ニ入り克ク艱苦
闕乏ニ耐ヘ敵蕃ヲ擊破シ既ニ豫定ノ地域ヲ占領シ今ヤ將サニ最終ノ效果ヲ收ムルノ時期ニ入ラムトシ
日夜精勵、事ニ當ルヲ聞キ満足ニ禁ヘス自今彌益努力シテ事業ヲ大成セムコトヲ望ム」ト隊長答電シテ
曰ク「前進隊ニ對シ過分ノ褒詞ヲ忝ウシ感激曷ソ勝ヘム隊員一同益奮勵、閣下ノ盛意ニ副ハムコトヲ
期ス」ト

十八日 午前十時四十分兇蕃梶原分隊(青山部隊)ノ第七掩堡ヲ襲フ隘勇一名傷ヲ負フ銃砲迭發シテ之ヲ攘

フ

十九日 午後一時兇蕃潛ニ伊藤部隊西北ノ森林ヨリ近ツク隘勇某之ヲ知リ射テ其ノ一ヲ殛ス餘蕃潰走

ス

二十日 味爽三吋速射砲サラマオ大鞍部ニ搬到ス即チ兇蕃築ク所ノ鞍部北面稜線道路上ノ掩堡及カヨ

社ヲ轟撃ス

(附記)石橋隊長砲撃ニ關スル報告ハ左ノ如シ

昨十九日ムカタ一タ高地仲繼所ヲ發送シタル三吋速射砲ハ數日來ノ豪雨ノ爲道路損壞ノ場處甚タ
多ク而モ之ヲ補修スルノ暇ナク之カ運搬ニハ非常ノ困難ヲ極メタルモ、サラマオ方面ニ對スル計
畫上猶豫スヘカラサルヲ以テ昨夜ハ全力ヲ傾注シテ徹霄運搬ニ力メ今朝未明ニ至リ初メテ、サラ

マオ大鞍部ニ到達セシムルコトヲ得タリ抑大鞍部ノ北面道路ニ傍ヘル稜線上ノ大掩堡ハ兇蕃カ我
カ隊ノ進撃ヲ扼止セムカ爲十餘日ノ勞ヲ吝マス築ケル所ニ係リ實ニ其ノ運命ヲ決スヘキ唯一ノ要
害ナリ從來未タ巨砲ノ威力ヲ知ラサル、サラマオ蕃ニ對シテハ先ツ此ノ掩堡ノ破壊的砲撃ヲ加フ
ルハ尤緊要事ト認メ本日午前十時ヨリ十一時ニ涉リ克ク山野兼用砲一門及七珊山砲一門ヲ連發シ
タルニ著彈良好ニシテ十分奏功シタルモノト認メラレタリ由テ更ニ三吋速射砲ヲ以テ、サラマオ
蕃ノ主社タル、カヨ社ニ對シ砲撃ヲ加ヘタルニ是亦砲彈ノ過半ハ蕃社ニ落達シ多少ノ損害ヲ與ヘ
タルモノト認メラル當該地點ハ廣漠タル、サラマオ蕃唯一ノ耕作地ナルニ由リ此ノ方面ニ向ヒ散
布攻撃ヲ加フレハ彼等ニ與フル苦痛ハ甚大ナルモノアルヘキヲ以テ引續キ砲撃中ニ在リ

二十二日 山本警視ムカタ一タ高地ニ來ル蓋シ大津蕃務本署長ノ命ヲ受ケ高塚警視ト交代セルナリ是
ヨリ先石橋隊長ハ、ムカタ一タ高地ニ至リ地形ヲ觀察シテ以爲ラク、三吋速射砲ヲ連發シ、カヨ社ヲ
撃ツモ其ノ距離五千八百米突ニシテ死命ヲ制スルニ至ラス如カス先ツ、マレツバ蕃ヲ操縦シテ之ヲ解
決セムニハト即チ山本警視ト議リ、ムカタ一タ社頭目ターランハヨソ外一名ヲ遣ハシ、ムカブー
ル、マカジーヘン社南社ノ頭目勢力者ヲ招致セシム

二十四日 マレツバ蕃マカジーヘン社頭目シユーエンピロ外二名、ムカブーブル社頭目ヤウイノ一ミ
ソ外三名、ムカタ一タ社頭目ターランハヨソ外七名ムカタ一タ社高地ニ來ル石橋隊長之ヲ引見シ告テ
曰ク「往キニ汝等ノ所有銃器ヲ收ムルコト前後二回ニ及ヘリ而ルニ頃口汝等ノ社衆中ニ、シカヤウ、
サラマオ兩兇蕃ニ黨シ我カ隊ニ反抗シタル者アリ料ルニ必ス銃器ヲ密藏スルナラム縱使其ノ數ハ多カ
ラサラシムルモ官ヲ欺キ官ニ抗スルノ罪ハ宥スヘカラス故ニ逕チニ捕フルニ砲撃ヲ以テセムトシタル
ニ通譯等玉石共ニ焚ケムコトヲ憐ミ汝等ノ爲ニ哀ヲ乞ヘリ由テ姑ク之ヲ寬假シ其ノ自新ヲ容ルス宜シ
ク之ヲ提供ジテ罪ヲ謝スヘシ」ト衆蕃唯々トシテ命ヲ承ケ蕃丁ヲシテ取來ラシメムコトヲ諸フ即チ之

ヲ聽ルシ頭目六名ヲ留メテ質ト爲ス翌日諜報アリ曰ク「ムカタータ、ハ舉社皆通シ蕃丁ハ、マカジー
 ウ社總頭目ノ家ニ會同シ去就未タ決セス」ト是ニ於テ近藤警部及渡邊囑託ニ附スルニ巡查數名ヲ以テ
 シ往テ之ヲ曉シ老幼婦女ヲシテ歸社セシメタルニ午後二時ニ至リ、ムカタータ社五挺(レミントン一
 挺、モーゼル二挺、管打銃一挺、火繩銃一挺)ムカブール社三挺(モーゼル一挺、管打銃二挺)マカジー
 (ヘン社五挺(モーゼル一挺、管打銃二挺、火繩銃一挺)ヲ提供シタルモ尙殘存セル疑アリ更ニ之ヲ納メム
 コトラ命ス、頭目ターランハヨシ、社ニ還テ勸說セムコトラ乞フ乃チ其ノ二女ヲ質トシ之ヲ縦ツ既ニシ
 テ又八挺(マカジー社モーゼル二挺、レミントン二挺、ムカタータ社モーゼル一挺、管打銃一挺、火繩銃
 一挺、ムカブール社モーゼル一挺)ヲ提出セリ而モ未タ數ニ符セズ即チ大鞍部及圓山砲臺(内田部隊駐屯地)
 ヨリ威嚇砲撃ヲ加ヘタルニ二十六日午後ムカタータ社三挺(レミントン二挺、火繩銃一挺)ヲ納メ翌朝
 ムカブール社又一挺(管打銃)ヲ納メ復、餘ス所ナシト告ク則チ近藤、渡邊ノ二人ヲシテ其ノ實否ヲ探
 ラシメタルニ果シテ其ノ言ノ如シ是ニ於テ抑留中ノ頭目ヲ釋放ス

(附記)石橋隊長ノ銃器押收ニ關スル報告ハ左ノ如シ

二十五日 午後一時、同九時ノ兩回、マレット各社ニ對シ猛烈ナル砲撃ヲ加ヘタルニ曩キニ銃器
 ヲ携帶シタル儘逃走シタル、ムカブール社蕃丁タアナサウ、ハ今朝(二十六日)管打銃一挺ヲ
 提供シ頭目、蕃丁、蕃婦等ハ異口同音ニ最早社内ニハ一挺ノ銃器ナシト言フヲ以テ蕃情ニ通曉セル
 近藤警部、渡邊囑託、近藤巡查ヲシテ白狗、マレット收容蕃ニ就キ之ヲ内偵セシメ其ノ復命ヲ綜合
 スルニ最早該三社ニハ隱匿銃ナキコトニ一致セリ即チ、マカジーヘン社ハ戸數二十ニ對シ明治四
 十二年十一挺、四十四年十二挺、今回十挺計三十三挺ムカブール社戸數二十ニ對シ明治四
 挺、四十四年十四挺、今回五挺計二十三挺、ムカタータ社戸數十七ニ對シ四十二年八挺、四十四年九
 挺、今回八挺計二十五挺ヲ提出シタルモノニシテ今次提出シタル銃器ノ出處ヲ探查スルニ前回ノ

押收後ニ於テ、シカヤウ、サラマオ方面ニ子女ヲ嫁スルニ際リ聘物トシテ之ヲ得、若ハ金錢物品
 ト交換シタルモノナルコト判明セリ由テ將來駐在所ヲ該社内ニ建設スル計畫モアルヲ以テ二十七
 日抑留中ノ頭目ヲ解放シ之ト同時ニ竹中警部補ニ隊員若干ヲ附シ、ムカブール社ニ駐在セシム
 ル豫定ナリ

石橋隊長ハ、マレットバ蕃已ニ解決シタルヲ以テ更ニ白狗蕃ノ殘存銃器ヲ押收セムト欲シ之ヲ山本警視
 ニ議リ該蕃ヲ白狗監督所ニ召集シ二十七日依田副長ヲシテ往テ之ヲ諭シム、マカナジ社頭目シユ
 ヤンチワス外六名、マシトバオン社頭目タイモアライ外五名言ヲ左右ニ托シ依違決セズ即チ、マカ
 ナジ社蕃人七名ヲ抑留シ其ノ他ハ若シ命ニ忤ヘハ砲撃スヘシト告ケ之ヲ放還ス是日石橋隊長ハ降雨
 連日土工進マサルノ故ヲ具シ隘勇線前進行動期日ヲ六月五日マテ延期セムコトラ稟請ス越テ三十日之
 ヲ認可ス是ヨリ先白狗蕃ニ銃器ノ提出ヲ命スルヤ社議鼎沸シタルモ之ヲ拒メハ巨彈ノ飛來セムコト怖
 レ竟ニ命ニ服スルノ議ヲ定メ、マシトバオン社先ツ八挺(モーゼル七挺、火繩銃一挺)ヲ提出ス然レト
 モ自餘ノ各社ハ未タ之ヲ納メズ即チ各砲臺(マカナジ高地、圓山、ムカタータ高地)ヨリ之ヲ砲撃セシ
 メ更ニ隊員ヲ遣ハシ、マカナジ社ノ蕃屋四戸及倉庫七棟ヲ火カシム
 三十日 午後テビルン社頭目以下二十九名前進隊本部ニ來リ銃器七挺(モーゼル四挺、レミントン一挺
 外二挺)ヲ提出シ社内復、一挺ヲ餘ササルニ由リ砲撃ヲ中止サレタシト請フ乃チ從來提供シタル數ヲ查
 スルニ既ニ殘存セルモノナキヲ以テ之ヲ遣歸ス(テビルン社ハ四十二年四十一挺、四十四年八挺、今回
 七挺共計五十六挺ヲ提出セリ)既ニシテ、マカナジ社亦十九挺(モーゼル五挺、レミントン一挺、火
 繩銃九挺、管打銃四挺)ヲ提出ス是日黃昏大甲溪上流ニ移住セル、テビルン社蕃丁バワンターナ、白狗
 監督所ニ來リ銃一挺ヲ納メテ曰ク「我カ居ル所本社ト相距ルコト甚タ遠ク爲ニ社衆ト同時ニ之ヲ提供
 スル能ハサリキ幸ニ寛恕ヲ賜ヘ」ト

六月一日 マカナジ社、銃器二挺ヲ納ム該社ハ白狗蕃中頑冥ヲ以テ稱セラレモ明治四十二年來七十四挺(四十二年三十挺、四十四年二十六挺、今次十八挺)ヲ提出シ往キニ査スル所ノ數ト符セサルモノ僅ニ七、八挺ノミ而モ其後死亡者ニ殉葬シタルモノ三挺ト、サラマオ社及大甲溪上流ニ竄走シタル五名ノ携フル所ノ五挺トヲ合スレハ已ニ殘存スルモノナキカ如シト雖、殉葬ノ實否尙疑フヘキヲ以テ近藤部隊員ヲシテ墓地ヲ檢セシメタルニ果シテ事實ナリキ是等銃器押收ノ報告日々府ニ至ル蕃務本署長、理蕃課員ヲシテ之ヲ調査シ石橋隊長ニ照會セシメテ曰ク「本年四月下旬貴廳蕃務課長ノ提出ニ係ル銃器調査書中、白狗、マレット、兩蕃ノ隱匿銃器數ハ合計百三十四挺ニシテ内モーゼル百七挺アルノミナラス今回ノ戰闘中我カ隊員ノ掠奪サレタルモノ亦尠カラサルヘシ而ルニ昨日マテニ提出シタル、モーゼル銃ハ、マカナジ社二十七挺ニ對シテ五挺、ムカバール、ムカブール二社ノ十挺ニ對シテ二挺、ムカタータ、マカジーヘン二社ノ九挺ニ對シテ各三挺宛ナルニ過キス之ニ反シ管打銃、火繩銃等ノ提出ハ比較的多キヲ見ル是レ精銳ナルモノハ之カ提出ヲ避クルモノノ如シ白狗、マレット方面ニ於ケル銃器押收ハ今次ヲ以テ第三回ト爲ス故ニ最後ノ解決ヲ告グル目的ヲ以テ此ノ際特ニ斷乎タル態度ニ出テ一挺タリトモ隱匿ノ餘地ナカラシムル様手配シ意見ヲ具シ返電セラルヘシ」ト石橋隊長六月二日ヲ以テ答電ヲ發ス乃チ左ノ如シ

白狗、マレット兩蕃ニ對スル銃器ノ押收ハ既ニ三回ニ及ヒ今次ノ調査ニ當リテハ益巧ミニ隱匿シ其ノ實數ヲ知ルコト頗ル困難ナリシモ各方面ヨリ探查セシメ其ノ情報ヲ綜合シ且抑留中ノ頭目以下ニ對シテハ特ニ嚴重ナル査問ヲ爲シ又密藏ノ疑アル蕃社ニハ砲火ヲ集中シ其ノ竄匿地ニ壓迫ヲ加ヘ厭クマテ彼等ノ心膽ヲ寒カラシメ一面蕃人間諜ヲ派シテ殘存セルモノヲ取調ヘタル結果ハ左ノ如シ

- 一、同一銃器ノ所有主ニシテ最初ニ父ノ名ヲ記シ其ノ死歿後別ニ子ノ名ヲ記シタル爲、臺帳上二挺トナレルモノアリ是レ密偵タル蕃人ノ復命ニ據リ記帳シタルニ由ルモノニシテ當時ノ事情警察官

直接ノ調査ヲ許サザリシカ爲ナリ

- 二、兄弟又ハ母ノ名ヲ呼ヘル爲相違ヲ生シ一挺ノ銃器二挺トナレルモノ有リ其ノ理由ハ前項ニ同シ
- 三、死亡者ト同シク埋葬シタルモノアリ
- 四、銃器携帶ノ儘サラマオ方面ニ逃走シタル者アリ
- 五、收容蕃人ト線外蕃人ト相互感情ノ衝突ヨリ銃器數内偵ノ際曖昧ナル復命ヲ爲シタル結果管打銃ノ如キモノヲ精銳ナル銃器(モーゼル、レミントン等ノ部ニ)トシテ臺帳ニ掲上セルモノアリ
- 六、蕃人ハ早晚銃器押收ノ事アルヲ覺知シ自己ヲ利スル爲他社ニ至リ己レノ、モーゼル銃ヲ以テ火繩銃ニ交換シ來リタルモノアリ

如上各項ノ關係ニ因リ臺帳面ニ掲記スル銃器ノ員數ニ甚シキ差異ヲ生スルニ至レリ殘存銃器ノ押收ニ關シテハ已ニ屢報告セシ如ク獨リ砲火ノ威壓ニ止マラス蕃屋穀倉ヲ燒夷シ抑留蕃人ヲ拷問シ死者ニ副葬セリト申立ル者アレハ其ノ實否ヲ確ムル等所有手段ヲ盡シツツアリ掠奪セル村田銃ハ未タ一挺モ提供セスト雖是ハ我カ隊ニ反抗シ其ノ儘遁竄歸社セサル者多キニ由リ直ニ之ヲ押收スルヲ得サルモ彼等モ耕作物ノ關係上早晚復歸スヘシ是等頑冥ナル徒輩ニ對シテハ解隊後ト雖之カ引揚ヲ續行シ目的ヲ達成スヘク計畫ヲ立テ居レリ

白狗、マレット兩蕃ノ形勢已ニ定マルト雖、シカヤウ、サラマオ兩蕃ハ天設ノ險ヲ負ミ頑抗屈セス而モ今次ノ隘勇線前進ハ初ヨリ之ヲ廓清スヘク計畫ヲ樹テタルニアラス即チ石橋隊長ハ大津蕃務本署長ニ電報シテ曰ク「ムカタータ高地ヨリ山田部隊ヲ經テ伊藤部隊ニ至ルマテノ地形ハ尤險惡ヲ極メ線路意外ニ延長シ爲ニ分遣所、隘藪配置ノ間隔ハ平均凡六町ニ及ヒ加之是地一帶飲料水ニ乏シク隘勇線トシテ之ヲ維持セムコトハ頗ル難事ニ屬ス殊ニ白狗、マレット、ハ大部分解決シタル今日ナルヲ以テ、シヤカウ、サラマオ兩蕃ニ對スル防禦施設トシテハ寧ロ、サラマオ大鞍部ヨリ、ムカタータ仲繼所ニ

至ル間ニ於テ嚴ニ守備ヲ修メサルヘカラス是レ前後兩回、北港溪底ニ於ケル大蕃害ニ顧ミ般鑑遠カラサルナリ而モ近時彼等兩蕃ノ颯言スル所ニ據ルモ亦此ノ方面ヲ襲ハムトスルモノノ如ク豫定ノ人員ヲ以テシテハ此ノ間ノ配置ヲ遺憾ナラシムコトハ容易ニアラス故ニ寧ロ之ヲ撤回シ、サラマオ大鞍部ヨリ、ムカタータ仲繼所ニ至ル溪底線路ノ警戒ヲ周到ニシ彼等ヲシテ我カ備フル所ノ嚴且密ナルヲ目撃シ自ラ顧ミル所アラシムルニ如カス由テ延期認可日限竝既定豫算内ニ於テ工ヲ畢ルヘク實行ニ著手シ之ニ因リテ撤退スヘキ、分遣所及隘寮ハ之ヲ、ムカタータ高地ヨリ、サラマオ大鞍部ノ間ノ新線ニ配置シ囊狀隘勇線ヲ形成セムトス電報御許可ヲ乞フ」ト本署長答電シテ之ヲ山本警視ニ議ラシム翌日隊長又電請シテ曰ク「豫定線ノ地形ハ嶮岨處々ニ横ハリ到底現在ノ定員ニテハ之ヲ維持シ難シ殊ニ目下ノ蕃情ニ顧ミレハ大鞍部ヨリ青山部隊ヲ經テ、ムカタータ高地ニ至ル間ノ警備ヲ充實スルハ焦眉ノ急ナリ由テ此ノ際之ヲ撤收スルヲ得策ト認メ山本警視トモ擬議ノ上稟請シタル次第ナリ若シ強テ舊線ヲ維持セムトスレハ警部補一名、巡查百名ヲ定員外トシ現在ノ應援隊員ヨリ増員セラレサレハ線ノ維持ヲ保スヘカラス是非前電ノ如ク實行シタシ特ニ御詮議ヲ乞フ」ト本署長乃チ之ニ同意ス

(附記)隘勇線ノ一部變更ニ關シ山本警視ノ大津蕃務本署長ニ致シタル電報ハ左ノ如シ
 石橋前進隊長ノ電報稟申ニ係ル隘勇線一部變更ノ件ハ小官トモ協議濟ニテ今日ノ場合適當ノ措置ト思惟セラルルニ由リ至急認可方御取計ヲ乞フ變更ノ必要ナル理由ハ左ノ如シ
 一、小官サラマオ鞍部ニ至リ詳細調査シタル結果ニ據レハ是マテ砲隊カ、サラマオ蕃カヨ社ナリト思料シ砲撃ヲ加ヘツツアリシハ其ノ實カヨ社ノ開墾地佃寮ノ一部ニシテ各方面ヲ十分ニ伐採セシメタルモ其ノ本社ハ望見スル能ハス唯大體ノ位置ヲ想像シ得ルノミニテ射撃ノ效力ハ十分ナラス僅ニ、カヨ社ノ一部タル四戸及テンゴ社ノ四戸視界ニ入ルニ過キス從テ現在ノ位置ニ於テ、サラマオ、シカヤウ兩蕃ヲ屈服セシムコトハ到底不可能ナラム然レハ該蕃社近ク前進

スレハ目的ヲ達シ得ヘキカト言フニ彼等ハ比較的開墾地ヲ有スルコト多カラサルニ由リ他ニ移住スルモ其ノ苦痛ハ大ナラス我カ追窮ニ遇ヘハ溪頭與蕃ニ移住スルヤモ測リ難シ又餘リ深入ニ過クレハ太魯閣タウツアア等ノ蕃人ト衝突ヲ惹起スルノ虞アリ故ニ之ニ對シテハ最少ノ人員ヲ以テ之ニ備ヘ彼ヲシテ乘スヘキノ隙ナカラシメ一面白狗マレツバ兩蕃トノ交通ヲ遮斷スレハ竟ニ之ヲ壓服シ得ルニ至ラム
 二、現在線ノ一部ハ之ヲ撤スルモ、右兩蕃ノ交通ヲ遮斷スル效力ニハ大差ナシ現在ノ儘ニテハ南投應ノ定員ニ二百名ノ巡查ヲ増スモ尙確實ニハ警備シ難シ
 三、撤退線ハ標高八千四百餘尺ノ高地ニテ後方ニ斷崖絶壁アリ前面ニ密林深叢アリテ警備スルコト甚タ難ク殊ニ飲料水ハ一日一回溪底ヨリ運搬シ得ルニ過キス而モ濃霧常ニ起リ寒氣亦強ク永續ノ見込ナシ

大津蕃務本署長ノ答電ハ左ノ如シ
 新設隘勇線一部ノ撤退ニ關シ再ヒ貴官竝山本警視ノ電報ヲ領ス本件ニ就テハ、サラマオ、シカヤウ兩蕃ニ對シ、ムカタータ以北ノ新線ヲ確實ニ維持シ得ル如ク配置スルヲ條件トシ貴官ノ意見ニ同意ス

二日 夜半ヨリ三日マテニ、ベルモアン、ムカムジャウ、ムカブール各社ヨリ銃器十七挺ヲ提出シ幾ト剩ス所ナキニ至ル石橋隊長乃チ命シテ抑留蕃人八名ヲ放還ス
 (附記)ムカムジャウ外二社ノ銃器提出ニ關スル石橋隊長ノ報告ハ左ノ如シ
 ムカムジャウ、ベルモアン、ムカブール社ニ對シテハ引續キ嚴命ヲ下シ或ハ威嚇シ或ハ懇諭シタルニ昨夜半ニ至リ、ベルモアン社ヨリ、モーゼル銃四挺、火繩銃二挺ヲ提出シ本日午前十一時ムカムジャウ社ヨリ、モーゼル銃、火繩銃各一挺、ムカブール社ヨリ、スナイドル銃、火繩銃各

一挺、同午後五時ムカムジャウ社ヨリ、モーゼル銃六挺、ムカブーブル社ヨリ、モーゼル銃一挺ヲ提供セリ臺帳面ニハ重複其ノ他ノ誤記アリ、ベルモアン社ハ已ニ完納セリ、ムカムジャウ、ムカブーブル兩社ニハ尙殘存セルモノ七挺アル計算ナレトモ此ノ内二挺ハ森永巡查ヲ殺害シタル兇蕃ノ携帶逃走セルモノニ係リ其ノ他モ行動開始ニ先タチ、マシトバオン溪上流ニ遁竄セル者ノ所持セル所ナルニ由リ頭目及其ノ親戚ヲ利用シ本夜中ニ必ス提出スヘク意ヲ含メテ入山セシメタリ以上ノ如ク、ムカムジャウ社方面ノ大勢既ニ定マリタルヲ以テ、數日來抑留中ノ、蕃人八名ハ本日午後四時三十分曩ニ各社ニ與ヘタルト同様ノ訓戒ヲ加ヘ之ヲ釋放シタリ

四日 午前十一時ムカムジャウ社頭目等モーゼル銃五挺、レミントン銃一挺ヲ提出ス初ヨリ收ムル所八十三挺ニシテ各般ノ工事粗、成ルヲ告ケ物情亦安シ是ニ於テカ白狗、マレットバ平ラク

五日 解隊ノ式ヲ埔里社ニ舉ルヤ佐久間總督、石橋前進隊長ニ稿電シテ曰ク「前進隊長ハ日夜盡瘁、既ニ事業ヲ完成シ今將サニ解隊セムトスルノ報ニ接シ深ク之ヲ欣ヒ茲ニ其ノ勞ヲ犒フ」ト

マリコワン方面隘勇線前進

○前進計畫並行動開始前ノ措置 新竹廳下樹杞林支應管内太田山事變(上卷太田山事變記事參照)ニ對スル處置ハ大正元年十月一日ヲ以テ一段落ヲ劃シタルモ、マリコワン蕃ハ兇頑依然、自ラ新タニスルヲ知ラス而モ、キナジー蕃ノ之ヲ構煽スルアリテ蕃情日ヲ逐テ險惡ナルノミナラス動モスレハ輒チ、ガオガン蕃ヲ使嗾シテ亂ヲ作サシメムトス則チ新竹廳長家永泰吉郎ノ稟申ニ係ル隘勇線前進計畫ヲ實行セシムルノ議ヲ決セリ其ノ計畫ノ大要ハ蕃務總長統督ノ下ニ新竹廳長ヲシテ七個部隊ヲ編成セシメ其ノ一半ヲ左翼隊ト爲シ警部江口良三郎之ヲ率キ李嶼山監督所直下ヨリ東南下シテ、マリコワン路ニ至リ他ノ一半ヲ右翼隊ト爲シ警視永田綱明之ヲ率キ太田山砲臺下ヨリ西南下シテ又該路ニ

至リ左岸ヲ廻リテ蕃社ノ幾部ヲ包容シ兩隊此ニ連絡シ以テ、マリコワン蕃ヲ制壓シ兼テ、キナジー蕃削定ノ地ト爲サムトスルニ在リ

(附記)九月二十四日家永新竹廳長ノ提出シタル、マリコワン方面隘勇線前進計畫書ハ左ノ如シ

一、隘勇線前進ノ理由

所屬樹杞林支應管内マリコワン蕃ハ明治四十四年中李嶼山方面隘勇線前進ノ結果始メテ歸順ヲ哀願シタルモ其ノ大部分ハ今尙隘勇線外ニ占居スルカ故ニ叛服常ナク屢李嶼山方面隘勇線内外ニ出草シ或ハ警備員ヲ傷ツケ或ハ腦丁ヲ害シ未タ歸順ノ實ヲ見ルニ至ラス是レ畢竟彼等ノ背後ニハ、キナジー及タバホ等ノ兇蕃アリテ陰ニ陽ニ之ヲ煽動スルニ由ル而シテ右キナジー蕃及タバホ蕃ト、マリコワン蕃トハ常ニマリコワン溪岸ヲ往復シ迭ニ相聲援シ以テ兇暴ヲ逞ウスルノ状態ナルヲ以テ今回同支應管内李嶼山隘勇監督所ヨリ同所南方稜線ニ傍ヒテ、マリコワン溪岸ニ下リ、ウヲオ社ヲ過キ同溪ニ沿ヒテ、キリホー社ヲ包容シ更ニ對岸ナル、シブツケ社ヲ扼シ右折シテ太田山南方稜線ヲ上リ同砲臺ノ下方ニ於テ現在線ニ連絡スル突出線ヲ作り彼等ノ連絡ヲ斷チ以テ後山マリコワン蕃ノ解決ヲ速ナラシメムトス

二、前進豫定線並撤回スヘキ線路ノ延長

前進豫定線路ノ延長、四里二十七町(圖上ノ延長三里六町)

三、監督所以下ノ數及配置定員

- 監督所 二 個 所
- 分遣所 二十九 個 所
- 隘寮 五十七 個 所

配置人員
 警部補 二名
 巡查 六十八名
 計 二百八十二名
 備考 二百八十二名

巡查ハ監督所二十名、分遣所二名トス

隘勇ハ監督所二十名、分遣所及隘寮二名宛トス

増員中警部補二名ハ現在配置定員(定員外配置ヲ含ム)ヲ以テ繰合スルヲ得ルモ巡查及隘勇ハ新
 タニ増員スルヲ要ス

隘勇八十六名ハ前進行動終結後蕃情靜穩ニ歸スルマテ定員外トシテ配置スルヲ要ス

四、前進ノ難易

前進地ハ、マリコワソ蕃ウライ、ウーラオ兩社ノ蟠踞地域ニ侵入スルモノナルカ故ニ多少ノ犠牲
 ヲ出ササルヲ得サルヘシト雖夜間ヲ利用シ各隊同時ニ目的地ニ進出シ敏速ニ之ヲ占領スレハ敵蕃
 ハ避難ニ忙ハシク爲ニ抵抗ヲ試ムルノ違ナク隨テ豫想外ノ結果ヲ得ヘキカト思惟ス而シテ占領後
 附近蕃社ヨリ一時ハ猛烈ナル反抗ヲ受ルコトアルヘキモ我カ防備ニシテ宜シキニ適スレハ目的ヲ
 達スルコト難事ニアラサルヘシ

五、包容面積

包容面積ハ零方里六三一弱(二、九四三、二九四坪、一〇〇三甲步)
 概シテ林野ナルモ其ノ内約三百甲歩ハ田畑ト爲スコトヲ得ヘシ

六、蕃人トノ關係

前進ニ關係アル蕃社ハ左ノ如シ而シテ左ニ掲ル外ガオヤン蕃ノ幾部ハ、反抗蕃ニ加擔スルモノト
 認メラル

蕃社名	戸數	人口		壯丁數
		男	女	
マリコワソ各社	一二三	二九四	三五八	二一六
タバホ各社	二〇	六八	七九	四九
サカヤチン各社	一四	三〇	二六	一九
キナジ一各社	七〇	一八九	二〇一	九八
タイヤカン各社	六〇	一六二	一七三	七一
合計	二八七	七四三	八三七	四五三

(以下省略)

十月一日 大津蕃務總長ハ高塚警視以下ヲ隨ヘ李嶺山本部ニ抵リ家永前進隊長ト議リ行動命令ヲ發セ
 シメ左右翼兩指揮官及各部隊長分隊長等ヲ召集シ訓示シテ曰ク「今次ノ舉タル、キナジ一、マリコワ
 ソ、ノ兩蕃ヲ制壓シ以テ後山マリコワソ蕃ノ解決ヲ速ナラシメムトスルニ在リテ其ノ效果ノ如何ハ直
 ニ北蕃全般ニ影響シ理蕃政策ノ消長ニ干繫スル所鮮少ナラス各員ハ宜シク熱誠努力スヘシ惟フニ明後
 日ヲ期シ事ニ從ハムトスル地域ハ山嶺ノ起伏、溪流ノ源委、之ヲ一望ノ中ニ收ムルヲ得ルカ如キモ處々
 ニ密林峻坂アリテ兇蕃ノ我ヲ邀撃スルニ適ス而モ我レハ生地ニシテ彼レハ熟境タリ故ニ專ラ輕舉ヲ警
 メサルヘカラス然レトモ一旦事ニ當ルニ及ヒテハ勇往邁進シテ敵鋒ヲ挫クヘキノミ若シ不ラサレハ却
 テ彼レノ爲ニ乘セラレムトス思ハサルヘカラサルナリ」ト家永隊又規誡スル所有リ其ノ行動命令ハ左

外ニ巡查六十一名、巡查補一名、隘勇八十六名、人夫九十一名、蕃人二十九名

八四八

第二部隊長 警部 和田 莊三郎
第一分隊長 警部補 岡崎 喜代治
第二分隊長 警部補 菅野 市之助

外ニ巡查五十五名、巡查補一名、隘勇八十七名、人夫九十五名
第三部隊長 警部 賀來 湖紫郎
第一分隊長 警部補 諫山 幸太郎
第二分隊長 同 浮邊 八右衛門

外ニ巡查五十九名、隘勇八十五名、人夫八十名
第四部隊長 警部 長崎 重次郎
第一分隊長 警部補 佐々木 龍治
第二分隊長 同 萩原 榮 袈裟

外ニ巡查五十六名、巡查補一名、隘勇八十八名、人夫八十名
第五部隊長 警部 福屋 陽 熊
第一分隊長 警部補 澤山 佐 吉
第二分隊長 同 馬場 要三 郎

外ニ巡查五十九名、巡查補一名、隘勇八十六名、人夫二十二名
第六部隊長 警部 内田 教四 郎
第一分隊長 警部補 佐藤 東 吉
第二分隊長 同 高橋 政 吉

外ニ巡查五十九名、巡查補一名、隘勇五十四名、人夫四十名

第七部隊長 警部 野田 貢
第一分隊長 警部補 島田 鶴 吉
第二分隊長 同 鈴木 利 助

外ニ巡查四十六名、巡查補一名、隘勇八十四名、人夫九十七名
電話第一班長 警部 佐藤 福三 郎

外ニ巡查十名、工夫一名、隘勇十四名、人夫五十六名
電話第二班長 警部補 吉田 德 治

外ニ巡查十名、工夫五名、隘勇十四名、人夫二十九名
赤十字救護班班長 警員 家 弓 鄭 三

以上共計二千三百八十五名
大津總長ハ行動ヲ開始スルニ先タチ二日三日ノ當夜バロン山及油羅山方面ニ炬火行列ヲ行ハシメ以テ擬勢ヲ張り敵蕃ヲ牽制セシム蓋シ兇蕃ハ已ニ我カ隊ノ動カムトスルヲ覺リ已ニ各方面ニ出沒シ隙ヲ窺フテ狙撃シ爲ニ佐々木警部補即死シ巡查一名隘勇三名人夫三名傷ヲ被リタレハナリ而シテ、テナタナ前面亦兇蕃ノ屯スルアルヲ以テ往キニ該方面ニ派遣サレタル軍隊ヲシテ之ヲ誘ヒ要地ノ略取ヲ容易ナラシメムト欲シ之ヲ湯地大隊長ニ電照セリ

○行動開始後ノ狀況 三日黄昏部伍ヲ整頓シ野田部隊ハ豫備隊ト爲シ之ヲシテ李嶺山嶺ニ留マラシメ他ノ六箇部隊ハ十時ヲ以テ發シ兩路ヨリ駢進ム即チ左ヨリスルハ和田、福屋、内田ノ三部隊、

右ヨリスルハ中田、賀來、長崎ノ三部隊ニシテ其ノ嚮フ所ハ荊榛途ニ塞リ峻坂面ニ當リ而モ寸前暗黒行
步殊ニ窘メトモ險ヲ攀テ難ヲ排シテ進ム翌四日午前五時四十分和田部隊ノ、マメ社ノ上方ニ至ルヤ兎
蕃出拒キ東西南ノ三面ヨリ薄ル我カ隊奮撃之ヲ卻ク隘勇三名、人夫二名之ニ死シ巡查隘勇人夫各一名
傷ヲ負フ福屋部隊モ亦襲ハレ隘勇一名戰歿シ巡查隘勇各一名創ヲ被リ内田部隊ノ人夫一名モ銃傷ヲ受
ク而シテ中田部隊ハ太田山西南ノ稜線ニ進路ヲ誤マレルヲ覺リ踵ヲ旋サムトスルニ當リ優勢ナル兎蕃
ニ要撃サレ吉田電話班ハ重圍ノ中ニ陥リ班員ノ一半ヲ亡ヒタルモ僅ニ一方ヲ潰シ馳セテ賀來部隊ニ投
セリ大岡、多久ノ兩分隊ハ力ヲ併セテ之ヲ猛撃スレトモ敵ハ益其ノ衆ヲ加ヘ俄頃ニ後方ヲ堵截サレ死
傷續出シ大岡分隊長又傷ツキ中田部隊遂ニ孤立ス是日總長專屬江口警部ヲ左翼指揮官、前進隊副長永
田警視ヲ右翼指揮官ト爲シ諸隊ノ統一ヲ計ラシム

五日 午前一時江口指揮官ハ福屋、和田ノ兩部隊ヲ督シ前ミテ五百米突前面ノ要地ヲ略取ス兎蕃殊死
シテ逆襲シ五、六名躍テ我カ掩堡ニ入ル我カ隊搏闘其ノ二名ヲ殲シテ銃ヲ奪フ兎蕃始メテ卻ク翌日更
ニ三百米突ヲ進ム黃昏永田指揮官ハ賀來部隊長ニ命シ挺前シテ中田部隊ニ連絡セシメ俱ニ其ノ根據地
ニ卻ク地形不利ナレハナリ是夜賀來部隊ハ進ムコト六百米突、壘ヲ列ネテ敵ト相對ス

六日 左右翼兩隊屢襲撃サル毎ニ之ヲ驅逐ス

七日 大津總長、前進隊長ニ訓令シテ曰ク「一、前進行動ノ初ニ當リ先頭部隊ノ過失若ハ地形ノ險難ニ
因リ行動ノ遲々タルニ乘シ敵蕃ハ業ニ已ニ我カ進路ニ蟬集シテ險要ニ據守シ動モスレハ士氣ノ萎靡セム
トスルハ今日ノ現狀ナリ茲ニ重テ本官ノ方針ヲ提示シ前進隊ニ對スル貴官ノ督責ヲ望ムハ尤緊要ノ事
ナリト信ス二、本官ノ方針ハ前進各部隊ハ蕃情ト天候トヲ察シ乘スヘキノ事機アル毎ニ我カ線ヲ延長
シ特ニ夜暗ヲ利用シテ躍進ヲ續行シテ左右翼兩隊ノ連絡ヲシテ一日モ速カナラシムトスルニ在リ
三、貴官ハ毎日兩翼隊ノ實行シタル前進若ハ作業及蕃情ノ如何ハ成ルヘク即日之ヲ本官ニ報告シ又兩

翼隊ヲシテ毎日實行セシメムトスル前進若ハ作業ノ豫定ヲ其ノ前夜マテニ報告セラルヘシト

八日 味爽中田、賀來ノ兩部隊相踵テ突進ス兎蕃壘ニ嬰リテ瞰射シ飛彈亂注ク我カ隊前ミテ其ノ數壘
ヲ拔キ之ニ據レハ左右ヨリ來リテ吶喊逆襲シ其ノ勢太タ猛ナリ我レ亦開シテ進ミ馳セテ鞍部ヲ降リ前
面ノ山腹ヲ攀ムトシ突如敵ノ包圍スル所ト爲リ後續部隊トノ連絡將サニ斷タレムトス諫山、氏平兩警
部補鑿戰シテ之ニ死シ巡查隘勇死傷甚タ多シ永田指揮官即チ野田部隊ノ一分隊ヲシテ赴援ハシム松山
警視馳セテ之ニ赴キ躬ヲ爆彈ヲ擲チ山本警視ハ砲手ニ代ハリテ臼砲ヲ連發ス兎蕃支フルコト能ハス稍
々トシテ退ク則チ此ニ部伍ヲ整ヘ鐵條網ヲ架シテ大ニ守備ヲ修ム

九日 暴風雨大ニ起リ樹ヲ拔キ沙ヲ飛ハシ幄舎堡壘及電話線等ノ被害甚多ク十日ニ至ルモ尙歇マス爲
ニ冷氣頓ニ加ハル兩翼指揮官ハ之ヲ冒シテ築壘ノ工ヲ督シ松山警視ハ左翼先頭ノ福屋部隊ニ來リ坑道
掘鑿ノ指揮ヲ取ル是日大津總長ノ家永隊長ニ發シタル訓令ハ左ノ如シ

一、目下左翼隊方面ノ蕃情ハ稍平穩ナルカ如シ是レ或ハ我カ隊ヲ誘出シテ大ニ損害ヲ與ヘントスル
詭計ナルヤモ知ルヘカラス由テ慎重ノ態度ヲ以テ之ニ臨ムヘキハ勿論ナリト雖嬰守ノ進ムナキハ
亦得策ニアラス

二、本官ノ希望ハ左翼隊ノ損害ヲ避ケム爲塹壕作業ニ著手シ部隊ノ進出ヲ計リ先ツ一突起部ヲ占領
スルニ在リ貴官ハ此ノ目的ヲ達セシムルニ必要ナル處置ヲ取ラルヘシ

三、松山警視ヲシテ即時出發左翼隊方面ニ派遣シ塹壕作業ノ實施ニ協力セシム

十日 前進隊長五日以來ノ損害ヲ計リシニ左翼隊ニ在テハ巡查三名、隘勇二名、人夫二名戰死シ右翼隊
ハ氏平、諫山兩分隊長及巡查十六名、隘勇三名、人夫二名戰死シ巡查十四名、隘勇十五名、人夫一名傷ヲ
被レリ(共計死三十、傷三十)蓋シ兎蕃ハ太田山事變以來ナロ山方面ニ在テ我勇隊ヲ支援シツツアリシ
軍隊ノ六日ヲ以テ撤退シタルヲ知リ銳ヲ我カ左右兩翼ニ萃メ接戰日夜歇マサルカ爲ナリ是ニ於テ總督

府ハ宜蘭、南投ノ兩廳ニ非常召集令ヲ發シ警部一名、警部補三名、巡查隘勇各五十名（以上宜蘭廳）警部補一名、巡查七十五名、隘勇五十名（以上南投廳）ヲ前進隊ニ赴援セシム

十一日 江口指揮官ハ福屋部隊ヲシテ百米突ヲ進ミ和田部隊ヲシテ前ミテ西南方ノ高地ヲ占領セシム

十三日 和田部隊ハ命令ノ定ムル所ノ稜線ヲ取リテ此ニ防備ヲ施シ福屋、内田ノ兩部隊繼テ進ミ亦險要ヲ略シテ和田部隊ニ連絡ス是日宜蘭廳應援隊警部岡本亮太郎、警部補明瀨英吉、海野萬之助、酒井喜代助以下巡查五十名隘勇五十名到著ス即チ第八部隊ヲ編成シテ岡本部隊ト命ケ明瀨、酒井ノ兩警部補ヲ其ノ分隊長、海野警部補ヲ右翼加來部隊ノ分隊長ト爲シ該部隊ノ鈴木警部補ヲ野田部隊ニ復ラシメテ其ノ分隊長ト爲セリ是ヨリ先大津總長ハ高塚警視ト俱ニ左右兩翼ノ占領地ヲ巡リ詳カニ地形ヲ察シ以爲ラク八日中田、賀來兩部隊ノ太田山西南方稜線ニ奮戰シタルヨリ以來敵ハ全力ヲ此ニ集メ我レヲ阻止セムトスルニ似タリ而モ是ヨリスル進路ハ林樹鬱葱、隊ヲ行ルニ利ナラス之ニ反シ北方ノ稜線ハ茅草ヲ生スルノミニシテ砲列ヲ布クヘク且彼ノ虛ニ乘スルヲ得ヘシ如カス部隊ノ編成ヲ更メ線ヲ此ノ稜線ニ進メムニハト則チ會議ヲ本部ニ開キ幹部員ノ意見ヲ詢ヒ計畫ノ一部ヲ變更セリ其ノ決議條項ハ左ノ如シ

- 一、十月十四日到著スヘキ南投廳ノ應援隊ハ之ヲ長崎部隊長ノ指揮下ニ置キ萩原警部補ト俱ニ新タニ長崎部隊ヲ編成ス
- 二、現在長崎部隊ノ隊員ハ長崎警部及萩原警部補並一部ノ隘勇ヲ除ク外ハ之ヲ中田部隊長ノ指揮下ニ置ク
- 三、左翼隊先頭附近ノ地ヨリ左方ニ轉進シテ中田稜線（南方稜線ヲ謂フ）ヲ下リ小森山（方眼圖ヒノ三六）ヲ輕テ連絡點ニ向ハシム
- 四、前項ノ轉進ハ野田部隊及長崎部隊ヲ以テ之ニ當ラシム

- 五、太田山ヨリ現在先頭部隊附近ニ至ル守備ハ中田及加來ノ兩部隊ヲシテ之ニ當ラシム
 - 六、右ノ轉進ハ十月十六日午前一時長崎部隊本部ヲ出發シテ行動ヲ開始セシム
 - 七、野田部隊ハ小森山ヲ經テ其ノ下方稜線上ノ突起部ヲ占領ス
 - 八、長崎部隊ハ野田部隊ニ續行シ絶エス之ト連絡ヲ保チ確實ニ小森山ヲ占領ス
 - 九、岡本部隊ハ汲水分遣所ト太田山トノ間ニ在テ何時ニテモ出發シ得ル如ク應援ノ準備ヲ整ヘシム
 - 十、左翼隊ハ成ルヘク速ニ前進ヲ敢行セシム
 - 十一、十二擲日砲ハ各部隊長ノ使用スルニ委カス
 - 十二、小森山ニ配備スヘキ七珊山砲一門ハ同高地ヲ占領スル部隊長ノ指揮ニ屬セシム
 - 十三、李峽山及太田山ノ砲臺ハ山本警視ノ指揮下ニ屬シ砲火ノ集中ニ由リ左右兩翼ノ前進ヲ掩護ス猪俣警部及砲手三十四名ヲ附ス
 - 十四、工兵作業ハ松山警視ノ監督下ニ屬シ其ノ實施機關トシテ作業手五名ヲ常時前隊本部ニ在ラシム
- 是日 賀來部隊ノ浮邊、高橋兩分隊ハ約百五十米突ヲ進ミ十有餘壘ヲ奪ヒ翌日路ヲ迂シテ一斷崖下ニ至ルヤ俄ニ兩側ノ竹林ヨリ狙射セラル對戰中、敵ハ火ヲ上風ニ縱チシモ我カ據ル所ノ地ニ及ハス即チ急ニ之ヲ擊破シ黃昏李峽溪附近ノ突起部ヲ略セムト欲シ高橋分隊ヲ先頭トシ浮邊分隊ヲ之ニ次カシメ小鞍部ニ至レハ竹釘ヲ密植セリ輒チ先ツ丸ヲ前面ノ壘ニ攢メテ守ル能ハサラシメ前ミテ突起部ヲ占領ス
- 野田部隊ハ十四日ノ命令ニ從ヒ進ミテ小森山ノ鞍部ニ至ル伏、倏チ路側ニ起リ彈雨亂下シ部隊長先ツ戰死シ島田、鈴木兩分隊長相踵テ巨創ヲ受ケ將サニ背後ヲ斷タレムトス長崎部隊長衆ヲ勵マシテ挺前シ力ヲ戮セテ之ヲ擊チ殺聲山ニ震フ兇蕃死戰刻ヲ移シタルモ竟ニ支フルコト能ハス死體ト銃トヲ棄テ

テ去ル是日左翼ノ佐藤部隊長ニ命シ石田分隊ヲ率キ右翼隊ニ轉セシメテ豫備隊ト爲シ自餘ノ分隊ハ本隊ニ合セシム

十七日 福屋部隊ハ突進スルコト凡百米突、部隊長ハ身ヲ挺シテ先頭ニ在リ銃聲猝カニ深響ニ起リ響ニ應シテ仆ル江口指揮官馳セテ之ヲ扶ケタルモ及ハス蓋シ丸ハ防彈具ノ末端ヲ掠メテ下腹ヲ洞ケルナリ蕃人ノ射撃ヲ善クスル此ノ類少カラス福屋部隊長ノ戰死スルヤ江口指揮官姑ク之ニ代ハリ松山警視ト與ニ坑道ノ掘鑿掩堡ノ築造ヲ督勵ス兇蕃來襲フコト數回毎ニ撃テ之ヲ走ラシ和田部隊ト連絡セリ十八日 賀來部隊ハ犬塚部隊及多久分隊ト李嶽溪ノ右岸ニ連絡シ永井、山田、下山ノ三部隊ハ相繼テ進ミ李嶽溪ヲ濟リ山腹ノ峭壁ヲ攀登ス灌莽蒙茸、十歩ノ外ヲ辨スル能ハス動モスレハ前後ノ連絡斷絶セムトス則チ佐藤部隊(豫備隊)ヲ増遣シテ之ヲ補フ是ニ於テ永井部隊突進シテ、ウライ山ヲ占領ス是山ハ此ノ附近第一ノ要衝ナリ既ニシテ兇蕃十餘名來窺フ我カ伏、射テ其ノ二名ヲ殪シ之ヲ攘フ未タ幾クナラサルニ兇蕃大舉襲至ル佐藤部隊長石田(佐藤)毛利(永井)ノ兩分隊長吉田電話班長等率先之ニ當ル兇蕃高キニ據リテ俯撃シ彈丸巨石交下シテ歇マス我カ隊死傷相踵ク偶、一彈毛利分隊壘内ノ手榴彈ニ中リ隘勇一名烈燄ニ包マレテ傷ヲ負フ吉田班長之ヲ扶ケテ外ニ出テ自餘ノ隊員亦之ヲ避ケムトスルニ方リ餘火飛ヒテ他ノ爆藥ヲ炸裂シ掩堡爲ニ壞ル兇蕃勢ニ乘シテ肉薄シ先頭永井部隊ト連絡遂ニ絶ユ此ノ火藥ノ爆破ニ因リ佐藤部隊長、毛利分隊長、吉田電話班長以下十名、創ヲ被リ戰死巡查五名、隘勇三名、銃傷九名ヲ出セリ而シテ山田部隊長等ハ先頭部隊トノ連絡ヲ取ラシメムト欲シ是夜十時其ノ配下ノ沼田川分隊及佐藤部隊ノ石田分隊ヨリ巡查三十名ヲ簡拔シ暗ニ乘シテ突進シ兇蕃ヲ驅逐セシム是ニ於テ連絡舊ニ復ス時二十九日午前一時ナリ是日犬塚部隊ハ地ヲ中田稜線ニ相シ七珊山砲二門、迫撃砲二門、臼砲一門ヲ搬移シテ砲列ヲ布キ李嶽山砲臺ト相對シテ轟撃ノ準備全ク整フ

二十日 永田指揮官ハ長崎部隊ノ屋嘉比分隊ヲ右翼、萩原分隊ヲ左翼ト爲シ長崎部隊長ト與ニ其ノ中

間ヨリ進ミ小森山ヲ占領シ屋嘉比分隊長ニ命シ更ニ前ミテ蕃屋及灌莽ヲ火カシム敵敢テ來抗セス二十一日 大津總長ハ高塚、山本兩警視ヲ隨ヘ右翼ノ前進地域ヲ觀察シタル後、單身歸府ノ途ニ上ル戰況ヲ總督ニ面陳セムカ爲ナリ

(附記)二十一日大津總長ノ總督ニ致シタル電報ハ左ノ如シ

一、小森山ハ今後右翼隊ノ進出スヘキ全地域ヲ瞰制シ得ヘキ要地ニシテ之ヲ占領シタルハ右翼行動上ノ一發展ナリ

二、小森山ニ於テハ目下堅牢ナル砲陣地構築中ナリ此ノ陣地ハ射界曠濶ニシテ右翼隊ノ進出地域ハ勿論ウーラオ社附近ニ於ケル、マリコワン溪畔及左翼隊進出路ノ右側一帯ノ地ニ對シテモ尙有效ナル砲撃ヲ加フルヲ得ヘシ

三、小官ハ今ヨリ急行一時歸府シ戰況及今後ノ方略ニ關シク報告スル所アラム

是ヨリ先戰鬪連日猛劇ニシテ部隊長、分隊長等ノ死傷相踵キ爲ニ之ヲ補缺シタルハ野田部隊長ノ後任ニハ中田部隊ノ分隊長犬塚正隆ヲ島田分隊長ノ後任ニハ新竹廳警部補實貞美ヲ鈴木分隊長ノ後任ニハ花蓮港廳警部補草村光政ヲ犬塚分隊長ノ後任ニハ新竹廳警部補南中道助吉ヲ福屋部隊長ノ後任ニハ左翼電話鐵條網班長佐藤福三郎ヲ馬場分隊長ノ後任ニハ桃園廳警部補石田貞助ヲ新竹隊警部補古賀政一ヲ本部附ニ任命ス

是日 和田部隊ハ菅野分隊ノ先頭ヨリ大鞍部ニ向ヒ進出ス兇蕃來逼ル臼砲ヲ發シテ之ヲ卻ケ佐藤部隊ト連絡ス而モ兇蕃ハ壘ヲ六十米突前ニ築キテ我ニ對シ隙ヲ窺ヒ四出狙撃ス毎ニ撃テ之ヲ卻ク

(附記)是ノ前進中、李嶽山本部ニ在リシ囑託吉野利喜馬ノ左翼隊前面敵壘ノ狀況ヲ手記セルモノ左ノ如シ

左翼隊ハ坑道作業ヲ續行シ常ニ敵蕃ノ逆襲又ハ狙撃ニ對抗シ連日若干地域ヲ占領ス此ノ方面ノ敵蕃

ハ要害ニ永久的有蓋掩堡ヲ構築シ據テ以テ防戦シ出テテ以テ來襲ス今其ノ掩堡構造ノ梗概ヲ記セム
 ニ胸壁ハ徑一尺餘ノ木材ヲ植エ其ノ厚サ三、四尺、之ニ數箇ノ銃眼ヲ穿テ上部ニハ竹ヲ駢ヘ之ニ層ヌ
 ルニ又徑尺餘ノ木材ヲ密排シ上層ニハ更ニ巨石ヲ配合シ粗朶ヲ以テ其ノ隙ヲ填メ前面ニハ竹釘ヲ植
 エ副防禦ト爲ス堡ノ長サ十間乃至三十間ニ及フモノ數座其ノ間更ニ石ヲ壘ミタル數座ノ小掩堡ヲ配
 置シ綴ルニ坑道ヲ以テシ相往來シテ援助スルニ便シ弦月形ニ我部隊ノ前面ニ據守ス此ノ堅牢ナル掩
 堡ハ我カ臼砲彈又ハ擲彈ノ威力ヲ以テ之ヲ壞ル能ハス從來敵蕃ノ取リタル方法ハ先ツ掩堡ニ據リテ
 防守シ敗レムトスレハ退テ後方ノ要地ニ駐マリ我レニ對シタルカ今ハ掩堡ヲ死守スルノ法ヲ取ルニ
 至レリ蓋シ是等ノ防禦配備ハ我カ戰術ニ學ヒタル所尠シトセス蕃人戰略上ノ一進歩ト謂フヘキナリ
 是日 試ミニ松山式木砲ヲ發ス 松山警視ノ創意スル所ニ係ル初、該警視ハ綿火藥五百瓦ヲ用キ手擲爆
 彈ヲ製リ之ヲ試ミタルニ五間四面ニ爆裂シ勢甚強烈ニシテ屢敵ヲシテ恐怖セシメタリ則チ再ヒ研究ヲ
 重ネ大小ノ木砲四門ヲ作リシナリ大ハ口徑六寸、腔長五尺最大射距離三百乃至四百米突、其ノ木彈ハ大
 ハ長サ一尺五寸之ニ用ウル所ノ炸藥千五百乃至二千瓦、小ハ長一尺炸藥七百乃至八百瓦、爆裂ノ威力ハ
 前者ハ七、八間四面、後者ハ五、六間四面ニ及ヒ其ノ炸發力ト大音響トハ兎蕃ヲシテ戰栗セシムルニ足
 レリ是ヨリ數、之ヲ放テ敵ヲ破レリ

二十二日 シバジ―蕃務官吏駐在所報告シテ曰ク「聞ク所ニ據レハ、マリコワン蕃ハ初、奇捷ヲ獲、強
 勇自ラ恃ミタリシモ我カ隊ノ猛襲突進ニ因リ頭目以下戰死シタル者三十餘名負傷シタル者四十餘名ニ
 達シ意氣沮喪セリ」ト

二十五日 午前三時江口指揮官ハ和田、佐藤ノ兩部隊ヲ以テ挺前シ敵壘ヲ攻陥ス壘ノ長サ百間ニ及フ
 兎蕃三面ヨリ沓至ス奮擊シテ之ヲ破ル

二十七日 平明永田指揮官ハ長崎部隊ヲ率キ前ミテ敵壘ニ薄ル兎蕃善ク捍キ彈丸亂飛ス松山警視ハ木

砲ヲ山本警視ハ砲臼ヲ連發シテ之ヲ攘ヒ突角部ノ險ヲ取リ更ニ進ミテ、バス―社附近ノ要地ヲ略ス兎
 蕃火ヲ上風ニ縱ツ猛篠大ニ漲リテ一分隊頗ル窘ミシモ地ニ俯シテ煙ヲ避ケ竟ニ前ミテ、バス―社ヲ陷
 ル是日長崎部隊ウヲオ社ヲ占領ス初、該部隊ノ突進スルヤ兎蕃又火ヲ菅茅ニ縱チ我レヲ困ムシメムト
 ス風向俄カニ轉シ其ノ據ル所ノ密集蕃屋ヲ燒ク即チ守リヲ棄テテ走ル

二十八日 花蓮港廳警部下山又喜ヲ第七部隊長ト爲シ犬塚警部ヲシテ本部ニ復ラシム

二十九日 大津總長李嶺山本部ニ反ル森技手、竹村雇等之ニ隨フ

三十一日 内田民政長官警部井關喜一、相澤作藏等ヲ隨ヘ李嶺山本部ニ抵リ戰況ヲ視察シ隊員ヲ犒勞
 ス是日賀來、長崎、中田、下山ノ四部隊ハ午後八時行動ヲ開始シ擊テ兎蕃ヲ走ラシ 中田稜線ノ開墾地ヲ
 略取ス

(附記)内田長官ハ戰闘従事員ニ酒肴料金一百圓傷病者ニ菓子料(警部每人金二圓五十錢、警部補二
 圓、巡查一圓五十錢、巡查補隘勇工夫金一圓)ヲ與ヘ又太田山事變ノ際ニ當リ孤壘ヲ死守シタル弓削
 巡查外八名ニ對シ金三圓宛ヲ賞賚シ而ル後大津總長ト與ニ右翼隊ノ先頭バス―社ヲ視察シ高塚警視
 ニ命シテ左翼隊ヲ視察セシメテ其ノ復命ヲ聽キ歸府ノ途ニ就ケリ長官ノ、バス―社ヲ巡リ砲陣地ニ
 至ルヤ愛國婦人會ヨリ派遣スル所ノ同仁社活動寫眞班技師中里德太郎亦從テ來リ撮影ニ從事シツ
 アルニ際リ兎蕃深管ノ中ヨリ之ヲ射殺ス隊員及護衛巡查擊テ之ヲ卻ク
 是日 佐久間總督、大津總長ニ電訓シテ曰ク「右翼隊ハ不良ノ天候ヲ冒シ昨夜目的地點ヲ占領シタルノ
 報ニ接シ欣喜ニ堪ヘス己ニ森林ヲ脱シ草地ニ進出シタルナラム果シテ然ラハ前進地ニ掩堡ヨリ大ナル
 掩蓋附ノ據點數箇處ヲ急造シ占領ヲ確實ニスヘシ日本軍カ露軍騎兵ノ大部隊ノ爲屢蹂躪セラレ大敗ヲ
 取リシト雖前進スルニ從ヒ據點ヲ急造シタル地ハ常ニ敗ヲ取リタルコトナシ據點ノ構造法ハ築城教範
 ニ示セルト同型ニシテ可ナリ松山警視承知セル筈」ト

二日 岡本部隊ノ分隊長警部補明瀬英一ヲ左翼賀來部隊ノ分隊長ニ轉セシム
 三日 夜半長崎、賀來ノ兩部隊ハ六百米突ヲ前進シテ前面突起部ノ要衝ヲ攻略シ水源地ヲ包容ス是日左翼石田(佐藤)岡崎(和田)ノ兩分隊數、敵襲ヲ受ケシモ猛擊シテ之ヲ卻ク石田分隊ニ近ツキタル五、六名ノ兇蕃ハ全身ヲ包ムニ樹枝ヲ以テシ巖陰ヨリ匍匐シテ前來ス隊員齊射シテ其ノ一名ヲ殪ス餘蕃倉皇影ヲ林中ニ沒ス

四日 薄暮永田指揮官、山本、松山兩警視ハ俱ニ賀來部隊ノ占領セル開墾地ニ來リ該隊ヲ先鋒ト爲シ下山部隊ヲシテ之ニ次カシメ急斜面ヲ下リ將サニ小鞍部ニ達セムトスルヤ百餘ノ兇蕃高キニ據リテ俯擊シ丸下ルコト霞ノ如シ我カ隊徹宵仰攻ムレトモ抜クコト能ハス明瀬、渡邊ノ兩分隊長叱咤衆ヲ督シテ奮戰ス草村分隊長(山下)其ノ危キヲ見、急ニ繞リテ敵ノ右側ニ出テテ之ニ肉薄シ松山、山本兩警視ハ木砲、臼砲ヲ連發シテ其ノ壘ヲ擊ツ銃砲爆彈ノ響、吶喊ノ聲ト相和シ山谷ヲ震撼ス、敵、地ノ利ヲ得レトモ來近ツク能ハス我カ隊進ムニ隨ヒ壘ヲ築キ守リテ固クシテ相對持ス越テ六日平明賀來部隊ハ前ミテ五壘ヲ拔キ勢ニ乘シテ挺進シ突起部ノ獨立蕃屋ヲ略シ仰筒ヲ用テ石油ヲ撒シ茅原ヲ焚燒ス山風火ヲ煽シ猛熾地ヲ捲キ敵壘ニ嚮テ漲ル下山部隊、賀來部隊ニ聲援シツツ林中ヨリ進ミ連リニ數壘ヲ拔キ村田銃彈五箱(二千五百發)ヲ奪回ス蓋シ太田山事變ノ時攘マルル所ナリ兇蕃敵ヲ兩面ニ受ケ竟ニ支フル能ハス賀來部隊、北ルヲ追ヒ蕃屋二棟ヲ占領ス是ニ於テ右翼隊ハ李嶺溪底ヲ瞰制スルヲ得ルニ至レリ是日中田部隊ハ永田指揮官ノ意ヲ受ケ大ニ林間ヲ索メ火砲五門ヲ收回ス亦太田山ノ事變ニ方リ擄掠サレタル所ニ係ル

八日 松永警視ヲシテ江口警部ニ代ハリテ左翼隊指揮官タラシメ豫備トシテ命ヲ待タシメタル岡本部隊ヲ其ノ配下ニ隸シ賀來部隊ノ明瀬分隊長ヲ該部隊ニ復歸セシメ内田部隊ノ高橋分隊長ヲ賀來部隊ノ分隊長タラシム

九日 大津總長、總督ニ報告シテ曰ク「一、當方面ニ於ケル數回ノ衝突ニ因リ敵蕃ハ多クノ損害ヲ出シ爲ニ抵抗力ヲ減シツツアリテ方サニ一飛躍ヲ試ミ局面ノ展開ヲ圖ルノ機到來シタルモノト判斷ス太田山事變勃發シ、キナジー、マリコワン兩蕃ノ利ヲ獲ルヤ、ガオガン、溪頭、北勢ノ諸蕃先ヲ爭ヒテ隘勇線ヲ襲ハムトスルノ兆アリシモ鐵條網ノ復舊シタルト當方面ニ於ケル戰局ノ推移トニ由リ今ヤ各處下ノ隘勇線ハ小康ヲ保テリ從テ此ノ際他方面ニ於ケル隘勇線ノ警備力ヲ幾分減少シ當方面ニ必要ナル兵力ヲ集中シ得ヘキ情況ニ達シタリ二、右翼隊ノ行動ハ比較的進捗シ目下ウーラオ社北方李嶺溪ノ右岸マテ進出スルヲ得タリ而モ是ヨリ、マリコワン溪ノ合流點附近ニ向ヒ南進セムニハ尤峻嶮ナル地域ヲ通過セサルヘカラス之カ爲ニ狭小ノ區域内ニ多數ノ兵力ヲ要スルニ至リ我ニ取リテ甚タ不利ナリ三、然ルニ地形ヲ偵察シタル結果右翼隊ノ先頭ヨリ李嶺溪ヲ渡リテ東進シ、ウライ社北方高地(方眼圖ユメノ三七附近、自今此ノ高地ヲ、ウライ山ト稱ス)ヲ占領スルハ比較的容易ニシテ而モ此ノ占領ニ因リ、マリコワン蕃社ノ大部分ヲ瞰制スルノ利益アリ由テ新タニ召集セムトスル二個部隊及左翼隊ノ一部ヲ以テ該高地ノ占領ニ當ラシメ全線ノ連絡ヲ速カニセムトス四、左翼隊ノ行動ハ地形ノ關係上進捗シ難ク目下其ノ先頭ハ(方眼圖メノ三四附近)ニ在リ然レトモ、ウライ山ノ占領ヲ企圖スルニ當リテハ該方面ヨリモ之ト相呼應シテ果敢ナル前進行動ニ出ツルハ極メテ肝要ナリ之カ爲總豫備タル岡本部隊ヲ左翼隊ニ増加セリ云々」ト是ヨリ先右翼隊用ウル所ノ山砲木砲各二門ヲ割テ左翼隊ニ搬移シ連リニ前面ノ敵壘ヲ轟擊セシメ八日佐藤、和田ノ兩部隊ヲシテ兇蕃ヲ擊破シ數十米突ヲ進ミ先ツ地ノ利ヲ占メシム

九日 午後五時岡本部隊ハ疾馳シテ路ニアラサル峻坂ヲ下ルコト凡三百歩ニシテ一平坦ノ地ニ至レハ飛丸林中ヨリ逆ル酒井分隊長配下ヲ三分シテ左右ヨリ進マシメ躬ヲ十餘名ヲ提ケ正面ヨリ前ミ有蓋掩堡ニ突入シ銃ヲ舉テ擊テ劍ヲ揮ヒテ斫リ三兇蕃ヲ殪ス餘蕃辟易ス他ノ一部ハ更ニ進ミテ其ノ左側ノ掩

堡ニ薄リ搏闘ス松山指揮官、後方部隊（岡本部隊ノ主力及和田、佐藤ノ兩部隊ヨリ各分隊長一名ヲ出サシメ之ニ附スルニ巡查十名、隘勇十五名ヲ以テス）ヲシテ之ニ馳セシメ竟ニ其ノ壘ヲ奪ヒ隊員ヲ點檢スレハ巡查十五名、隘勇六名戰死シ巡查三名、隘勇四名創ヲ被レリ兇蕃ノ損害亦甚タ多ク僵屍途ニ相望ミ銃二挺、蕃刀二口ヲ委棄セリ此ノ自兵戰ニ因リ奪取シタル掩堡ハ弦月形ヲ成シ長凡百間、無數ノ小掩堡其三面ヲ繞リ堅牢ナルコト意料ノ外ニ在リ

十二日 家永廳長ノ前進隊長ヲ解キ永田警視ヲシテ之ニ代ハラシメ中田警部ヲ副長ト爲シ左右兩翼ノ指揮官ヲ罷ム而シテ犬塚警部ヲシテ中田警部ノ後ヲ承ケ第一部隊長タラシム

十三日 桃園廳應援隊警部二名、警部補三名、巡查、隘勇各百名李嶮山本部ニ至ル即チ分テ二個部隊ト爲シ警部永井國次郎ニ第九部隊長（分隊長毛利、柏尾兩警部補）警部山田久次郎ニ第十部隊長（分隊長沼田川、井上兩警部補）ヲ命シ右翼方面ニ配置ス

十四日 永田前進隊長ハ大洋總長ノ意ヲ承ケ左右兩翼ノ諸隊ニ行動命令ヲ發ス乃チ左ノ如シ

左翼隊ニ對スル命令

- 一、和田部隊ハ十一月十四日午後九時行動ヲ開始シ其最先頭掩堡附近ニ據守スル敵蕃ヲ擊攘シ大鞍部ヲ踰エ前面森林中ノ高地ヲ占領スヘシ
- 二、岡本部隊ハ和田部隊ニ續行シ連絡及守備ノ任ニ當ルヘシ
- 三、佐藤部隊ハ分隊長以下相當隊員ノ出動シ得ル如ク豫メ準備シ置キ和田部隊又ハ岡本部隊ヨリ掩護ノ要求アリタル時ハ直ニ之ニ應スヘシ
- 四、島田電話鐵條網班ハ電話機一臺及軍用被覆線七百米突ヲ準備シ和田部隊ニ跟隨前進シ電話線ノ架設ニ從事スヘシ
- 五、猪俣砲隊ハ各砲陣地ヨリ和田部隊ノ進出スル前面及側面ヲ援護射撃スヘシ

右翼隊ニ對スル命令

- 一、賀來部隊ハ十一月十四日午後十時行動ヲ開始シ其ノ最先頭掩堡ノ下方森林ニ據守スル敵蕃ヲ擊攘シ李嶮溪合流點附近稜線ノ突角ヲ占領スヘシ
- 二、下山部隊ハ賀來部隊ニ續行シ連絡及守備ノ任ニ當ルヘシ
- 三、長崎部隊ハ其ノ隊員ヲシテ下山部隊ノ守備シタリシ地域ノ幾分ヲ守備スヘシ
- 四、吉田電話鐵條網班ハ電話機一臺及軍用被覆線六百米突ヲ準備シ賀來部隊ニ跟隨前進シテ電話線ヲ架設スヘシ

和田部隊ハ夜ニ乘シ馬鬣狀ノ稜線ニ循テ前ミ大鞍部ヲ踰エ翌日前面樹林内ノ高地ヲ取り更ニ進ミテ數壘ヲ奪取ス賀來部隊亦絶嶮ヲ登陟ス咫尺暗黒、隊員屢脚ヲ失シ危キコト名狀シ難シ則チ翌旦ヲ待チ一峭壁下ニ至ル伏、倏チ兩側ノ竹林ニ起リ火ヲ縱テ肉薄ス我カ隊烟ヲ冒シテ急射撃ヲ加フルコト十餘回竟ニ之ヲ卻ク午後六時該部隊ノ高橋分隊ハ急ニ峻坂ヲ下リ小鞍部ニ達ス路ニ竹釘ヲ植エ壘ニ嬰リテ拒守ス撃テ之ヲ破リ突起部ヲ占領ス

十七日 永田隊長ハ更ニ、ウライ山占領ノ命令ヲ下ス乃チ左ノ如シ

一、一群ノ敵蕃ハ依然トシテ賀來部隊ノ前面李嶮溪附近ヲ據守シ先頭部隊ヨリ長崎部隊ノ陣地ニ至ル間ニ出沒シテ狙撃シツツアリ

二、右翼隊ハ小森山ノ東南方約八百米突ノ一軒蕃屋附近ヨリ行動ヲ開始シ李嶮溪畔ニ下リテ同溪ヲ横キリ更ニ（方眼圖メミノ三九）ノ溪谷ヲ遡リテ、ウライ山頂ニ達スル地域ヲ占領スヘシ

三、永井部隊ハ十一月十七日午後五時マテニ犬塚部隊本部附近ニ山田部隊ハ同六時マテニ長崎部隊本部附近ニ下山部隊ハ其ノ本部附近ニ集合シ同八時實分隊（下山部隊ノ附近ヨリ永井、山田、下山部隊ノ順序ヲ以テ前進シ下山部隊ハ（方眼圖メミノ三九）ノ地點、山田部隊ハ（メミノ三九）ノ地點永

- 井部隊ハ(メノ三九)ノ地點ヲ占領シ互ニ連絡ヲ確實ニスヘシ
- 四、賀來部隊ハ十一月十七日午後七時三十分其ノ先頭掩堡ヨリ左方稜線ニ二伍前進シ李嶮溪ノ右岸ニ於テ多久分隊(犬塚部隊)ト連絡ヲ確實ニスル外現在下山部隊守備區域ノ幾部ヲ守備スヘシ
 - 五、多久分隊ハ十一月十七日午後七時三十分資分隊附近ヨリ進出シ其ノ下方李嶮溪兩岸ヲ占領シ賀來、下山兩部隊ト連絡スヘシ
 - 六、佐藤部隊ノ一個分隊ハ十一月十七日午後五時マテニ犬塚部隊本部附近ニ集合シ永井部隊ニ續行シ李嶮溪ノ右岸ニ停止シテ命ヲ待ツヘシ
 - 七、長崎部隊ハ其ノ守備地ノ外犬塚、下山兩部隊ノ守備スル地域ノ幾部ヲ守備スヘシ
 - 八、吉田電話鐵條網班ハ電話機三臺及軍用被覆線二千五百米突ヲ準備シ永井部隊ニ續行シ下山、山田、永井ノ各部隊ニ電話線ヲ架設スヘシ
 - 九、猪俣砲隊ハ豫メ準備ヲ整ヘ前進隊ノ敵蕃ト衝突シタル時ハ直ニ援護砲撃ヲ加フヘシ
- 是ヨリ先永田隊長ハ來リテ長崎部隊ノ本部ニ駐マリ衆ヲ勵マシ隊ヲ勒シツツアリシカ是日大津總長高塚、山本兩警視ヲ隨ヘテ此ニ來リ親ヲ指揮ヲ取ル各隊ハ夜ノ方サニ黒キニ乘シ命令ノ定ムル所ニ從テ行動シ犬塚部隊ノ多久分隊ハ賀來部隊ト李嶮溪ノ右岸ニ連絡シ翌十八日黎明永井、山田、下山、佐藤ノ諸隊ハ、相策應シテ、ウライ山頂ヲ占領ス
- (附記)ウライ山頂占領ニ關スル大津總長ノ第一回報告ハ左ノ如シ
- 一、ウライ山ニ向ケ前進スル右翼隊ノ右側ヲ掩護スヘキ賀來部隊及多久分隊ハ敵蕃ニ覺知サレサル方法ヲ以テ昨十七日午後七時三十分ヨリ行動ヲ開始シ何レモ李嶮溪ノ下流ニ於テ賀來本部隊ハ右岸ノ突出部ヲ又多久分隊ハ左右兩岸ニ亘リテ要地ヲ占領シ李嶮溪ヲ横キル進出隊ノ行動ヲ容易ナラシメタリ

- 二、永井、山田、下山及佐藤ノ四部隊ヨリ成ル進出隊ハ十七日午後八時一軒蕃屋附近ヲ出發シ夜間ノ行動ニ依リ十八日拂曉ウライ山頂ヲ占領シタルヲ目撃ス
 - 三、敵蕃ハ今曉ニ至リ李嶮溪ノ右岸ヨリ賀來部隊ノ右側ニ攻撃ヲ加ヘムトシタルヲ以テ目下熾ニ銃砲火ヲ集中シ掃射中ナリ
- 其ノ第二回報告ハ左ノ如シ
- 一、右翼進出隊ハ既報ノ如ク敵ノ虛ニ乘シ、ウライ山ヲ占領セシカ今十八日午前八時比、永井部隊ノ後尾タル毛利分隊及之ニ伍間増加セル佐藤部隊(本部及一分隊)ノ占領地域内ニ於テ、ウライ山附近ノ舊開墾地附近ニ在ル未完成ノ掩堡ニ向ヒ數十名ノ敵蕃ハ左側ヨリ我レヲ牽制シツツ猛射シ來レリ其ノ彈丸ハ不幸ニシテ我カ掩堡内ノ手擲爆藥ニ中リテ炸裂シ毛利分隊ノ一部ハ之ヲ避ケテ上方ニ其ノ殘部及佐藤部隊並吉田電話鐵條網班ハ一時下方ニ退避スルノ已ムヲ得サルニ至レリ然ルニ右掩堡内ニ於ケル晝間ノ行動ハ地形上敵火ヲ被リ損害ヲ出スコト多カルヘキニ由リ右翼隊ヲシテ今夜連絡ヲ確實ニセシムル筈
 - 二、先頭部隊ノ情況ハ未タ詳ナラサルモ右ノ戦闘ニ因リ唯今マテニ知り得タル我カ損害ハ吉田班長(輕傷)以下十三名ナリ
- ウライ山占領ノ報、府ニ至ルヤ總督、大津總長ニ電シテ曰ク「前進隊ハ國家ノ爲晝夜連戰克ク困苦闕乏ニ耐ヘ勇往邁進竟ニ兇蕃ヲ壓服シ得ヘキ、ウライ山ヲ占領セリトノ報ニ接シ欣慰ニ勝ヘス爰ニ隊員ノ勞苦ヲ犒ヒ併セテ所期ノ目的ヲ達スルニ努力セムコトヲ望ム右前進隊長ニ傳達スヘシ」ト總長之ニ答電シテ曰ク「閣下ノ餘光ニ藉リ、ウライ山ヲ占領シタルニ優厚ナル褒辭ヲ忝ウシ慚愧曷ソ禁ヘム直ニ之ヲ隊員ニ傳ヘタルニ上下齊シク感激措ク所ヲ知ラス爾後奮勵、心ヲ一ニシ粉骨齏身豫期ノ目的ヲ達シ以テ賢慮ニ副ハムコトヲ誓フ」ト

十九日 午前一時山田部隊ノ沼田川分隊、佐藤部隊ノ石田分隊中ヨリ簡拔シタル一隊ノ突撃隊ハ兎蕃ヲ擊攘シテ往キニ奪ハレタル掩堡ヲ回復ス是ニ於テ永井部隊トノ連絡、舊ノ如シ午後六時和田部隊ハ岡崎分隊ヲ先頭ト爲シ突進シテ一高地ヲ取ル兎蕃三面ヨリ逼リ衆寡當ラス輒チ少シク卻テ掩堡ヲ築ク兎蕃又兩側ヨリ夾撃シ其ノ衆漸ク多キヲ加ヘ更ニ一隊ヲ縱チ菅野分隊ヲ攻ム分隊長踴躍之ニ薄リ飛彈ニ胸ヲ洞カレ巡查一名繼テ斃ル我カ隊勇ヲ奪ヒテ馳突シ連リニ爆彈ヲ投ス一彈前面ノ樹幹ニ中リテ破裂シ巡查五名傷ヲ負フ兎蕃呼噪シテ肉薄ス岡本部隊長巡查十五名、隘勇十名ヲ以テ之ニ馳セ和田部隊長ト力ヲ戮ハセテ疾撃シ遂ニ之ヲ走ラス是日李嶺溪右岸ヲ守レル加來部隊ウライ山ノ中腹ニ據レル山田部隊亦屢襲ハル毎ニ撃テ之ヲ攘フ是日隱明寺副官總督ノ命ヲ承ケ李嶺山ニ至リ戰況ヲ觀察ス

二十日 十二時臼砲一門ヲ、ウライ山頂ニ配備ス是ノ山頂平地ノ面積ハ凡三百坪ニシテ東北方七百米突ノ傾斜地ニハ數十戸ノ部落有リ且マリコワン溪ヲ隔テテ、マリコワン各社ヲ瞰制スルヲ得ヘシ則チ此ニ砲臺ノ工ヲ起シ先ツ一門ヲ搬致シタルナリ(二十七日迫撃砲一門、機關銃一門ヲ安ク)是朝兎蕃、左翼ノ先頭永井、佐藤兩部隊ノ守備地域ニ出沒シ狙射輟マス山本警視中田稜線ノ砲隊ヲ指揮シ之ヲ轟撃スレトモ頑抗屈セス乃チ糧餉ノ輸送ハ專ラ夜間ニ於テス

二十四日 大津總長戰況及蕃情ヲ報告ス乃チ左ノ如シ

- 一、左翼進出隊ノ、ウライ山ヲ占領シテ以來敵蕃ハ同隊ノ輸送路ニ對シ奇襲又ハ狙撃ヲ試ミツツアルモ進出隊ハ銳意開路伐採防禦工事ノ補修ニ力メ其ノ作業ハ漸次進捗シ昨二十三日夜永井部隊ニ於テハ、ウライ山頂ニ先ツ野砲二門ヲ備フヘキ陣地ヲ構成シタリ尙此ニ配備スヘキ火砲並砲撃ニ關スル方法ヲ決定スル爲本日山本砲隊指揮官ヲ、同山頂ニ派遣シテ偵察ヲ行ハシム其ノ準備整ヘハ近日更ニ右翼隊ヲ進出セシメムトス
- 二、左翼隊方面ニ在テハ右翼隊ノ、ウライ山占領後敵蕃ハ翻テ出沒頻々ニシテ時ニ示威的行動ニ出

ルコトアリ然レトモ此ノ際左翼隊ヲ進出セシムルハ殊ニ肝要ナルニ由リ比較的新銳ナル部隊ヲ先頭ニ移シテ進出ヲ圖ラムト欲シ目下其ノ準備中、明後二十六日ニハ行動ヲ開始シ得ルニ至ラム

三、敵蕃内部ノ情況ハ桃園、宜蘭、新竹方面ヨリ探查セシメタル結果ヲ綜合スルニ彼ノ死傷ハ豫想外ニ多ク意氣沮喪セルコトハ事實ニシテ、キナジー蕃ハ之カ爲既ニ引揚ケタルモノノ如シ、マリコワン蕃ノ一部ハ、マリコワン溪ノ右岸ニ竄匿セルカ最後マテ反抗ヲ繼續シ若シ已ムヲ得サレハ、キナジー方面ニ移住スヘク社議定マレリト云フ

四、マリコワン蕃ノ根據地一帶ヲ制壓シ得ヘキ、ウライ山ヲ略取シタル以上ハ今後更ニ的確ナル蕃情ノ探查ニ力メ必要ニ應シ適當ナル操縱法ヲ採リ威壓的行動ト相俟テ成功ヲ速カナラムコトヲ期ス

五、昨年六月彈藥竊取ノ嫌疑ヲ以テ、リボ社ニ逃走中ナリシ、マリコワン蕃ウラオ社蕃丁イバンナウイ一家ハ我カ前進ノ效果ト彼レノ困窮トニ因リ本月十四日ヨリ二十一日ニ至ルマテ五回ニ互リ、ナロ監督所附近ノ鐵條網線外ニ來リ銃器數挺ヲ提出スルヲ條件トシテ歸順ノ上ラハオ社ニ移住セムコトヲ哀請シテ已マス且數回敵蕃ノ情況ヲ密告シタルヲ以テ此ノ際適當ナル蕃語通譯ヲシテ之ヲ利用セシメ蕃情探偵、敵蕃操縱ノ端緒ヲ啓クハ事機ニ適スル措置ナリト思料シ假リニ歸順ヲ聽サムトス

繼テ又報告シテ曰ク

- 一、敵蕃ハ李嶺溪畔及マリコワン山附近並左翼先頭附近ノ我カ守備線ニ向ヒ射撃シツツアル外蕃情別ニ變化セス
- 二、ウライ山頂ニ派遣シタル山本砲隊指揮官ノ復命ニ據レハ、ウライ山ハ、マリコワン蕃ノ大部分及キナジー蕃ノ一部分ニ屬スル地域ヲ制壓スルニ足ル要害ナルモ地積狹小ナル爲切取り作業ニ大工事ヲ要スルト敵蕃ノ狙撃頻繁ナルトニ因リ比較的地積ヲ必要トセザル臼砲、迫撃砲及機關銃ノ

外迅速ニ火砲ヲ配置スルハ困難ナルカ如シ

三、右翼隊占領地ノ防備ハ不十分ナカラ將サニ成ラムトシツアルヲ以テ目下ウライ山頭ニ有力ナ

ル火砲ヲ配備シ得サルニ拘ラス右翼隊ハ速ニ進出スルヲ急務トス由テ十一月二十八、九日行動ヲ

開始シ、ウライ山頂ト左翼隊先頭トノ中間ニ在ル高地ヲ占領セムトシ今ヤ其ノ準備中ニ在リ

四、左翼隊ノ前面一帯ノ地ニ對シテハ一昨二十四日以來本日ニ至ルマテ太田山、李嶺山及戰線ニ在

ル砲隊ヨリ砲撃ヲ行ヒ且松山警視ヲ先頭ニ派遣シ木砲ヲ發シテ敵蕃ノ防禦工事ノ破壊ニ力メシメ

タルカ今回内田部隊ヲシテ若干距離ヲ進出セシメムトス

二十六日 午後七時内田部隊ハ和田部隊ノ掩護ヲ受ケ占領地東南ノ稜線ヲ進ムコト凡一百米突ニシテ

右折スレハ斷崖屹立路ニ當ル輒チ踵ヲ轉セムトスレハ兇蕃要撃シテ大ニ阻ス和田部隊長其ノ適ニ急ナ

ルヲ知リ亦大ニ閃シテ稜線ノ左ヨリ前マムトスル勢ヲ爲シ之ヲ牽制ス内田部隊隙ヲ得壘ヲ築テ之ニ據

リ翌旦霧ヲ衝テ挺前シ要地ヲ取ル兇蕃敢テ近カス午後八時、復進ムコト六十米突ニシテ有蓋掩堡五座

ヲ發見ス即チ據テ我カ壘ト爲ス此ノ附近ハ向キニ兇蕃ノ燒キタル所ニ係リ路ニ竹釘ヲ植エ又狼狽ヲ穿

テリ二十八日午前零時三十分更ニ八、九十米突ヲ前進ス兇蕃四出狙射ス銃砲迭發シテ之ヲ攘フ

十二月一日 午後十一時行兇蕃ヲ驅逐シ三掩堡ヲ拔キ、ウライ山南方突起部ヲ占領ス即チ二十六日

前進隊長ノ攻路ヲ命シタル所ニ係ル

是ヨリ先二十九日山田、下山、永井ノ三部隊ハ永田隊長ノ命ヲ受ケ午後十時行動ヲ開始シ、マメー山ヲ

占領ス初、下山部隊ハ草村分隊ヲ先頭ト爲シ、マメー山南方高地ノ茅原ニ出テ山田部隊ノ井上分隊ト、

ウライ、マメー兩高地ノ中間鞍部ニ連絡シ更ニ南進シテ永井部隊ノ柏尾分隊ト森林中ノ高地ニ連絡シ

是ヨリ北ニ嚮テ進ミ始メテ、マメー山ニ達スルヲ得タルナリ此ノ間燈セス聲セス危巖ヲ上下シ深宵ニ

出入ス其ノ艱苦ノ狀一彈述スヘカラス而モ天ノ將サニ明ケムトスルヤ兇蕃兩面ヨリ接近シ飛彈我カ

掩堡ニ攢ル爆彈ヲ連投シテ之ヲ破ル是ヨリ復來逼ラス、マメー山ノ我カ手中ニ歸スルヤ天津總長ハ高

塚警視ヲ隨ヘ、來リテ形勢ヲ察シ轉シテ、ウライ山ヲ視、情況ヲ總督ニ電報セリ乃チ左ノ如シ

一、新タニ占領シタル地域ノ形勢如何ハ不日實行スヘキ左右兩翼隊ノ連絡行動ト大ナル干繋ヲ有ス

由テ小官ハ本日ウライ山及マメー山ヲ視察セリ

二、ウライ山ハ遙ニ、バロン山ト對峙シ雨々相須テ、マリコワン蕃ノ蟠踞地域及マリコワン溪上流

ノ左岸ニ占居スル、キナジー蕃ノ一部ヲモ瞰制スルヲ得ルモ大規模ノ切取り工事ヲ施ササレハ有

力ナル火砲ヲ配備シ難キハ前電ニ陳ヘタル所ノ如シ

三、マメー山ハ、ウライ山ヨリ稍高シト雖其ノ山巔ハ、ウライ山ニ比シ一層狭小ナルノミナラス射

界モ亦ウライ山ノ廣濶ナルニ如カス由テ此ニハ臼砲ヲ配備シ、マリコワン蕃ニ對スル死角地帯ヲ

掃射セシメ、ウライ山ノ火砲ト相須テ我カ威力ヲ發揮スルヲ有利ナリト信ス(以下省略)

二日 夜半下山部隊ノ草村分隊長ハ巡查隘勇四名ヲ引率シ狂風暴雨ヲ冒シテ進ミ左右兩部隊ノ連絡ス

ヘキ豫定地點ヲ偵察シテ復ル下山部隊長則チ二個分隊ヲ提ケ午後三時三十分マメー山ヲ出テ疾馳スル

コト四百米突午後四時三十分森林ノ突角地點ヲ占領ス山田部隊モ之ト同時ニ隊員數名ヲ派シテ此ニ至

リ俱ニ四邊ヲ搜探セシメタルニ絶テ兇蕃ノ影ナシ蓋シ是日寒威頓ニ加ハリ兇蕃之ニ耐フルヲ得ス竟ニ

引去リシナリ天津總長機以テ乘スヘシト爲シ永田隊長ヲシテ行動命令ヲ下サシム則チ左翼ノ岡本部

隊、右翼ノ山田部隊ノ沼田川分隊佐藤部隊ノ澤山分隊ハ齊シク兩路ヨリ進出シテ相連絡ス時ニ三日午

後六時三十五分是ニ於テカ今次行動ノ主要ナル目的ヲ達セリ

五日 午後八時兇蕃潛ニ下山部隊ノ守備線ニ近ツキ火ヲ灌莽ニ縱ツ恰モ東北風太タ勁ク將ニ本部ニ延

燒セムトス部隊長衆ヲ督シテ全力ヲ傾注シ撲テ之ヲ消ス午後三時賀來部隊ハ進ミテウライ山下ノ稜線

ニ據レル一隊ノ兇蕃ヲ撃テ之ヲ溪底ニ走ラシ午後九時澤山部隊ノ先頭ト會シ翌六日午前二時掩堡ノ布

置ヲ畢ル

七日 以來兇蕃隊ヲ成シテ襲來スルコトナシト雖狙擊頻仍、幾ト歇ム時ナシ各隊或ハ壘ニ據リ或ハ伏ヲ設ケテ之ヲ驅リ兼テ清野開路ノ事ニ從ヒ要害ニハ據點ヲ建造シ展望臺ヲ置キ鐵條網ハ復線ト爲シ、李嶺山(克式山野兼用砲二門、迫擊砲一門)マメー山(四斤山砲二門、十二擲白砲一門)ウライ山(三吋速射砲一門、克式輕野砲二門、九珊白砲一門、十二擲白砲一門)機關砲一門)バスー高地(七珊野砲一門、同山砲二門、十二擲白砲一門、機關銃二門)等ノ砲臺ニ防備ヲ施シ其ノ工大半成ルヲ告ク乃チ十三日ヲ以テ解隊ノ式ヲ舉ク

○善後處置

十個部隊ヨリ成ル隘勇線前進隊ハ已ニ之ヲ解キタリト雖後山マリコワン蕃及キナジ一蕃ハ未タ歸順スルニ至ラサルニ由リ直ニ普通警備ヲ以テ之ニ臨ムヲ得ス則チ解隊ノ當日、警部六名、警部補六名、巡查三百四十四名、巡查補二名、隘勇三百四十二名、工手一名、工夫十名、醫員二名、看護人三名、職工四名、人夫一千八十名、此ノ内警部二名、巡查百四十名ハ桃園廳員警部補一名、巡查六十名ハ南投廳員警部補一名、巡查三十九名ハ宜蘭廳員警部一名(梅澤証)ハ蕃務本署員ニシテ前進隊ヨリ引繼キタルモノニ係ル)ヲ以テ搜索隊ヲ編成シ之ヲ分テ二個部隊及鐵條網班(二班ニ分ツ)砲隊、特業作業班、赤十字救護班ト爲シ中田樹杞林支廳長ヲシテ之ニ長タラシメ北蕃監視區長永田警視ニ新竹廳蕃務課長兼務ヲ命シ之ヲ監督セシム該隊ノ任務ハ道路ノ開鑿(二里十町餘)鐵條網及電話線ノ補修(略開路)延長ニ埒シ射界ノ伐採(幅約百五十米突)據點ノ防禦施設(バスー及マメー)ノ兩監督所ヲ據點ト爲ス等ヲ其ノ主要ナルモノトス而モ兇蕃ハ時々出テテ作業員ヲ狙撃シ爲ニ損害ヲ被ルヲ以テ功程輒ク進マズ則チ夜間ヲ利用シテ版築ニ從事シ始メテ其ノ工ヲ竣リ十二月十七日解隊セリ(搜索隊解隊後バスー及マメー)ノ兩據點ニ配置シタルハ警部二名、警部補三名、巡查八十六名、巡查補二名、隘勇三百一十一名ナリ)

○損害並效果

本前進行動中ノ損害ハ戰死二百五名、戰傷二百八十八名、作業ニ因ル死者三名、負

傷三十八名、搜索行動中ノ損害ハ戰死二名、戰傷四名、作業ニ因ル負傷四名ニシテ行動期間ノ長カラズ獲得地域ノ濶カラサルニ比シ我カ被リシ所ノ損害ハ甚多シト謂フヘシ然レトモ、ウライ、マメー、ノ要害ヲ經略シ、マリコワン、キナジ一兩蕃ノ中間ニ三角形ノ突出線ヲ作りテ之ヲ瞰制シ且百五十餘名ヲ殺傷シテ復、暴威ヲ逞ウスル能ハサラシメ他年ノ解決ヲ容易ナラシメタリ其ノ得ル所豈亦鮮淺ナラムヤ

(附記)本前進行動ニ對スル兇蕃ノ抵抗ハ尤猛劇ヲ極メタリ爲ニ總督、長官及蕃務總長等ノ苦心經營ハ實ニ尋常ナラサルモノアリキ左ニ其一例ヲ記セム

行動開始以來我カ隊ノ損害續出シ左右兩翼ノ連絡輒ク成ラサルヤ佐久間總督ハ十一月二十八日大津總長ニ電報シテ曰ク「親シク戰況ヲ聽キ且命令ヲ傳フヘキニ由リ一時江口警部ヲ歸府セシメラルヘシ」ト總長即時同警部ニ命シ兼程府ニ歸リ總督ニ謁セシム總督引テ戰況ヲ問ヒ而ル後縷々意ヲ授ケ且特製卷煙草一萬二千本ヲ齎ラシ之ヲ總長ニ贈ラシム同警部ハ十二月三日李嶺山本部ニ復リ命ヲ總長ニ傳フ而シテ是日會、左右兩翼ノ連絡成レリ總長則チ總督ニ電稟シテ曰ク

閣下ノ御内示ヲ攻究シタルニ御意圖ノ要旨ハ左ノ三點ニ在リト拜察ス

第一、速ニ行動ヲ終ルヘキコト

第二、損傷ヲ避ルコト

第三、防備ヲ嚴ニスルコト

御内示ハ左右兩翼ノ連絡成ルニ先タチ發セラレタルモノナルニ由リ御内示中ニ在ル左翼隊ノ占領地ヲ拋棄シ其ノ全員ヲ右翼隊ニ移スノ一事ハ連絡已ニ成リタル爲ニ必要ナカルヘク恐察ス就テハ左ノ如ク處置シテ行動ヲ完了セシメタシ何分ノ御指揮ヲ仰ク

一、ウライ山頂及李嶺溪右岸ヨリ、マリコワン溪畔ニ進出スルノ計畫ハ之ヲ中止ス

二、前キニ、ウライ山ニ前進スルニ當リ行動ノ容易ナルヲ主眼トシ溪谷ニ傍フテ造リタル假設輸

送線ハ隘勇線トシテ維持困難ナルヲ以テ之ヲ撤廢シ次項ノ線ヲ造ラムトス

三、前項假設線ノ南方ニ於テ賀來部隊先頭ノ對岸附近ヨリ、ウライ山頂ニ通スル突稜線ヲ隘勇線トスルコト

此ノ線ハ、ウライ山ノ連絡ヲ堅固ナラシム又此ノ線ヲ占領スルハ目下ノ状態ヨリスレハ難事ニアラス

四、ウライ山及其ノ附近ニハ先ツ急造工事ヲ施シテ砲臺ヲ構築シ逐次之ヲ改造シ火砲ノ威力ヲ發揮セシム

五、鐵條網ハ目下メカラン溪方面ニ於ケルカ如キ支柱ヲ添架スル複線式ヲ用キ架設スルコト

六、目下多數ノ分遣所ハ構築完了又ハ構築中ニ係ルヲ以テ展望臺ハ尤極要ナル地點ニノミ建設スルコトトシ又作業員ノ損傷ヲ避ル爲此ノ工事ハ作業進捗ノ後ニ於テ著手スルコト

七、以上ノ處置ハ經費ノ許ス限リカメテ速ニ之ヲ實行スルコト

八、飲料水ノ運搬ハ目下蕃務本署ニ於テ作製セル運搬器ニ依リ效果ヲ得ツツアリ物資輸送ハ現今道路モ改良サレタレハ肩送セシムルノ外別ニ途ナシト思料ス

三木技師ヘ御下命ノ御筒及運行者ハ頗ル便利ナルモノト思料ス其ノ經費問題ニ付テハ同技師ニ調査ヲ依頼セリ

九、ウライ山砲臺ハ、バロン山砲臺ト相須テ猛烈ナル砲撃ヲ加ヘ、マリコワン蕃ヲ制壓シ今後ノ行動ヲ容易ナラシムトス
右御指揮ヲ俟ツ
總督ノ答電ハ左ノ如シ

一、將來ニ於ケル行動ニ關スル電報申出ノ件ハ全部之ニ同意ス

二、右隘勇線ハ防禦上頗ル困難ナル地形ト認メラルルニ由リ蕃人ノ爲ニ陥落セシメラルルカ如キコトナキ様十分ニ防禦工事ヲ施シ萬遠算ナキヲ期スヘシ

尙總督ノ卷煙草寄贈ニ對スル大津總長ノ謝電ハ左ノ如シ
江口警部ニ携帶セシメ惠賜セラレタル特製紙卷煙草一萬二千本ハ夫々隊員ニ分配シタル處物資缺乏ノ折柄殊ニ御芳志ノ忝キヲ感戴セリ茲ニ一同ニ代リ謹テ御禮申上ク

キナジー方面蕃社討伐竝追加行動

○討伐ノ所由竝行動開始前ノ措置 キナジー蕃ハ大嶽溪ノ源頭タイヤカン溪ト、タケジ

ン溪トノ合流點上方ノ山腹(標高四千尺乃至五千尺)ニ盤據シ其ノ社六、戸二百三十、口六百三十餘ニシテ北部蕃界ノ最奥區タリ斯ノ蕃資性獷犇ニシテ殺ヲ喜ミ戰ヲ好ミ未タ曾テ控馭ニ就カス、ガオガン蕃

方面ニ隘勇線ヲ前進スルニ當リテハ、マリコワン蕃ヲ助ケ後、該蕃ヲ構煽シテ太田山方面一帶隘勇線ヲ襲テ之ヲ攻陥シ我レノ之

ヲ克復シテ、ウライ山方面ニ隘勇線ヲ進ムルヤ又復之ニ黨同シテ抵禦スルコト凡五旬ニ及ヘリ其ノ後

マリコワン蕃ノ大半ハ輸誠降附シタルモ其ノ未タ歸順セサル各社ト連盟シテ屢、隘勇線ヲ窺ヒ害ヲ警

備員ニ加ヘ悛ムル所ヲ知ラス獨リ然ルノミナラス、ガオガン、マリコワン、シヤカロ一等ノ諸蕃ヲ誘

ヒ亂ヲ爲サムトスルニ至リ北部蕃界ノ中未タ曾テ銃器ヲ押取セサルハ獨リ此ノ方面ヲ餘スノミ則チ是

ノ膺懲ノ舉有ル所以ナリ
佐久間總督ノ、キナジー方面蕃社ヲ討伐セムトスルヤ豫メ各種ノ準備ヲ整ヘ大正二年六月二十四日討

伐警察隊總司令部ヲ李嶽山嶺ニ置キ蕃務本署長事務取扱民政長官内田嘉吉ニ總指揮官ヲ蕃務本署理蕃

課長事務取扱警視總長龜山理平ニ副指揮官ヲ命シ之ニ蕃務本署警視山本新太郎、同江口良三郎、警部

八七一

猪口安喜外二名警部補一名、巡查二十八名ヲ附シ即日事務ヲ開始セシム是ニ於テ内田總指揮官ハ總督府警視永田綱明ニ新竹討伐警察隊長ヲ新竹廳蕃務課長警視今田祐ニ同副長ヲ命シ總督府警視松山隆治ニ桃園討伐警察隊長ヲ桃園廳蕃務課長警視山内小藤ニ同副長ヲ命シ討伐隊ヲ編成セシム其ノ幹部員及編成ハ左ノ如シ

新竹討伐警察隊本部

討伐隊長	警視	永田綱明
同副長	同	今田祐祐
本部附	警部	中島彦四郎
同	同	犬塚正隆
同	警部補	菅原住太郎
同	同	吉田徳治
同	同	古賀政一
第一部隊長	警部	中田秀造
第一分隊長	警部補	寶田貞美
第二分隊長	同	多田久午
第三分隊長	同	渡邊八右衛門
第二部隊長	警部	瀬戸甲一
第一分隊長	警部補	武田兵藏
第二分隊長	同	島田百治

同部隊

桃園討伐警察隊本部

第三分隊長	同	山田浦太郎
第三部隊長	警部	長崎重次郎
第一分隊長	警部補	屋嘉比柴清
第二分隊長	同	木村圭一
第三分隊長	同	竹内連一
第四部隊長	警部	渡邊綱道
第一分隊長	警部補	草村光政
第二分隊長	同	佐々木陽之助
第三分隊長	同	高井豊次郎
砲隊長	警部	金子山
前線輸送隊長	警部補	中園彰三
赤十字救護班長	警員	家弓鄭三
討伐隊長	警視	松山隆治
同副長	警視	山内小藤二
本部附	警部	秋永長吉
同	通譯	中間市之助
同	警部補	祐成善市
同	同	磯貝九市

同部隊

區別	本部	前隊	砲方隊	救護班	非常通信所
警視	1				
警部	2	6	1		
警部補	2	4	1	1	
巡查	6	3	3	4	3
巡查補					
警手	8	3	3		
勇通	3	5	3		
譯醫					
員看護人					
雇工					
手工					
夫銃工		8			
計	27	22	11	8	3

桃園討伐隊

區別	本部	前隊	砲方隊	救護班	非常通信所	合計
警視	2					2
警部	2	4	1	1	1	9
警部補	3	1	1	1	1	7
巡查	5	3	4	3	4	19
巡查補	1					1
警手	6	3	3			12
勇通	6	5	3			14
譯醫						
員看護人						
雇工						
手工						
夫銃工		8				8
計	26	22	11	9	6	74

新竹討伐隊

赤十字救護班長

同

村井

素直

- 第一部隊長 警部 柏尾久吉
- 第一分隊長 警部補 馬場要次郎
- 第二分隊長 同 井上國太郎
- 第三分隊長 同 田村勇一
- 第二部隊長 警部 永井國次郎
- 第一分隊長 警部補 澤山佐吉
- 第二分隊長 同 岐部富雄
- 第三分隊長 同 後藤壽太郎
- 第三部隊長 警部 清水英藏
- 第一分隊長 警部補 明瀬英吉
- 第二分隊長 同 伊藤善助
- 第三分隊長 同 河村虎一
- 第四部隊長 警部 森山鐵太郎
- 第一分隊長 警部補 栗山庸次郎
- 第二分隊長 同 木津皆吉
- 第三分隊長 同 栗田良吉
- 砲隊長 警部 山田久次郎
- 同隊附 警部補 毛利八百八
- 前線輸送隊長 同 井原才吉
- 警察救護班長 同 重松英太

後方輸送隊	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
合計	二	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百

此クノ如キ大部隊(合計二千七百七十八名)ヲ動かスニハ人夫ノ徵募、物資ノ輸送、傷病者ノ後送等ハ戰線ノ行動ニ鮮カラサル關係アルヲ以テ新竹廳長家永泰吉郎ニ該方面ノ後方事務ノ指揮ヲ桃園廳長西美波ニ該方面後方事務ノ指揮ヲ命シテ其ノ責ニ任セシメ、財務局長中川友次郎及警視總長龜山理平太ヲシテ之ヲ監督セシメ、民政長官ハ其ノ大綱ヲ總攬シ以テ蹇滞ナカラシム而シテ龜山副指揮官ハ二十四日內田總指揮官ハ二十五日李嶼山討伐警察隊總司令部ニ抵リ本部及部隊ノ幹部員ヲ召集シテ訓諭スル所アリテ後、直ニ討伐ノ命ヲ下セリ

二十五日 永田新竹警察討伐隊長ハ、本部ヲ、テンタナ山ニ置キ、松山警察討伐隊長ハ本部ヲ、ウライ山ニ置キ、齊シク行動命令ヲ發ス乃チ左ノ如シ

新竹隊ノ命令

- 一、若干ノ敵蕃ハ、テンタナ山前方稜線密林中ニ出沒シ我カ隊ノ進出ヲ阻止セムトスルモノノ如シ
- 二、我カ隊ハ六月二十五日午後十一時行動ヲ起シ、テンタナ隘勇監督分遣所南方稜線ヲ前進シ標高六千五百五十尺ノ高地ヲ占領セムトス
- 三、中田部隊ハ先頭ト爲リテ、テンタナ山本部ヲ起點トシ前方稜線千五百米突(方眼圖マト四〇、四一、四二、四三)ノ地域ヲ占領シ渡邊部隊ハ中田部隊ニ跟随シ同部隊前方稜線千五百米突(方眼圖マト四六、オト四六、ノト四七)瀨戶部隊ハ長崎部隊ニ跟随シ同部隊前方標高六千五百五十尺高地(方眼圖マト四七、キト四八)ヲ占領シ各部隊ハ連絡ヲ確實ニスヘシ
- 四、瀨戶長崎兩部隊ニ十二掛白砲各二門、中田、渡邊兩部隊ニ各一門及砲彈四十發(一門ニ付)宛ヲ準備シ目的地點ノ占領ヲ待テ之ヲ前進セシムヘシ

- 一、キナジ一蕃社掃蕩ノ任務ヲ有スル我カ桃園討伐隊ノ進路ハ、ウライ山ヨリ、マリコワン溪ヲ渡リ南方高地ヲ越エ、タイヤカン社ニ到達スルニ在リ
- 二、我カ隊ト同一ノ目的ヲ有スル新竹討伐隊ハ、テンタナ、ヨリ、トンノフシロワン山ヲ越エ東南方ニ進ミ、タイヤカン社ニ到達シ我カ隊ト連絡スルニ在リ
- 三、當隊ハ本日午後十一時ウライ山ヲ出發シ中間警部ノ率ウル蕃人ヲ嚮導ト爲シ柏尾部隊、森山部隊、清水部隊ノ順序ヲ以テ南方凹地ノ耕作地ヲ下リ、マリコワン溪左岸ヲ占領シ爾後各部隊ハ要地ニ掩堡ヲ構築シ道路兩側ヲ約十米突幅ノ地帯ハ伐採ヲ行ハス以テ通路ノ安全ヲ期スヘシ
- 四、永井部隊ハ豫備隊ト爲リ李嶼山ニ在テ命ヲ待ツヘシ
- 五、砲隊ハ、ウライ山砲臺バスター砲臺及マメー砲臺ヨリ砲撃シ得ル如ク準備シ命ヲ待ツヘシ(六及七項ハ省略ス)
- 八、柏尾部隊ハ若干ノ人員ヲ分チ被覆線ヲ用キ電話線ヲ架設スヘシ之カ爲工夫三名ヲ附ス(以下省略)

○行動開始後ノ狀況 二十六日午前三時新竹隊ノ先頭中田部隊ハ目的地點(テンタナ山前方稜線一千五百米突ノ處)ヲ占領ス桃園隊ハ、マリコワン溪左岸(ウライ山ヨリ直徑一千二百米突ノ處)ニ達シ掩堡ヲ布置ス正午ノ比ヨリ兇蕃清水、森山ノ兩部隊ニ近ツキ狙撃スルコト數回、清水部隊ノ巡查横

田周治、丸ニ中リテ死ス既ニシテ井上分隊ノ人夫一名、途ニ射殺サレ柏尾部隊ノ隘勇一名又銃創ヲ受ク永井部隊長、清水部隊ノ數、襲ハルルヲ知リ岐部分隊ヲ派シテ之ヲ援護セシム
二十七日 諜報アリ曰ク「桃園隊ヲ捍禦セルハ各社ヨリ混成セル所ニ係リ、マリコワン蕃タイヤフ社ノ頭目其ノ首惡タリ」ト松山隊長即チ、ウライ山砲臺ニ命シ三時速射砲ヲ發シ之ヲ轟撃セシム午前七時三十分柏尾部隊附人夫某、途ニ狙射セラレテ傷ヲ負フ巡查鈴木次則之ヲ扶ケムトシ胸ヲ洞カレテ死ス

是ヨリ先宜蘭廳長小松吉久ノ電報相接テ府ニ至ル曰ク「廳下溪頭蕃マナウヤン社蕃人ハ該方面ニ在ル警備員ノ大半、桃園、新竹兩廳ノ討伐隊ニ編入セラレ防備ノ單弱ナルニ乘シ款ヲ、キナジー、マリコワン兩蕃ニ送リ隣接各社ヲ誘ヒ大舉シテ我カ隘勇線ヲ襲ハムトスルノ狀アリ」ト曰ク「南溪蕃ビヤハウ社ハ溪頭蕃シキクン社ヲ援ケ濁水方面ヲ侵サムトシ社議已ニ決セルモノノ如シ」ト曰ク「ガオガン蕃ノ有力ナル頭目ハ近來溪頭蕃社ニ往來シ鳩首擬議スルコト數回ニ及ヘリ是亦溪頭蕃ト事ヲ共ニセムトスルニアラサルナキカ尤異ムヘシ」ト佐久間總督以爲ラク若シ果シテ然ラムニハ北部蕃界大ニ亂レム變ノ未タ起ラサルニ先タチ威ヲ以テ之ヲ壓セサルヘカラス殊ニ、キナジー蕃タクジン社方面ハ溪頭蕃ニ至ルヘキ蕃路アリ之ヲ扼シテ速ニ該蕃ヲ壓倒スルニ如カスト則チ臺北第一守備隊司令官陸軍少將平岡茂ニ命シ步兵約一箇聯隊及山砲兵並特設隊ヲ率キ宜蘭方面ニ至リ之ニ備ヘシム是レ七月一日ノ事ナリ是日 桃園隊ノ先頭永井部隊ハ、マリコワン山第一高地ヲ占領シ柏尾部隊繼テ進ミ專ラ防備ヲ修ム二日澤山分隊(永井部隊)ノ人夫狙撃サレテ死シ井上分隊(柏尾部隊)ノ隘勇林魁二彈ヲ受ケテ燈ル中間警部歸順蕃人ヲシテ側面ヲ禦カシメ其ノ屍ヲ斂メムトス飛彈亂飛シ隘勇游石泉及蕃丁(カウイラン)一名傷ヲ被ル我カ隊奮戰之ヲ卻ク
三日 兇蕃漸ク其ノ衆ヲ加ヘ桃園隊ノ左右翼ニ薄リ狙撃シテ輟マス柏尾部隊ノ巡查安倍安、隘勇白羊、

清水部隊ノ警手辻本彦太郎等相踵テ創ヲ被ル、ウライ山砲臺十二掛臼砲ヲ連發シテ之ヲ擊退ス隊員始メテ死傷者ヲ收容スルヲ得タリ新竹隊ノ巡查佐々木莊一ハ隘勇二名ヲ隨ヘ入江分遣所ノ南方ニ鐵條網線ヲ補修ス伏、倏ケ草叢ニ起リ銃創ヲ受ク兩隘勇殊死シテ之ニ當ル永田隊長、吉田警部補ニ附スルニ巡查、警手七名ヲ以テシ馳セテ之ヲ擊タシム兇蕃支ヘスシテ走ル是日桃園隊ノ山田砲隊ハ砲陣地ヲ、マリコワン山第一高地ニ築キ克式山野兼用砲、迫撃砲、機關銃各一門ヲ配備セリ
四日 永井部隊ノ巡查下津浦廣吉ハ第一高地東側ニ狙撃セラレテ傷ヲ負ヒ人夫一名ハ其ノ西側ニ射殺セラル松山隊長、前日ヨリ來リテ該隊ニ在リ兇蕃ノ出沒頻仍ナルニ由リ壘ヲ高地ノ兩側ニ列ネ且隊員ヲ林叢ニ伏セテ之ニ備フ午後一時マリコワン蕃クータン社頭目バットカワス、同バットブーエン外蕃丁八名、マカガオン社頭目ワタンピータイ外蕃丁十名、桃園隊ノ本部ニ來リ銃器二挺ヲ提出シテ恭順ノ意ヲ表シ且告ケテ曰ク「我カ社蕃丁三名ハ尙出テテ貴隊ニ抗シツツアリ之ヲ曉セトモ肯カス此ノ輩ハ昨年李嶼山方面ニ隘勇線ヲ進メラルルニ當リ戰死シタル者ノ遺族ナルヲ以テ爾カク執拗ナリ然レトモ再ヒ之ヲ勸說セムトス又スマングス社モ已ニ前罪ヲ悔ユ應サニ不日出降ルヘシ」ト是日龜山指揮官ハ新竹隊ヲシテ直ニ、タイヤカン社ヲ擣カシムルノ計畫ヲ樹テ隊員ノ増加ヲ總督府ニ要求ス内田蕃務本署長即チ新竹廳巡查班長六名、巡查六十名、警手四十名、隘勇百四十名、桃園廳隘勇百五十名ヲ非常召集シ之ヲ前進地ニ急行セシム
五日 マリコワン山第一高地ハ南側ヲ守レル後藤分隊(永井部隊)隘勇潘阿蚊及人夫一名、柏尾部隊隘勇劉大謹及人夫一名狙射セラレテ死ス我カ隊毎ニ之ヲ追躡スレトモ樹林叢密ニシテ遂ニ獲ル能ハス
六日 宜蘭方面ノ蕃情益不穩ノ報至ル是ニ於テ佐久間總督ハ平岡司令官ニ之ヲ討伐セムコトヲ命シテ宜蘭支隊ヲ編成シ軍隊ト力ヲ并セテ事ニ從ハシメ翌日臺北ヲ發シテ李嶼山ニ上リ軍司令部ヲ置ケリ
八日 午前九時兇蕃六十許、新竹隊占領地ノ最先頭渡邊部隊ノ高井分隊ヲ襲ヒ其ノ別隊ハ長崎部隊ニ

薄リ且闘シ且射ル我カ隊猛撃之ヲ走ラス此ノ交戰中巡查蒲地福次郎、隘勇鍾永盛重創ヲ負ヒ人夫一名即死シ外ニ輕傷三名ヲ出セリ永田隊長以爲ラク數日來兇蕃ノ來ル二十名内外ニ過キサリシニ今猝カニ多衆攻勢ニ出テタルハ異シムヘシト乃チ人ヲシテ之ヲ探ラシムレハ、シヤカロー蕃來リテ、キナジ一蕃ヲ援ケタルナリ是日桃園隊ハ進ミテ、マリコワン山第二高地ヲ略取ス新竹隊ノ中田部隊亦進ミテ要地ヲ取ル永田隊長乃チ臨時増員巡查班長六名、巡查六十名、隘勇百四十名ヲ以テ一箇部隊ヲ編成シ警部犬塚正隆ヲ部隊長ト爲シ其ノ占領地ヲ守備セシム昨日來兇蕃凡五十名隊ヲ分テ新竹隊ニ接近シ四出狙撃ス渡邊部隊ノ高井、佐々木兩分隊及草村分隊相呼應シテ之ニ當ル兇蕃繞リテ我カ兩側ニ出テ後方ヲ堵截セムトス銃砲迭發シテ之ヲ攘フ此ノ交戰中隘勇一名即死シ警手、人夫各一名銃傷ヲ受ク

九日 新竹隊ハ、トンノフシロワン、ヲ略シ尋テ桃園隊ハ、シブツケ、ヲ取レリ是ヨリ先佐久間總督ハ平岡司令官ニ命スルニ、一支隊ヲ、ルモアン、ヨリ進メ、キナジ一蕃ノ側背ヲ衝カムコトヲ以テセリ由テ日ヲ計ルニ十三、四日ノ頃當サニ、タケジン社ニ達スヘシ總指揮官乃チ十一日ヲ以テ兩討伐隊長ニ命令シテ曰ク「新竹、桃園兩隊共タケジン溪岸ニ達シタル時ハ互ニ連絡ヲ取り、タイヤカン社ニ進出スル時期ハ宜シク後命ヲ竣ツヘシト」

十二日 渡邊部隊、草村分隊ノ隘勇一名、狙撃サレテ死シ十三日清水部隊、川村分隊ノ巡查武田武三郎及人夫一名銃創ヲ受ク撃テ之ヲ卻ケタルモ遠ク退却セス林間ニ潛匿シテ我カ隙ヲ窺フ

十四日 松山桃園隊長ハ永井、柏尾、清水、森山ノ諸部隊ヨリ巡查班長四名、巡查四十四名ヲ割キ之ニ加フルニ臨時増員ノ警部、警部補、警手、隘勇ヲ以テシ一箇部隊ヲ編ミ警部佐藤福三郎ヲ部隊長、警部補毛利八百八及原恒吉ヲ分隊長ト爲シ之ヲシテ、マカン溪底（マリコワン山稜線突角前ヨリ、マリコワン溪ニ注ク小溪）ヨリ、ウライ山ニ至ルマテノ間ヲ守ラシメ柏尾部隊其ノ他ニ行動命令ヲ發ス永田新竹隊長亦同時ニ命令ヲ下セリ桃園隊長ノ發シタル命令ハ左ノ如シ

- 一、數日來我カ隊ノ先頭附近ニ出沒シ狙撃ヲ加ヘツルアリタル兇蕃ハ我カ數回ノ砲撃ニ由リ其ノ氣勢漸ク挫ケタルカ如シ
- 二、我カ隊ハ明十五日タイヤカン社ノ北端合流點附近ニ於テ新竹討伐隊ト連絡セムトス
- 三、前進部隊ハ十五日午前五時マテニ晝夕ニ食ヲ携帶シ、シブツケ高地ニ集合シ出發ノ命ヲ待ツヘシ
- 四、中間警部ハ當日蕃人ノ一部ヲ前面左稜線上ニ殘留シテ警戒ノ任ニ當ラシメ其ノ他ハ之ヲ引率シテ前進部隊ヲ嚮導スヘシ
- 五、森山部隊ハ當日清水部隊先頭ノ鞍部ヨリ前面高地頂上附近ニ連絡シ得ル如ク進出スヘシ但栗山分隊ハ舊守備地ニ殘留シ他ノ二分隊ヲ本夜中ニ守備地一帶ヲ佐藤部隊ニ引繼キ第一高地附近ニ露營スヘシ
- 六、柏尾部隊ハ森山部隊ニ附隨シテ出發シ森山部隊ノ先頭ヨリ進出シテ合流點附近タケジン溪右岸ノ要地ヲ占領シ新竹隊ト連絡スヘシ
- 但本日中ニ其ノ守備地ヲ清水部隊及永井部隊ニ引繼キ其ノ地附近ニ露營スヘシ
- 七、柏尾部隊ハ前進ト共ニ被覆線ヲ以テ電話線ヲ架設スヘシ之カ爲工夫三名ヲ附ス
- 八、森山、柏尾兩部隊ハ各其ノ占領地域内ニ適宜掩堡ヲ構築シ又兼テ道路開鑿並左右ノ伐採ヲ爲スヘシ
- 九、清水部隊ハ本日中ニ其ノ守備線ヲ延長シテ、マリコワン山第一高地ノ頂點マテヲ守備スヘシ
- 十、永井部隊ハ本日中ニ其ノ守備線ヲ延長シテ、マリコワン山第二高地ノ頂點ニ於テ清水部隊ト連絡シ又田村分隊ノ舊守備線ニ補填配置シ清水部隊ト連絡スヘシ
- 十一、佐藤部隊ハ森山部隊ノ舊守備線ニ就キ、マカン溪底ニ於テ栗山分隊ト連絡シ同地點ヨリ、ウ

ライ山ニ至ル間ヲ守備スヘシ

十二、山田砲隊ハ當日シブツケ砲臺ヨリ山野兼用砲一門、迫撃砲一門、機關銃一挺ノ發射準備ヲ整ヘ
尙本日ウライ山砲臺ヨリ三吋速射砲ヲ運搬シ其ノ砲臺ニ配備スヘシ(以下省略)

十五日 黎明新竹隊ハ西方高地(タイヤカン、タケジン兩谿ノ合流點ヲ西ニ距ルコト二千米突ニ在ル山頭)ニ在ル五千五百七尺ノ山頭)ヨリシ桃園隊ハ東方高地(同合流點ヲ東ニ距ルコト約一千米突ニ在ル山頭)ヨリシ一氣ニ疾馳シテ齊シク溪畔ニ下リ合流點ニ相連絡ス兇蕃敢テ來抗セス蓋シ、マリコワン蕃中ノ硬派ハ前ニ我カ隊ヲ捍キ、キナジー蕃ハ後ニ、タチジン支隊ニ抗シ勢覺マリ力盡キ出ル所ヲ知ラサルニ至リシナリ内田總指揮官、乃チ書ヲ兩隊長ニ致シテ曰ク「新竹、桃園兩隊ハ行動ノ進捗ニ從ヒ益奮勵努力シ機ニ乘シテ挺進シ兇蕃ヲシテ扼守ノ暇ナカラシメ本日ヲ以テ、タイヤカン溪ト、タケジン溪トノ合流點ニ於テ相連絡セリトノ報ニ接ス是地ヤ、キナジー、マリコワン兩蕃ヲ控制スルニ足ル要衝ニシテ目的ノ大半ハ既ニ達シ得タリト謂フヘシ然レトモ蕃情ノ變化ハ固ヨリ側リ難シ此ノ際一層銳意シテ最終ノ效果ヲ收メムコトヲ期セラルヘシト

十六日 味爽兇蕃伏ヲ水源地ニ設ケ中田部隊ノ人夫五名ヲ奄襲シ之ヲ殺ス部隊長、多久分隊長ヲシテ之ニ馳セ護衛ノ隘勇一名ヲ援ケ撃テ之ヲ走ラシム

十七日 午後九時颶風雨ヲ捲キ其ノ勢猛烈ヲ極ム翌日風稍歇ミタルモ雨量甚多ク諸溪暴カニ漲リ平水ヨリ増スコト一丈四、五尺ニ及ヒ鐵綫橋ヲ除クノ外前線後方ノ橋梁流失、殆ト盡キ道路ハ崩壞シ電信電話線ハ切斷シ交通杜絶シ各隊ノ糧食竭ルニ垂ントシ爲ニ食ヲ減シテ晝夜復舊ノ工ニ從フ越テ二十一日討伐警察隊司令部ト蕃務本署トノ間ニ特設シタル専用直通電話線開通シ各隊ノ間ニ於ケル電話線亦補修ヲ畢リ道路橋梁等ノ應急工事相繼テ成ルヲ告ケ二十五日ニハ物資ノ輸送ヲ開始シ得ルニ至レリ而モ之ニ因リテ銃器ノ押收ニ著手スルコト能ハス殊ニ意料外ノ經費ヲ要シタリ

松山隊長ノ合流點ヲ取り陣ヲ布クヤ中間警部及渡邊通譯(榮次郎)ヲシテ、マリコワン蕃ニ説クニ禍福ヲ以テシ降伏ヲ趣カサシム衆蕃已ニ勢ノ赴ク所ヲ知リ復、異言ヲ挾ム者ナシ是ニ於テ二十三日ヲ以テ該蕃頭目勢力者等七十五名(ウライ社頭目ユーミンワタン外十名、ウラオ社頭目タホスノーミン外十五名、パットル社頭目ノ弟タヤンノミン外八名、タイヤフ社頭目タイモバツケ外九名、ルモアン社頭目マライネーバン外三名、バスー社頭目ワタンタイモ外三名、マメ社頭目タイホナグイ外十五名、コレ社頭目ユーミンバクン外二名、リボ社頭目ユーミンナウイ外二名)ヲ溪底物資集積所前ニ引見シ總督ノ命ヲ傳ヘ銃器ノ提供ヲ促カス衆蕃唯々二十五日ヲ期シ、ウライ山本部ニ納メムコトヲ誓フ乃チ酒食ヲ給シテ遣還セリ

(附記)松山桃園討伐隊長ノ報告シタル銃器引揚ニ關スル諭告ノ要旨ハ左ノ如シ

- 一、總督ノ銃器ヲ押收サルハ蕃人ノ惡習ヲ矯メ良俗ヲ養ヒ長ク國恩ニ浴セシメムカ爲ナリ
- 二、盡ク銃器ヲ提出シタル後ハ各頭目ニハ毎月三圓ノ手當ヲ給シ社内ノ取締ニ從事セシム
- 三、良民タラムト欲スレハ先ツ誠首ノ陋習ヲ除クヲ要ス現今世界各國中、人頭ヲ獲ルヲ以テ名譽ト爲スノ風ヲ存スル者ハ絶無ナリ我カ日本人ノ祖先モ戰ニ臨ミ敵ノ首級ヲ擧ケタルコトアレトモ風ニ此ノ弊ヲ革メ今ヤ一國和睦シテ宛モ一家ノ親ノ如ク産業ヲ興シ學校ヲ建テ港ヲ開キ路ヲ修メ人智駁々トシテ日ニ進メリ是レ臺北ニ觀光シタル者ノ目睹セシ所、汝等モ漸次生活ノ向上ヲ計ラサルヘカラス

四、官ノ保護ヲ受ケムニハ盡ク銃器ヲ提供シ恭順ノ實ヲ表スルニ如クハナシ銃器ハ汝等ノ寶愛スル所ナリト雖之ヲ所有スレハ誠首ノ陋習ヲ除キ難シ官ノ之ヲ押收スルハ是カ爲ノミ然レトモ唯之ヲ提出セシムルニアラス代償トシテ相當ノ金ヲ下附セラル汝等ハ之ヲ以テ牛豚又ハ農具ヲ購ヒ生活改善ノ資ト爲スヘシ又出獵セムトスルニ當リ銃器ヲ要スル時ハ前山蕃同様之ヲ貸與スヘキヲ以テ

銃器ヲ藏スル者ハ懸念スル所ナク速ニ之ヲ提供セサルヘカラス
 五、銃器押收ノ代償トシテ金圓ヲ下附サルルハ總督ノ汝等ヲ愛セラルル所以ニシテ破格ノ恩惠ナリ
 而モ之ヲ提供スレハ縦令極力反抗シタル者モ尙其ノ罪ヲ追究サレズ寬典之ヨリ大ナルハナカルヘ
 シ然レトモ此ノ際、匿シテ之ヲ出ササル者アラムカ飽クマテ其ノ罪ヲ問ヒテ毫モ假借セス故ニ社
 内ニ此クノ如キ不逞ノ徒アレハ頭目又ハ勢力者ハ懇ニ之ヲ説諭シ尙且肯カサルトキハ執ヘテ之ヲ
 官ニ送ルヲ要ス若シ又社内ニ兇惡悛メサル者アリテ出テテ我カ隊ヲ狙撃シ頭目之ヲ制スル能ハサ
 ルカ若キ事アレハ各砲臺ハ斷エス該社ヲ砲撃スルノミナラス、タケジン社ニ入レル軍隊ハ蕃社ヲ
 包圍シテ之ヲ攻メ耕作物モ蹂躪セラルルニ至ラム頭目勢力者ハ宜シク是等ノ者ナカラシムヘク注
 意スヘシ

六、今回ノ銃器押收ハ、マリコワソ蕃ハ我カ桃園隊キナジ一蕃ハ新竹隊、タケジン、チンシボー、
 スマンガス、マカガオン、ノ四社ハ軍隊之ニ當ルヘク總督ヨリ命令出ツ故ニ各隊ハ百難前ニ横ル
 モ此ノ責ヲ果ササルヘカラス汝等官意ノ存スル所ヲ知り悔ヲ他日ニ貽スコト莫レ

二十四日 永田新竹隊長キナジ一蕃各社ノ頭目勢力者ヲ召集シ銃器押收ノ命ヲ傳フ其ノ論ス所、粗桃
 園隊ニ同シ而モ溪流大ニ漲リ各社頭目等ノ來會スル能ハサル者頗ル多シ、マリコワソ蕃ハ路途ノ便ナ
 ルニ由リ銃器ヲ納ル者ウライ山頭ニ項背相望ム

二十七日 内田總指揮官ハ家永新竹廳長ヲ隨ヘ永田隊ノ新占領地一帯ヲ巡按シテ隊員ヲ犒勞シ二十九
 日李岷山總司令部ニ復レリ是日タケジン支隊ハ、スマングス社ヲ取り翌日更ニ、マカガオン社ヲ略シ
 銃器ヲ押收セリ蓋シ水ノ阻ム所ト爲リ一時行動ヲ中止シタルナリ

三十一日 トソノフシロワン、ノ陣地ニ在ル永田新竹隊長、シブツケ砲臺ニ在ル松山桃園隊長、銃器押
 收ノ情況ヲ報告ス乃チ左ノ如シ

永田隊長ノ報告

三十一日タイヤカン、タバホ兩社ノ頭目蕃丁等二十餘名當本部ニ來リ、モーゼル五連發銃外十挺ヲ
 提出シタルヲ以テ小官之ヲ引見シ告ケテ曰ク「汝等カ銃器押收ノ命令ニ遵ヒ此ニ來レルヲ諒トス投
 誠歸順セル者ニ對シ保護ト便宜トヲ與ヘツツアルハ汝等ノ知ル所ノ如シ然ルニ今尙躊躇セル者アル
 ハ甚會セサル所ナリ頭目等ハ百方之ヲ論シ禍ヲ招クカ若キコトナカラシムヘシ警察隊、軍隊ハ銃ヲ
 養ヒ糧ヲ積ミ而モ尙動カサルハ汝等ノ速ニ自新スルヲ遲ツノミ」ト頭目等曰ク「我カ社内ニ未タ銃器
 ヲ提出セサル者十餘名アリ今ヨリ社ニ歸リ重テ官命ヲ傳達シ其ノ提供ヲ促カサム若シ尙從ハサレハ
 官ノ處置ヲ仰カムトス」ト由テ之ヲ遣歸セリ日本來所シタル、ハガユン社ノ頭目サツサンデンヨツ、
 ハ、タイヤカン社中ニ在テ慄悍ノ名尤高カリシカ本日ノ態度ヨリ推スニ誠意ノ認ムヘキモノアリ惟
 フニ銃器ノ提供ニ關シテ盡カスルナルヘシ

松山隊長ノ報告

本日午後四時三十分、山内副長ハ、マリコワソ蕃全部ヲ、ウライ山本部ニ召集シ告ケテ曰ク「中間警
 部及渡邊通譯ノ調査シタル所ニ據レハ汝等ノ社内ニ殘存セル銃器ハ尙五十七挺アリ汝等ハ斯クノ如
 ク多數ノ銃器ヲ藏匿シナカラ官ヲ欺キ已ニ一挺ヲモ餘サスト曰フハ不埒千萬ナリ、キナジ一蕃モ汝
 等ト同様尙全部ヲ提供セス由テ總督閣下ハ警察隊及軍隊ニ對シ遲疑決セサル蕃社ハ之ヲ伐ツヘシト
 ノ命ヲ下サレタリ若シ明夕ヲ期シ尙提出セサレハ直ニ砲撃ヲ開始スヘシ」ト頭目明日午前中ニハ必
 ス殘存銃器ヲ提出スヘキヲ以テ砲撃ヲ猶豫サレタシト言ヒ午後五時退出セリ
 是日總指揮官ハ兩隊長ニ命スルニ、タイヤカン社ヲ占領スヘキヲ以テス兩隊長即チ左ノ行動命令ヲ發
 ス

永田隊長ノ命令

- 一、若干ノ、シヤカロー社蕃人ハ渡邊、中田兩部隊線外密林中ニ出沒シ狙撃ヲ加ヘツツアルモ、タイヤカン社方面ハ既ニ平穩ニ歸セリ
 - 二、當隊ハ八月一日午前五時行動ヲ開始シ、タイヤカン社ノ内小社シラツク社東南方稜線ヲ占領シ標高五千尺ノ地點ニ於テ、タイヤカン溪合流點ヨリ進出スル桃園討伐隊ト連絡セムトス
 - 三、瀬戸部隊ハ、タイヤカン溪ヲ涉リ其ノ所屬武田分隊前面右岸稜線ヲ進ミ目的地ヲ占領シ桃園討伐隊ト確實ニ連絡スヘシ
 - 四、渡邊部隊ハ現守備地ヲ七月三十一日午後四時三十分マテニ中田、長崎兩部隊ニ引繼キ其ノ二箇分隊ヲ以テ瀬戸部隊ノ守備シタル地域ノ守備ニ充テ其ノ一個分隊ハ瀬戸部隊ノ後尾ニ跟隨シ、タイヤカン溪右岸ヨリ上方約五百米突ノ地域ヲ占領スヘシ
 - 五、七月三十一日午後四時三十分マテニ中田部隊ハ現守備地ノ外尙渡邊部隊ノ草村、佐々木兩分隊ノ守備シタル地域、長崎部隊ハ其ノ守備地ノ外尙渡邊部隊高井分隊ノ守備シタル地域ノ引繼ヲ受ケ守備ニ任スヘシ
 - 六、金子砲隊ハ七月三十一日午後六時マテニ機關銃一挺ヲ山田分隊本部下方ニ移シ瀬戸部隊ノ進出ヲ援護スヘシ
 - 七、萩原警部ハ歸順蕃人若干名ヲ率キ瀬戸部隊ヲ嚮導スヘシ(以下省略)
- 松山隊長ノ命令
- 一、蕃情ハ平穩ノ觀アリト雖其ノ實情ハ未タ測ルヘカラス須ラク戒心事ニ從フヘシ
 - 二、當隊ハ八月一日タイヤカン社ニ向ヒテ前進シ新竹隊ト連絡セムトス
 - 三、前進諸隊ハ午前四時三十分マテニ晝夕ニ食分ヲ携行シ、タケジン溪合流點附近右岸ニ集合スヘシ

- 四、柏尾部隊ハ午前五時集合地出發大斷崖左方稜線ヲ進ミ斷崖ノ頂點ニ達シ行々掩堡ヲ配置シ更ニ左折シテ約六百米突ニ在ル集團蕃屋ヲ經、標高約五千尺ノ高地ヲ占領シ新竹隊ト連絡スヘシ
但前進ト共ニ被覆線五千米突ヲ携行シ電話線ヲ架設スヘシ之カ爲ニ工夫二名ヲ附ス
 - 五、中間警部ハ本日中ニ巡查ノ指揮スル蕃人若干名ヲ柏尾部隊ニ附シ嚮導タラシムヘシ
 - 六、森山部隊ハ午前五時栗山分隊ヲシテ柏尾部隊ニ跟隨シ、タケジン溪底ヨリ柏尾部隊後尾マテノ地域ヲ占領シ掩堡ヲ構築セシムヘシ
但木津分隊ハ依然舊守備地ニ殘置シ栗山分隊ヲシテ直ニ柏尾部隊ノ舊守備線ヲ補填守備セシムヘシ
 - 七、清水部隊ハ直ニ森山部隊、栗山分隊ノ舊守備線ヲ補填守備スヘシ
 - 八、永井部隊ハ明朝清水部隊所在地ヨリ第二高地及其ノ西南稜線三百米突ノ守備地域ヲ引受ケ之カ守備ニ任スヘシ
 - 九、佐藤部隊ハ明朝マカレ溪底ヨリ掩堡五箇處ヲ森山部隊ヨリ引受ケ之カ守備ニ任スヘシ
 - 十、山田砲隊ハ當日シブツケ砲臺ノ砲擊準備ヲ整ヘ又豫テ機關銃ヲ以テ對岸掃射ニ支障ナカラシムヘシ
 - 十一、前線輸送隊ハ柏尾部隊及森山部隊ノ一分隊ノ爲ニ速ニ一週間分ノ糧食ヲ、タケジン溪ノ左岸ニ運搬到著セシムヘシ(以下省略)
- 八月一日 新竹、桃園兩隊ハ二縱隊ト爲リ急ニ進ミテ、タイヤカン社ヲ包容シテ相連絡シカヲ戮セテ銃器ノ提出ヲ趣カス蕃人風ヲ望ミテ命ヲ聽ク初ヨリ押取シタル所、新竹隊百三十五挺、桃園隊百三十二挺、タケジン支隊百五挺共計三百七十二挺ニシテ向キニ探查スル所ノ數ニ超過セリ(討伐開始前調査シタル總數ハ三百十五挺ナリ)

四日 佐久間總督ハ教書ヲ討伐警察隊ニ下シテ曰ク「キナジー方面蕃社討伐警察隊ハ兩隊連絡ノ後、刻苦精勵防備作業ト銃器押收トニ從事シ其ノ目的ヲ達スル將サニ近キニアラムトス是レ偏ニ上下一致ノ效果ニシテ本總督ノ深ク多トスル所ナリ今ヤ更ニ方面ヲ轉シ新タニ行動ヲ起サムトス乃チ爰ニ既往ノ勞苦ヲ稿ヒ將來ノ努力ヲ望ム須ラク勇往邁進シ速ニ功ヲ奏セムコトヲ期スヘシ」ト而シテ之ト同時ニ討伐第一守備隊司令官ニモ第二次行動ニ移ルヘク教書ヲ發セリ蓋シ初、此ノ討伐ヲ計畫スルヤ凡九十日ヲ要スヘク期シタリシニ五十餘日ニシテ略其ノ績ヲ舉ゲタリ乃チ追加行動トシテ、シヤカロー（新竹廳下樹杞林支應管内）シカヤウ、サラマオ（南投廳下埔里社支應管内）及溪頭後山蕃（宜蘭廳下叭哩沙支應管内）等ヲ鎮定シテ其ノ所有銃器ヲ押收セムトスルナリ追加行動ノ計畫既ニ成リタルヲ以テ之ニ要スル所ノ隊員ハ新タニ之ヲ部署シ各其ノ嚮フヘキ所ニ嚮ハシメ、マリコワン、キナジー方面ニハ自餘ノ隊員ヲ駐メテ各般ノ工事及殘存銃器押收ノ事ニ從ハシメ桃園隊ノ、タイヤカン社ヲ撤退シタル後ハ特ニ、タケジン支隊中ノ一個中隊ヲシテ之ニ代リテ守備セシム是ヨリ蕃情復動カス、キナジー、マリコワン以外ノ各社亦銃器彈藥ヲ提出スルモノ陸續相踵クニ至レリ

（附記）タケジン支隊ノ行動ニ關スル平岡司令官其ノ他ノ報告ヲ左ニ收録シ其ノ狀況ノ一斑ヲ窺フニ便ナラシム

平岡司令官ノ電報（七月十二日）

本十二日朝ニ於ケル討伐軍隊ノ前進區處及配置左ノ如シ

イ、步兵聯隊長ノ率ウル步兵第一大隊、機關銃四挺、擔架一小隊ハ本十二日午前六時ビユウガン溪河口ヲ出發シ同溪ヲ遡リ、キナジー蕃ニ向ヒ前進ス

昨十一日朝將校斥候ヲ、ビユウガン溪上流コモン、ニ派遣シタリ但此ノ隊ノ前進ニ伴ヒ目下豫備隊ニ在ル步兵第一大隊（二中隊缺ク）ヲ増加スル筈

ロ、步兵第一大隊（二中隊缺）及機關銃二挺ハ、カラツボ溪河口ニ位置シ、シキタン社以南濁水溪河

孟ニ在ル蕃人ニ對シ、キナジー討伐軍隊ノ左側ヲ掩護ス

ハ、守備隊司令部步兵第一大隊（二小隊缺）機關銃二挺、山砲兵一中隊及衛生隊（擔架一小隊缺）ハ豫備隊ト爲リ、ルモアン、ニ位置ス

ニ、背後連絡線守備ノ爲步兵一中隊ハ、カナウラン附近ニ位置シ、ルモアン、鳥帽子山間ヲ步兵一中隊ハ、タボー溪河口附近ニ位置シ鳥帽子山、濁水間ヲ警備ス

ホ、步兵一小隊ハ濁水ニ在テ該地ヲ守備ス

足立參謀長報告（七月十五日）

ルモアン、ヨリ、ビユウガン溪ヲ遡リ、タケジン方面ニ進出セシ部隊ハ一路急進セシ爲途中樹木ヲ伐採スルコトモナク又後方ニ據點ヲ設クル等ノコトモナク僅ニ通行ニ支障ナキ程度ニ於テ蕃路ヲ修築シ極メテ少數ノ兵力ヲ背後ノ守備ニ殘置セシニ止マリ警察隊トハ全ク其ノ趣ヲ異ニセリ

昨十五日ノ如キハ、ハツピン合流點（コモン鞍部西北方二千五百米突ニ在ル小溪ノ合流點）守備兵ニ向ケ蕃人襲來セリ將來又屢斯クノ如キコト發生スルヤモ保シ難シ從テ、タケジン方面ヨリ、ルモアン、ニ至ル背後連絡線ハ頗ル危險ノ状態ニ在リ元來タケジン方面ニ進出セシ部隊ノ兵力ハ其ノ進路ノ長サニ比シ少キニ過レトモ目下ノ處其ノ兵力ハ増加シ難シ、（テンクル溪ニ於ケル賊首ハ必然南澳蕃ノ動搖ヲ來スヘク此ノ際濫リニ濁水溪河谷ニ於ケル兵力ヲ、タチジン方面ニ増加移動スレハ更ニ溪頭蕃ノ動搖ヲ來スヤモ計リ難キヲ以テ）又今後ビユウガン溪及タケジン溪増水セハ全ク糧道ヲ斷タルルノ窮境ニ陥ルヘキヲ以テ頗ル痛心シアリ之カ爲此ノ際キナジー方面蕃人ノ處分ヲ最迅速ニセラレムコトヲ切望ス

略蕃情ノ見定メ付ク迄茲數日間ハ濁水溪河谷ニ於ケル現在ノ配置ヲ濫リニ變更セサルノ有利ナルコ

トニ付テハ既ニ守備隊司令官ニ注意シ置ケリ

平岡司令官ノ報告(七月十六日)

- 一、本十五日午前九時三十分主力(タケジン支隊)ヲ以テ、タケジン社東方約千五百米突ヲ距ル高地ニ達シ第一線ハ依然タケジン社ヲ包圍シテ銃器ノ提供ヲ脅迫シ昨十四日夕マテニ引揚ケタル銃器ハ十一挺又本十五日タケジン社頭目ハ自己ノ銃器ヲ提供シ誠意ヲ表セリ
- 二、スマングス社チンシボー社ニ、タケジン社蕃丁ヲ派遣シ歸順及銃器ノ提供ヲ勸告セシメタル結果本十五日午後二時三十分スマングス社蕃丁二名タケジン社ニ來リ同族ノ降服歸順ヲ申出タルニ由リ目下之ヲ第二大隊本部ニ抑留シ銃器ノ提供ヲ脅迫中ナリ又チンシボー社ハ明十六日中ニ其ノ答辯ヲ齎ス筈ナリ
- 三、本十五日支隊ノ主力ハ、サガル高地ニ達シ煙ヲ揚ケタルカ警察隊方面ニ於テハ之ヲ揚ケタルヤ否明瞭ナラス
- 四、此ノ高地ハ、コモン溪ト、タケジン溪トノ合流點南側ニ在テ遠ク、タケジン溪ヲ瞰下シ(ガオカン蕃社ニ於ケル、バロン山ニ相似タリ)警察隊方面ノ高地ヲ望見スルコトヲ得、而シテ、タケジン社ハ、タケジン溪ノ左岸山腹ニ、スマングス社ノ部落ト想ハルル蕃社ハ、サガル高地ヨリ一高地ヲ隔テテ其ノ一部ヲ見ルコトヲ得、チンシボー社ハ之ヲ見ルコトヲ得ス
- 五、タケジン支隊ノ背後連絡線ハ地形頗ル險惡ニシテ、コモン坂下ヨリ、タケジン社ニ到ルニ約十二時間ヲ要シ且輸送人夫少キ爲糧食ノ補充滯留スルヲ以テ過日來兵力ヲ用キ道路ヲ開修シ又隊ノ專屬人夫ヲ使用シ同支隊ノ糧食ヲ前送シ目下辛ウシテ其ノ補充ヲ爲シツツアリ
- 六、タケジン支隊ハ暫ク其ノ第一線部隊ヲ以テタケジン社ヲ占領、主力ヲ以テ、サガル高地ニ位置シ部隊ヲ整頓シ交通路ヲ開修シ以テ逐次キナジ一各蕃社ノ降服歸順ヲ脅迫セムトス(以下省略)

平岡司令官ノ報告(七月十七日)

- 一、本十六日午前タケジン社ヨリ銃器四挺スマングス社ヨリ八挺ヲ提供セリ然レトモ、スマングス社ハ頭目出頭セス眞ノ歸順ト認メ難キニ由リ頭目ノ出頭ト銃器ノ提供トヲ嚴命セリ、チンシボー社ハ歸順反抗ノ兩派ニ分レ其ノ反抗派ノ蕃丁約十名本十六日午後二時我レニ反抗ノ目的ヲ以テ、タケジン社第二大隊露營地ノ西側高地脚ニ來リタル旨タケジン社蕃婦ノ密告ヲ受ケ直ニ伏兵トシテ一小隊ヲ派遣セリ其ノ時敵蕃ラシキ者露營地ノ西方約三百米突ニ在ル水源地警戒小隊ニ對シ襲來シ之ト交戦中前記ノ一小隊到着シ互ニ協力シテ之ヲ撃退セリ我レニ損害ナク敵蕃ハ少クトモ一名負傷セリ此ノ戦鬪ノ結果敵蕃ハ我カ遠距離射撃ノ效力ヲ恐レタルト、タケジン社頭目カ反抗ノ不可ナルヲ論サム爲第一線ノ前方千米突附近ニ至リ説示シタルトニ因リ明後十八日銃器十挺ヲ提供シ歸順申出ルニ決定セリトノコトナリ(以下省略)

平岡司令官ノ報告(七月二十六日)

- 一、タケジン支隊長ノ報告ニ據レハ二十五日マテ同支隊ノ押收シタル銃器ハ合計四十一挺ナリト又過般李岫山ニ差遣シタル、タケジン社蕃丁ノ言ニ據レハ、チンシボー、タイヤカン兩社蕃丁三、四挺ノ銃器ヲ携ヘ、タケジン社第二大隊本部ニ出頭中ノ者ニ出會セシニ由リ軍隊ハ銃器全部ヲ押收セサレハ満足セスト語リタルニ然ラハ軍隊來著ノ上提供セムトテ途中ヨリ引返セリト(以下省略)

平岡司令官ノ報告(七月二十八日)

- 一、タケジン支隊報告ノ要領左ノ如シ
支隊ハ二十七日敵蕃ノ抵抗ヲ受ルコトナク、タケジン社頭目以下約十名嚮導ニ依リ午前十一時、前衛ヲ以テ午後三時本隊ヲ以テ確實ニ、スマングス社ヲ包圍占領セリ同社ノ戸數ハ約二十戸ニシテ蕃人ハ支隊前進ニ當リ十數名抵抗セリ

- 二、蕃社ハ一般ニ平穩ナリ支隊ハ明十八日引續キ、マカガオン社方面ニ前進セムトス
- 三、サガル高地スマングス社間ノ道路ハ極テ險阻ニシテ若干ノ補修ヲ加フルモ荷物搬送及患者輸送ハ至難ニシテ軍隊行進ノ爲約六日間ヲ要ス
- 四、同二十七日警察官ヨリ聞得タル蕃情左ノ如シ
 マナウヤン社蕃丁ノ密告ニ據レハ、シカヤウ、サラマオ蕃人約百名今二十七日ノ烏聲ヲトシ討伐隊方面ニ出草スル筈ナリト由テ討伐軍隊ハ一般ニ警戒ヲ嚴ニシ殊ニ、マツブン、ハツピン附近ハ、マナウヤン、ビヤナン方面ニ通スル蕃路アルヲ以テ特ニ同地附近ノ守備隊ヲシテ潜伏斥候ヲ出シ之ヲ要撃スヘク命シタリ又宜蘭廳長ノ報告ニ據レハ、マナウヤン社蕃人ハ銃器提供ヲ命セラレレハ反抗スヘク、ビヤナン社モ之ト行動ヲ共ニスヘシト警察官ニ密告セシ者アリト(以下省略)

平岡司令官ノ報告(七月二十九日)

- 一、タケジン支隊ノ先遣隊タル歩兵第二大隊長ノ率ウル二個中隊ハ何等抵抗ヲ受ルコトナク本二十八日午後二時確實ニ、マカガオン社ヲ占領セリ同社ハ蕃屋各處ニ散在且深谷ヲ以テ隔離セラレタリ目下其ノ戸數及銃器彈藥ヲ調査中ナリ先遣隊ノ位置ヨリ、チンシボー及タイヤカン社ハ約千米突ノ距離ニ在テ之ヲ制スルヲ得又桃園警察隊ノ天幕ヲ確實ニ望見スルヲ得ルヲ以テ火ヲ揚ケ連絡中ナリ新竹警察隊モ之ヲ望見シ得ルモ稍明瞭ナラス
- 二、スマングス社ハ戸數十七、人口約百名男子ハ比較的少ク老幼合シテ四十一名ニ過キス昨夜來蕃丁全部ヲ集メ銃器ノ提供ヲ迫リタルニ唯一挺ヲ出シタルノミ蕃丁ノ言ニ據レハ外三挺アリタルモ一昨二十六日之ヲ携帶シ線内ウライ社ニ移住シタリト尙脅迫ヲ加ヘ其ノ提出ヲ促シツツアルモ諸情報ヲ綜合スレハ殘存セルモノナキカ如シ

- 三、スマングス社勢力者ノ言ニ據レハ、マナウヤン社頭目ハ目下ボウブル溪ノ上流鞍部附近ニ避難シ反抗ノ意アリト云フ過日來ハツブン附近ニ出草セルハ恐ラクハ彼等ノ所爲ナラム又シカヤウ、サラマオ兩蕃ハ飽クマテ反抗ノ意アリト(以下省略)

平岡司令官ノ報告(八月一日)

- 一、タケジン支隊ハ昨三十日マカガオン社ヨリ銃器六挺ヲ押收セリ尙同社蕃屋ニ宿營シ軍隊ノ威容ヲ示シ脅迫ニ努メタル結果今三十一日更ニ銃器六挺彈藥六十九發ヲ提出セリ
 チンシボウ社ニ對シテハ屢銃器提供ヲ促シタル結果本三十一日午前十一時頭目以下マカガオン先遣大隊本部ニ出頭シ銃器十七挺ヲ提供セリ由テ一同ニ威嚇的訓示ヲ與ヘ頭目以下七名ヲ拘禁シタルニ大ニ畏縮シ八月一日ニハ殘存セルモノ全部ヲ提供スヘク誓ヒタルヲ以テ拘禁シタル者ノ外ハ歸社セシメタリ
 本三十一日マカガオン社ニ於テ押收シタル銃器ハ同社十五挺、タイヤフ社三挺、チンシボー社十七挺、合計三十五挺ニシテ最初ヨリ押收シタル總數ハ七十七挺ナリ
- 鈴木タケジン支隊長報告(八月五日)
 一、本四日チンシボー社ヨリ更ニ銃器十六挺ヲ押收ス最初ヨリ押收シタル總數百四挺彈藥六百發ニ達セリ
- 二、支隊ハ豫定ノ如ク行動シ明五日午後二時比マテニハ、タイヤカン高地ニ進出セムトス
- 三、在李嶼山總司令部トハ昨三日夕刻ヨリ通話ヲ連絡シツツアリ(以下省略)
- 鈴木タケジン支隊長報告(八月十七日)
 一、昨十六日夕ヨリ本日マテ威嚇ニ由リ、タイヤカン高地守備大隊及サカヤチン附近派遣中隊ノ押收シタル銃器ハ七挺彈藥及藥莖百十四發ナリ

二、タバホ社占領尾能中隊ハ警察隊ノ請求ニ基キ威嚇手段ヲ用キ同社ヨリ銃器二挺彈藥二百六十發ヲ押收セリ

三、當支隊ノ、タイヤカン高地進出後押收シタル銃器彈藥ハ全部附近ノ警察隊ニ交付中ナリ

○追加行動ノ籌畫並其ノ狀況

キナジー方面ノ大局粗定マリ復深ク顧ミルニ足ラサルヲ以テ佐久間總督ハ内田總指揮官並龜山副指揮官ニ諮リ中川財務局長ニ命シテ經費ヲ酌定セシメ蕃務本署長ニ命シテ隊員ノ増遣、糧餉ノ接濟等ヲ計畫セシメ宜蘭、新竹、南投三方面ニ支隊ヲ編成シ軍隊ト力ヲ併セ相繼テ行動ヲ開始セシム

(附記)追加行動ノ計畫ニ關シ蕃務本署長ノ總指揮官ニ致シタル電報ハ左ノ如シ
御内示ニ依リ總督閣下ノ御意圖ニ基キ追加行動計畫ヲ具體的ニ編成スルコト左ノ如シ

一、部隊ノ編成
大窩支隊二箇部隊、新タニ増員ス

(イ) 分岐點支隊三箇部隊、新竹討伐隊中ヨリ之ヲ割ク(以上シヤカロー方面)

(ハ) 宜蘭支隊二箇部隊、宜蘭應援隊ヲ歸還セシメテ之ヲ充用シ金子警視ヲ隊長トス

(ニ) 南投支隊二箇部隊、南投及臺中ノ應援隊ヲ歸還セシメテ之ヲ充用シ齋藤南投廳蕃務課長ヲ隊長トス

(ホ) 輸送隊ハ大窩隊ニ前線輸送隊一、後方輸送隊一、分岐點隊ニ前線輸送隊一ヲ宜蘭、南投兩支隊ハ共ニ前線後方輸送隊各一ヲ編成ス

二、電信及電話線ノ架設

(イ) 新竹ハ臺北分岐點並司令部線ヲ合セテ十四里トシ二線即チ二十八里分ヲ計上ス
(ロ) 宜蘭ハ十里トシ二線即チ二十里分ヲ計上ス

(ハ) 南投ハ四里トシ二線即チ八里分ヲ計上ス

(ニ) 埔里社ニ非常通信所ヲ置ク

三、兵器彈藥

山本警視ノ意見ニ依リ在庫品ヨリ拂出シ不足ノ分ハ製造セシム

四、橋 梁

架設スヘキ場處不明ナルモ一箇處凡百間ト豫定シ五箇處分ヲ計上ス

五、救護班

各支隊ニ一班ヲ配屬ス其ノ人員ハ現在員中ヨリ割テ充用シ不足ヲ補フ爲公醫一(叭哩沙)ヲ囑託ヲ

六、器具及消耗品

第一次計畫ヲ標準トシテ計畫シ必要ナシト認ムルモノニ限り多少削減ス

七、參加軍隊

(イ) 宜蘭ニ二箇中隊及機關銃

(ロ) 南投ニ二箇中隊

以上ノ計畫ニ依リ經費ヲ計算スルニ理蕃費總額二十萬七千九百八圓ノ内譯廳費八百八十圓、死傷手当五百圓、兵器費六千九百二十六圓、往復旅費一萬四千四十四圓、日額旅費一萬八十一圓、警手増給二千六百四十圓、隘勇増給二千二百八十七圓、人夫賃三萬一千七百二十四圓、人夫給食一萬三百四十圓、物品費四萬七千三百七十五圓、運搬費一萬六千五百二十九圓、電話費九千六百六十三圓、藥費四萬三千八百圓、架橋費千八百八十圓、電信費四百十三圓、撫育費六百五十圓、陸軍費用ハ前記金額ノ外トス豫算ノ繰延方ニ付テハ財務局長ヨリ報告アル等

(一) 宜蘭討伐警察支隊

七月一日 平岡司令官ノ指揮スル歩兵約一箇聯隊及山砲兵並特設隊ノ濁水附近ニ集合スルヤ溪頭蕃ノ動搖ハ漸ク將サニ鎮靜セムトシ、ガオガン蕃及南湧蕃等ヲ誘ヒ、キナジー蕃ヲ援ケムトスルノ匪謀ハ已ニ之ヲ中止シタルモノノ如クナリキ由テ平岡司令官ハ、キナジー方面ノ討伐隊ニ策應セシムル爲、其ノ一部ヲ分チテ、タケジン河谷ニ侵入セシム溪頭後山蕃之ヲ知リ再ヒ隘勇線ヲ窺ヒ兇暴ヲ逞ウスルニ至レリ小松宜蘭廳長往テ之ヲ曉セトモ陽ニ恭順ヲ裝ヒ陰ニ戰備ヲ修メ反跡已ニ露ハレ將ニ我レニ先シテ起タムトスルノ狀、歴然タリ獨リ然ルノミナス是等溪頭後山蕃ハ大正元年五月中、白狗、マレツバ方面隘勇線前進隊副長警部長倉用貞ヲ、マカジーヘン社ノ谿谷ニ襲殺シタル前罪アリ佐久間總督乃チ内田總指揮官ニ命シ宜蘭支隊ヲ編成セシメ討伐命令ヲ發セシム其ノ命令並編成ハ左ノ如シ

- 一、頑迷ナル溪頭蕃マナウヤン、シキタン兩社ハ屢軍隊警察隊ニ反抗ヲ敢テシ駐在警察官ヲ殺害スル等横暴至ラサルナク殊ニ、キナジー方面討伐ニ際シ他蕃社ヲ煽動シ反抗ヲ試ミムトスルノ狀アリ
- 二、討伐第一守備隊(タケジン支隊ヲ除ク)ハ臺灣總督ノ命ヲ承ケ八月六日ヲ以テ、マナウヤン、シキタン兩社ノ處分ニ著手セムトス
- 三、討伐警察隊宜蘭支隊ハ軍隊ト協力シ、マナウヤン、シキタン兩蕃社處分ノ目的ヲ達成スレニ努メ主トシテ濁水谿河谷ノ守備ニ任シ且其ノ討伐後ニ於ケル蕃社ノ處置ニ任スヘシ

部	支隊長	金子 惠 教
隊	支隊 附	坂 井 時 彦
	警部 補	金 城 長 太 郎
	同	

部	部 長	警 部	小 島 仁 三 郎
	第一分隊長	警部 補	波 邊 八 左 衛 門
	第二分隊長	同	明 瀬 英 吉
	第三分隊長	同	後 藤 壽 太 郎
	救護班長	囑 託	村 上 次 一

編 成

區 別	警 視	警 部	警 部 補	巡 査	警 手	隘 勇	囑 託	工 手	計
討 伐 支 隊	—	—	—	—	—	—	—	—	—
救 護 班	—	—	—	—	—	—	—	—	—
電 話 班	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(附記)第一守備隊ノ、マナウヤン社方面討伐部署ニ關シ能村參謀ヨリ隱明寺副官ニ致セル電報ハ左ノ如シ

- 討伐第一守備隊ノ第二次行動計畫概要ハ既ニ報告セシ所ナルカ尙明日拂曉ニ於ケル、マナウヤン社方面ノ處分ニ關スル細部ノ部署ハ左ノ如シ
- 一、歩一ノ第一大隊本部、第二中隊第九中隊、機關銃二挺及擔架二小隊ハ湯地少佐ノ指揮ヲ以テ、マナウヤン討伐隊ト爲リ明六日拂曉前マナウヤン社ヲ包圍ス
- 二、カラツボ支隊及擔架一小隊ハ、シキタン討伐隊ト爲リ、マナウヤン討伐隊ト同時ニ、カラツボ溪ヲ出發シ速ニ、シキタン社ヲ包圍ス

三、右兩討伐隊ハ本五日後十一時カラツボ溪ヲ出發ス
 四、兩討伐隊ハ拂曉ト同時ニ銃器ノ提出ヲ強制シ貸スニ多クモ二時間ヲ以テシ該時間經過後我カ要求ニ應セサル時ハ之ヲ討伐ス
 五、歩一ノ第三中隊(一小隊缺)山砲一門ハ豫備隊ト爲リ明六日午前五時カラツボ、ニ位置ス
 六、討伐第一守備隊司令部ハ明六日午前四時カラツボ、ニ位置ス
 七、電話隊ハ討伐隊ノ前進ニ伴ヒ、カラツボ、ト本討伐隊トノ中間ニ電話線ヲ架設ス
 八、參謀長ハ明朝尙ルモアン、ニ位置ス因ニ日フ木下參謀長ハ小松廳長ト與ニ、ルモアン、ニ在テ、タケジン支隊ヲ指揮シ小松廳長ハ溪頭各社蕃情ノ鎮定ニ勉メツツアリシナリ八月四日該廳長ノ總督ニ致シタル電報ハ左ノ如シ
 マナウヤン社處分ニ關スル御訓電ヲ領ス、シキクン、ビヤナン兩社モ此ノ際同時ニ御處分ヲ仰ク萬一軍隊ニ於テ時日ノ關係上最終ノ實行ヲ果スニ及ハスシテ他方面ニ前進スルカ如キコトアラムカ少數ノ警察隊員ノミニテハ到底善後始末ヲ全ウスル能ハサルヲ恐ル加之延テ南澳蕃操縱上ニモ影響スヘク思惟ス今回ノ行動開始ニ伴ヒ南澳蕃ニ對シテハ極力操縱シツツアリ
 宜蘭支隊ノ編成已ニ畢リシヲ以テ金子支隊長ハ小島部隊ノ一個分隊ヲ、タボ一溪附近ニ一個分隊ヲ、カナウラン社附近ニ一個分隊ヲ、ルモアン附近ニ配置シテ變ニ備ヘシメ友田輸送班ヲ九芎湖ニ赤峰輪送班ヲ濁水ニ駐屯セシム是ニ於テ、ルモアン、ニ在リシ軍隊ハ午後十一時三十分(八月五日)行動ヲ開始シ岸和田大隊ハ、シキクン社ヲ圍ミ銃器彈藥及蕃刀ヲ押收シ逃避セムトスル者ハ之ヲ抑留セリ湯地大隊ハ夜ニ乘シテ濁水ヲ亂ラムトシタルニ水深クシテ渡リ難ク爲ニ時間ヲ費シ未タ、マナウヤン社ニ達セサルニ天已ニ明ク該社蕃人之ヲ知リ險ヲ扼シテ逆擊シ彈雨亂注ク我カ隊奮闘之ニ當リ下士一名戰死シ柳田少尉以下十四名相踵テ創ヲ被ル岸和田大隊長シキクン社ノ山頭ヨリ双眼鏡ヲ以テ之ヲ望ミ歩

兵一中隊擔架一小隊ヲ赴援セシム路險ニシテ未タ達セス是ヨリ先湯地大隊ノ第九中隊別路ヨリ進ミ行々兇蕃ヲ驅逐シ午後三時マナウヤン社ニ突入シテ之ヲ火ク既ニシテ(午後三時三十分)援隊馳至ル輒チ力ヲ併セテ大ニ山中ヲ索ムレトモ兇蕃竄匿シテ復出テス而シテ第九中隊ノ、マナウヤン社ニ向フヤ路ニ、ビヤナン社蕃人六十名許ニ遇ヒ將サニ之ヲ擊タムトス衆蕃辭ヲ卑クシテ哀ヲ乞ヒ且他ナキヲ辯ス乃チ之ヲ擊タスシテ、マナウヤン社ニ入レリ而モ該社蕃人ハ、マナウヤン社蕃人ト與ニ竄レテ、シルビヤ鞍部附近ノ林中ニ匿ル是ニ於テ警察隊ノ一部ト步兵三個中隊トヲ、シキクン及マナウヤン、ニ駐メ溪頭、南澳兩蕃ヲ鎮壓セシメ他ノ六個中隊ヲシテ、シルビヤ鞍部ニ向ハシム蓋シ、マナウヤン、ビヤナン等ノ逃避蕃ヲ剿蕩シ直ニ、シカヤウ、サラマオ方面ヲ衝キ南投支隊ト協力シテ之ヲ平定セシムムカ爲ナリ是ヨリ警察、陸軍ノ兩隊ハ或ハ之ヲ脅威シ或ハ之ヲ懷柔シ二十四日マテニ銃器七十五挺、彈藥二百三十八發ヲ押取シタリ是ヨリ先蕃務本署長ハ警部池田鳴遠ヲ宜蘭ニ遣ハシ小松廳長及金子支隊長ト共ニ軍隊撤退後ノ警備配置ヲ議ラシム其ノ協定書ハ左ノ如シ
 一、マナウヤン社ニ中隊ノ主力ヲ置ク但シ、シキクン砲臺完成即チ九月三日頃マテトス
 二、カラツボ、ニ一箇小隊ヲ置ク但マナウヤン中隊引揚後半永久トス
 以上總督閣下ノ内命ニ依ル
 三、シキクン社ニ據點ヲ構築シ警部又ハ警部補一名、巡查三十名、警手十五名、隘勇十五名ヲ置ク但永久トシ三吋速射砲一門野砲一門ヲ配置ス
 四、烏帽子山ニ據點ヲ構築シ警部補又ハ巡查班長一名、巡查十五名、警手十五名、隘勇十名ヲ配置ス但配置員ノ内巡查三名、警手八名ハ中間ミーセン溪ニ分遣ス
 烏帽子山ニ十二吋臼砲一門ヲ配置ス
 五、討伐隊ハ九月五日比濁水ニ於テ解隊ノ豫定

六、解隊後ノ據點配置人員ハ常務ニ服セシムト雖據點構築ニ要スル本島人夫七十名、内地木挽十名、本島木挽十名ヲ使用スルコト但賃金ハ人夫八十錢、木挽ハ内地人一圓五十錢、本島人一圓二十錢トス

七、配置ノ方法ハ定員外六十名ノ内ヨリ四十五名ハ據點ニ配置シ殘員十五名、警手ハ定員外配置七十名ノ内ヨリ三十名ヲ據點ニ配置シ殘員四十名トナル隘勇ハ定員内ヨリ配置シ殘員ハ之ヲ解隊ス越テ九月三日シキケン據點ノ砲臺略成ルヲ告ケ警備員ノ配置亦畢ル則チ軍隊ハ漸次撤退シ警察隊ハ五日ヲ以テ濁水ニ解隊セリ

(二) 南投討伐警察支隊

南投廳下埔里社支廳管内シカヤウ、サラマオ、ノ兩蕃ハ其ノ戸口多カラサルモ此ノ方面ノ最奥區ニ蟠踞シ交界地ノ各社ヲ構煽シテ撫ニ就カス藏有スル所ノ銃器亦頗ル多ク覺ノ乘スヘキアレハ一逞ヲ圖ラムトスルノ狀有リ佐久間總督乃チ此ノ機會ニ於テ一タヒ痛創ヲ加ヘ之ヲ押收セムト欲シ該廳ヨリ、キナジー方面ニ來援中ニ係ル隊員ヲ還シ、之ニ、サラマオ鞍部ニ配備セル搜索隊(南投廳ニ於テ編成シ變ニ備ヘシムルモノ)ヲ合セテ南投討伐警察支隊ヲ編成シ白狗支隊(埔里社駐屯ノ軍隊ヲ派遣シタルモノ)ト呼應シテ、其ノ境ヲ壓セシメ更ニ、マナウヤン方面ヨリ平岡隊ヲ進メテ、サラマオ鞍部ニ向ハシメ該兩隊ト力ヲ戮セテ此ノ方面一帶ヲ廓清セシムルノ策ヲ樹テ八月七日白狗支隊長ニ準備命令ヲ發セリ其ノ命令竝支隊幹部員及編成ハ左ノ如シ

一、平岡支隊ハ本月七日マナウヤン社附近ニ集合シ今後ノ行動ヲ準備ス

二、白狗支隊ハ暫ク現在ノ姿勢ヲ保チ前進ノ準備ヲ整フヘシ、サラマオ鞍部進出ノ時期ハ更ニ命令ス

右ニ付南投警察支隊ハ白狗支隊ト行動ヲ共ニスヘシ

幹部

支隊長

警部

齋藤

透

本部附

同

依田

盛男

同

同

坂岡

茂七郎

同

同

江田

榮二

部隊

第一分隊長

警部

近藤

小次郎

第二分隊長

警部補

石井

喜代作

第三分隊長

同

梶原

正一

第二部隊長

警部補

竹内

連一

第一分隊長

警部

長崎

重次郎

第二分隊長

警部補

屋嘉比

柴清

前方輸送隊長

同

木村

主一

後方輸送隊長

同

高山

久平

編成

區	警視	警部	警部補	巡查	巡查補	警手	隘勇	囑託	雇	工手	工夫	計
本部	1	4	5	1	8	3	5	1	1	1	1	25
隊部	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5
計	2	5	6	2	9	4	6	2	2	2	2	30

伍長一名重創ヲ被ル是地シルビヤ鞍部ヲ距ルコト凡一里ニシテ奔湍其ノ間ニ横ハリ兩岸創立、密樹天ヲ蔽ヒ輒ク進ムヘカラス乃チ壘ヲ築テ狀ヲ窺フ正午ノ比、兇蕃第八中隊及第六中隊ノ一小隊竝擔架小队ヲ襲フ撃テ之ヲ卻ケ第六中隊ノ主力ヲ前進セシメテ嚴ニ之ニ備ヘ以テ機ノ熟スルヲ俟ツ總督此ノ報告ニ接シ前進命令ヲ白狗支隊ニ下シ總指揮官亦支隊長ニ命シ十五日ヲ以テ行動ヲ起サシム道路險難、容易ニ隊ヲ行ル能ハス齋藤支隊長乃チ近藤、長崎兩部隊ヲシテ路線ヲ踏勘シ且之ヲ開カシム越テ十九日平岡隊ハ挺前シテ、シルビヤ鞍部ヲ取リ白狗支隊及我カ警察支隊ト連絡セリ是ニ於テ平岡司令官ハ配下ヲ部署シ、第九中隊(第三大隊)ヲ、カイヤイ社ニ第三大隊(第九中隊及第十二中隊)ヲ、カヨ社ニ第二大隊(第五中隊及第八中隊)及衛生隊(擔架二小队)ヲ、トバカ社ニ自餘ノ各隊(第一大隊ノ第二中隊同機關銃一小隊、第二大隊ノ第五中隊、山砲兵中隊、擔架一小隊)ヲ、シカヤウ社ニ向ハシムヘク命令ヲ下セリ翌旦第三大隊ハ、カヨ社蕃人ノ走路ヲ扼シ頭目ユーミングライン等ヲ執ヘテ之ヲ拘禁シ命シテ銃器ヲ提供セシム頭目請テ曰ク若シ釋放サルルヲ得ハ蕃丁等ノ竄踞地ニ抵リ蒐羅シテ之ヲ納メムト乃チ之ヲ縱ツ午後七時頭目ユーミン一群ノ蕃丁ヲ率キテ來襲フ撃テ之ヲ破リ四十七名ヲ殪シ銃器三十挺ヲ收メ蕃社(五十二戸、穀倉七十五)ヲ燒夷ス第二大隊ハ、トバカ社ヲ包圍シ威迫シテ銃器ノ提出ヲ趣カス午前八時ノ比、蕃丁等騷擾シ刀ヲ揮テ巡查(軍隊ニ附屬セシメタル者)ヲ傷ツケ一上等兵ヲ昏絶セシメ將ニ圍ヲ衝テ脱セムトス即チ六十五名ヲ戮シ銃器十挺、彈藥實包五百發、火藥七貫ヲ鹵獲シ火ヲ縱テ蕃社ヲ燒ケリ第一大隊ノ第二中隊、第二大隊ノ第五中隊等ハ、シカヤウ社ヲ遠ミテ頭目以下二十九名ヲ拘禁シ銃器十九挺ヲ提出セシム拘禁スル所ノ蕃人中、六名ハ十二日第八中隊ヲ、シルビヤ鞍部下方ノ谿畔ニ要撃シタルコトノ發覺シ自ラ免レサルヲ知り頭目及他ノ蕃丁五名ト俱ニ夜ニ乘シテ逸脱セムトシ猛然抵抗ス乃チ之ヲ斬ル第一大隊ノ第九中隊ハ、カイヤイ社ヲ圍ミ頭目以下二十三名ヲ拘置シ銃器ヲ納メムトヲ促シタルニ十七挺ヲ提出シテ恭順ノ情ヲ表シタルニ由リ復、其ノ罪ヲ問

ハス嗣後軍隊ハ各其ノ占領地ニ駐マリ警察隊ト協力シテ良蕃ヲ撫綏シ通竄セル蕃人ヲ招來ス是ヨリ先十九日內田總指揮官、此ノ方面ノ討伐情況ヲ視察セムト欲シ來テ埔里社街ニ次スルヤ佐久間總督之ニ電報シテ曰ク「今後白狗及マレットバ方面ノ各社ニ對スル銃器彈藥ノ押收ト、マカジーヘン社ノ膺懲トハ平岡隊ノ白狗方面ニ到着セル時期ニ於テ實行スルヲ適當ト認メ本日南投應長ニ對シ平岡司令官ト協議ヲ遂ケ事ニ從フヘク命令セリ、貴官ハ、サラマオ方面處分後ニ於ケル蕃社ノ善後策ヲ南投支隊長ニ指示シ且白狗、マレットバ、ニ對スル處置ト、マカジーヘン社ノ膺懲トニ關シテハ同應長ノ意見ヲ徵シ要スレハ支隊ノ一部ヲ參加セシムルコトトシ實行上遺憾ナキヲ期セラルヘシ」ト越テ二十一日平岡司令官ハ、マレットバ方面ニ對スル行動ヲ準備スル爲其ノ所部ノ主力ヲ、サラマオ鞍部ニ集結(司令部、第三大隊第九、第十二中隊、第二大隊第五中隊)一小隊「機關銃一小隊、山砲兵中隊、衛生隊」擔架二小队「シ背後連絡線ノ守備トシテハ、シカヤウ社ニ二中隊及擔架一小隊ヲ、トバカ社ニ第二大隊ノ一小隊ヲ、カヨ社ニ第五中隊ヲ配置シ太田大尉ヲシテ之ヲ指揮セシム

二十二日 內田總指揮官、平岡司令官ト議リ、シカヤウ、サラマオ及マレットバ蕃等ニ對スル措置ノ方法ヲ籌定シ石橋南投應長及齋藤支隊長ヲ飭メ遺算ナキヲ期セシム

(附記)二十三日內田總指揮官ノ龜山副指揮官ニ致シタル電報ハ左ノ如シ

下記ノ電報ヲ總督閣下ニ具申ノ上御指揮ノ次第モアレハ小官ニ對スルト同時ニ直接應長又ハ支隊長ニ發送方取計ハレタシ小官ハ本日鞍部ヲ發シ、バブン、ニ宿泊スル筈、平岡司令官ト協定シタル、シカヤウ、サラマオ方面ノ處置ニ關スル區分ヲ陳フレハ左ノ如シ

シカヤウ蕃ハ軍隊已ニ之ヲ處置シタルニ由リ之ヲ置キ、トバカ社ハ殆ト殲滅シタレハ其ノ儘トス、カイヤイ社ハ比較的善良ナルヲ以テ警察隊ニ於テ曩キニ拘禁サレタル蕃人ヲ引受ケ其ノ堵ニ安ムセシム、カヨ社亦殲滅ニ近キヲ以テ其ノ儘ト爲ス警察隊ハ白狗、マレットバ方面ノ處理ヲ畢レハ當分其

ノ主力ヲ、サラマオ鞍部ニ置キ蕃情ノ如何ヲ見、適當ノ計畫ヲ立ムトス本日サラマオ鞍部ニ於テ廳長、支隊長及部隊長等ヲ會同シ當方面ニ於テ處置スヘキ事項ノ協議ヲ遂ケタリ

軍隊ハ、カイヤイ社及シカヤウ蕃方面ニ三個中隊ヲ駐メ其ノ他ノ隊ハ平岡司令官之ヲ引率シ本日午後當鞍部ニ到着セリ來二十六日マテニハ適當ニ解決ヲ了リ歸還スル豫定、シカヤウ、サラマオ方面各社ニ對シテハ押收シ得ヘキ銃器ハ既ニ押收シタルモ遁竄シタル者ハ何時歸來スルカ豫測シ難シ是等ハ時機ヲ待タサルヘカラス

マレツバ蕃中マカジヘン社ノ討伐ト、ベルモアン、ムカブール兩社ニ對スル銃器押收トハ軍隊、マカムジャウ、ムカタータ、ムカブール三社ニ對スル銃器押收ハ警察隊之ヲ擔任スヘク協定セリ

二十四日 齋藤南投支隊長ハ左ノ行動命令ヲ發ス

一、近藤部隊長ハ其ノ本部及第二、第三分隊ヲ率キ八月二十五日午前一時マテニ、マカムジャウ社ニ到着、同社ノ銃器ヲ押收シ尙其ノ餘力ヲ以テ、マカナジ社ニ對シ同様ノ目的ヲ達スヘシ但必要ニ由リ要ニ由リテハ蕃人ヲ拘禁スル等ノ臨機ノ處置ヲ取ルヘシ

二、長崎部隊長ハ其ノ本部及第一分隊ヲ率キ八月二十五日午前一時マテニ、ムカタータ社ニ入り第一分隊ヲシテ同時刻マテニ、ムカブール社ニ入ラシメ銃器押收ノ目的ヲ達スヘシ但必要ニ由リテハ蕃人ヲ拘禁スル等臨機ノ處置ヲ取ルヘシ

(三項、四項ハ省略ス)

二十五日 味爽近藤部隊ハ、マカムジャウ社ニ入り毎戸一名ヲ駐在所ニ召集シ午後四時ヲ期ト爲シ盡任スヘシ

ク所有銃器ヲ提出スヘク命シ蕃婦ヲ派シテ之ヲ取來ラシム午ヲ過ルニ及ヒ僅ニ九挺ヲ獲タルノミ乃チ所内ニ在ル蕃丁ヲ拘束セムトスルヤ、一蕃丁(名ヲ、ブエンノーミン、ト曰フ)忽チ懷ニ小刀ヲ探リ巡查班長茂山某ノ腹ヲ刺シ衆蕃亦走テ外ニ出ツ是時飛彈東北ノ林叢ヨリ來リ巡查坂上幸吉、北澤留吉、櫻井辰次、隘勇王財、陳寶、黃林生、林白等創ヲ被ル隊員應戰、十九名ヲ殺シ二十五名ヲ執フ自餘ノ蕃人ハ皆影ヲ林中ニ没セリ長崎部隊ハ、ムカタータ社ヲ圍ミ銃器ヲ押收ス是社ニ兇蕃六名有リ即チ前年白狗、マレツバ方面ニ隘勇線ヲ進ムルニ當リ溪頭蕃ト共ニ途ニ長倉前進隊副長以下三十餘名ヲ襲殺シタル者ナリ由テ之ヲ捉ヘムトス兇蕃且走リ且抗ス乃チ之ヲ斬ル第二分隊ノ、ムカブール社ニ入ルヤ蕃人懼服銃器二挺ヲ提出セリ之ト同時ニ平岡隊ノ小松大隊ハ、マカジヘン社ヲ包圍ス兇蕃、屋壁牆陰ニ據リ頑抗屈セス我カ隊火ヲ上風ニ縱チテ之ヲ斃メ五十六名ヲ戮シ銃器二挺ヲ鹵獲ス岸和田大隊ハ、ヘルモアン社ヲ圍ム蕃人哀ヲ請ヒ銃器七挺ヲ提出セリ二十五日朝兇蕃二十許、ソマター、ノ西方ニ軍隊ノ輸送隊ヲ襲ヒ人夫二名ヲ射殺ス既ニシテ、ムカタータ守備隊ヲ襲フ毎ニ撃テ之ヲ走ラス午後十時兇蕃十五、六名、シキアイ、ニ在ル守備隊ヲ襲ヒ拘禁中ニ在ル蕃人ヲ奪ハムトシ家屋ヲ破壊シ又射テ哨兵ヲ傷ク我カ隊之ヲ拒キ逃脫スル者ヲ追殺セリ二十六日午後九時シキアイ守備隊又襲ハル撃テ之ヲ卻ク二十八日 齋藤支隊長、兩部隊長ニ命令ヲ發ス乃チ左ノ如シ

一、マカジヘン社ハ軍隊ニ於テ討伐ヲ加ヘ膺懲ノ實ヲ舉ケタルモノト認ム故ニ逃走シタル蕃人ニ對シテハ種々ノ方法ヲ以テ漸次歸社セシムルコト

但逃走蕃ヲ操縱セシムル爲ムカブール社頭目ヲ相當ノ時期ニ於テ釋放スルヲ便宜トス

二、ムカブール社拘禁蕃人中最近ニ於テ兇行ヲ敢テシタル證據アル者ハ之ヲ處分シ銃器ヲ隱匿セリト認ムル者ハ引繼キ之ヲ拘禁シテ其ノ提供ヲ促シ其ノ他ハ嚴ニ將來ヲ戒メ解放スルコト

三、ムカタータ社ニ對スル處置ハ前項ムカブール社ニ同シ
 四、ムカブール社ニ對スル處置ハ第一項マカジヘン社ニ同シ
 但操縦ニ使役スル蕃人ハ、ムカジヤウ社ヨリ適當ノ者ヲ選定スルコト
 五、ムカジヤウ社ハ第二項ムカブール社ニ同シ
 但拘禁ノ場處ハ、マレツバ監督所トシ其ノ解放時期ハ更ニ之ヲ指定ス
 六、ベルモアン社ハ軍隊ニ於テ銃器ノ提供ヲ命シタル際所有セル事實明白ナルモノニシテ提出ヲ肯
 セサル者ハ軍隊ニ於テ已ニ相當ノ措置ヲ取レリ尙之ヲ密藏セル疑アル者アレハ之ヲ躑躅ケ岡砲臺
 ニ拘禁シ嚴ニ之ヲ取調ヘ其ノ事實ナキヲ確メ得タル者ハ將來ヲ戒メ解放スルコト
 但解放ノ時期ハ更ニ指定ス
 七、前各項ノ方法ヲ實行スル爲近藤部隊長ハ竹内分隊長ヲシテ現在拘禁蕃人ヲ、マレツバ監督所ニ
 押送セシメ同分隊ヲシテ監視ノ任ニ當ラシメ又高井分隊ヲシテ躑躅ケ岡砲臺ニ拘禁セル、ベルモ
 アン社蕃人ノ監視ニ任セシムルコト
 近藤部隊長ハ其ノ本部及梶原分隊ヲ指揮シ引繼キ、ムカムジャウ社ニ駐屯シ蕃人ノ操縦及隱匿銃
 器ノ押收ニ從事スヘシ
 八、長崎部隊本部及屋嘉比分隊ノ一部ハ引繼キ、ムカタータ社ニ駐屯シ蕃人ノ操縦及隱匿銃器ノ押
 收ニ從事スヘシ同部隊ノ木村分隊ハ引繼キ、ムカブール社ニ駐屯シ同社駐在所員ト協力シ同上
 ノ任務ニ服スヘシ屋嘉比分隊長ハ其ノ分隊ノ一部ヲ指揮シ、ムカタータ北方高地ニ在リテ拘禁蕃
 人ノ監視ニ任スヘシ
 是ヨリ警察支隊ハ各地ニ駐屯セル軍隊ト協力シ善後處分ノ歩ヲ進メタルニ逃竄セル蕃人ノ歸來スルモ
 ノ逐日相踵キ蕃情粗平靜ニ歸シ初ヨリ押收シタル銃器ノ數亦百三十三挺ニ達セリ是ニ於テ内田總指揮

官ハ南投廳長ニ電報シ軍隊ノ撤退後ニ於ケル蕃地守備ノ法ヲ樹テシム廳長乃チ支隊長ト議リ警察官ノ
 配置地域及其ノ員數ヲ定メテ報告シ且埔里社守備ノ一箇中隊ハ之ヲ、サラマオ鞍部ニ駐メ暫ク警備員
 ノ支援タラシメムコトヲ請フ總督之ヲ聽シ平岡隊ハ九月一日ヨリ漸次歸還セシメ支隊ハ五日ヲ以テ解
 隊セシム解隊後ニ於ケル配置ハ左ノ如シ

- ムカムジャウ駐在所、警部補一名、巡查十名
 - ムカブール駐在所、巡查十名、隘勇十名
 - ムカタータ分遣所、警部補一名、巡查五名、隘勇五名
 - 白狗隘勇監督所、巡查五名、隘勇五名
- (但普通定員外配置トス)

(三) シヤカロー方面新竹討伐警察隊

七月八日 シヤカロー蕃ノ銳ヲ擧リテ、キナジー蕃ニ來援シ新竹討伐警察隊ノ先頭ヲ襲フヤ佐久間總
 督ハ既ニ之ヲ膺懲スルノ意ヲ決セリ是ヲ以テ、マリコワン、キナジー兩蕃ノ粗、平定ニ歸スルヤ内田
 總指揮官ニ命シ之ヲ伐チ銃器ヲ收メシム總指揮官即チ八月十一日ヲ以テ新竹討伐警察隊長永田綱明ニ
 命シ、キナジー方面ノ討伐ニ從事セル隊員ノ一部ト新タニ増員シタル巡查二百名トヲ以テ五箇部隊ヲ
 編成セシメ行動命令ヲ發ス警視今田始祐ノ副長タルコト故ノ如シ其ノ命令ニ曰ク
 一、シヤカロー方面各社蕃人ハ頑冥寧猛ニシテ嶮岨ヲ恃ミ勇武ニ誇リ政令ヲ遵奉セス殊ニ今次キナ
 ジー方面ヲ討伐スルニ際リ我カ隊ノ前進ヲ阻止シ抵抗ヲ繼續シ其ノ擁スル所ノ銃器彈藥亦尠カラ
 ス

- 二、我カ討伐警察隊ハ臺灣總督ノ命ニ依リ一舉ニ其ノ根據ヲ覆シ禍根ヲ芟除セムトス
- 三、貴官ハ更ニ編成シタル五箇部隊ヲ兩分シ八月十六日バコスワラン緒方分遣所ヨリ行動ヲ起シニ

方面ヨリ、シヤカロー蕃社ニ向テ前進シ同社附近ノ兇蕃ヲ剿蕩スヘシ

(附記)是ヨリ先十日總指揮官ノ永田警視ニ發シタル命令ハ左ノ如シ

一、貴官ハ從來ノ進出線ヲ警備スルニ必要ナル部隊ヲ留メ追加行動トシテ、シヤカロー方面討伐ニ從事スル爲、別紙示ス所ノ編成表ニ依リ更ニ五箇部隊ヲ編成シ八月十五日マテニ隊員名簿ヲ提出スヘシ

二、右編成要員トシテ更ニ左ノ如ク増員ス

(イ) 新竹廳ヨリ増員スルモノ 巡查二百名

(ロ) 桃園討伐隊ニ配屬セル臺中應援隊員中ヨリ警部一名、警部補四名、巡查班長八名、巡查八十名、警手二十名、隘勇七十名

追加行動新竹部隊編成表

五箇部隊

警部五名、警部補十五名、巡查三百三十名、警手三百名、隘勇六百名、内地人夫七十五名、本島人夫一千七百七十五名

前線輸送隊

警部補二名、巡查六十名、隘勇百名、本島人夫五百五十名

後方輸送隊

巡查八名、隘勇五名、本島人夫百二十名

電話班

工手二名、工夫六名、本島人夫二十二名

救護班

巡查二名、囑託一名、雇一名、備二名、本島人夫三名

合計 警部五名、警部補十七名、巡查四百名、警手三百名、隘勇七百五名、囑託一名、雇一名、備二名、工手二名、工夫六名、内地人夫七十五名、本島人夫一千八百七十名、總計三千三百八十四名

永田隊長ノ命令ヲ受クルヤ今田副長ト與ニ李嶺山ヲ發シ樹杞林ヨリ將ニ北埔ニ至ランムトスル途上坐スル所ノ輕便臺車轉覆シ傷ヲ頭ト左腕トニ負フ報、警察討伐隊總司令部ニ至ル龜山副指揮官人ヲ派シテ慰籍セシメ直ニ警視松山隆治ニ命シテ隊長タラシム

(附記)永田隊長負傷ノ狀況ヲ總指揮官ニ致セル報告書ハ左ノ如シ

一、小官ハ今田副長ト共ニ午前九時半樹杞林出發北埔ニ向フ途中十時四十分北埔ヲ距ル十數町ノ處ニ於テ臺車轉覆シ爲ニ左腕關節捻挫並左撓骨下端不全骨打傷ヲ負ヒタルヲ以テ樹杞林公醫赤城榮太郎ノ應急手當ヲ受ケタルニ其ノ診斷ニ據レハ今後三、四週間ノ安靜治療ヲ要ストコトナリ就テハ本夜當地ニ宿泊シ是マテ計畫シタル事項ハ之ヲ各部隊長ニ訓示シ明日樹杞林ニ至リ治療ヲ受ケムトス今ヤ、シヤカロー方面兇蕃膺懲ノ重命ヲ拜シ數日ノ内ヲ期シ行動ヲ起サムトスルニ際シ不幸此ノ傷ヲ負ヒ任務ヲ果ス能ハサルニ至リタルハ甚タ恐縮ノ次第ナリ

二、シヤカロー方面討伐隊員ハ本日夕刻到著シタルヲ以テ明日部署ヲ定ムトス

松山隊長ノ、バスコワラン、ニ至ルヤ龜山副指揮官之ニ電報シテ曰ク「シヤカロー方面蕃社討伐ハ追加行動中特ニ重要視スヘキハ言フヲ須タサル所ニシテ其ノ行動ノ成否ハ本年度討伐全體ノ成績ニ干繫スルヲ以テ萬遺策ナカラムコトヲ期セサルヘカラス而ルニ永田隊長ハ不幸ニシテ出發途中ニ負傷シ目下靜養中ニ屬ス由テ松山警視ヲシテ代テ指揮ノ任ニ當ラシム各部隊員ハ宜シク上司ノ命令ヲ遵守シ下班ノ督責ニ留意シ一致協力速ニ最終ノ效果ヲ收メムコトヲ力ムルヲ要ス此ノ意直ニ配下各部隊長ニ傳達セララルヘシ」ト松山隊長之ヲ部隊長以下ニ傳達スルト同時ニ答電ヲ發シタル後、直ニ命令ヲ下シ、バ

スコワラン、ヨリ兩路駢進ミ十六日午後二時三十分メントユー山東南方約三千米突ノ高地ヲ取り左右兩翼連絡シテ陣ヲ布ク是地シヤカロー蕃ノ占居地一帯及メントユー、バイバラ等ノ各社ヲ控制スルノ要害ナリ而モ隊員ノ數三千ヲ超エ威風堂々四境ヲ壓ス、シヤカロー蕃震懼、頭目以下相率キテ先頭部隊ニ來リ銃器ヲ提出シテ哀ヲ請ヒ復、他ナキヲ誓フ而シテ附近ノ各社風ヲ望ミテ投降シ銃器彈藥ヲ納メ爭フテ我カ役ニ供ス報、李嶺山ニ至ル龜山副指揮官、松山隊長ニ電シテ曰ク「新竹討伐隊ハ、シヤカロー方面追加行動ノ開始ニ際リ克ク萬難ヲ排シテ短日時ノ間ニ諸準備ヲ整ヘ迅速ニ隊ヲ進メ本日午後二時三十分メントユー山南方第一ノ目的地點ヲ占領シ左右兩翼ノ連絡已ニ成レリトノ報ニ接シ衷心満足ニ禁ヘス更ニ進ミテ豫期ノ目的ヲ達セムコトヲ希望ス」ト五箇部隊ノ各要衝ヲ占領スルヤ墨ヲ列ネテ險ヲ扼シ砲臺ヲ造リ掩堡ヲ築キ二十五日マテニ銃器二百五十六挺、彈藥百七十八發ヲ押收ス而モ警備線一帯靜謐ニシテ伐木ノ響ト役夫許耶ノ聲トヲ聞クノミ是ニ於テカ復、汝水蕃ニ對スル銃器押收ノ舉有リ

(四) 汝水蕃ノ銃器押收

新竹廳下大湖支廳管内汝水蕃各社(バカリ、サヘアン、タビラス、マオー、ノ四社ヨリ成リ戸八十五、口三百餘アリ)ハ、タイヤル族中ノ一部族ニシテ既ニ歸順ヲ乞ヒ復出草スルコトナシ然レトモ從來提供シタル所ノ銃器ハ管打銃又ハ火繩銃等ニ係リ尙精銳ナルモノヲ藏有スルノ疑アリ而モ其ノ蟠踞スル所ノ地ハ、北勢蕃ト、シヤカロー蕃トノ中間ニ在リ則チ此ノ機會ニ於テ之ヲ押收スルハ策ノ得タルモノナリ由テ八月二十九日警部三名、巡查三十名、警手五名、隘勇一百名ヲ以テ搜索隊ヲ編成シ翌日平明行動ヲ開始シ直ニ、ロブン社ヨリ侵入シ同社中央高地ヲ略取シテ營ヲ張リ四社ノ頭目以下ヲ召集シテ銃器ヲ押收スル所以ヲ告ク蕃人唯々、未タ五日ヲ經サルニ九十七挺ヲ提供シタルヲ以テ九月六日之ヲ解隊セシム

(五) 桃園、新竹兩廳下歸順蕃ノ銃器押收

桃園廳下大嶺坎支廳管内ガオガン蕃ノ所有銃器ハ明治四十三年中、隘勇線ヲ前進スルニ方リ率ネ之ヲ押收シタルモ爾來年所ヲ經ルニ從ヒ其ノ交界地タル、マリコワン、キナジー又ハ溪頭蕃ヨリ密ニ之ヲ購求シタル形迹アルヲ以テ西桃園廳長ハ向キニ中間警部等ヲシテ粗其ノ數ヲ探查セシメテ報告スル所アリ内田總指揮官、此ノ機會ニ於テ之ヲ收メムト欲シ該廳長ヲシテ警部一名、巡查五十名、隘勇三十名ヲ以テ搜索隊ヲ編成シ事ニ此ニ從ハシム報テ該廳長ハ山内副長ニ命シ八月十五日ヲ以テ、ガオガン蕃及大嶺坎前山蕃ノ頭目勢力者ヲ召集シテ之ヲ提供スヘク曉諭セシム是時ニ當リ警察隊及軍隊ハ尙キナジー、マリコワン、ノ四境ヲ壓シ又一大部隊ノ、シヤカロー蕃地ニ臨ムアリテ我カ武大ニ揚カレリ衆蕃勢ノ趨ク所ヲ察シ敢テ異言アル者ナシト雖動モスレハ輒チ之ヲ隱匿セムトス則チ或ハ之ヲ諭誨シ或ハ之ヲ威喝シ月ノ三十日マテニ銃器二百五十六挺、彈藥八百八十五發ヲ押收シ既ニ殘存スルモノナキヲ瞭カニスルヲ得タルニ由リ翌三十一日搜索隊ヲ解カシム

新竹廳下樹杞林支廳管内前山マリコワン蕃各社ハ隘勇線内ニ包容シ就撫已ニ久シキモ銃器彈藥ヲ他社ニ獲テ密ニ之ヲ藏スル疑アリ乃チ亦家永新竹廳長ニ命シ諭シテ之ヲ提供セシメタルニ果シテ銃器四十六挺彈藥若干ヲ得タリ

○討伐隊ノ解隊及銃器押收ノ成績並我カ隊ノ損害

各方面ニ於ケル討伐並銃器押收ノ著々績ヲ奏シ大勢粗定マルヤ佐久間總督ハ八月三十日兩討伐隊長及各支隊長ニ命スルニ九月五日ヲ期シテ解隊スヘキヲ以テシ之ト同時ニ討伐警察隊總指揮官、同副指揮官、桃園、新竹兩討伐隊長、宜蘭、南投兩支隊長、民政長官、蕃務本署長、警察本署長、財務局長、宜蘭、桃園、新竹、南投ノ四廳長ニ訓示書ヲ發シテ曰ク「新竹、桃園兩討伐警察隊長ハ始終軍隊ト相呼應シ僅ニ一月餘ニシテ、キナジー蕃討伐ノ目的ヲ達シタルノミナラス追加行動タル、シヤカロー蕃討伐モ亦迅速ニ奏功シ其ノ餘勢ニ乘シテ、ガ

オガン蕃、汶水蕃ヲ制壓シ竟ニ彼等ヲシテ隱匿銃器ヲ提供シ恭順ヲ表スルノ己ムヲ得サルニ至ラシメ又宜蘭、南投ノ兩支隊ハ軍隊ト協力シ溪頭蕃ヲ蕩平シ、シカヤウ、サラマオ、白狗、マレツバ、ノ諸蕃ヲ削定シテ復兇行ヲ敢テスルノ餘地ナカラシメタリ此ノ各方面ノ行動ニ由リ中央山脈以西ニ蟠踞セル兇蕃ノ處分ハ茲ニ全ク終結シ明治四十三年以降ニ於ケル隘勇線前進又ハ蕃社討伐ノ效果ヲシテ益確實ニシタルハ本總督ノ欣感措カサル所、是レ總指揮官以下司令部員、各討伐隊長、支隊長並其ノ所屬隊員カ峻峰絕壑ノ間ニ馳驅シ瘴烟蠻雨ノ中ニ起臥シ辛楚ニ耐ヘ闕乏ヲ忍ヒ勇往邁進シテ其ノ職務ニ盡瘁シタルニ由ルヤ固ヨリ言フヲ須タスト雖總指揮官以下前方隊員ヲシテ毫モ後顧ノ憂ナク敏活ニ行動スルヲ得セシメタル所以ノモノハ民政長官以下關係各廳長並蕃務本署長以下ノ署員カ夙夜匪懈後方任務ニ努力スル所ナカリセハ奚ソ此クノ如キ全功ヲ收ムルヲ得ムヤ本總督ハ各當事者奉公ノ熱誠ニ由リ今次ノ行動カ豫期以上ノ成績ヲ贏得タルヲ認メ深ク各員ノ努力ヲ多トス惟フニ五箇年計畫理蕃事業ノ前途タル唯太魯閣蕃ヲ定ムルノ一事ヲ剩スノミ而モ自今僅ニ一年有半ノ間ニ於テ其ノ目的ヲ達セサルヘカラス各員幸ニ自重シテ一層奮勵有終ノ功ヲ收ムコトヲ望ムト内田總指揮官直ニ答電シテ曰ク「將サニ討伐隊ヲ解カムトスルニ當リ懇篤ナル訓電ヲ忝ラス分外ノ光榮感佩曷ソ禁ヘム今次討伐事業ノ成績ハ未タ曾テ有ラサル所ニシテ西部北蕃ノ全域、輒ク廓清ニ歸ス是レ偏ニ閣下指導ノ然ラシムル所、而ルニ今褒詞ヲ蒙リ慚愧措ク所ヲ知ラス自今以往益部下ヲ督勵シ以テ盛意ニ副ハムコトヲ期ス」ト

(附記)總督ノ訓示ニ對シ民政長官以下皆答辭ヲ致セリ左ニ長官ノ答辭ノミヲ收録ス

本日懇篤ナル訓電ニ接シ茲ニ答辭ヲ呈スルハ下官ノ光榮トスル所ナリ惟フニ曩ニ、キナジー方面蕃社討伐ノ目的ヲ以テ行動ヲ開始シ軍隊並警察隊ヲシテ其ノ巢窟ヲ衝カシメラルヤ閣下躬ヲ大牙ヲ深山窮谷ノ間ニ進メ全討伐隊ヲ統率サル是レ洵ニ下官等ノ惶悚ニ禁ヘサル所ナリキ然ルニ閣下ノ神謀鬼策ハ立ロニ其ノ功ヲ奏シ師出テテヨリ未タ幾クナラサルニ、キナジー方面各社ヲ壓

服シ尋テ追加行動ヲ續行シ未タ曾テ誠意ヲ表セザリシ西部北蕃ノ各部族ヲシテ風ヲ望ミテ潰奔セシメ今ヤ、シカヤウ、サラマオ方面ノ各社ヲ膺懲シ、シカコロ、ガオガン、汶水、溪頭ノ諸蕃ヲシテ投降スルニ至ラシメ白狗、マレツバ、ノ諸蕃亦廓清ニ歸セリ其ノ功績ノ較著ナル盡ク是レ閣下籌畫ノ宜シキニ適ヒタルニ由ルモノニシテ下官等ノ敢テ與ル所ニアラス詎ソ圖ラム閣下功ヲ下官等ニ歸シ過分ノ褒詞ヲ賜フ敢テ當ル所ニアラサルモ姑ク此ノ寵光ヲ荷フ所以ノモノハ即チ閣下ノ餘光ヲ被リ其ノ美德ヲ成サント欲スレハナリ若シ夫レ東部海岸ノ險ニ據守セル太魯閣蕃ニ至リテハ之ヲ暮年ノ中ニ膺懲シ五箇年計畫理蕃事業ノ局ヲ結ヒ以テ後顧ノ憂ヲ絶タムコトヲ期ス自今閣下ノ指揮ヲ仰キ奮勵努力、以テ蕃界廓清ノ功ヲ全クスルハ下官等ノ希望ニシテ又決シテ躊躇スル所ニアラス爰ニ僅テ答辭ヲ呈シ閣下ノ凱旋ヲ待ツ

是ヨリ先佐久間總督ハ討伐ニ參加シタル軍隊ニ命スルニ九月一日ヨリ各其ノ守備地ヲ裁撤セムコトヲ以テシタルモ警察討伐隊解隊ノ後所在警備員ヲシテ殘存銃器ヲ押收シ各種ノ作業ヲ完成セシムルニハ尙軍隊ノ支援ヲ要スヘキモノアルヲ察シ桃園廳下大崙嶽支應管内バロン山ニ一中隊、宜蘭廳下叭哩沙支應管内ルモアン、ニ一中隊、南投廳下埔里社支應管内白狗方面ニ一中隊ヲ駐屯セシムルコトトシ各其ノ命令ヲ下シ區處已ニ定マル乃チ九月二日李嶼山ノ軍司令部ヲ撤シ幕僚及秘書官、醫官、等ヲ隨ヘ、ウライ砲臺ニ至リテ一泊シ翌日路ヲ、マリコワン谿畔ニ取リテ、テラ溪ニ出テ角板山ヲ經テ臺北ニ凱旋ス而シテ龜山副指揮官ハ五日ヲ以テ討伐警察隊總司令部ヲ解散シ山本、江口兩警視以下ヲ隨ヘテ李嶼山ヲ發シ歸府ノ途ニ上レリ

此ノ討伐行動中押收シタル銃器ハ一千三百六十八挺、彈藥一萬二千四百六十九發、解隊後九月三十日マテニ獲タル所ハ銃器二百八十五挺、彈藥四千五百一十一發、共計銃器一千六百五十三挺、彈藥一萬六千六百二十發ナリ

(附記) 押收銃器ノ數ヲ各廳別ニ分テハ 桃園廳五百四十二挺、新竹廳八百六十五挺、宜蘭廳八十一挺、南投廳百二十四挺、臺中廳四十一挺、之ヲ種別スレハ 村田銃三百十三挺、モーゼル銃七百十四挺、レミントン銃百七十挺、スナイドル銃六十四挺、管打銃七十三挺、火繩銃百九十七挺、其ノ他百二十二挺ナリ

四廳下ニ跨リ七十日ニ彌リ大兵ヲ動シタルニ比スレハ 我カ損害ハ多シト謂フヘカラス即チ討伐警察隊警部以下ノ戰病死三十五名、負傷六十九名、官役人夫戰病死四十六名、負傷六十五名ニシテ 軍隊將校以下戰死十七名、負傷十三名ナリ蓋シ今次討伐ノ 措置宜シキニ適ヒタルニ因ルト雖亦多年ノ 施爲功ヲ積ミタルニ由ラスムハアラサルナリ

タツキリ方面隘勇線前進

○隘勇線前進ノ所由竝行動狀況 花蓮港廳下タツキリ方面ニ隘勇線ヲ前進シタルハ 太魯閣蕃ヲ討伐スル準備ナリ蓋シ北埔ヨリ、タツキリ溪ニ至ルマテ凡五里、東ハ大海ニ瀕シ西ハ高山ニ接シ其ノ間灌莽相連リ林投樹ノ根、蟻蝮膠結シテ宛モ壘壁ノ如ク、尤伏ヲ設クルニ適ス故ニ 太魯閣蕃ヲ伐タムニハ先ツ此地一帯ヲ占領シ根據ヲ新城、タツキリ溪ノ間ニ置クヲ要ス否ラサレハ事ヲ舉ルニ當リ我レニ多クノ損傷ヲ出スハ逆視シ難カラサルナリ是ヲ以テ 佐久間總督ハ 大正三年一月飯田花蓮港廳長ニ命スルニ和蕃ヲ以テ鐵條網ヲ此ノ間ニ架セムコトヲ以テ 該廳長乃チ警部本田末彦ヲシテ、コロ社總頭目ハロクナウイ、ヲ操縦シテ之ヲ諾セシメ二月十日ヲ期シ其ノ工ヲ起サムトセリ會コロ社蕃丁數名ウイリ分遣所附近ニ警備員ヲ殺傷シ物情洶々タリ該廳蕃務課長雨田勇之進北埔ニ出張シ事ノ由テ來ル所ヲ究メタルニ酒狂ノ然ラシムル所ニシテ一般ノ蕃情トハ相繋ラサルヲ確ムルヲ得タリ則チ之ヲシテ罪ヲ謝セシメ、ハロク等ニ命スルニ蕃丁ヲ出シテ吾カ役ニ供セシムヘキヲ以テシ十六日ヲ以テ搜索隊

ヲ編成シ雨田蕃務課長ヲシテ其ノ隊長タラシム幹部並部隊ノ編成ハ左ノ如シ

- | | | | |
|---------------------------|-------|-------|--------|
| 前進隊長 | 警部 | 雨田勇之進 | |
| 本部 附 | 同 | 下山又喜 | |
| 同 | 同 | 本田末彦 | |
| 同 | 警部補 | 古藤齊助 | |
| 外ニ巡查十二名、警手隘勇十一名 | 第一分隊長 | 警部 | 川田忠吉 |
| 外ニ巡查二十一名、警手隘勇四十二名、工夫一名 | 第二分隊長 | 警部補 | 佐々木陽之助 |
| 外ニ巡查二十一名、警手隘勇四十二名、工夫一名 | 第三分隊長 | 警部補 | 後藤正十郎 |
| 外ニ巡查二十一名、警手隘勇二十一名、工夫一名 | 電話機長 | 警部補 | 笹栗卯六 |
| 外ニ巡查十二名、警手隘勇二十名、工夫二名、工夫五名 | 電話機長 | 警部補 | 笹栗卯六 |
- 十七日午前六時雨田前進隊長、行動命令ヲ發シテ曰ク
- 一、太魯閣蕃人ハ操縦其ノ宜シキニ適シ目下靜穩ノ状態ニ在リ
 - 二、我カ隊ハ 大正三年二月十七日午前十一時半行動ヲ開始シ北埔監督所ヨリ北方斜ニ海岸ニ沿フ平野ヲ縱直線ニ、タツキリ溪右岸ニ達スル隘勇線ヲ新設セムトス
 - 三、第一分隊ハ北埔監督所ヨリ斜ニ北方ニ進出シ同監督所ヲ距ル約十町餘ノ地點ヲ占領スヘシ
 - 四、第二分隊ハ第一分隊占領地ノ終點ヨリ北進シ更ニ十町餘ノ地點ヲ占領スヘシ

- 五、第三分隊ハ第二分隊占領地ノ終點ヨリ北進シ更ニ又十町餘ノ地點ヲ占領スヘシ
- 六、各分隊ハ前項占領地域ノ防備ヲ確實ニシ隘勇線設置作業ニ從事スヘシ
- 七、電話鐵條網班ハ北埔監督所ヲ基點トシ同地點ヨリ北方斜ニ電話及鐵條網線ノ架設ニ從事スヘシ
- 八、彈藥ハ各自携帶彈ノ外各分隊ニ於テ豫備彈二千五百發ヲ携行スヘシ
- 九、本田警部ハ專ラ蕃人操縦ノ衝ニ當リ豫テ命セラレタル構築材料蒐集等ニ就キ支障ナキヲ期スヘシ

之ヨリ先出役ヲ命シタル、コロ社頭目ハロク及各頭目以下三百名ハ是夜北埔監督所ニ來ル雨田前進隊長之ヲ勞ヒ命スルニ土石ヲ聲シ榛蕪ヲ剪ルヘキヲ以テ頭目十名ハ所内ニ起臥スルヲ容ルシ其ノ他ハ露宿セシム衆蕃命ヲ聽キ敢テ或ハ忤フナシ是ニ於テ之ヲ三分隊ニ分屬シ翌旦ヲ以テ清野開路ニ著手シ電話線及鐵條網線ヲ架設ス蕃人業ニ力メ二日ニシテ工ヲ進ムルコト凡一里ニ及フ十九日更ニ三棧溪右岸マテヲ區リ事ニ從ハシム越テ二十七日其ノ功又竣ル是ニ於テ第三次ノ行動命令ヲ發ス乃チ下ノ如シ

- 一、蕃情ハ引續キ平穩ナリ
- 二、我カ隊ハ三月一日午前六時更ニ行動ヲ開始シ東々北ニ進ミ新城原頭奮分遣隊兵營跡ヲ横キリ一氣ニ、タツキリ溪畔ニ達スル地域ヲ占領シ茲ニ最終ノ目的ヲ達セムトス
- 三、第一分隊ハ現占領地先頭ヨリ東々北方約一千五百米突ノ地域ヲ占領シ作業ニ從事スヘシ
- 四、第二、第三分隊ハ第一分隊ノ占領地點ヨリ東々北方約一千米突地點新城原頭奮兵營跡ニ進出シ更ニ進ミテ、タツキリ溪畔ヨリ南折シ海濱ニ沿ヒ約五百米突ノ地域ヲ占領シ作業ニ從事スヘシ(以下省略)

命令ニ所謂舊兵營跡トハ花蓮港守備分遣隊長結城少尉以下ノ難ニ殉シタル處ニシテ實ニ太魯閣蕃ノ門戸タリ此ノ附近一帶皆蕃密人ヨリモ高シ即チ火ヲ縱テ之ヲ焚キ著々功ヲ進メ越テ三月七日複式鐵條

網架設ノ工ヲ畢リ翌日ヲ以テ隊ヲ解ク是歲六月タツキリ方面討伐隊ハ路ヲ此ニ取り逕チニ入りテ、コロ社ヲ抜キ其ノ別隊ハ三棧溪畔ヨリ進ミテ、カウワン高地ヲ奪ヘリ則チ此ノ前進ノ效ヤ亦贅スルヲ須キサルナリ

太魯閣蕃討伐

○討伐ノ由來並行動開始前ノ措置 太魯閣蕃ハ北蕃中ノ大族ニシテ其ノ社九十有七、戸一千六百餘、口九千餘、壯丁凡三千、人トシテ銃ヲ有セサルハ莫ク其ノ多クハ精銳ニシテ餓糧亦餘贏有リ宜蘭廳下大濁水谿ノ南、花蓮港廳下木瓜谿ノ北、延袤九十七方里ノ間ニ分布シ其ノ蟠踞スル所ノ地、高山深谷相連リ奇巖雲ヲ切り老樹空ヲ蔽ヒ四面險絕居然トシテ天塹タリ是ヲ以テ久シク一方ニ擴張スルノミナラス官命ニ抗拒シ民生ヲ荼毒シ自ラ以テ快ト爲セリ明治二十九年新城ニ分遣隊ヲ掩襲シ結城少尉以下一小隊ヲ殲滅シタルカ如キ其ノ尤著シキ者ナリ則チ總督府ハ越テ四十年、南清艦隊ノ派遣ヲ三以下二十三名ヲ殺害シタルカ如キ其ノ尤著シキ者ナリ則チ總督府ハ越テ四十年、南清艦隊ノ派遣ヲ海軍省ニ要請シ浪速、秋津洲ノ二艦ト一百餘名ノ警察隊及平地蕃(南勢)五百餘名ト海陸相呼應シ、ウイリ(外二社(スピキ社及エ)カドサン社)ヲ討伐シタリシモ由テ以テ自餘ノ各社ヲ畏レシムルニ足ラス舊ニ依テ鳴張シ愈久ウシテ愈驕リ醜虐殆ト制スヘカラス是ニ於テ佐久間總督ハ之ヲ五箇年計畫理蕃事業中ノ一大案ト爲シ最終ノ行動トシテ之ヲ膺懲スヘク預定シ事ヲ舉クルニ先タツコト一、二年ノ前ヨリ意ヲ其ノ地形ノ探檢蕃情ノ調査ニ致シ有ル所ノ手段ハ之ヲ悉クセサルナク大正三年ニ入りテハ蕃務、警察兩本署員、並陸軍幕僚ニ命シ專ラ力ヲ其ノ準備事務ニ注キ通信、運輸、衛生、財政ノ經理、糧食ノ蓄積、人夫ノ徵募等ニ關シテハ各其ノ當事者ヲシテ之カ規畫ニ勉メ大事ハ會議シテ之ヲ決シ小事ハ必スシモ然ラサルモ定ムル所ノ事項ハ迭ニ相知照シ毫モ留滯ナキヲ期セシム

(參照)二月四日高田民政長官代理方在京ノ内田長官ニ報告シタル太魯閣討伐準備事項ノ大略左ノ如シ
太魯閣蕃討伐計畫ニ付一般方略トモ謂フヘキ總督閣下ノ御意圖ヲ伺ヒタルニ軍隊ノ主力ハ合歡山ヨリ、タツキリ溪ニ沿テ下リ左側枝隊ヲ畢祿山方面ヨリ東下セシメ右側枝隊ヲ能高山ヨリ、バトラン方面ニ向ハシムルコトトシ花蓮港ニ在ル軍隊ニ警察ノ一部隊ヲ加ヘテ、ウイリー方面ヨリ七脚川山上ニ於テ右側枝隊ト連絡シテ、バトラン、ニ向ハシメ警察隊ハ其ノ主力ヲ擧テ、タツキリ溪及三棧溪方面ノ剽蕩ニ當ラシムヘキ御成算ニ有之其ノ準備行動トシテ別紙ノ如ク具申シタル處大體ニ於テ異存ナキニ由リ更ニ具體的ニ立按スヘシトノ御下命ナリシヲ以テ目下著々計畫中ニ有之候條此段及報告置候

太魯閣蕃討伐ニ付準備事項

一、通譯ノ養成

太魯閣蕃語講習ヲ畢リタル者及講習中ノ者ハ別表ノ通ニシテ南投應埔里社支廳トロツク社ニ於テ近藤巡查ヲ講師トシ客年十二月一日ヨリ向フ三箇月ニ卒業セシムル豫定
蕃語講習書ハ内地文案ヲ作成シ近藤巡查ハ之ニ依リ教授中ニ係ル此ノ文案ヲ基礎トシ花蓮港廳石田公學校教諭及本田警部ノ兩名ニテ太魯閣語翻譯ヲ附シ石田教諭携帶出府シ目下南投應トロツク社ニ至リ近藤巡查ト協議中、決定ノ上ハ之ヲ印刷シ教習書トシテ一般ニ頒ツ筈

二、通信機關

花蓮港ヨリ南投應下假根據地間ノ非常通信ハ通信局ニ於テ之ヲ擔當スル筈、目下架設中ノモノ完成スルトキハ花蓮港、臺東、臺南ノ三處間ハ二線トナルモ蕃務本署トシテハ此ノ二線ハ總督民政長官等前進地ニ出張ノ際ニ當テハ普通政務ノ通信頓ニ増加スル爲前進行動ニ關スル通信ノ餘裕十分ナラサルヘク懸念セリ且浸水營線ハ風雨強烈ノ際、斷線其ノ他ノ被害多ク之カ補修復舊ニ日時ヲ要スルハ勿論ニシテ一旦通信杜絶ノ曉ニハ花蓮港、南投兩軍間ノ連絡斷ユルヲ以テ不時ノ變災ニ當リ遺憾ナキヲ期スル爲無線電信機ニ依リ兩軍ノ連絡ヲ維持シ得ル計畫ヲ試ミムトス富貴角、内地間ノ電信機ハ設置サル豫定ナレトモ三年度ノ事業ニ屬スルヲ以テ今回ノ討伐ニハ用ヲ爲サス故ニ花蓮港、能高山間、又ハ花蓮港、蘇澳若ハ富貴角(鼻頭角)間、又ハ鸞鑾鼻若ハ火燒島間ニ二箇所乃至三箇所ニ機關ヲ設ケムト欲シ其ノ調査進行中ニ在リ
目下架設中ニ係ルモノハ花蓮港、タモナン間、花蓮港、北埔間ノ電話線架設ハ已ニ認可済ナリ又電報通信事務ニ熟練シタル者ハ蕃務所屬警察官中十名アリ電話ニ關スル技術員ハ蕃務所屬ニハ工手三名工夫七名アルノミナレトモ行動開始ノ際ニ至レハ警務所屬工手八名工夫四十八名アルヲ以テ其ノ内ヨリ所要人員ヲ補助セシメ若シ尙不足ヲ生スレハ警察官吏中ニモ之ヲ講習シタル者多數アリ且工夫ノ募集ハ民間ニ於テスルモ困難ナラサル見込

三、交通

(イ) 輕便鐵道

- 花蓮港、北埔間
- 花蓮港、吉野村間
- 花蓮港、木瓜溪間
- 埔里社、眉溪間

以上新設ヲ要スル分

南投應柴橋頭、水裡坑間ニ於ケル溪畔線ヲ山腹道路ニ架設換ノ命令ヲ發セラレタキコト
新城、牛洞間ニ於ケル線ヲ魚池經由ノ新線ニ架設換ノ命令ヲ發セラレタキコト
以上線路變更ヲ要スル分

(ロ) 道路

霧社バーラン鞍部ヨリ舊ハボン、ニ至ル中腹道路ヲ延長シ該山脉ノ北方ヲ通過シ追分ニ至ルモノ(六里)

マヘボ、ヨリ能高山ノ中腹ニ至ルモノ(五里)

以上新タニ開鑿ヲ要スル分

追分ヨリ假根據地ニ至ルモノ(三里)

バーラン鞍部ヨリ、マヘボ、ニ至ルモノ(四里)

土城、双冬間ノ一部道路ノ開鑿及鐵線橋架設(道路約十町鐵線橋四十間)水尾、埔里社間一部道路ノ開鑿及南港溪鐵線橋架設(道路約十町、鐵線橋四十間)

以上變更又ハ修繕ヲ要スル分

四、倉庫

倉庫ノ建設ヲ要スル地點左ノ如シ

花蓮港、北埔、タモナン

以上花蓮港廳

バーラン鞍部、マヘボ、追分

以上南投廳

倉庫ノ建設ハ出動兵數ニ應シ決定スヘキモノナルニ由リ陸軍及警察ノ進出方面並其ノ期間等確定ノ上具體的ニ計畫スルコトトス

五、人夫

人夫ハ本島人ヲ計算ノ基礎トシ一日食費共八十錢トス(但實行ノ際ハ成ルヘク蕃人ヲ低廉ノ勞銀

ニテ使用シ得ラルヘシ)南投方面ニ使役スル人夫ハ新竹、臺中、南投、嘉義、臺南邊ヨリ徵集スルコト(約六千八百人、兵數三千、十四中隊ノ見込)

花蓮港方面ニ使役スル人夫ハ宜蘭、臺北、桃園、阿緞、臺東及現地ヨリ徵集スルコト(約六千百人)之カ實施ニ關シテハ警察本署保安課ニテ計畫保甲ヨリ徵集供給スル豫定

六、糧食

花蓮港米

成ルヘク花蓮港廳所在地納メトシ競争入札ニ附スルコト野菜類ハ能フヘキ限り現地ニ於テ栽培供給セシムヘク豫メ獎勵シ置キ現地調辦ヲ主トスルコト

南投米

埔里社ノ産米額約四萬三千石ノ中地方人民ノ費消高三萬四千七百石ナルニ由リ八千二百石ノ剩餘アルヲ以テ現在米ヲ他地方ニ搬出セシメス同地ニテ買入ノ内約ヲ訂シ現地調辦ヲ主トスルコト蔬菜類ノ供給法ハ花蓮港ニ同シ

七、隘線及人員補充

桃園、新竹兩廳方面ハ速ニ據點ヲ完成シ臺中北勢蕃ノ解決ヲ速カニシテ配備員ヲ減少シ討伐方面ニ向ハシムルコト(現在理蕃費所屬二千三百九十七名、警察費所屬五百六十四名合計二千九百六十一名)正確ナル數ノ算出ハ部隊編成ノ内容如何ニ由リ決定セラルヘキモ尙五百人ヲ増員スヘキ必要アリト思惟セラル目下募集中ニ係ルモノ二百名ナルヲ以テ更ニ内地ヨリ三百名ヲ募集スルノ必要アリ

タツキリ溪マテノ隘勇線延長及鐵條網(花蓮港、北埔間)ノ架設ハ認可濟、之カ實施ノ際ハ廳長ヨリ本署長ニ協議スル筈

警察討伐隊	バトラン方面	總督	警察隊總指揮官	討伐隊長
通非救警	信護	所常班察	二二	本部
電輪前砲	話送	隊線	四	本部
赤十字救護班	班	班	一	第一、
非常通信所	班	班	一	第二、
非	班	班	一	第三、
赤十字救護班	班	班	一	第四、
軍	班	班	一	
合	計			

備考 討伐隊司令部(指揮官蕃務本署長)ハ最初花蓮港方面ニ位置シ後タツキリ溪方面ニ前進ス
 六、集合ハ五月下旬トシ其ノ日時ハ總督ノ命ニ由ル
 七、集合地ハ花蓮港トス
 八、集合完了後直ニ、タツキリ、三棧溪、バトラン方面ニ向ヒ概ネ陸軍部隊ト同時ニ行動ヲ開始ス
 九、集合地ヨリ討伐隊本部ニ達スル間ノ輸送ハ關係廳長ノ責任トシ平地警察官吏ヲ以テ之カ監督ニ充ツ
 十、部隊ノ編成ハ左ノ如シ

太魯閣蕃討伐警察隊編成表

區別	隊數	警視	警部	警部補	巡長	查巡	警手	醫勇	醫員	員補	看護	人工	手工	夫計
總督專屬	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇
總司令部	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇
討伐隊本部	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇
砲隊	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇
前線隊	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇
電線隊	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇
警察班	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇
非常通信班	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇
赤十字救護班	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇
軍	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇
合	計													三二

備考

- 一、本表巡查中ニハ巡查補ヲ含ム
 - 二、赤十字救護班中ノ一班ハ之ヲ花蓮港ニ置ク
 - 三、非常通信所中ノ二箇所ハ之ヲ南投廳ニ置ク
 - 四、本表以外ニ通譯一名技手二名雇員二名測夫二名ヲ参加セシム
- タツキリ溪方面警察隊編成表

合ハ討伐隊長ニ於テ配屬部隊員中ヨリ増員スルコトヲ得
(七) 非常通信所ハ討伐地域内ニ限リ總司令部ノ直屬トシ其ノ技術員ハ警察職員中ノ伎倆アル者ヲ以テ之ニ充ツ

(八) 假病院ヲ花蓮港ニ置キ赤十字救護班ノ一班ヲ以テ其ノ治療ニ當ラシム
(九) 討伐隊所要人夫中本島人夫ハ左ノ編成表ニ依リ警察本署ニ於テ各廳下ノ保甲ヨリ徵發ス其ノ賃錢ハ一日ニ付八十錢(食料ヲ)トス

職工及内地人夫ハ臨時ニ雇傭ス其ノ賃錢ハ

(イ) 職工(内地人)一圓八十錢(食料ヲ)

職工(本島人)一圓二十錢(右ニ)

人夫(内地人)一圓二十錢(同シ)

(ロ) 人夫(内地人)一圓二十錢(同シ)

太魯閣蕃討伐警察隊附屬職工人夫表

區別	隊數	職		人		夫		計	
		内地人	本島人	内地人	本島人	内地人	本島人	内地人	本島人
總督專屬	一								
司令部	一								
本部	二								
砲隊	二								
前線輸送班	三								
電線輸送班	二								
合計		一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

區別	隊數	職	人	夫	計
警察救護班	二				
赤十字救護班	二				
合計		二	二	二	二

備考 本表赤十字救護班二班ノ中一班ハ之ヲ花蓮港ニ置ク
タツキリ方面警察隊附屬職工人夫表

區別	隊數	職		人		夫		計	
		内地人	本島人	内地人	本島人	内地人	本島人	内地人	本島人
本部	一								
砲隊	一								
前線輸送班	二								
電線輸送班	一								
警察救護班	二								
合計		三	三	三	三	三	三	三	三

パトラン方面警察隊附屬職工人夫表

區別	隊數	職		人		夫		計	
		内地人	本島人	内地人	本島人	内地人	本島人	内地人	本島人
本部	一								
隊部	四								
合計		八	五	一〇	三	一〇	六	一五	二〇

局ノ專管トシ別途計畫ニ據ル

(九) 陣營具炊爨具ハ行動部隊ノ全員ヲ基礎トシ、キナジ方面ノ前進ニ準ス但海運ノ不便アルニ因リ約一割ヲ増加シ置ケリ

(十) 警察部隊ノ行動ニ伴フ花蓮港方面ニ於ケル總テノ設備ハ已ニ手配ヲ了シタリ

(十一) 陸軍部隊ノ行動ニ伴フ南投應下ニ於ケル後方ノ設備ハ陸軍ト協商シ行動開始ニ支障ナキ様整頓セリ

二十七日 民政長官内田嘉吉ニ太魯閣蕃討伐警察隊總指揮官ヲ警視總長龜山理平太ニ副指揮官ヲ總督府警視永田綱明ニ、タツキリ方面討伐隊長ヲ花蓮港應警部雨田勇之進及新竹應警部中田秀造ニ同副長ヲ總督府警視松山隆治ニ、バトラン方面討伐隊長ヲ宜蘭應警部田丸直之ニ同副長ヲ命シ越テ五月十一日總督府警視宇野英種並警部二名ニ總督專屬ヲ總督府警視山本新太郎、江口良三郎並警部二名ニ總司令部附ヲ命ス翌日龜山副指揮官ハ兩討伐隊長ニ命スルニ五月三十日ヲ期シ討伐隊ヲ編成シ隊員名簿ヲ提出ヌヘキコトヲ以テセリ

是ヨリ先六日佐久間總督ハ陸軍部隊ニ訓示ヲ發シ其ノ守ルヘキ所ヲ知悉セシム

(附記)太魯閣蕃討伐陸軍部隊ニ與フルノ訓示

本島、帝國ノ版圖ニ歸シテヨリ以來茲二十有九年太魯閣蕃外一、二蕃社ノ獨リ未タ我カ皇威ニ服セザルモノアルハ實ニ昭代ノ一恨事タリ由テ茲ニ師ヲ興シ威武ヲ以テ理蕃事業ヲ解決セムトシ警察ト共ニ陸軍ニ出動ヲ命シタリ今其ノ行動ヲ起スニ先タチ左ニ一、二ノ注意ヲ述フ

一、討伐ノ目的ハ皇威ニ服セサル頑冥不靈ノ蕃人ヲ膺懲シテ銃器彈藥ヲ押收シ彼等因襲ノ禍根ヲ斷チ之ヲシテ永ク我 皇ノ恩澤ニ浴セシムルニ在リ諸隊ハ宜シク此ノ意ヲ體シテ行動シ以テ遺憾ナキヲ期スヘシ

二、陸軍部隊ノ行動ハ威力ヲ以テ主ト爲シ最迅速ナル結果ヲ齎ラスニ全力ヲ傾注スヘシ

地形蕃情ノ調査、銃器ノ提供或ハ部隊ノ行進ヲ容易ナラシムル等ノ爲蕃人ヲ操縱スルハ固トヨリ妨ケナシト雖時トシテハ之カ爲ニ大ナル效果ヲ奏スルコトアルモ之ヲ濫用スルトキハ徒ラニ時日ヲ遷延シ却テ蕃人ノ乘スル所ト爲ルノミナラス全局面ノ發展遲滯シテ其ノ間各種ノ弊害ヲ生スルノ虞アリ故ニ蕃人ニシテ尙モ我ニ抵抗スルトキハ勿論殊更時日ヲ遷延シテ何等カ企圖スル情況アルヲ看取セハ蕪進シテ之ヲ討伐スヘシ

三、陸軍各部隊間ハ勿論警察隊ト行動ヲ共ニスル場合ニ在テモ能ク之ト協心戮力シ討伐ノ目的ヲ達スルニ遺憾ナキヲ要ス

四、人ノ初テ蕃地ニ入ルヤ往々蕃人行動ノ敏捷ナルニ意外ノ感ヲ懷クモノアリ然レトモ警戒適當ニシテ行動宜シキヲ得ハ決シテ恐ルルニ足ラサルナリ各指揮官ハ常ニ部下ヲ激勵シテ攻撃精神ヲ發揮シ絶エス加動ノ位置ニ立チ蕃人ヲシテ自由ノ行動ヲ爲シ能ハサルニ至ラシムルヲ要ス

五、從來ノ經驗ニ徵スルニ蕃人ノ抵抗ニ對シテ尤效果アルハ彼等ノ側背ニ動作スルニ在リ故ニ指揮官ハ常ニ此ニ留意シ一部隊ヲ彼等ノ側背ニ進ムヘク努ムルコト肝要ナリ

蕃人ノ側背ニ對スル攻撃ノ效果大ナル丈ケ彼等モ亦好ミテ敵手ノ側背ヲ攻撃ス然ルニ蕃人ノ此ノ舉ニ對シテハ動モスレハ部隊ノ行動消極ニ陥リ單ニ之ヲ防止スルノ弊アリ背後連絡線上ニ於テ特ニ然リトス各級指揮官ハ宜シク冷靜ノ頭腦ヲ持シ我ヨリ進ミテ更ニ彼等ノ側背ヲ反撃シテ之ヲ殲滅シ彼ヲシテ斯ル行爲ノ甚危險ナルヲ感知セシメ再ヒ此ノ舉ニ出ル能ハサルニ至ラシムルヲ要ス

六、蕃人トノ戰鬪ニ於テハ動モスレハ亂射ニ陥リ屢搜射ヲ濫用スルノ傾アリ管ニ彈藥ヲ浪費シ爾後ノ補充困難ナルノミナラス蕃人ヲシテ軍隊射撃ノ效果ヲ疑ハシムルニ至ラムトス由テ各級指揮官ハ嚴ニ部下ヲ戒メ效果アル場合ニアラサレハ射撃セサルコトニ注意セサルヘカラス

七、蕃人ノ反抗既ニ弛ムニ及ヘハ動モスレハ軍隊殊ニ背後連絡線上ニ於ケル警戒粗漫ニ流レ不測ノ危害ヲ被リシコト其ノ例ニ乏シカラス各級指揮官ハ常ニ部下ヲ戒メ斯ル失態ヲ生セシメサル様注意スヘシ

八、銃器ノ押収ニ當リテハ別紙記載ノ各條項ヲ示シテ其ノ提出ヲ命スヘシ此ノ際其ノ提供ヲ躊躇スルトキハ臨機必要ノ手段ヲ取ルヲ妨ケス

九、蕃地ノ電信電話ハ特ニ重要ナルヲ以テ之カ施設ト保護トニ關シテハ全幅ノ努力ヲ用キ其ノ利用ヲ盡スト共ニ亦通信ノ濫用ヲ戒ムルコト緊要ナリ尙其ノ細件ニ關シテハ陸軍參謀長ヲシテ別ニ之ヲ指示セシム

十、行動地域ハ高峰深谷相錯綜シ山頂ハ寒帯ニ近ク谷底ハ熱帯ニ屬シ寒熱ノ變化頻繁ナリ各級幹部ハ常ニ部下ノ志氣ヲ鼓勵スルト同時ニ諸般ノ衛生法ヲ講シテ疾病ノ發生ヲ防遏スルヲ肝要トス尙其ノ細部ニ關シテハ陸軍參謀長ヲシテ之ヲ指示セシム

十一、行李其他ニ使用スル人夫ハ殆ト保甲ノ義務出役ニ係ルヲ以テ相當ニ之ヲ愛撫シ將來ニ於ケル本島ノ統治上ニ惡影響ナカラシムル様注意スヘシ
今ヤ暑氣漸ク劇シク加フルニ地形ノ險難異常ナル有リ須ク緊張セル努力ヲ以テ諸種ノ困厄ヲ排除シ以テ討伐ノ目的ヲ達シ理蕃事業最後ノ解決ヲ遂ケ我カ 皇威ヲシテ全島ニ洽カラシメンコトヲ期スヘシ

右訓示ス
大正三年五月六日

臺灣總督伯爵 佐久間 左馬 太

九日 豫備二個部隊ヲ編成シテ警察隊總指揮官ニ直屬セシムルノ議ヲ定ム蓋シ花蓮港方面ハ陸上ヨリ

交通スルニ由ナキヲ以テ干戈一タヒ動キ事機ヲ瞬息ノ間ニ争フニ當リ逕チニ應援員ヲ派遣セムト欲スルモ得ヘカラサレハナリ
(附記)豫備隊ノ編成及之ニ附屬セシムヘキ内地人本島人ノ職工人夫ノ員數竝豫備隊所要員ノ動員計畫ハ左ノ如シ

豫備隊編成表

區	別	隊	數	警	部	警	部	補	巡	查	班	長	巡	查	警	手	隘	勇	計
豫	備	隊	二	二	二	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

備考 巡查ノ内八十名ハ警務所屬ヨリ應援ヲ受クルモノトス
附屬職工人夫表

區	別	職		人		夫		計		
		内地	本島	内地	本島	内地	本島			
二	個	部	隊	四	一	二〇	六〇〇	二四	六〇〇	六二四

動員計畫表

區	別	警	部	警	部	補	巡	查	班	長	巡	查	警	手	隘	勇	計
桃	宜	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

敗ニ歸セリ之ニ由テ是ヲ料ルニ今次ノ膺懲ニハ警察隊ノ外尙軍隊ヲ出動セシメサレハ奏績或ハ難カルヘシ則チ兩隊ヲシテ相策應シテ一大打撃ヲ加ヘ禍根ヲ滅絶スルノ必要ヲ認メ明十二日ヨリ各地ノ駐屯軍隊ヲ逐次埔里社以東及合歡山以西ノ地區ニ集合セシメ來ル五月三十一日ヲ期シ中央山脉方面ヨリ警察隊ニ策應シテ之カ討伐行動ヲ開始ス

三、討伐軍隊ハ本官之ヲ指揮ス其ノ兵力ノ概要左ノ如シ

討伐軍司令部(陸軍部ノ人員ヲ以テ編成ス)

第二守備隊司令部

步兵第一聯隊(五中隊缺)及機關銃四銃

步兵第二聯隊(二中隊缺)及機關銃六銃

山砲兵第二中隊(四門)

網製九珊砲中隊(四門ニシテ基隆重砲兵大隊ニテ編成)

同 白砲小隊(二門ニシテ澎湖島重砲兵大隊ニテ編成)

作業隊二箇(主トシテ兩步兵)

衛生隊二箇(聯隊ニテ編成ス)

電話隊二箇(主トシテ兩重砲兵)

電信隊一箇(大隊ニテ編成ス)

病院一箇(各衛戍病院)

患者輸送部 八箇(ニテ編成ス)

出動人員合計三千一百八名

以上討伐部隊ノ出動ト共ニ各屯營地ニハ相當ノ留守部隊ヲ殘置ス

四、警察隊行動ノ概要ハ來ル五月三十日マテニ其ノ兵力ヲ木瓜溪口附近ヨリ、タツキリ溪口附近ニ

互ル間ニ集合セシメ翌三十一日ヨリ其ノ一部ヲ以テ木瓜溪口附近ヨリ同溪ヲ過リ、バトラン蕃ヲ討伐シ主力ヲ以テ三棧溪口及タツキリ溪口附近ヨリ外太魯閣蕃ヲ討伐ス

軍隊行動ノ概要ハ來三十一日ヨリ其ノ一部ヲ以テ蕃業主山南峰附近ヨリ木瓜溪ニ沿フテ下リ、バトラン蕃ヲ討伐シ主力ヲ以テ合歡山附近ヨリ、タツキリ溪ニ沿フテ下リ内太魯閣蕃ヲ討伐ス

五、討伐ノ豫定日數ハ約二箇月トス

六、討伐軍隊ノ所要經費ハ當府理蕃費ニ依ル

以上

十六日 内田總指揮官ハ討伐警察隊長ニ訓告十條ヲ發ス乃チ左ノ如シ

全島ノ蕃族凡十二萬、幾ト政令ニ服シ漸ク皇化ニ嚮フモ獨リ太魯閣蕃、險ニ據リ衆ヲ負ミ數々橫暴ヲ肆ニシ頑然悛メス是レ今回討伐ノ舉アル所以ナリ本指揮官、總督ノ命ヲ承ケ警察隊統率ノ任ニ膺リ專ラ事ニ此ニ從ハムトス各隊長ハ宜シク勇往邁進シテ堅ヲ破リ銳ヲ挫キ逆フ者ハ之ヲ痛懲シ順フ者ハ之ヲ愛撫シ我カ威ヲ畏レテ我カ恩ニ懷カシメ五箇年計畫理蕃事業掉尾ノ功ヲ收メ無窮ノ皇德ヲ荒域ニ光被セシムコトヲ努ムヘシ今準備既ニ整ヒ部署已ニ成リ將ニ行動ヲ起サムトスルニ當リ茲ニ訓告十條ヲ頒チ以テ節制ニ資スル所アラムトス

訓告 十條

一、討伐ノ本旨ハ太魯閣蕃ノ所有スル銃器彈藥全部ヲ押收スルニ在リ故ニ我カ命スル所ニ從ヒ之ヲ提出スル者ニ對シテハ心ヲ盡クシテ懷柔シ敢テ之ヲ拒ム者ニ對シテハ力ヲ極メテ之ヲ攻撃シ復起ツ能ハサルニ至ラシムヘシ

二、各隊長ハ部隊長以下ヲ戒飭シ一體同心以テ事ニ當リ行動上毫モ遺策ナカラムコトヲ期セシメ陸

軍部隊トハ互ニ氣脈ヲ通シ緩急相策應スヘシ

- 三、常ニ後方勤務ノ職員ト意思ヲ疏通シ物資ノ需給ト授受トヲ敏速ナラシムヘシ
- 四、常ニ紀律ヲ振肅シ苟モ他ニ指彈セラルルカ若キ所爲ナカラシムヘシ
- 五、救護分班、輸送仲繼所等ノ防備ニ留意シ殊ニ物資輸送途中ノ警戒ヲ嚴ニスヘシ
- 六、討伐區域内ノ蕃人ヲ操縱シテ地形蕃情等ヲ探查セシメ又ハ我カ行動ヲ容易ナラシムル爲之ヲ利用スルハ妨ケナシト雖克ク其ノ情偽虛實ヲ洞察シ之カ爲ニ事局ノ解決ヲ延擱スルカ若キコトナキヲ期スヘシ
- 七、鐵條網ノ監視ヲ周密ニシ特ニ隊員人夫等ヲ戒飭シ自ラ禍害ニ罹ルカ若キ疎虞ナカラシムコトヲ期スヘシ
- 八、通信機關ノ故障ナカラムコトヲ勉メ蕃情戰況其ノ他ノ報告及互報ヲ迅速ニシ機宜ヲ失セザラムコトヲ期スヘシ
- 九、一般ノ衛生状態ニ留意シ常ニ士氣ヲシテ旺盛ナラシムヘシ
- 十、隊員ヲシテ人夫ヲ愛撫シ苟モ之ヲ虐使スルコトナク且蕃人ト接觸シテ物品ヲ授受スル能ハサラシメ若シ射利的行爲アル者アレハ猶豫ナク之ヲ解散スヘシ

十五日 江口警視ハ猪口、雲野、兩警部以下二十名ヲ隨ヘ花蓮港ニ抵リ總司令部ヲ旅館集星館ニ假設シテ事務ヲ開始シ飯田廳長ト商リ行動ノ準備ニ從事ス而シテ非常召集令ハ臺北、蘭宜、桃園、新竹、臺南、阿緞、臺東、花蓮港ノ各廳ニ發セラレ警察本署ハ人夫ノ徵募ニ蕃務本署ハ輸送並諸般ノ事務ニ忙ハシク連夜徹霄スルニ至ル

(附記)參考ノ爲豫備隊ノ非常召集令一、二ヲ左ニ收録ス

蕃務總長
警視總長

宜蘭廳長宛

太魯閣蕃討伐警察隊豫備隊ニ充ツル爲貴廳警部補後藤壽太郎、金城長太郎、巡查班長六、巡查四四、隘勇五七名ヲ花蓮港ニ召集ス右應召員ハ貴廳下ニ於テ募集シタル人夫三〇〇人ノ監督補助ヲ爲シツ

五月二十八日午後十二時蘇澳出帆ノ天長丸ニ發船シ得ル如ク出發セシムヘシ乘船後ハ桃園廳警部山田久次郎ノ指揮ヲ受クヘシ○携帶品ハ規程第十三條各號ノ通召集期間ハ凡二箇月ノ豫定

發令者 同斷

桃園廳長宛

太魯閣蕃討伐警察隊豫備隊ニ充ツル爲貴廳警部山田久次郎、警部補太田勇吉、巡查班長五、巡查三八、隘勇五二名ヲ花蓮港ニ召集ス右應召員ハ五月二十七日午後三時五十三分桃園驛發列車ニ搭乘シ午後六時二十分基隆ニ到着二十八日午前九時基隆出帆ノ天長丸ニ乗込ムヘシ。(以下前ニ同シ)二、山田警部ハ基隆ヨリ乘船スル臺北廳巡查四、阿緞廳巡查二ヲモ引率スヘシ

發令者 同斷

新竹廳長宛

太魯閣蕃討伐警察隊豫備隊ニ充ツル爲貴廳警部中園彪、警部補酒井梅吉、鶴田幸助、河村要作、巡查班長七、巡查四八、隘勇五九名ヲ花蓮港ニ召集ス右應召員ハ五月二十七日午後一時五十七分新竹驛發列車ニ搭乘シ午後六時二十分基隆ニ到着二十八日午前九時基隆出帆ノ天長丸ニ乗込ムヘシ。(以下前ニ同シ)二、中園警部ハ基隆ヨリ乘船スル臺北廳巡查六、臺中廳巡查一〇、臺南廳巡查一〇、阿緞廳巡查八名ヲモ引率スヘシ

是時ニ當リ佐久間總督ハ參謀副官及三村祕書官稻垣博士等ヲ隨ヘ進ミテ埔里社ニ在リ陸軍討伐部隊ニ對シ左ノ命令ヲ下セリ

討伐軍命令

五月十六日 午前十一時埔里社討伐軍司令部

一、現時ニ於ケル太魯閣蕃及附近一般ノ蕃情左ノ如シ

(イ) 太魯閣蕃(内外太魯閣蕃及バトラン蕃ヲ云フ)ハ領臺後數々行ヘル我カ軍隊及警察隊ノ討伐ヲシテ失敗ニ歸セシメ今尙 皇化ニ霑ハス天險ト人口、武器ノ豊富トヲ特ミ(壯丁數ハ確實ナラスト雖内太魯閣蕃主力約八百、外太魯閣約一千、バトラン蕃約二百五十、壯丁ハ總テ銃器ヲ所有ス)常ニ兇暴ヲ逞ウシツツアリ

該蕃人ハ現下他蕃人(タウツア一蕃ヲ除ク)ト相敵視シ孤立ノ状態ニ在リ

(ロ) タウツア一蕃(内太魯閣蕃ト南澳蕃トノ中間ニ在リ)ハ太魯閣蕃中ノ一部族ニシテ我カ軍ニ對シ反抗ヲ企圖セリ然レトモ其ノ人口、銃器ノ數ハ多カラサルカ如シ

(ハ) 七脚川蕃(木瓜溪、隘路口、鯉魚山ノ西南方ノ地域ニ占居ス)ノ一部ハ未歸順蕃ナリ然レトモ其ノ人口、銃器ノ數多カラス從テ勢力萎靡振ハス現下太魯閣蕃トハ相敵視シツツアリ

(ニ) 南澳蕃ハ既ニ歸服セルモ其ノ人口、銃器ノ數ハ甚多ク現ニ頻々各方面ニ出草シテ兇行ヲ敢テシツツアリ然レトモ太魯閣蕃トハ從來相敵視セリ

(ホ) 溪頭蕃マナウヤン社蕃人ハ昨夏我カ軍ノ討伐ニ由リ大打撃ヲ被リタレトモ其ノ敗殘ノ一派ハ現下ボウブル溪谷及シナクコク溪谷ニ竄匿シ常ニ我カ軍ニ反抗スヘク企圖シアリ然レトモ其ノ勢力ハ微々タルモノニテ太魯閣蕃トハ相敵視セリ

(ヘ) シカヤウ、サラマオ兩蕃ハ昨夏我カ軍ノ討伐ニ由リ其ノ勢力頓挫シ、サラマオ蕃ノ一部分ハ

新竹廳下ノ蕃界ニ移住シ現下シカヤウ、サラマオ地方ニハ少數ノ殘存者アルノミ此ノ少者ハ常ニ我カ軍ニ反抗スヘク企圖シアルカ如ク尙且近來ニ至リ太魯閣蕃ト和約ヲ結ハムトスルノ状態ニ在リ

(ト) 白狗、マレットバ兩蕃ハ現下大體ニ於テ肅靜ナリ昨夏我カ軍ニ討伐サレタル蕃社中尙一、二名ノ殘存者アルカ如シ

(チ) 萬大、霧社、トロツク、ノ各蕃ハ現下極メテ平穩ニシテ我カ軍ニ對シ好意ヲ表セリ該蕃人ハ太魯閣蕃トハ相敵視セリ

二、來五月三十一日ヲ期シ第二守備隊ヲ以テ合歡山附近出發、内太魯閣蕃ヲ步兵第一聯隊ヲ以テ蕃業主山南峰附近出發、バトラン蕃ヲ討伐ス又警察隊ヲ以テ東海岸方面ヨリ軍隊ニ策應セシメ外太魯閣蕃及バトラン蕃ヲ討伐ス南投廳ハ、シカヤウ、サラマオ蕃ニ對シ、サラマオ鞍部ヨリ其ノ東方約一里半ニ在ル標高八五五四ノ高地附近ニ亘リ新警戒線ヲ構成セリ

三、軍ハ今ヨリ太魯閣蕃討伐準備ニ著手セムトス軍經理部ハ二十日ボアルン、ヨリ蕃業主山南峰ニ向ケ糧食ノ集積ニ著手ス又二十二日追分ヨリ合歡山ニ向ヒ糧食ノ集積竝合歡山ニ設置スヘキ根據地ノ構成ニ著手ス南投廳ハ目下ボアルン、ヨリ蕃業主山南峰ニ向ヒ追分ヨリ合歡山ニ向ヒ各道路ノ開鑿竝通信線ノ架設ニ從事セリ

四、第二守備隊司令官ハ左ノ諸業務ニ著手スヘシ

(イ) 二十日第二守備隊ノ一部ヲ以テ追分出發二十三日マテニ合歡山附近ヲ占領シ内太魯閣蕃、バトラン、シカヤウ、サラマオ蕃ニ對シ軍ノ討伐準備作業根據地及合歡山倉庫ヲ掩護セシメ尙軍經理部長及南投廳長ト協議シ一部ヲ以テ二十二日ヨリ著手スヘキ追分、合歡山間ノ糧食輸送竝目下著手中ナル道路開鑿通信線架設ヲ直接掩護セシムヘシ。二十日蕃人隊三隊ヲ追分ニ於テ第

二守備隊司令官ノ指揮ニ屬ス

(ロ) 第二守備隊ノ一部ヲ以テ爲シ得ル限リ道路開鑿ニ從事セシメ以テ南投應ノ道路開鑿作業ノ掩助ヲ爲シ二十五日マテニ下方通過ヲ目的トシテ其ノ開通ヲ圖ルヘシ

(ハ) 十八日歩兵第二聯隊ノ一小隊ヲシテ追分倉庫建設地ニ配置シ在來ノ衛兵(埔里社分遣中隊派遣)ト交代シ該地倉庫員及憲兵隊員ト協議シ該地守備並該地附近ヨリ霧社鞍部(兵ヲ含マス)附近ニ至ル間ノ警備(別命アルマテ各倉庫地間ノ輸送其ノ他ノ警備ヲ爲サシメス)ニ任シ又二十二日追分ト合歡山トノ中間(仲繼倉庫地)ニ歩兵半小隊(追分守備小隊ヨリ其ノ半小隊派遣)ヲ配置シ該地ノ守備(別命アルマテ各倉庫地間ノ輸送其ノ他護衛ヲ爲サシメス)ニ任シ右兩守備部隊共ニ特ニ、シカヤウ、サラマオ蕃及白狗、マレツバ蕃ニ對シ嚴ニ警戒セシムヘシ右兩守備部隊ハ別命アルマテ第二守備隊司令官ノ指揮ニ屬ス

五、歩兵第一聯隊長ハ左ノ諸業務ニ著手スヘシ

(イ) 二十日歩兵第一聯隊ノ一部ヲ以テ、ボアルン、ヲ出發シ二十二日マテニ奇萊主山南峰附近ヲ占領シ、バトラン蕃、内太魯閣蕃ニ對シ軍ノ討伐準備作業及奇萊主山南峰倉庫ヲ掩護セシメ尙軍經理部長及南投廳長ト協議シ其ノ一部ヲ以テ二十日ヨリ著手スヘキ、ボアルン、奇萊主山南峰間ノ糧食輸送及目下著手シアル道路開鑿通信線架設並ボアルン、奇萊主山ノ中間ニ設置スヘキ仲繼所倉庫ヲ直接掩護セシムヘシ十八日蕃人隊一隊ヲ、ボアルン、ニ於テ歩兵第一聯隊長ノ指揮ニ屬ス

(ロ) 歩兵第一聯隊ノ一部ヲ以テ爲シ得ル限リ道路開鑿作業ニ從事セシメ以テ南投應ノ道路開鑿作業ヲ援助シ二十五日マテニ火炮通過ヲ目的トシテ其開通ヲ謀ルヘシ

(ハ) 十八日歩兵第一聯隊ノ一部ヲ左ノ如ク各地ニ配置シ當該地倉庫員及憲兵隊員ト協議シ當該地

ノ守備並埔里社附近眉溪附近霧社鞍部附近及ボアルン附近間ノ警備(別命アルマテ各倉庫間ノ輸送其ノ他ノ護衛ヲ爲サシメス)ニ任セシムヘシ埔里社約一分隊、眉溪約一分隊、霧社鞍部一小隊(埔里社及眉溪守備分隊缺)ボアルン一小隊(半小隊缺)右部隊ハ別命アルマテ歩兵第一聯隊長ノ指揮ニ屬ス

(ニ) 曩キニ埔里社分遣中隊ヨリ派遣セシ霧社鞍部追分及ボアルン倉庫衛兵ハ十八日當該地守備隊ト交代シ各所屬隊ニ復歸セシムヘシ

六、憲兵隊ハ十七日埔里社出發十八日マテニ左ノ如ク各地ニ其ノ配置ヲ了シ各當該地倉庫員及守備部隊長ト協議シ各倉庫地ノ警戒及人夫其ノ他取締並一般軍事警察業務ニ服スヘシ埔里社一部、眉溪一部、追分主力、ボアルン一部、霧社鞍部一部、憲兵隊長ハ其ノ配置ヲ完了セハ各地ニ於ケル配置人員ヲ成ルヘク速ニ報告スヘシ

七、埔里社陸軍病院ハ依然埔里社ニ於テ其ノ任務ヲ續行スヘシ尙埔里社陸軍病院長ハ第一患者輸送部ヲシテ霧社鞍部ニ於テ第四患者輸送部ヲシテ追分ニ於テ第七患者輸送部ヲシテ、ボアルン、ニ於テ依然前任務ヲ續行セシムヘシ但第四及第七患者輸送部ヲシテ追分及ボアルン守備隊憲兵隊員及倉庫員ノ患者並追分及ボアルン以東ニ前進シタル部隊ノ患者後送ニ任セシムヘシ

八、各部隊中特ニ任務ヲ與ヘラレサル部隊ハ曩ニ配賦セシ討伐部隊集合計畫ニ示ス集合位置ニ在リテ待命スヘシ但第二守備隊司令官ハ埔里社及霧社鞍部ニ集合スヘキ隸下部隊ヲ歩兵第一聯隊長ハ埔里社ニ集合スヘキ隸下部隊ヲ前方ニ招致スルモ差支ナシ但其ノ出發日、途中ニ於ケル宿營地及宿營日並到著日ト到著地トハ速ニ之ヲ報告スヘシ

九、追分及ボアルン以東ニ於ケル各部隊ノ宿營設備ハ各部隊自ラ之カ施設ヲ爲スヘシ

十、各部隊ノ給養ハ特ニ指定セシモノノ外自今所在地倉庫ヨリ之ヲ受クヘシ

十一、余ハ埔里社ニ在リ

太魯閣蕃討伐軍司令官 佐久間 左馬 太

十九日 佐久間總督ハ追分ニ至テ陣ス

二十四日 トロツク社蕃人ヲシテ招降諭告書ヲ齎ラシテ、トボコ社ニ往キ順逆ヲ諭サシメ又宇野警視ニ命シ其ノ膽本ヲ龜山副指揮官ニ致シ之ヲ兩討伐隊長ニ傳ヘシム其ノ文ニ曰ク

今回予親ラ大軍ヲ率キ合歡山、訖萊主山、木瓜谿權其力谿ノ四方面ヨリ進討スルハ日本帝國ノ領土内ニ在リテ尙日本國皇帝陛下ノ命令ヲ奉セサル爾等ヲ歸順セシムカ爲ナリ汝等饒使殊死シテ抗拒スルモ勇敢ナル日本ノ大軍ニ克ツ能ハサルハ昭然トシテ明カナリ速ニ盡ク銃器彈藥ヲ提供シ誠心誠意歸順ノ實ヲ表セヨ若シ敢テ抵敵スル者アレハ大軍直チニ至リ全社ヲ覆滅スヘシ勢已ニ支フヘカラサルニ至リ深山幽谷ニ逃避スト雖必ス追窮シテ餘類ナカラシムトス若シ翻然反省、投降スル者アレハ爾等カ狩獵ニ必要ナル銃器ハ勿論彈藥モ亦之ヲ貸與スヘク將來ノ安寧幸福ハ一般良民ト均シク之ヲ保障スヘシ右ハ叙聖仁慈ナル日本國皇帝陛下ノ命令ニシテ本總督ノ拜承シタル所ナリ爾等謹テ此ノ旨ヲ體シ決シテ疑懼スル所ナク誠心誠意歸順ノ意ヲ表セヨ

是ヨリ先外太魯閣各社ハ大部隊ヲ花蓮港ニ集マリ南投方面ノ蕃地亦路ヲ開キ糧ヲ運ヒ戰備將ニ整ハムトスルヲ窺知シ漸ク動搖ノ狀アリ飯田花蓮港廳長則チ、タツキリ監督所ニ抵リ、コロ社頭目ハロク外勢力者數十名ヲ召集シ之ヲ慰誨シ其ノ情況ヲ佐久間總督ニ報告ス總督謂ラク今日ハ已ニ所謂操縱ヲ以テ彼ニ臨ムヘキノ時ニアラスト乃チ龜山副指揮官ニ電飭シ儼乎タル態度ニ出テシム蓋シ信ヲ失セムコトヲ憂フルナリ

(附記)總督ヨリ龜山副指揮官ニ宛テタル電文ハ左ノ如シ
花蓮港廳長、五月十七日ノ報告ニ據レハ同廳長ハ今日ノ場合ニ於テ、ハロク以下多數ノ蕃人ニ對シ

尙慰撫的ノ訓諭ヲ與ヘタルカ如シ抑今回ノ舉タル内外太魯閣及バトラン蕃等ヲ膺懲シテ之ヲ馴化スルニ在リ從テ貴方面ハ尤強硬ナル態度ヲ持シ各蕃ニ對スルヲ要トス建築材料糧食等ノ集積ハ蕃人カ銃器提出ノ命ヲ奉セサル時ハ直ニ討伐スヘキ準備ナルコトヲ宣言スルヲ可トス徒ラニ操縱ヲ名トシ温言慰諭シ遠カニ之ヲ討伐スルカ如キハ食言不信ノ謗ヲ日本人ニ貽スモノニシテ後來ノ爲甚不得策ナリ貴官ハ此ノ點ニ留意シ行動開始マテ適當ノ措置ヲ取ラレタシ

二十七日 永田討伐隊長行動命令ヲ發ス乃チ左ノ如シ

(一)、二項ハ略總指揮官ノ命令ニ同シ)

三、第一、第二、第三、第四、第五ノ各部隊及輸送隊(小川警部補ノ率ウル一班ヲ除ク)電話班ハ五月三十日午前七時花蓮港ヲ出發シ同日午後三時マテニ、タツキリ監督所附近ニ到着露營シテ待命スヘシ

四、第六、第七、第八ノ各部隊及小河警部補ノ率ウル輸送隊ノ一班ハ五月三十日午前八時花蓮港ヲ出發シ同日午後三時マテニ三棧監督所附近(同谿右岸)ニ到着露營シテ待命スヘシ

五、金子砲隊ハ五月三十日午前八時花蓮港ヲ出發シ同日午後三時マテニ、ボカ分遣所ノ所在地ニ到着シ同處ニ砲陣地ヲ構築シ其ノ一班ヲ栗山警部補ニ附シ、ロサウ分遣所所在地ニ分派シ同處ニ砲陣地ヲ構築シ待命スヘシ

六、部隊ノ名稱ハ第一部隊ヲ大岡部隊、第二部隊ヲ柏尾部隊、第三部隊ヲ有馬部隊、第四部隊ヲ佐藤部隊、第五部隊ヲ内田部隊、第六部隊ヲ川田部隊、第七部隊ヲ渡邊部隊、第八部隊ヲ佐藤(福太郎)部隊ト稱ス

七、重松救護班長ハ五月三十日午前八時花蓮港ヲ出發シ同日午後三時マテニ、タツキリ監督所附近ニ至リ救護所ヲ開設スヘシ

八、加藤警察救護班長ハ五月三十日午前八時花蓮港ヲ出發シ午後三時マテニ三棧監督所附近ニ至リ救護所ヲ開設スヘシ

九、本官ハ五月三十日監督本部員ヲ率キ花蓮港出發タツキリ監督所附近ニ前進ス

二十九日 龜山副指揮官ハ飯田廳長ヲ、タツキリ、ニ遣ハシ外太魯閣各社頭目以下ヲ召集シ銃器彈藥ノ提出ヲ促カサシム各頭目依違未タ決セス而モ蕃丁等ノ風ヲ望ミテ銃器ヲ呈繳スル者鮮カラス

(附記)龜山副指揮官ノ蕃務本署長ニ通報シタル電文ハ當時ノ狀況ヲ知ルニ足ルヲ以テ左ニ之ヲ收録ス

五月二十九日 飯田廳長ヲ、タツキリ、ニ出張セシメ蕃人ニ對シ公義正道ヲ説キ速ニ銃器ヲ提供シテ投誠歸順スヘク懇諭セシメタリ其ノ報告ニ據レハ同處ニ出頭シタルハ頭目ビシヤウ以下七十餘名ニシテ總頭目ハロク、ノ出頭セサルハ疑懼ノ念ニ驅ラレ自ラ安セサルモノノ如シ頭目ビシヤウ、ノ言フ所ニ據レハ我レ等ノ所持セル銃器ハ既ニ提供シタル今日豈復官命ニ抗セムンヤ然レトモ他ノ蕃人ハ未タ之ヲ提出セサレハ向後再ヒ惡事ヲ作スモ亦測リ難シ由テ我レ等ト他トヲ混同シテ討伐セラレサラムコトヲ冀フ又討伐隊ノ出動期日竝其ノ方面ヲ與リ聞クヲ得ハ幸甚シト是ニ由テ之ヲ料ルニ太魯閣蕃ノ大半ハ未タ投降ノ意ヲ決セルモノト認ムル能ハス而モ、ビシヤウ其ノ者モ亦兩端ヲ持スルノ疑ナキニアラス惟フ若干ノ軟派蕃人有リテ其ノ行動一致ニ出テ難キハ我カ隊ノ事ヲ濟スニ利アルヲ以テ此ノ機ヲ逸セス一面強硬ノ態度ニ出テテ之ニ臨ミ一面軟派蕃人ハ之ヲ操縱シテ我カ力ヲ爲サシメ將來ノ行動ニ遺策ナキヲ期セムトス

是日タオラス社頭目、渡邊通譯ニ密告シテ曰ク、コロ、ホホス、チカタン、ワオチン、タツキリ、ノ各社一部蕃人ハ討伐隊其ノ境ニ入レハ極力反抗スルノ議已ニ決セリト、タツキリ社ロシンマサン又密報シテ曰ク、頭目ビシヤウ等カ討伐隊ノ嚮導タラムト言フハ官ヲ欺カムトスルノミ其ノ實ハ之ヲ險ニ

誘ヒ要撃セムトスルナリ、コロ社ノ、ヤカオ、ビタイ、クシ、ハーカン、ユーミン、ヤケン、ノ三頭目ハ配下ヲ率キテ官兵ヲ捍カムト欲シ家財糧食ヲ、シラガン社ニ運ヒ草藜ヲ結ヒツツアリト

二十九日 龜山副指揮官ハ山本、江口兩警視以下指令部員ヲ率キ、新城ニ進ミ總司令部ヲ開ク是日松山討伐隊長行動命令ヲ發ス乃チ左ノ如シ

一、我カ討伐隊ハ木瓜溪流域ニ進入シ同溪流域兩岸ニ占居セル蕃社ト太魯閣蕃本社トノ連絡ヲ遮斷スヘク南方ニ壓迫シツツ掃蕩シ、バトラン社附近ニ於テ陸軍部隊ト連絡シ更ニ適當ノ地點ヨリ進出シ三棧溪方面討伐警察隊ト連絡スルノ任務ヲ有ス

二、本任務ヲ遂行スル爲、バトラン社下方合流點ノ北方占領ノ目的ヲ以テ前進シ先ツ、ムキイボ社ムクムゲ社ノ二社ヲ解決セムトス

三、諸隊ハ五月三十一日午後四時宿營所前ニ集合シ五時花蓮港出發、九時タモナン監督所下方隘勇線ヲ發シ木瓜溪右岸ヲ廻リ第一合流點附近ヨリ左岸ニ渡リ翌曉蕃社ニ進入シ得ル如ク前進スヘシ

四、下山部隊、永井部隊、岡本部隊、清水部隊、鈴木砲隊ノ順序ヲ以テ、ムクムゲ社ニ向ヒ前進ス但岡本部隊ハ第一合流點徒涉地點ヨリ稜線ヲ北方ニ進ミ、ムキイボ社ノ北方ヨリ包圍スヘシ

五、總指揮官ヨリ新タニ増援セラレタル豫備隊ノ山田部隊ハ合派點ノ南方ニ位置シ西方及南方ヨリスル敵蕃ノ來襲ニ備フル爲適當ナル地點ヲ占領シ中園部隊ハ隘勇線ヨリ山田部隊ニ至ル間ノ要地ニ掩堡ヲ構築シ堅固ナル守備線ヲ布クヘシ

六、鈴木砲隊ハ其ノ一部ヲ笹栗分隊長ノ指揮下ニ移シ機關銃一銃、山野兼用砲一門ヲ附シテ方眼圖スノ五〇附近ニ位置セシカ其ノ他ハ機關銃二銃、山野兼用砲一門、迫擊砲一門、十二姆臼砲二門ヲ搬運シ予ノ指揮ヲ待テ砲陣地ニ就クヘシ

七、吉田(德次)電話班ハ永井部隊ノ後方ニ跟随シ電話線ヲ架設スヘシ但被覆線一二〇〇〇米突ヲ準

備携行スヘシ

九五四

- 八、梅澤作業隊ハ本部附近ニ位置シ糧食彈藥集積所並廠舎ノ建設ニ著手シ又一部ヲ以テ第一合流點ニ糧食彈藥運搬用ノ鐵線張網ノ架設及左岸集積所ノ建設ニ從事スヘシ
- 九、吉田(善一)前線輸送隊出發地倉庫ヨリ糧食彈藥ヲ右岸倉庫ニ又守備線完成ト同時ニ直ニ之ヲ合流點左岸倉庫ニ運搬シ集積スヘシ
- 十、各部隊ハ小行李ノミヲ從ヘ大行李ハ一時討伐隊本部附近ニ留ムヘシ各部隊ノ携行スヘキ糧食彈藥員數區分ハ別紙ノ如シ
- 十一、家弓赤十字救護班ハ初音分遣所附近ニ救護所ヲ開設スヘシ
- 十二、討伐隊本部ハ木瓜溪右岸タモナン監督所ノ下方ニ置ク
- 十三、予ハ清水部隊ト共ニ前進シ前方諸隊ノ指揮ヲ爲シ田丸副長ハ一時本部ニ在リテ輸送ノ完備作業ノ完成、事務ノ敏活ヲ期スル後方諸般ノ指揮ヲ取ラシム

(別紙)

- 一、各部隊員ハ各自携帶小銃彈百發
- 豫備小銃彈一部隊一萬發手拋彈百發宛
- 但今後別命ナキトキハ常ニ此ノ員數ヲ携行スヘキモノトス
- 二、鈴木砲隊機關銃彈藥ハ一銃ニ付一萬發、山野兼用砲ハ各門ニ付三十發
- 三、隘勇線ヨリ前方ニ進出スル諸隊ハ朝晝二食ノ外携帶口糧二日分宛
- 四、各隊大行李ニ糧食三日分宛
- 五、行動第一日ニ於テ本部ニ準備スヘキ數量小銃彈五萬發糧食全隊員ノ十日分
- 六、大小行李ノ別、小行李彈藥、工具、大行李糧食、炊具、陣營具、消耗品、隊員荷物

以上

午後三時半永田隊長ハ大岡、柏尾、有馬、佐藤、内田ノ五個部隊ヲ率キ、タツキリ溪畔ニ雨田副長ハ川田、浮邊、佐藤(福)ノ三個部隊ヲ率キ三棧溪右岸海ニ近キ處ニ陣シ從屬スル所ノ輸送隊救護班亦豫定ノ位置ニ著キ幄舎ヲ建設シ警戒線ヲ布ク永田隊長ノ、タツキリ、ニ至ルヤ龜山指揮官司令部員ヲ隨ヘ之ヲ路ニ邀ヘテ點檢シ懇ロニ訓告スル所アリ士氣大ニ振フ隊長則チ行動命令ヲ發シ亦之ヲ戒飭ス其ノ命令書ハ左ノ如シ

- 一、蕃情ハ未タ變化セズ
- 二、我カ隊ハ五月三十一日行動ヲ起シ外太魯閣各社ヲ討伐シ其ノ所有スル所ノ銃器彈藥ヲ押收セムトス
- 三、佐藤(辰之進)大岡、柏尾、有馬ノ各部隊ハ五月三十一日午後十一時宿營地ヲ出發前進シ佐藤(辰)部隊ハ方眼圖(五萬分一)チノ二八ニ至ル地域ヲ有馬部隊ハ同チノ二八ヨリ、チノ二六ニ至ル地域ヲ松尾部隊ハ、チノ二六ヨリ、ベノ二七ニ至ル地域ヲ大岡部隊ハ、コロ社ノ高地チノ二六ヨリ、リノ二四ニ至ル地域ヲ占領シ各部隊ノ連絡ヲ確實ニシ先ツ、コロ社ブセガン社等ヲ處置スヘシ
- 四、佐藤(福)浮邊、川田ノ各部隊ハ五月三十一日午後十一時露營地ヲ出發前進シ佐藤(福)部隊ハ方眼圖(タノ二四ヨリ、レノ二ニ至ル地域ヲ浮邊部隊ハ、カウワン社高地方眼圖(レノ二ヨリ、ネノ一八ニ至ル地域ヲ占領シ川田部隊ハ三棧監督所前面ノ蕃路ヲ前進シ、ガラタン社高地(ネノ一八ヨリ、ツノ一七ニ至ル地域ヲ占領シ各部隊ノ聯絡ヲ確實ニシ先ツ、フラタン社ロレツク社エカドサン社ロサウ社ヲオラス社等ヲ處置スヘシ
- 五、金子砲隊ハ、ボカ砲陣地ニ在リテ大岡、柏尾、佐藤(辰)各部隊ノ前進ヲ掩護スル目的ヲ以テ五月三十一日午後十一時マテニ砲擊準備ヲ了リ待命スヘシ

九五五

